

第20回がん診療連携拠点病院等の指定に関する検討会	参考資料 3
令和4年3月4日	

都道府県の推薦について

都道府県提出資料

北海道

北海道第二次医療圏の概要

令和3年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
南渡島	2,670.63	359,037	6.9	134.44	34	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0
南檜山*	1,423.38	21,223	0.4	14.91	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
北渡島檜山*	2,473.77	32,847	0.6	13.28	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
札幌	3,540.15	2,384,168	45.9	673.47	233	8	0	0	8	0	0	0	0	0	0
後志*	4,305.88	197,977	3.8	45.98	21	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
南空知*	2,562.25	150,885	2.9	58.89	17	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
中空知*	2,162.07	98,417	1.9	45.52	17	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
北空知*	1,067.29	29,604	0.6	27.74	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
西胆振	1,356.70	174,231	3.4	128.42	21	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
東胆振*	2,340.34	205,422	4.0	87.77	16	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
日高*	4,811.13	63,309	1.2	13.16	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
上川中部	4,238.10	381,027	7.3	89.91	38	2	1	0	3	0	0	0	0	0	0
上川北部*	4,197.18	59,917	1.2	14.28	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
富良野*	2,183.41	39,510	0.8	18.10	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
留萌*	3,445.88	42,887	0.8	12.45	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
宗谷*	4,626.07	60,738	1.2	13.13	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
北網*	5,542.27	205,793	4.0	37.13	26	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
遠紋*	5,148.26	64,894	1.2	12.61	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
十勝	10,831.62	332,812	6.4	30.73	33	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
釧路*	5,997.07	221,739	4.3	36.97	22	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0
根室*	3,497.31	71,670	1.4	20.49	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	78420.76	5,198,107	100	1529.3536	546	19	2	0	21	0	0	0	1	0	0

医療圏名の*は「医師・歯科医師・薬剤師調査」に基づく当該2次医療圏の医師数(病院の従事者)の過去3回の平均値がおおむね300人を下回る2次医療圏

北海道 令和3年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

資料2

★: 都道府県拠点

- ③北海道がんセンター★ (平成31年4月1日)
 - ④札幌医科大学附属病院 (平成31年4月1日)
 - ⑤北海道大学病院 (平成31年4月1日)
 - ⑥市立札幌病院 (平成31年4月1日)
 - ⑦手稲溪仁会病院 (平成31年4月1日)
 - ⑧札幌厚生病院 (令和3年4月1日)
 - ⑨KKR札幌医療センター (平成31年4月1日)
 - ⑩恵佑会札幌病院 (平成31年4月1日)
 - ⑪小樽市立病院 (令和3年4月1日)
 - ⑫砂川市立病院 (平成31年4月1日)
 - ⑬日鋼記念病院 (平成31年4月1日)
 - ⑭王子総合病院 (平成31年4月1日)
- 以下、地域がん診療病院
- ①北海道中央労災病院 (平成31年4月1日)

道北

- ⑮旭川医科大学病院 (令和3年4月1日)
- ⑯旭川厚生病院 (平成31年4月1日)
- ⑰市立旭川病院 (令和3年4月1日)

上川北部、富良野、留萌、宗谷の各医療圏のがん患者は、⑮⑯⑰の3病院が連携してカバー。

遠紋医療圏のがん患者は、北網医療圏の⑱の病院でカバー。

オホーツク

- ⑱北見赤十字病院 (平成31年4月1日)

根室医療圏のがん患者は、釧路医療圏の⑳㉑の2病院が連携してカバー。

釧路・根室

- ⑳市立釧路総合病院 (平成31年4月1日)
- ㉑釧路労災病院 (平成31年4月1日)

十勝

- ⑲帯広厚生病院 (令和3年4月1日)

道央

道央の空白医療圏（北空知、日高）及び他の第三次医療圏からのがん患者をカバーするため、札幌医療圏に、③～⑩の複数の拠点病院を整備。（札幌医療圏は道内人口の約45%を占める）

南檜山及び北渡島医療圏のがん患者は、南渡島医療圏の①②の2病院が連携してカバー。

道南

- ①市立函館病院 (平成31年4月1日)
- ②函館五稜郭病院 (平成31年4月1日)

- ※ は、拠点病院整備医療圏
- は、診療病院整備医療圏
- は、拠点・診療病院空白の医療圏。
- は、第三次医療圏名。
- 太線は、第三次医療圏の境界。

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①-1

・()内は令和2年9月提出の数値、下段は令和3年9月提出の数値 ★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) □:地域拠点(特例型) ◎:特定領域拠点

①	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
①	南渡島		現況	市立函館病院	(-) 3,778	(-) 31.7	(1,173) 1,136	(461) 449	(1,888) 1,758	(335) 369	(119) 139	(26) 24	(-) 686
②	南渡島		現況	函館五稜郭病院	(-) 4,716	(-) 36	(1,676) 1,692	(672) 645	(3,235) 3,452	(432) 502	(434) 498	(24) 31	(-) 1,664
③	札幌	★	現況	北海道がんセンター	(-) 4,552	(-) 80.5	(2,631) 1,417	(2,341) 1,731	(12,374) 11,416	(994) 857	(451) 1,017	(9) 6	(-) 5,614
④	札幌		現況	札幌医科大学附属病院	(-) 6,757	(-) 38.4	(2,608) 2,179	(1,693) 1,851	(3,996) 2,993	(818) 850	(384) 397	(7) 10	(-) 2,342
⑤	札幌		現況	北海道大学病院	(-) 5,075	(-) 29.9	(3,114) 1,917	(1,298) 1,353	(3,442) 3,414	(960) 907	(247) 259	(10) 8	(-) 1,635
⑥	札幌		現況	市立札幌病院	(-) 827	(-) 6.3	(1,615) 1,064	(1,305) 1,068	(2,353) 1,374	(467) 327	(286) 452	(4) 3	(-) 957
⑦	札幌		現況	手稲溪仁会病院	(-) 4,552	(-) 24.8	(1,996) 2,401	(1,364) 1,279	(3,745) 3,785	(380) 407	(216) 214	(6) 6	(-) 1,553
⑧	札幌		現況	札幌厚生病院	(-) 3,853	(-) 38.2	(1,317) 1,176	(2,185) 2,021	(5,268) 5,423	(261) 267	(226) 187	(5) 4	(-) 509

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①-2

()内は令和2年9月提出の数値、下段は令和3年9月提出の数値 ★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) □:地域拠点(特例型) ◎:特定領域拠点

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
⑨ 札幌		現況	KKR札幌医療センター	(-) 2,215	(-) 21.8	(555) 904	(1,137) 521	(3,760) 4,088	(417) 358	(260) 144	(3) 2	(-) 1,060
⑩ 札幌		現況	恵佑会札幌病院	(-) 51,332	(-) 71.1	(2,011) 2,070	(1,674) 1,593	(6,040) 5,801	(639) 503	(68) 83	(2) 2	(-) 963
⑪ 後志		現況	小樽市立病院	(-) 1,319	(-) 22.8	(1,004) 841	(418) 516	(2,686) 1,992	(240) 308	(99) 85	(23) 28	(-) 261
⑫ 中空知		現況	砂川市立病院	(-) 1,501	(-) 17.0	(522) 543	(268) 252	(2,345) 2,443	(143) 147	(171) 140	(52) 55	(-) 839
⑬ 西胆振		現況	日鋼記念病院	(-) 1,182	(-) 20.1	(363) 358	(299) 229	(320) 411	(173) 198	(73) 62	(28) 19	(-) 1,361
⑭ 東胆振		現況	王子総合病院	(-) 3,433	(-) 33.2	(1,242) 1,128	(687) 681	(1,572) 1,837	(368) 395	(156) 104	(55) 46	(-) 478
⑮ 上川中部		更新	旭川医科大学病院	(-) 4,325	(-) 30.7	(1,963) 1,861	(2,210) 2,159	(1,559) 1,710	(537) 492	(640) 487	(35) 37	(-) 1,420
⑯ 上川中部		現況	旭川厚生病院	(-) 2,849	(-) 2.1	(1,589) 1,007	(798) 766	(1,192) 1,455	(389) 385	(239) 258	(43) 24	(-) 2,697

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料 3-1-①-3

()内は令和2年9月提出の数値、下段は令和3年9月提出の数値 ★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) □:地域拠点(特例型) ◎:特定領域拠点

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
⑰ 上川中部		更新	市立旭川病院	(-) 1,718	(-) 26.3	(728) 622	452	(2,756) 2,833	(290) 221	(69) 67	(13) 12	(-) 1,481
⑱ 北網		現況	北見赤十字病院	(-) 3,238	(-) 27.6	(1,767) 1,356	1,040 957	(1,739) 1,820	(413) 498	(112) 132	(58) 50	(-) 662
⑲ 十勝		更新	帯広厚生病院	(-) 3,230	(-) 25.1	(1,849) 1,792	(1,405) 894	(1,697) 1,745	(589) 581	(85) 69	(20) 33	(-) 1,689
⑳ 釧路		現況	市立釧路総合病院	(-) 2,983	(-) 26.7	(1,458) 1,138	(785) 710	(4,260) 1,010	(311) 363	(56) 52	(31) 25	(-) 220
㉑ 釧路		現況	釧路労災病院	(-) 2,653	(-) 31.6	(1,200) 1,153	(576) 701	(7,835) 6,749	(215) 295	(69) 280	(44) 47	(-) 1,806

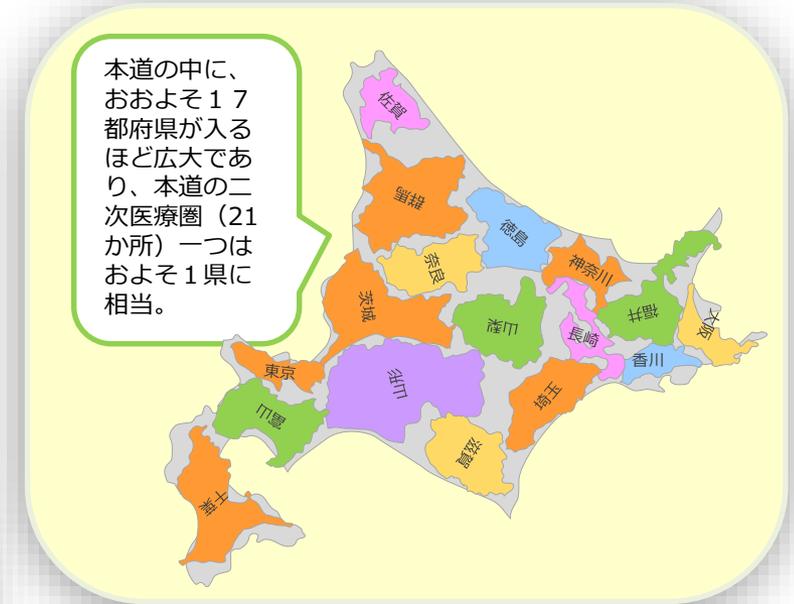
地域がん診療病院の診療実績等

- ・()内は令和2年9月提出の数値、下段は令和3年9月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数 (年間)	悪性腫瘍手術総数 (年間)	のべ患者数 (年間)	のべ患者数 (年間)	緩和ケアチーム に対する新規診療 依頼数 (年間)	相談件数 (年間)
①	南空知	現況	北海道中央労災病院	(-) 584	(-) 1.2	(193) 151	(66) 79	(270) 670	実施なし	(24) 20	(-) 268

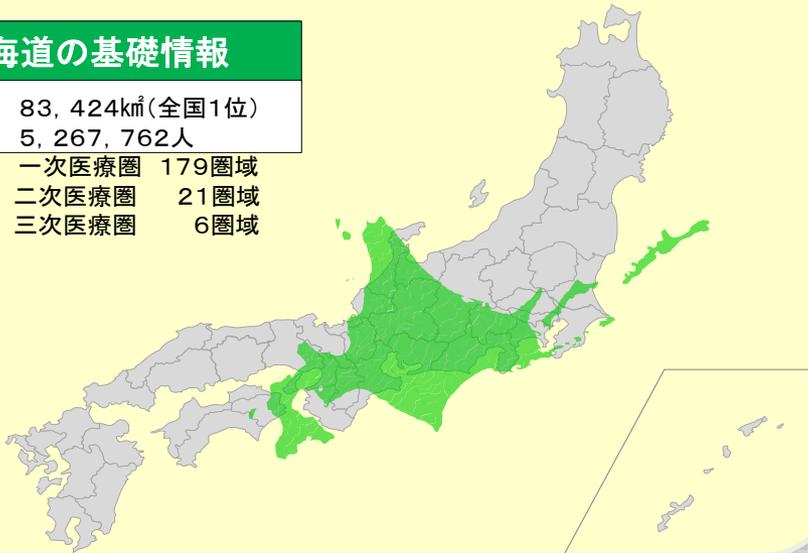
北海道におけるがん診療連携拠点病院等の整備の考え方 [NO. 2]

基本的な考え方	
北海道医療計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第二次医療圏ごとの整備を目指し、当面整備が困難な医療圏については、地域がん診療病院や道が独自の要件により指定する北海道がん診療連携指定病院の整備を進める。 ・ 未整備圏域については、がん診療連携拠点病院が地域の中核的な医療機関等と連携を図る。
北海道がん対策推進条例	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門的ながん医療を提供する医療機関を整備し、及び当該医療機関を中核とした地域における診療の連携協力体制を整備する。
北海道がん対策推進計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ がん診療連携拠点病院は、拠点病院等の未整備圏域の中核的な医療機関等と連携を図り、必要とされる医療機能をカバーし道内のがん医療の連携体制の維持・向上に努める。



北海道の基礎情報

面積: 83,424km²(全国1位)
 人口: 5,267,762人
 医療圏: 一次医療圏 179圏域
 二次医療圏 21圏域
 三次医療圏 6圏域



指定推薦にあたっての考え方

○ 日本の面積の約2.2%を占め、九州及び中国地方12県を合わせた面積よりも広い本道においては、道が策定した計画等の考え方に沿って、第二次医療圏を医療連携圏域としつつ、第三次医療圏を基本に未整備圏域をカバーする体制を維持・強化する。

○ 今回推薦する3病院を含め本道の拠点病院は、広域分散、積雪寒冷といった本道特有の事情がある中、自らの二次医療圏のみならず近隣の未整備圏域のがん診療を担うなど、各拠点病院と地域の病院が連携しながら、本道のがん医療の均てん化に大きな役割を果たしており、診療病院を合わせた22病院により21の第二次医療圏を有する本道のがん診療の拠点として医療提供体制の整備を図る。

青 森 県

青森県 がんの医療圏の概要

令和3年9月1日現在

2次医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						既指定 病院数	新規申請 病院数	計	既指定 病院数	新規申請 病院数	計
津軽 地域保健医療圏	1,597.73	272,212	22.4	170.4	22	1	0	1	0	0	0
八戸 地域保健医療圏	1,346.66	304,022	25.0	225.8	27	1	0	1	0	0	0
青森 地域保健医療圏	1,477.54	289,917	23.9	196.2	23	1	0	1	0	0	0
西北五 地域保健医療圏	1,753.00	117,352	9.7	66.9	8	0	0	0	0	0	0
上十三 地域保健医療圏	2,054.93	164,884	13.6	80.2	13	0	0	0	1	0	1
下北 地域保健医療圏	1,414.88	66,254	5.4	46.8	4	0	0	0	1	0	1
計	9,644.74	1,214,641	100	125.9	97	3	0	3	2	0	2

青森県 令和3年9月1日現在の指定状況と指定状況

■都道府県がん診療連携拠点病院

①青森県立中央病院★（平成31年4月1日）

■地域がん診療連携拠点病院

②弘前大学医学部附属病院（平成31年4月1日）

③八戸市立市民病院（令和2年4月1日）

■地域がん診療病院

①むつ総合病院（令和元年7月1日）

②十和田市立中央病院（令和2年4月1日）

※（参考）青森県がん診療連携推進病院（県指定）

○つがる総合病院

西北五地域保健医療圏のがん患者は、県指定のつがる総合病院への受診のほか、津軽地域及び青森地域保健医療圏へ受診するため、主に①及び②の両病院でカバーする。

むつ総合病院は、都道府県がん診療連携拠点病院である「青森県立中央病院」と患者移送、医師交流等で連携している。

十和田市立中央病院は、都道府県がん診療連携拠点病院である「青森県立中央病院」とカンファレンス開催、医師交流等で連携している。



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1

- ()内は令和2年10月報告の数値、下段は令和3年10月報告の数値
ただし、相談支援センターの相談件数のうち、令和2年10月の数値は未報告
- 申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
- 1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				院内がん登録数(年間) <u>500件以上</u>	悪性腫瘍の手術件数(年間) <u>400件以上</u>	のべ患者数(年間) <u>1000人以上</u>	のべ患者数(年間) <u>200人以上</u>	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) <u>50件以上</u>	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) <u>2割程度</u>	相談件数(年間)
1 青森	★	現況報告	青森県立中央病院	(2,685) 2,102	(1,684) 1,266	(3,257) 3,654	(513) 504	(127) 89	(25) 20	(-) 1,045
2 津軽		現況報告	弘前大学医学部附属病院	(2,478) 2,446	(1,659) 1,266	(7,033) 7,249	(614) 647	(130) 105	(33) 40	(-) 440
3 八戸		現況報告	八戸市立市民病院	(1,538) 1,215	(734) 697	(1,681) 1,851	(324) 296	(58) 75	(29) 82	(-) 497

地域がん診療病院の診療実績等

資料 3 - 2

- ・()内は令和2年10月報告の数値、下段は令和3年10月報告の数値
ただし、相談支援センターの相談件数のうち、令和2年10月の数値は未報告
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

	医療圏名	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療(実施していれば)	緩和ケア	相談支援センター
				院内がん登録数(年間)	悪性腫瘍の手術件数(年間)	のべ患者数(年間)	のべ患者数(年間)	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間)	相談件数(年間)
1	下北	現況報告	むつ総合病院	(723) 23	(125) 10	(2,623) 2,886	(3,614) 117	(27) 24	(-) 110
2	上十三	現況報告	十和田市立中央病院	(547) 551	(396) 372	(570) 565	(156) 120	(69) 76	(-) 532

青森県 令和4年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

■都道府県がん診療連携拠点病院

①青森県立中央病院★（更新）

■地域がん診療連携拠点病院

②弘前大学医学部附属病院（更新）

③八戸市立市民病院（更新）

■地域がん診療病院

①むつ総合病院（更新）

②十和田市立中央病院（更新）

※（参考）青森県がん診療連携推進病院（県指定）

○つがる総合病院（更新）



下北地域保健医療圏での圏域カバー率は74.9%となっており、高度な医療などでは、青森地域に流出している。

下北圏域（患者の流出入）	
（圏域カバー率 74.9%）	津軽地域（4.2%）
	八戸地域（2.7%）
	青森地域（15.8%）

西北五地域保健医療圏のがん患者は、県指定のつがる総合病院への受診のほか、津軽地域及び青森地域保健医療圏へ受診するため、主に①及び②の両病院でカバーする。

上北地域保健医療圏での圏域カバー率は74.5%となっており、高度な医療などでは、青森地域や八戸地域に流出している。

上北圏域（患者の流出入）	
（圏域カバー率 74.5%）	津軽地域（2.0%）
	八戸地域（14.6%）
	青森地域（7.9%）

青森県 がん医療連携体制に関する考え方

青森県の現状

～平均寿命及びがんの年齢調整死亡率ともに全国最下位～

- 青森県の平均寿命
男女とも全国最下位となっている。
(平成27年都道府県別生命表)
- がんによる死亡状況
がんは昭和57年以降、死因の第1位となっており、死亡原因の約3割を占めている。
- がんの年齢調整死亡率
年齢調整死亡率が最も高く、男女とも全国最下位で推移している。

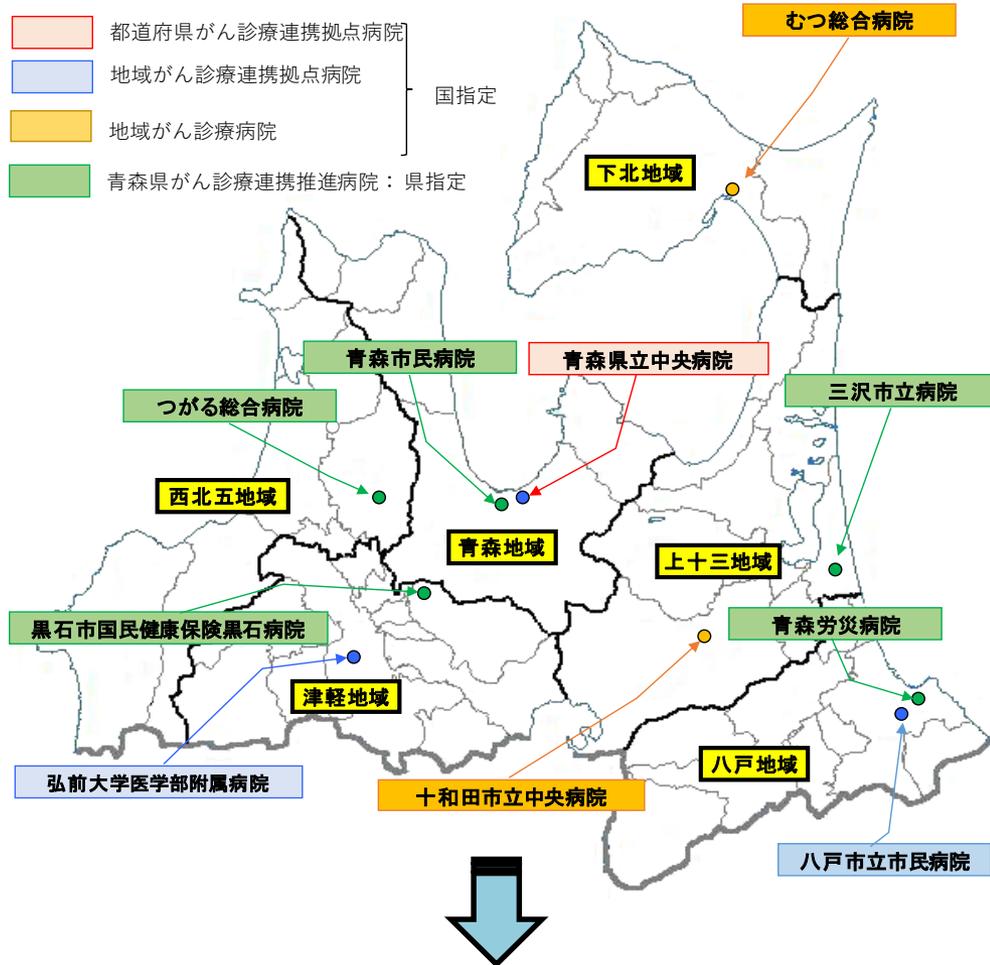
～健康で長生きな青森県の実現に向けて～

- ヘルスリテラシー（健やか力）の向上とライフステージに応じた生活習慣の改善
- 戦略的ながん対策の推進
- がん医療の充実とがんになっても安心して暮らせる環境づくり

■ 第三期青森県がん対策推進計画

- ・ 科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実
- ・ 患者本位のがん医療の実現
- ・ 尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

青森県のがん医療連携体制



県がん対策推進計画では、本県のがん医療体制や地域連携については、都道府県がん診療連携拠点病院を中核として、地域がん診療連携拠点病院と、拠点病院に準じる機能を有する病院として県が指定するがん診療連携推進病院、その他の医療機関による機能分担と連携により構築されるものと位置付けられている。

まとめ

青森県では、令和3年9月現在において、青森県立中央病院、弘前大学医学部附属病院及び八戸市立市民病院の3つの病院ががん診療連携拠点病院に指定され、むつ総合病院及び十和田市立中央病院の2つの病院が地域がん診療病院に指定されている。

青森県のがん診療連携拠点病院等の整備に関しては、

- ・人口規模が大きい市に所在する青森県立中央病院（青森圏域）、弘前大学医学部附属病院（津軽圏域）及び八戸市立市民病院（八戸圏域）をがん診療連携拠点病院として引き続き指定を受け、
- ・他の医療圏の市に所在するむつ総合病院及び十和田市立中央病院を地域がん診療病院として引き続き指定を受けることが、

本県のがん医療の均てん化を図り、がん医療提供体制を継続していくためには、不可欠となっている。

また、がん診療連携拠点病院等が未整備の西北五地域保健医療圏では、「つがる総合病院」を令和2年4月1日に県指定の青森県がん診療連携推進病院として指定し、連携体制の構築を進めているところ。

なお、当病院においては、地域がん診療病院の指定を受ける意向を示しており、県と病院が連携し、指定申請に向けて取り組んでいるところである。

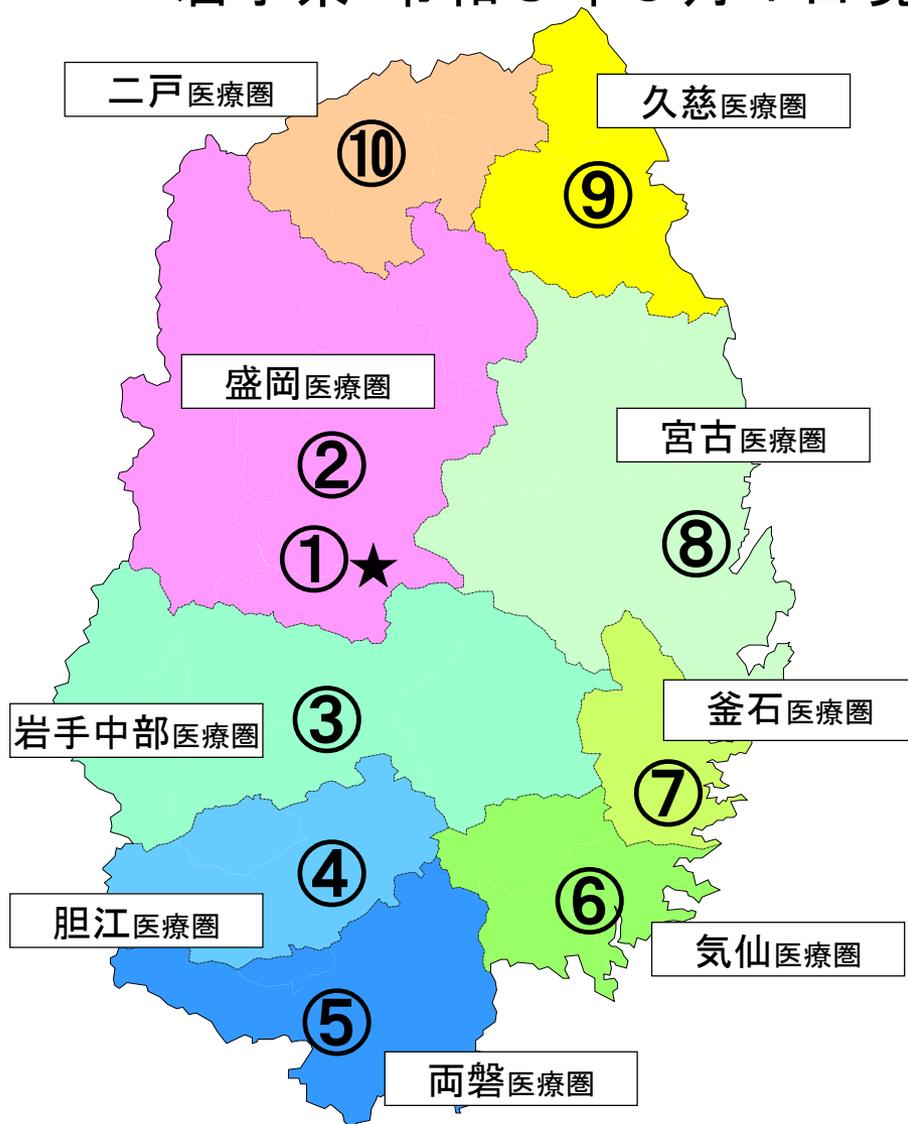
岩 手 県

岩手県がんの医療圏の概要

令和3年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口 (R2.10.1)	人口 割合(%)	人口密 度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
盛岡保健医療圏	3,641.77	464,400	38.3%	127.5	39	2			2						
岩手中部保健医療圏	2,762.65	215,859	17.8%	78.1	12	1			1						
胆江保健医療圏	1,173.06	128,213	10.6%	109.3	9	1			1						
両磐保健医療圏	1,319.81	119,727	9.9%	90.7	10	1			1						
気仙保健医療圏	889.29	58,011	4.8%	65.2	3	1			1						
釜石保健医療圏	640.76	44,123	3.6%	68.9	6	1			1						
宮古保健医療圏	2,670.51	77,310	6.4%	28.9	6	1			1						
久慈保健医療圏	1,076.88	54,289	4.5%	50.4	4	1			1						
二戸保健医療圏	1,100.29	50,269	4.1%	45.7	3	1			1						
計	15,275.01	1,212,201	100.0%	79.4	92	10	0	0	10	0	0	0	0	0	0

岩手県 令和3年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況



★:都道府県拠点

- ①岩手医科大学附属病院★（平成31年4月1日）
- ②岩手県立中央病院（令和2年4月1日）
- ③岩手県立中部病院（令和2年4月1日）
- ④岩手県立胆沢病院（令和3年4月1日）
- ⑤岩手県立磐井病院（令和3年4月1日）
- ⑥岩手県立大船渡病院（令和2年4月1日）
- ⑦岩手県立釜石病院（令和2年4月1日）
- ⑧岩手県立宮古病院（令和2年4月1日）
- ⑨岩手県立久慈病院（令和2年4月1日）
- ⑩岩手県立二戸病院（令和2年4月1日）

盛岡医療圏におけるがん診療連携拠点病院の役割

【岩手医科大学附属病院★】

- がんセンターを設置し、高度ながん医療を提供
- がん医療を担う専門的人材の養成
- 県内各医療圏の拠点病院との緊密な連携

【県立中央病院】

- 盛岡医療圏のがん患者への標準的治療実施
- 県立病院（20病院・6診療所）のセンター病院

がん診療連携拠点病院

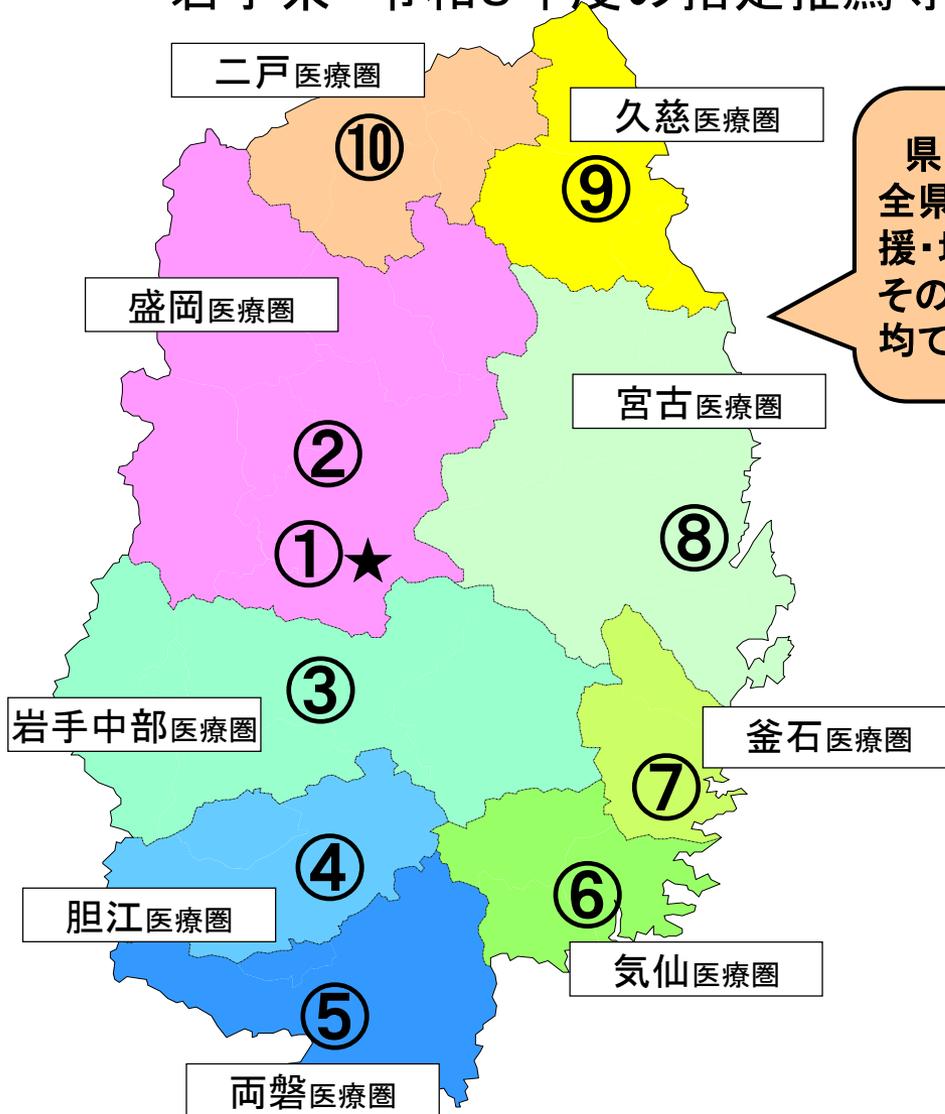
資料3-1-①

★：都道府県拠点

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1 盛岡	★	現況	岩手医科大学附属病院	(5,853)	(28.1)	(2,034)	(1,779)	(1,686)	(932)	(294)	(20)	(588)
				6,035	31.7	2,387	1,920	1,729	1,101	341	20	879
2 盛岡		現況	県立中央病院	(3,519)	(21.5)	(1,817)	(1,394)	(2,423)	(591)	(73)	(28)	(1,306)
				3,564	23.4	1,777	1,479	2,695	611	55	29	1,322
3 岩手中部		現況	県立中部病院	(2,513)	(22.4)	(1,146)	(689)	(1,537)	(290)	(277)	(58)	(502)
				2,513	24.6	1,422	665	1,356	304	337	58	584
4 胆江		現況	県立胆沢病院	(1,924)	(22.0)	(1,014)	(634)	(1,000)	(175)	(51)	(65)	(494)
				2,035	23.8	939	619	610	159	51	68	597
5 両磐		現況新	県立磐井病院	(1,347)	(16.5)	(942)	(597)	(589)	(292)	(99)	(52)	(577)
				1,377	18.4	615	471	630	166	79	53	803
6 気仙		現況	県立大船渡病院	(868)	(15.1)	(406)	(284)	(480)	(92)	(133)	(64)	(742)
				866	16.3	370	238	390	91	133	63	716
7 釜石		現況	県立釜石病院	(688)	(18.6)	(282)	(178)	(136)	(86)	(121)	(51)	(493)
				630	19.8	227	140	116	95	129	48	742
8 宮古		現況	県立宮古病院	(957)	(17.4)	(481)	(234)	(489)	(139)	(93)	(76)	(183)
				954	18.6	468	241	532	155	99	76	231
9 久慈		現況	県立久慈病院	(640)	(14.9)	(296)	(178)	(1,540)	(55)	(69)	(48)	(198)
				511	12.5	305	170	1,541	49	82	38	149
10 二戸		現況	県立二戸病院	(568)	(14.0)	(450)	(150)	(256)	(81)	(60)	(43)	(324)
				676	16.9	351	160	261	81	70	54	242

岩手県 令和3年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★：都道府県拠点



県内10箇所のがん診療連携拠点病院が、全県及び各圏域におけるがん診療・相談支援・地域連携の中心的役割を引き続き担い、その機能を強化しながら本県のがん医療の均てん化を図るもの。

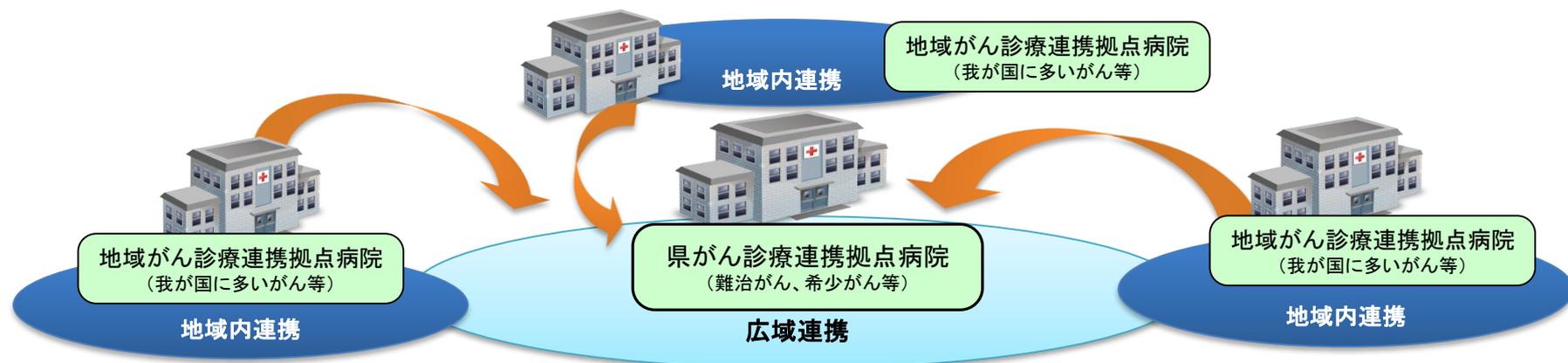
- ①岩手医科大学附属病院★（現況）
- ②県立中央病院（現況）
- ③県立中部病院（現況）
- ④県立胆沢病院（現況）
- ⑤県立磐井病院（現況）
- ⑥県立大船渡病院（現況）
- ⑦県立釜石病院（現況）
- ⑧県立宮古病院（現況）
- ⑨県立久慈病院（現況）
- ⑩県立二戸病院（現況）

指定推薦等に係る岩手県の考え方

■ 基本的考え方

- がん医療の水準を向上し、標準的治療の普及によるがん医療の均てん化を図るため、「第3次岩手県がん対策推進計画」に基づき、引き続き県拠点に加え、県内全てのがん医療圏(9圏域)で、国が指定する「がん診療連携拠点病院」による診療体制を確保

※ 各医療圏は、最小(釜石)でも東京23区、最大(盛岡)でも奈良県に匹敵する面積を有し、地勢的に峠や山地で隔てられた地域が多い。



- 医療従事者の確保・育成の有効活用を図りながら、チーム医療等による標準的な治療

の提供、手術・薬物・放射線療法等を組み合わせた集学的治療の質の向上、盛岡圏域と

県北・沿岸部等との医療機関のネットワーク連携による医療提供体制の確保、相談支援等の一層の機能強化による患者・家族の療養生活の質の向上を推進

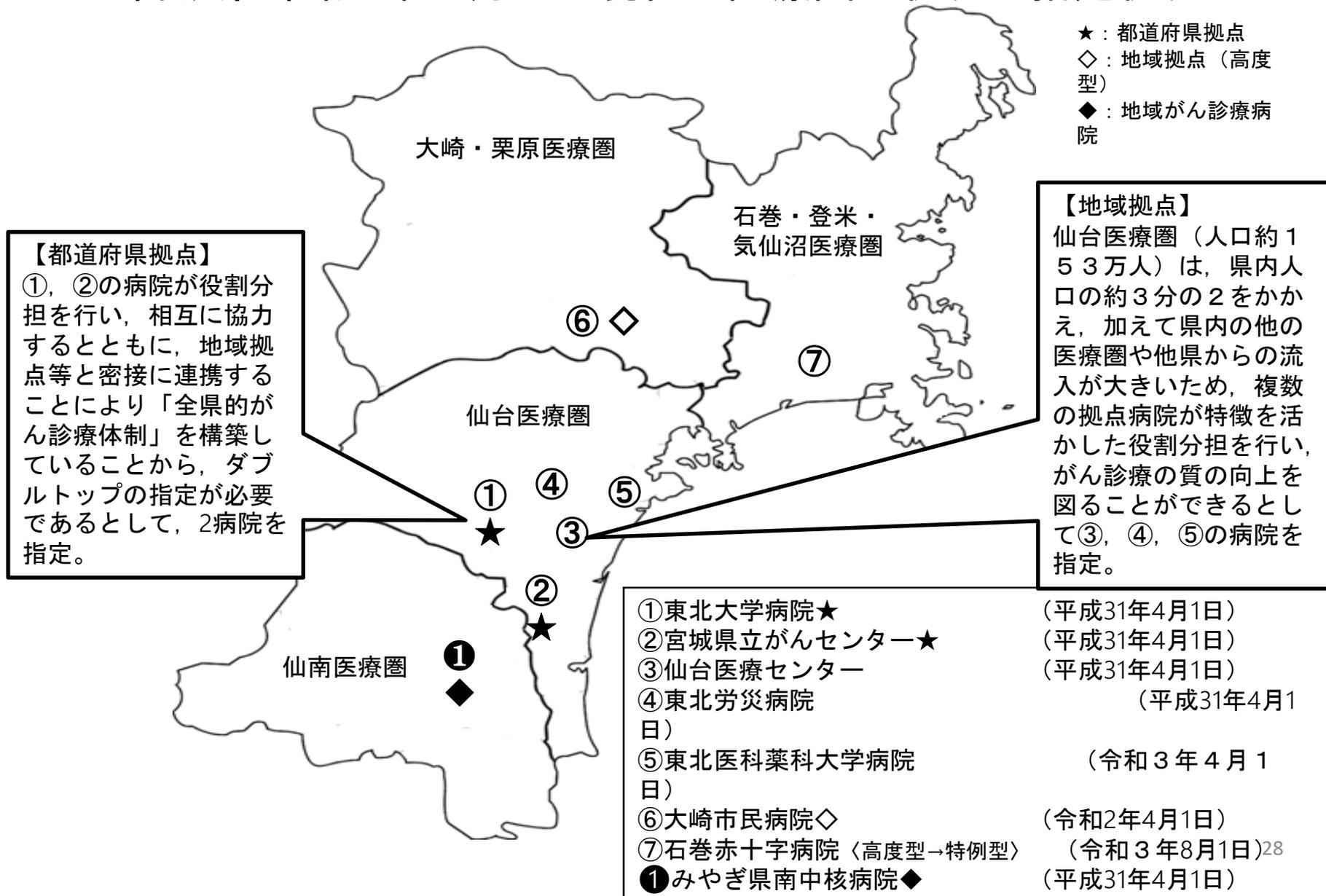
宮城県

宮城県がんの医療圏の概要

令和3年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口 (人)	人口 割合 (%)	人口 密度 (人/km ²)	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携 拠点病院			地域がん診療病院		
						現況 報告 病院数	今回 更新 病院数	新規 申請 病院数	計	現況 報告 病院数	今回 更新 病院数	新規 申請 病院数	現況 報告 病院数	今回 更新 病院数	新規 申請 病院数
仙南医療圏	1,551.4	165,251	7.30%	106.5	13				0				1		
仙台医療圏	1,648.8	1,534,026	67.20%	930.4	77	5			5						
大崎・栗原 医療圏	2,328.9	255,891	11.20%	109.9	25	1			1						
石巻・登米・ 気仙沼医療圏	1,753.2	326,601	14.30%	186.3	21			1	1						
計	7,282.3	2,281,769	100.00%	313.3	136	6	0	1	7	0	0	0	1	0	0

宮城県 令和3年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

- ・ () 内は令和2年10月提出の数値, 下段は令和3年10月提出の数値
 - ・ 申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
 - ・ 1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)
- ★：都道府県拠点 ◇：地域拠点（高度型） ◎：特定領域拠点

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数(年間) <u>500件以上</u>	悪性腫瘍の手術件数(年間) <u>400件以上</u>	のべ患者数(年間) <u>1000人以上</u>	のべ患者数(年間) <u>200人以上</u>	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) <u>50件以上</u>	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) <u>2割程度</u>	相談件数(年間)
1	仙台	★	現況報告	東北大学病院	(2,910) 2,771	(2,439) 2,651	(4,016) 4,064	(1,107) 1,163	(463) 528	(19) 21	(1,384) 1,023
2	仙台	★	現況報告	宮城県立がんセンター	(1,983) 1,993	(1,130) 1,168	(1,170) 2,650	(697) 691	(284) 302	(21) 12	(2,062) 1,874
3	仙台		現況報告	仙台医療センター	(1,559) 1,517	(854) 879	(1,640) 3,040	(386) 417	(429) 332	(10) 11	(236) 218
4	仙台		現況報告	東北労災病院	(946) 932	(674) 711	(1,010) 1,047	(231) 282	(267) 235	(8) 8	(1,302) 1,151
5	仙台		現況報告	東北医科薬科大学病院	(1,113) 1,229	(818) 761	(1,099) 1,237	(248) 289	(88) 71	(7) 7	(146) 300
6	大崎栗原	◇	現況報告	大崎市民病院	(1,661) 1,654	(1,020) 848	(2,092) 1,244	(478) 456	(98) 141	(53) 49	(511) 522
7	石巻登米気仙沼		新規申請	石巻赤十字病院	(1,642) 1,657	(937) 1,456	(2,123) 1,976	(391) 381	(144) 126	(44) 40	(560) 449

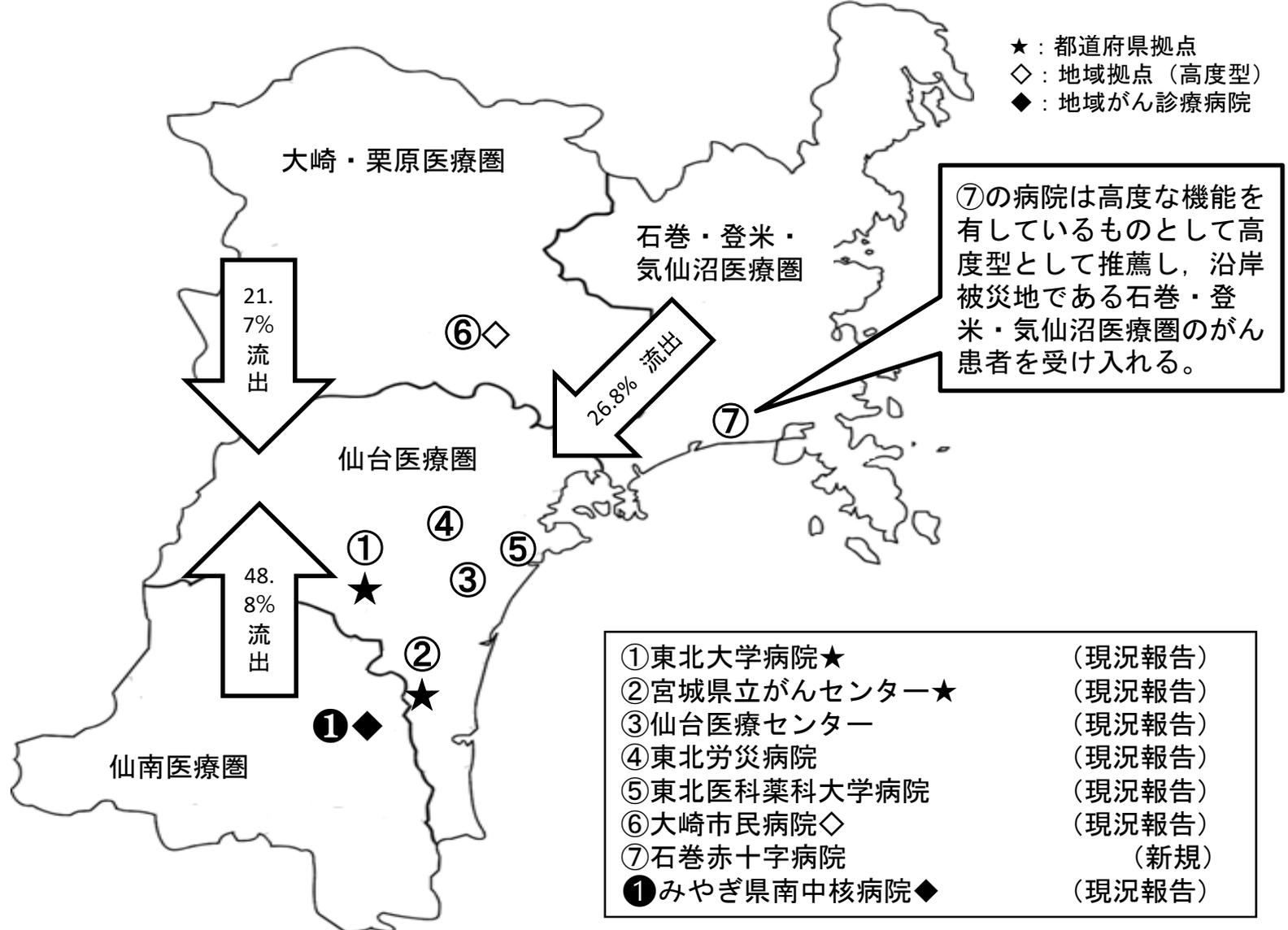
地域がん診療病院の診療実績等

資料 3 - 2

- ・ () 内は令和 2 年10月提出の数値, 下段は令和3年10月提出の数値
- ・ 申請区分は資料 4 の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				院内がん登録数 (年間)	悪性腫瘍手術総数 (年間)	のべ患者数 (年間)	のべ患者数 (年間)	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数 (年間)	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合 (%)	相談件数 (年間)
①	仙南	現況報告	みやぎ県南中核病院	(980) 8 5 2	(558) 5 6 1	(879) 9 9 7	(112) 1 2 3	(206) 1 1 6	(67) 2 9	(919) 1,236

宮城県 令和4年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



指定に係る宮城県の考え方

○がん診療連携拠点病院の整備方針

- ・ 2つの都道府県拠点病院が県全体を牽引する，ダブルトップ体制を整備する
- ・ 4つの医療圏に1箇所以上の地域拠点病院を整備する
- ・ 上記による全県的がん診療体制を整備し，がん医療の均てん化を実現する

○今回の新規指定申請病院（石巻赤十字病院）に係る推薦方針

【病理診断医の配置】

- ・ 石巻赤十字病院（令和2年4月1日から高度型）は，専従常勤の病理診断医配置の指定要件を充足できず，現在，地域がん診療連携拠点病院（特例型）に指定されているが，当該要件は令和3年8月1日に充足している。

【診療実績等】

- ・ 当該病院は，県沿岸部のがん医療の中心的役割を担い，診療実績等においては，高度型に指定されていた時と同様に，質の高いがん医療を提供していることから，改めて高度型に推薦し，がん診療機能をさらに強化する。

秋 田 県

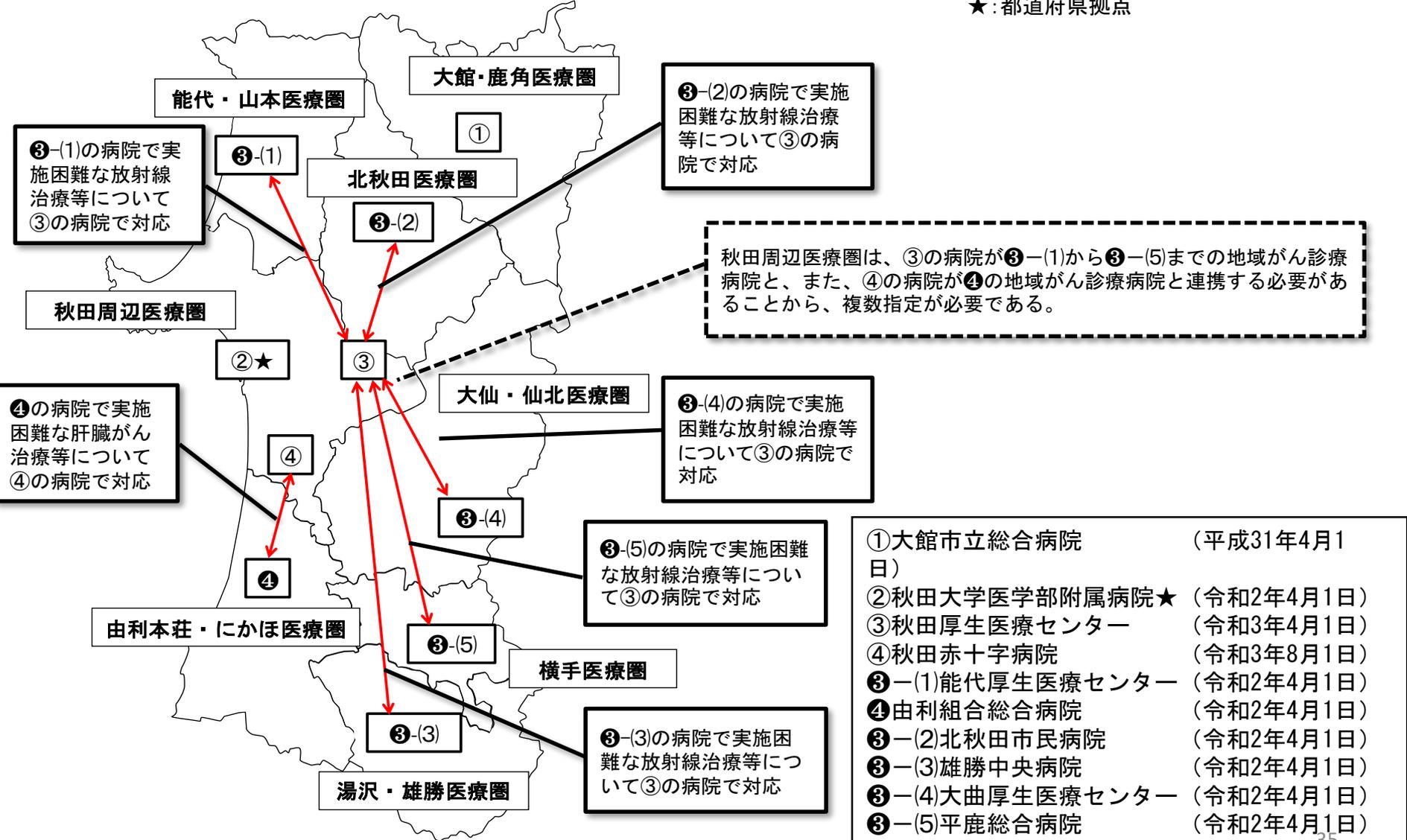
秋田県がんの医療圏の概要

令和3年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口 (人)	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				地域がん診療病院			
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計
大館・鹿角	1,844.41	101,146	10.8	54.8	9	1	0	0	1	0	0	0	0
北秋田	1,409.48	31,280	3.3	22.2	2	0	0	0	0	1	0	0	1
能代・山本	1,191.20	72,916	7.8	61.2	6	0	0	0	0	1	0	0	1
秋田周辺	1,694.86	378,754	40.4	223.5	26	3	0	0	3	0	0	0	0
由利本荘・にかほ	1,450.72	95,988	10.2	66.2	8	0	0	0	0	1	0	0	1
大仙・仙北	2,128.67	117,881	12.6	55.4	8	0	0	0	0	1	0	0	1
横手	692.80	83,712	8.9	120.8	4	0	0	0	0	1	0	0	1
湯沢・雄勝	1,225.38	56,778	6.1	46.3	3	0	0	0	0	1	0	0	1
計	11,637.52	938,455	100.0	80.6	66	4	0	0	4	6	0	0	6

秋田県 令和3年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★: 都道府県拠点



- | | |
|---------------|-------------|
| ①大館市立総合病院 | (平成31年4月1日) |
| ②秋田大学医学部附属病院★ | (令和2年4月1日) |
| ③秋田厚生医療センター | (令和3年4月1日) |
| ④秋田赤十字病院 | (令和3年8月1日) |
| ③-1能代厚生医療センター | (令和2年4月1日) |
| ④由利組合総合病院 | (令和2年4月1日) |
| ③-2北秋田市民病院 | (令和2年4月1日) |
| ③-3雄勝中央病院 | (令和2年4月1日) |
| ③-4大曲厚生医療センター | (令和2年4月1日) |
| ③-5平鹿総合病院 | (令和2年4月1日) |

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

- ・()内は平成31年1月1日～令和元年12月31日の数値、下段は令和3年10月提出(令和2年1月1日～12月31日)の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
- ・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1	大館・鹿角		現況	大館市立総合病院	1,734	25.3	(934) 826	(438) 409	(4,969) 5,073	(148) 163	(23) 15	(45) 45	(1,106) 1,377
2	秋田周辺	★	現況	秋田大学医学部附属病院	4,260	34.2	(2,174) 2,141	(1,288) 1,642	(9,010) 8,809	(688) 937	(180) 152	(24) 24	(3,848) 4,423
3	秋田周辺		現況	秋田厚生医療センター	2,288	24.8	(968) 868	(633) 572	(1,465) 1,312	(159) 236	(142) 94	(20) 18	(655) 865
4	秋田周辺		現況	秋田赤十字病院	4,058	40.1	(1,274) 1,100	(802) 765	(1,856) 1,487	(245) 250	(97) 94	(29) 29	(645) 713

地域がん診療病院の診療実績等

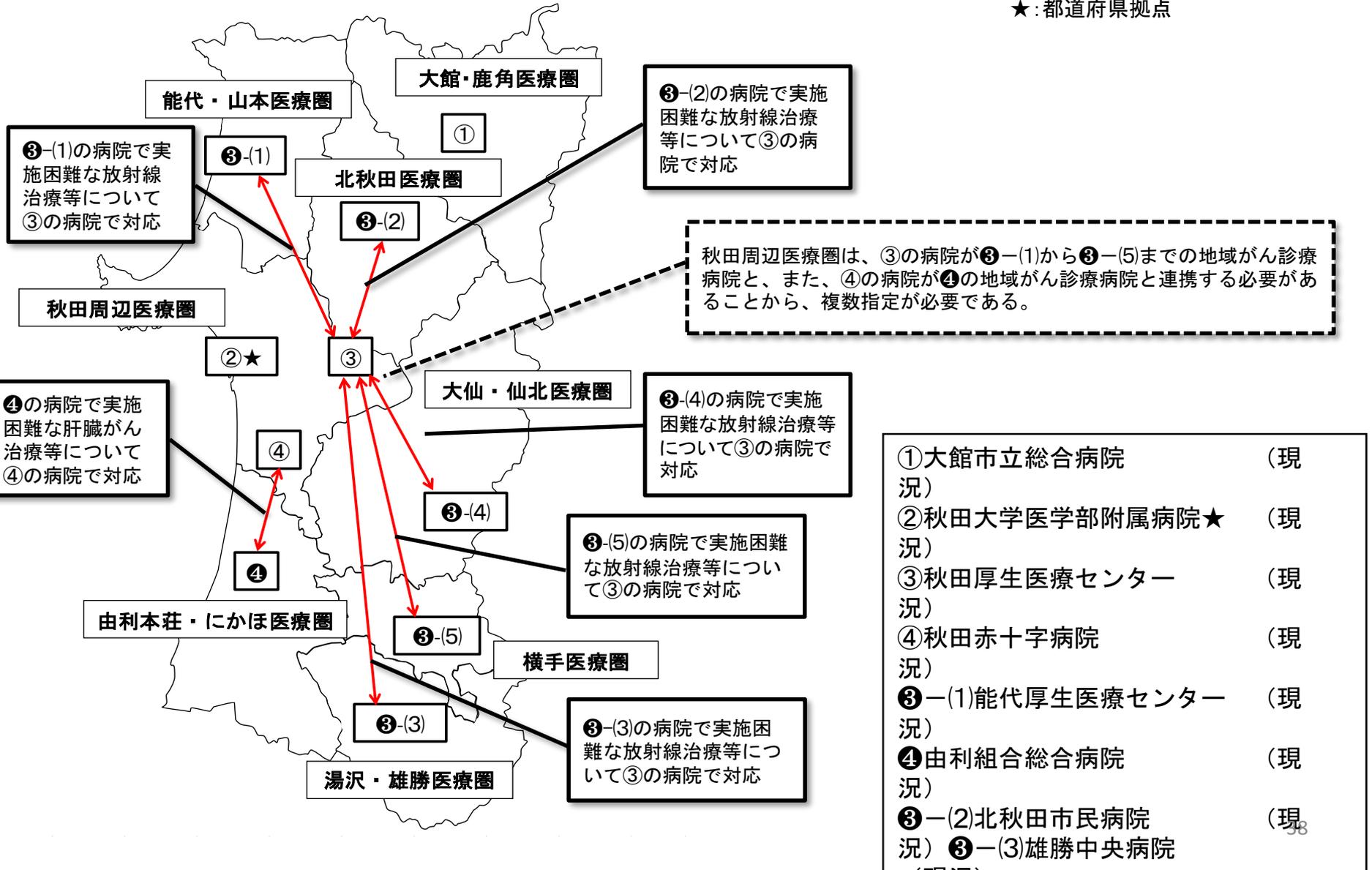
資料3-2

- ・()内は平成31年1月1日～令和元年12月31日の数値、下段は令和3年10月提出(令和2年1月1日～12月31日)の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療(実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
			年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間)	悪性腫瘍手術総数(年間)	のべ患者数(年間)	のべ患者数(年間)	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間)	相談件数(年間)
1 能代・山本	現況	能代厚生医療センター	1,457	22.4	(600) 450	(288) 239	(766) 1,162	(101) 115	(124) 146	(154) 144
2 由利本荘・にかほ	現況	由利組合総合病院	1,419	18.6	(585) 529	(287) 299	(366) 377	(116) 127	(20) 27	(2,340) 2,108
3 北秋田	現況	北秋田市民病院	408	13.9	(185) 303	(79) 67	(386) 505	実施なし	(1) 54	(35) 45
4 湯沢・雄勝	現況	雄勝中央病院	436	14.2	(317) 290	(115) 101	(194) 181	実施なし	(84) 187	(130) 240
5 大仙・仙北	現況	大曲厚生医療センター	3,021	33.1	(1,029) 930	(487) 517	(1,513) 1,505	(153) 153	(210) 236	(333) 367
6 横手	現況	平鹿総合病院	1,526	19.1	(747) 794	(527) 588	(2,060) 2,919	(224) 214	(142) 177	(73) 72

秋田県 令和3年度の指定推薦状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点



秋田県のがん診療体制に関する考え方

【現状】

医療圏：8

都道府県がん診療連携拠点病院：1 地域がん診療連携拠点病院：3 地域がん診療病院：6

1. 県内のがん診療連携体制について

- 秋田大学医学部附属病院を都道府県がん診療連携拠点病院として位置づけ、高度ながん医療を提供するとともに、県内のがん診療連携拠点病院等の連携の中心として均てん化を推進する。
- 秋田周辺医療圏については、県人口約94万人（令和3年9月1日現在）のうち、約4割の38万人が集中し、本県では最も人口の多い圏域であり、圏外からの患者の流入も多い。
そのため、秋田厚生医療センターと秋田赤十字病院の2病院が、地域がん診療病院で実施困難な放射線治療等について、グループ指定により連携して対応する体制を維持する。

2. 指定により期待される効果

- 拠点病院を中心とした集学的治療や標準的治療の提供体制の強化
- がんの種類や病態等に応じた適切な医療や緩和ケアの提供、相談支援の実施
- 医療圏内の各医療機関と連携したがんに係る地域医療の充実及び質の向上

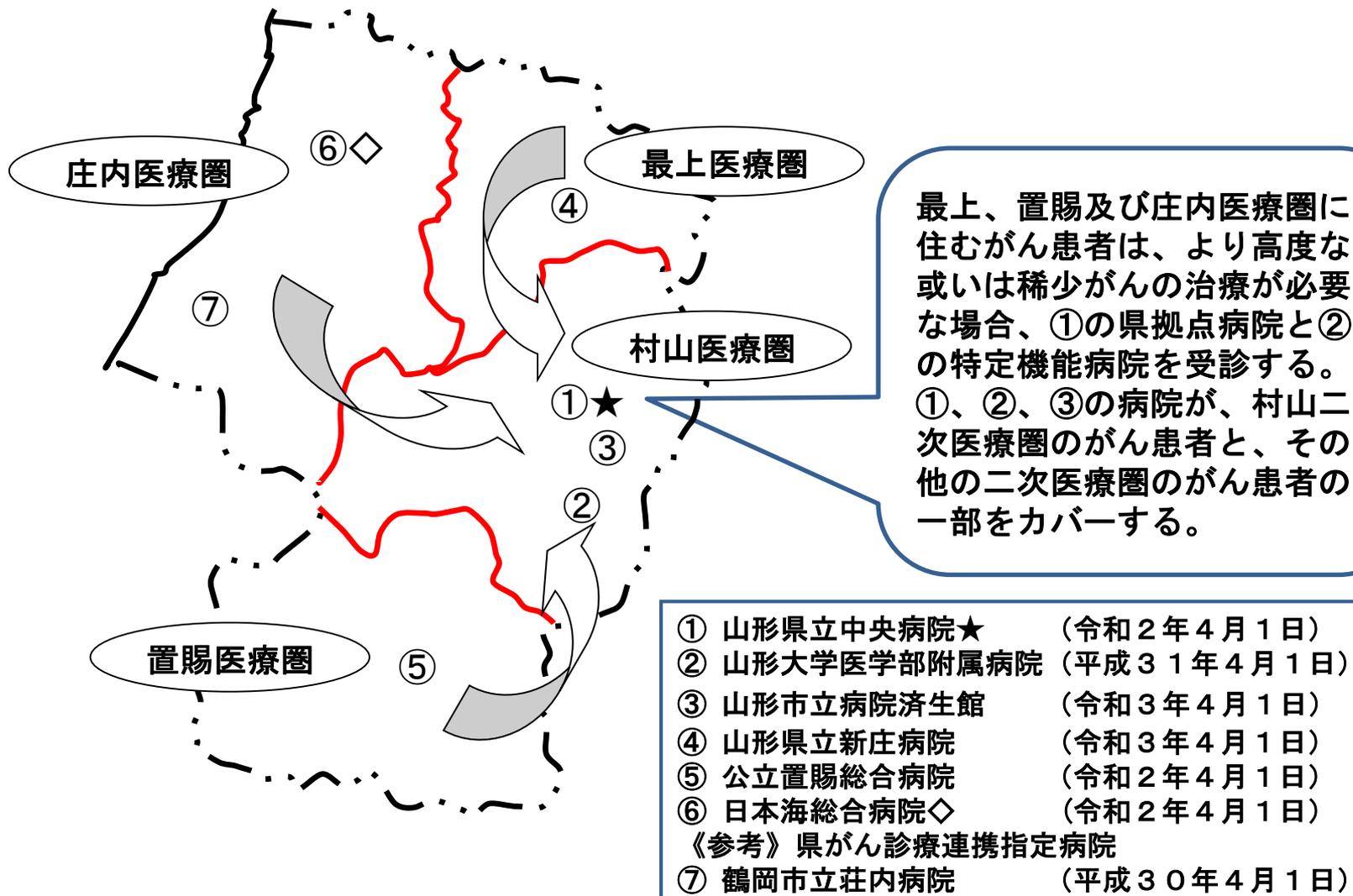
山 形 県

山形県がんの医療圏の概要

令和3年9月1日現在

2次医療圏名	面積 (km ²) 国土地理院 面積調	人口 (人) R3.9.1 山形県社会的 移動人口調査	人口 割合 (%)	人口 密度 (人)	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域がん 診療連携拠点 病院		地域がん診療 病院	
						現況 報告 病院 数	今回 更新 病院 数	新規 申請 病院 数	計	既 指定 病院 数	計	既 指定 病院 数	計
村山医療圏	2,619.40	527,670	50.0	201.4	33	2	1	0	3	0	0	0	0
最上医療圏	1,803.23	69,549	6.6	38.6	5	0	1	0	1	0	0	0	0
置賜医療圏	2,495.24	199,177	18.9	79.8	15	1	0	0	1	0	0	0	0
庄内医療圏	2,405.28	259,851	24.6	108.0	14	1	0	0	1	0	0	0	0
計	9,323.15	1,056,247	100.0	113.3	67	4	2	0	6	0	0	0	0

山形県令和3年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

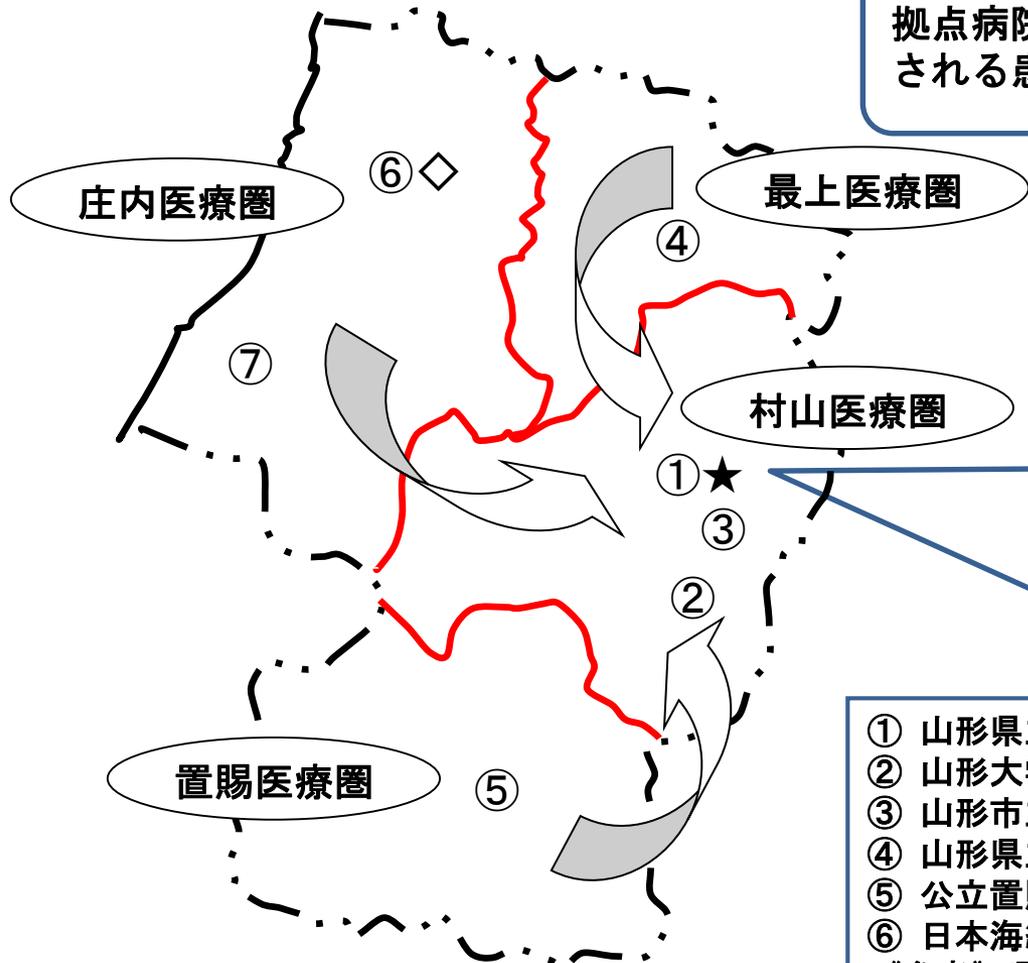
資料3-1-①

・()内は令和元年10月提出の数値、下段は令和3年10月提出の数値

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者延べ数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					年間新入院がん患者延べ数	年間新入院患者延べ数に占めるがん患者延べ数の割合(%)	院内がん登録数(年間)	悪性腫瘍の手術件数(年間)	のべ患者数(年間)	のべ患者数(年間)	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間)	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%)	相談件数(年間)
							500件以上	400件以上	1,000人以上	200人以上	50件以上	2割程度	
1	村山医療圏	★	現況報告	山形県立中央病院	(4,522)	(29.2)	(1,844)	(1,427)	(1,621)	(496)	(268)	(38)	(2,215)
					48,960	34.3	1,728	1,371	1,950	426	245	30	2,255
2	村山医療圏		現況報告	山形大学医学部附属病院	(4,870)	(37.3)	(1,821)	(960)	(20,432)	(592)	(131)	(37)	(194)
					70,661	34.6	1,803	1,128	19,422	635	155	33	241
3	村山医療圏		更新	山形市立病院済生館	(1,977)	(17.4)	(1,063)	(625)	(1,121)	(146)	(192)	(16)	(400)
					29,484	22.1	1,064	626	1,121	207	264	14	695
4	最上医療圏		更新	山形県立新庄病院	(1,136)	(17.4)	(582)	(323)	(479)	(121)	(188)	(95)	(502)
					18,000	18.0	728	486	521	147	106	64	378
5	置賜医療圏		現況報告	公立置賜総合病院	(2,225)	(21.3)	(1,002)	(485)	(1,101)	(247)	(50)	(62)	(442)
					29,110	21.5	943	680	1,121	197	80	26	380
6	庄内医療圏	◇	現況報告	日本海総合病院	(6,021)	(35.9)	(1,858)	(1,520)	(1,279)	(307)	(67)	(63)	(1,163)
					59,943	34.8	1,881	959	1,828	270	130	68	1,654
7	庄内医療圏		(参考)	鶴岡市立庄内病院	(1,777)	(17.3)	(760)	(415)	(498)	(130)	(70)	(21)	(209)
					21,230	16.4	700	169	543	202	186	21	360

山形県 令和3年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



拠点病院数及び配置の変更はないため、想定される患者の受療動向にも変化はない。

最上、置賜及び庄内医療圏に住むがん患者は、より高度な或いは稀少がんの治療が必要な場合、①の県拠点病院と②の特定機能病院を受診する。①、②、③の病院が、村山二次医療圏のがん患者と、その他の二次医療圏のがん患者の一部をカバーする。

- | | |
|-----------------|--------|
| ① 山形県立中央病院★ | (現況報告) |
| ② 山形大学医学部附属病院 | (現況報告) |
| ③ 山形市立病院済生館 | (更新) |
| ④ 山形県立新庄病院 | (更新) |
| ⑤ 公立置賜総合病院 | (現況報告) |
| ⑥ 日本海総合病院◇ | (現況報告) |
| 《参考》県がん診療連携指定病院 | |
| ⑦ 鶴岡市立荘内病院 | |

山形県のがん対策について

がん診療連携拠点病院の役割

基本的な方向

「がん患者を含めた県民が、がんを知り、がんの克服を目指す」

○がん予防、早期発見、医療の提供、がん患者とその家族への相談支援等を総合的に推進し、がんによる死亡者の減少を図るとともに、全てのがん患者とその家族の苦痛の軽減と療養生活の維持向上を図り、尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築を目指す。

・がん医療の推進

- 1) 手術療法、放射線療法、薬物療法等について単独又はこれらを組み合わせた集学的治療を行う。
- 2) がん患者とその家族が可能な限り質の高い療養生活を送れるようがんと診断された時からの緩和ケアの提供とともに診断から治療、在宅医療まで切れ目のないがん医療の提供を行う。
- 3) 地域におけるがん医療の連携と質の高いがん医療の提供を行うため、がん診療連携拠点病院及び山形県がん診療連携指定病院を配置する。

役割（主なもの）

- ・都道府県がん診療連携拠点病院は、「山形県がん診療連携協議会」を設置運営し、本県がん医療の向上と均てん化のため、がん医療に関する情報交換、がん登録の分析評価、専門がん研修、がん診療拠点病院の機能強化、機能分担、連携強化を行う。また、緩和ケアセンターを設置し、緩和ケア提供体制の構築を図る
- ・がん診療連携拠点病院及び県指定病院は、地域におけるがん医療の拠点としてがん患者及びその家族への相談支援、緩和ケア病棟、緩和ケア外来、緩和ケアチーム、在宅医療支援診療所訪問看護ステーション、保健薬局等の関係機関との地域連携の構築を行う。
- ・がん診療連携拠点病院等と地域の医療機関等との密接な連携により、切れ目のない医療を提供する。



がん診療連携拠点病院を核にがん対策を行う必要があり、現在の拠点病院の設置は不可欠である。

福島県

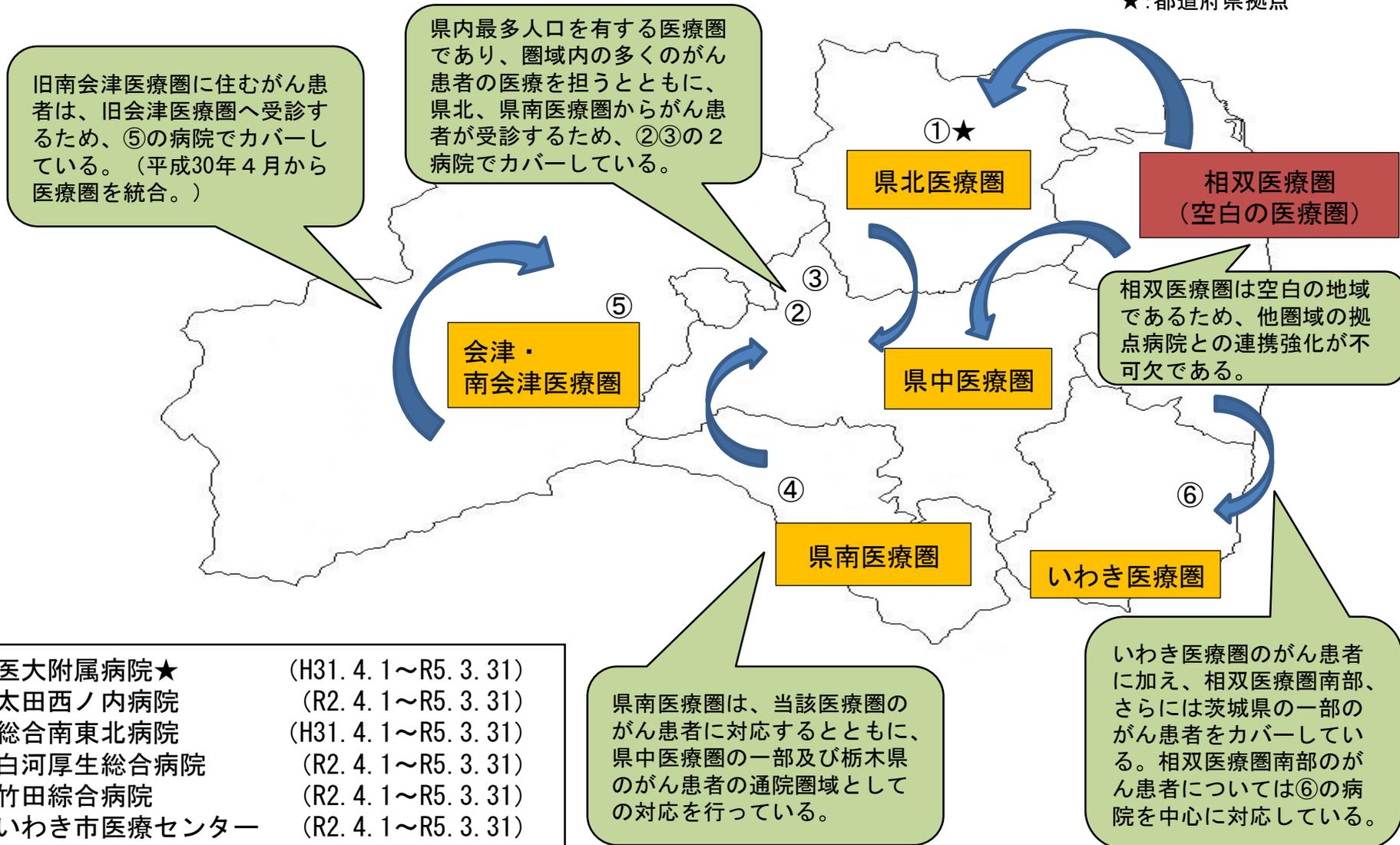
福島県 がんの医療圏の概要

令和3年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
県北医療圏	1,753.34	462,017	25.46%	263.5	31	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
県中医療圏	2,406.25	515,650	28.42%	214.3	32	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0
県南医療圏	1,233.07	137,434	7.58%	111.5	7	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
会津・南会 津医療圏	5,420.31	252,585	13.92%	46.6	18	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
相双医療圏	1,738.91	116,877	6.44%	67.2	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
いわき医療 圏	1,232.02	329,949	18.18%	267.8	26	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
計	13,783.90	1,814,512	100.00%	131.6	130	6	0	0	6	0	0	0	0	0	0

福島県 令和3年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★:都道府県拠点



がん診療連携拠点病院

資料 3 - 1 - ①

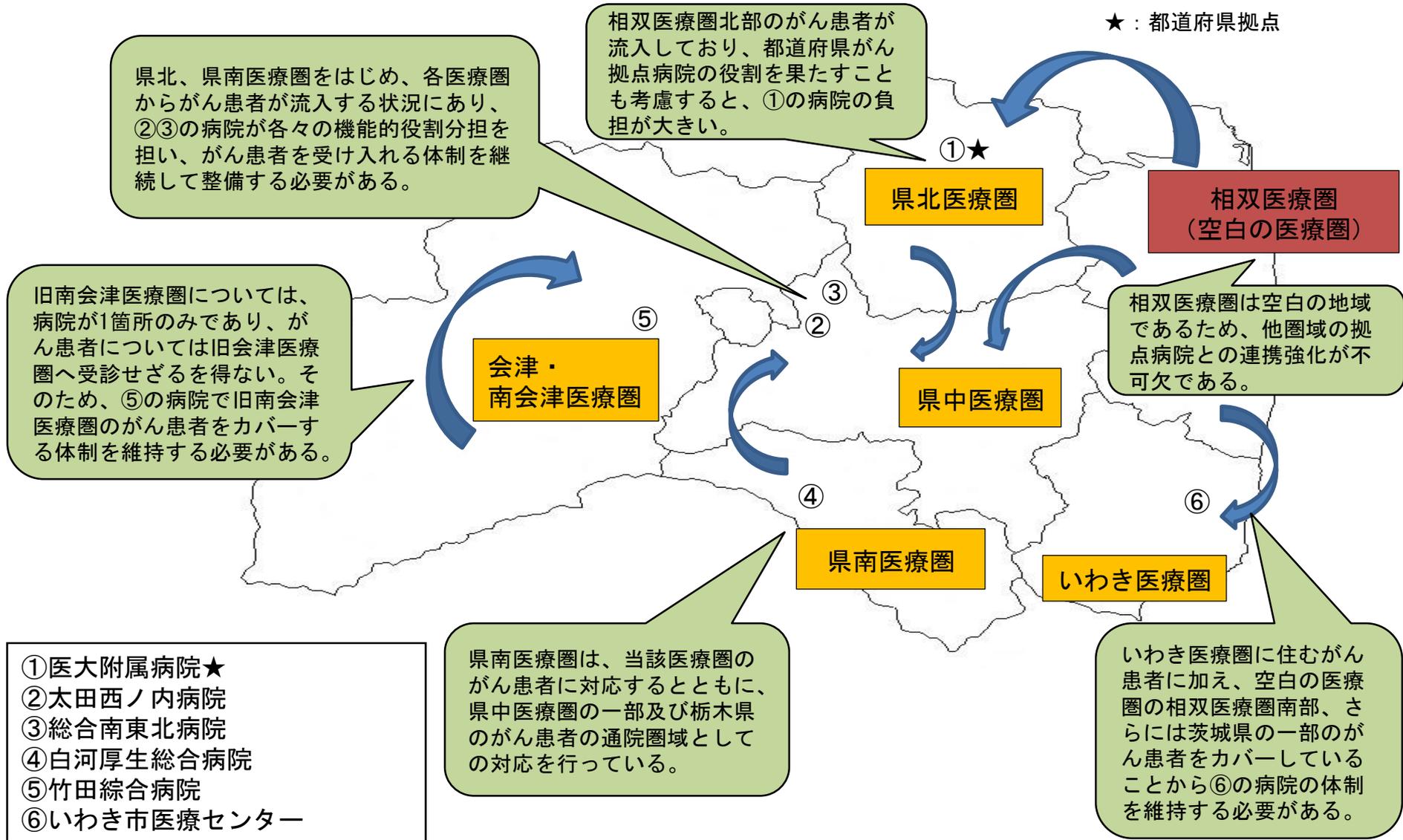
・ () 内は令和2年度提出分の数値、下段は令和3年度提出分の数値

★：都道府県拠点

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合
					院内がん登録数 (年間) <u>500件以上</u>	悪性腫瘍の手術件数 (年間) <u>400件以上</u>	のべ患者数 (年間) <u>1000人以上</u>	のべ患者数 (年間) <u>200人以上</u>	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数 (年間) <u>50件以上</u>	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) <u>2割程度</u>
1	県北	★	現況	医大附属病院	(2,096) 2,052	(3,413) 3,041	(8,802) 9,205	(932) 773	(233) 147	(62) 59
2	県中		現況	太田西ノ内病院	(1,420) 1,338	(1,042) 1,128	(3,835) 4,012	(316) 280	(56) 52	(34) 33
3	県中		現況	総合南東北病院	(1,829) 1,835	(1,187) 1,187	(2,630) 2,963	(450) 632	(181) 291	(26) 25
4	県南		現況	白河厚生総合病院	(626) 638	(410) 470	(1,399) 1,454	(180) 193	(70) 78	(65) 54
5	会津・南会津		現況	竹田総合病院	(1,581) 1,620	(870) 899	(1,067) 1,133	(342) 333	(145) 190	(27) 29
6	いわき		現況	いわき市医療センター	(1,330) 1,384	(809) 681	(2,050) 2,054	(412) 284	(53) 53	(29) 31

福島県 令和3年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★：都道府県拠点



茨 城 県

茨城県 がんの医療圏の概要

令和3年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院			
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	
水戸	909.73	454,512	16.0%	499.6	39	2			2							
日立	606.16	239,268	8.4%	394.7	21	1			1							
常陸太田・ひたちなか	1281.98	345,145	12.2%	269.2	21	1			1							
鹿行	754.49	265,839	9.4%	352.3	11				0				1			
土浦	495.02	249,005	8.8%	503.0	17	1			1							
つくば	486.52	359,630	12.7%	739.2	16	2			2							
取手・竜ヶ崎	656.14	457,145	16.1%	696.7	23	1			1							
筑西・下妻	590.99	248,952	8.8%	421.2	14				0							
古河・坂東	316.31	220,947	7.8%	698.5	12	1			1							
									0							
計	6097.34	2,840,443	100%	465.8	174	9	0	0	9	0	0	0	1	0	0	0

茨城県令和3年9月1日現在の指定状況と患者受療動向



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数 (年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数 (年間) 400件以上	のべ患者数 (年間) 1000人以上	のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数 (年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数 (年間)
1	水戸	★	現況報告	茨城県立中央病院	(4,321)	(39.4)	(2,098)	(1,006)	(1,611)	(594)	(250)	(26)	(764)
					3,795	40.6	1,432	900	1,789	562	298	23	2592
2	水戸		現況報告	水戸医療センター	(3,397)	(35.9)	(1,332)	(775)	(1,625)	(252)	(75)	(21.8)	(983)
					3,300	36.6	1,342	727	1,758	7557	69	22	957
3	日立		現況報告	日立総合病院	(2,031)	(21.6)	(1,783)	(1,339)	(1,795)	(8,785)	(132)	(37.1)	(1,573)
					2,596	28	1,761	1,380	2,185	359	150	36	3,683
4	常陸太田・ひたちなか		現況報告	ひたちなか総合病院	(1,475)	(22.7)	(879)	(443)	(1,241)	(192)	(50)	(41)	(1070)
					1,143	19.3	652	411	1,053	206	50	44	950
5	土浦		現況報告	土浦協同病院	(3,265)	(17)	(1,898)	(1,299)	(10,610)	(641)	(445)	(24.9)	(149)
					3,215	19.8	1,618	962	9,374	396	614	37	109
6	つくば	◇	現況報告	筑波大学附属病院	(6,212)	(31.8)	(3,331)	(1,914)	(4,037)	(1,098)	(750)	(25.3)	(402)
					6,213	33.4	2,717	1,901	16,288	1043	622	39	374
7	つくば		現況報告	筑波メディカルセンター病院	(2,406)	(21.8)	(1,297)	(716)	(2,863)	(10,484)	(239)	(21.9)	(1,454)
					2,341	23.5	960	698	1,174	668	232	23	1,660
8	取手・竜ヶ崎		現況報告	東京医科大学茨城医療センター	(1,681)	(19.5)	(821)	(630)	(1,433)	(246)	(73)	(16)	(327)
					1,616	21.2	683	551	1,772	262	70	21	405
9	古河・坂東		現況報告	友愛記念病院	(1,434)	(20.1)	(940)	(412)	(1,610)	(165)	(194)	(39.2)	(743)
					1,420	23.1	682	424	1,029	151	107	42	564

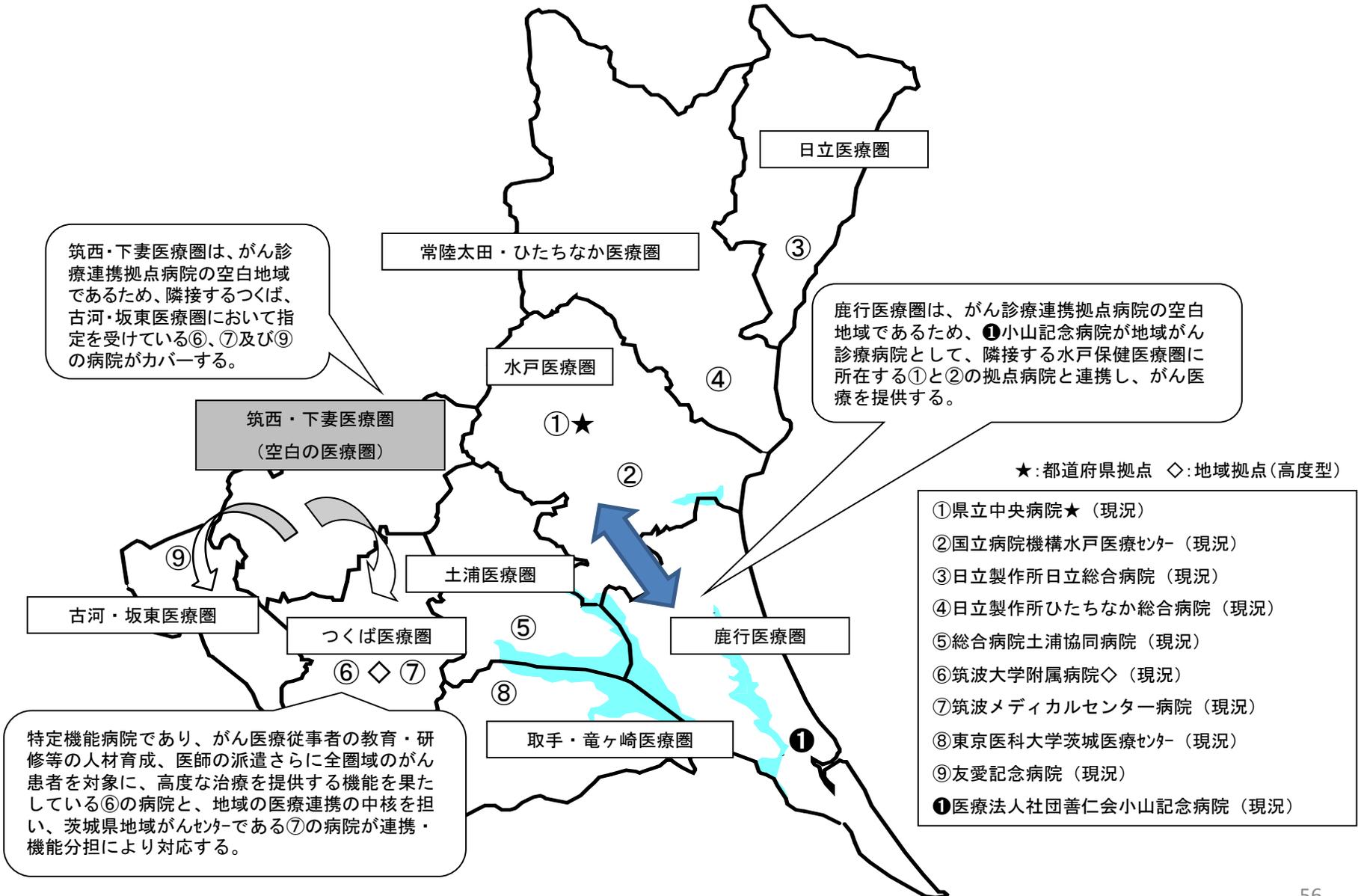
地域がん診療病院の診療実績等

資料 3 - 2

・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る 薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援 センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数 (年間)	悪性腫瘍手術総数 (年間)	のべ患者数 (年間)	のべ患者数 (年間)	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数 (年間)	相談件数 (年間)
①	鹿行	現況報告	小山記念病院	(1,227)	(21)	(1,018)	(316)	(233)	実施なし	(77)	(367)
				15,783	26.0	614	596	331		275	291

茨城県令和4年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



茨城県のがん診療連携拠点病院の連携体制

全県レベルの機能

多臓器にまたがる難治がん、進行・再発がん、我が国に多いがん（肺、胃、肝、大腸、乳）の治療に対応

特定機能病院・地域がん診療連携拠点病院（高度型）

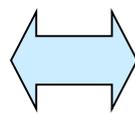
筑波大学附属病院

- ・がん診療連携拠点病院の医療従事者に対する高度ながん医療に関する研修を実施
- ・がん診療連携拠点病院への医師派遣
- ・全県の希少がん、小児がん（小児がん連携病院）に対応
- ・陽子線治療、がんゲノム医療（がんゲノム医療拠点病院）、がん生殖医療の実施

都道府県がん診療連携拠点病院

県立中央病院・茨城県地域がんセンター

- ・茨城県がん診療連携協議会の運営（緩和ケア、各種研修に関する計画作成、PDCAサイクルの確保の中心的役割）
- ・緩和ケアセンター
- ・がんゲノム医療連携病院



連携支援

2次医療圏レベルの機能

我が国に多いがん（肺、胃、肝、大腸、乳）を中心に治療を提供、5大がん以外に各病院が専門とするがんに対応、地域の医療従事者の研修会開催、相談支援センターを設置し、ピアサポート相談・就労支援窓口、患者サロンを開設

水戸医療圏

県立中央病院

- ・茨城県地域がんセンターとして高度ながん医療を提供
- ・肺がん、肝がん、膵がん等の進行・再発がん
- ・緩和ケア病棟（23床）
- ・IMRTの実施

水戸医療センター

- ・乳がん、血液がん、肺がん
- ・緩和ケア病棟（33床）
- ・救命救急センター

鹿行医療圏

小山記念病院

- ・地域がん診療病院として、拠点病院と連携してがん医療を提供

日立医療圏

（株）日製日立総合病院

- ・茨城県地域がんセンターとして高度ながん医療を提供
- ・肝疾患診療連携拠点病院
- ・緩和ケア病棟（20床）

常陸太田・ひたちなか医療圏

（株）日製ひたちなか総合病院

- ・地域医療支援病院
- ・IMRTの実施

土浦医療圏

総合病院土浦協同病院

- ・茨城県地域がんセンターとして高度ながん医療を提供
- ・緩和ケア病棟（20床）
- ・IMRTの実施

取手・竜ヶ崎医療圏

東京医科大学茨城医療センター

- ・肝疾患診療連携拠点病院
- ・IMRTの実施

古河・坂東医療圏

友愛記念病院

- ・緩和ケア病棟（14床）
- ・がん患者家族デイケアサロンの実施

つくば医療圏

筑波大学附属病院

- ・県内の医療従事者の人材育成
- ・IMRTの実施

筑波がん医療センター病院

- ・茨城県地域がんセンターとして高度ながん医療を提供
- ・県内の緩和ケア体制の整備、普及に対し指導的な役割
- ・緩和ケア病棟（20床）
- ・IMRTの実施

3病院でカバー

筑西・下妻医療圏

栃 木 県

栃木県 がんの医療圏の概要

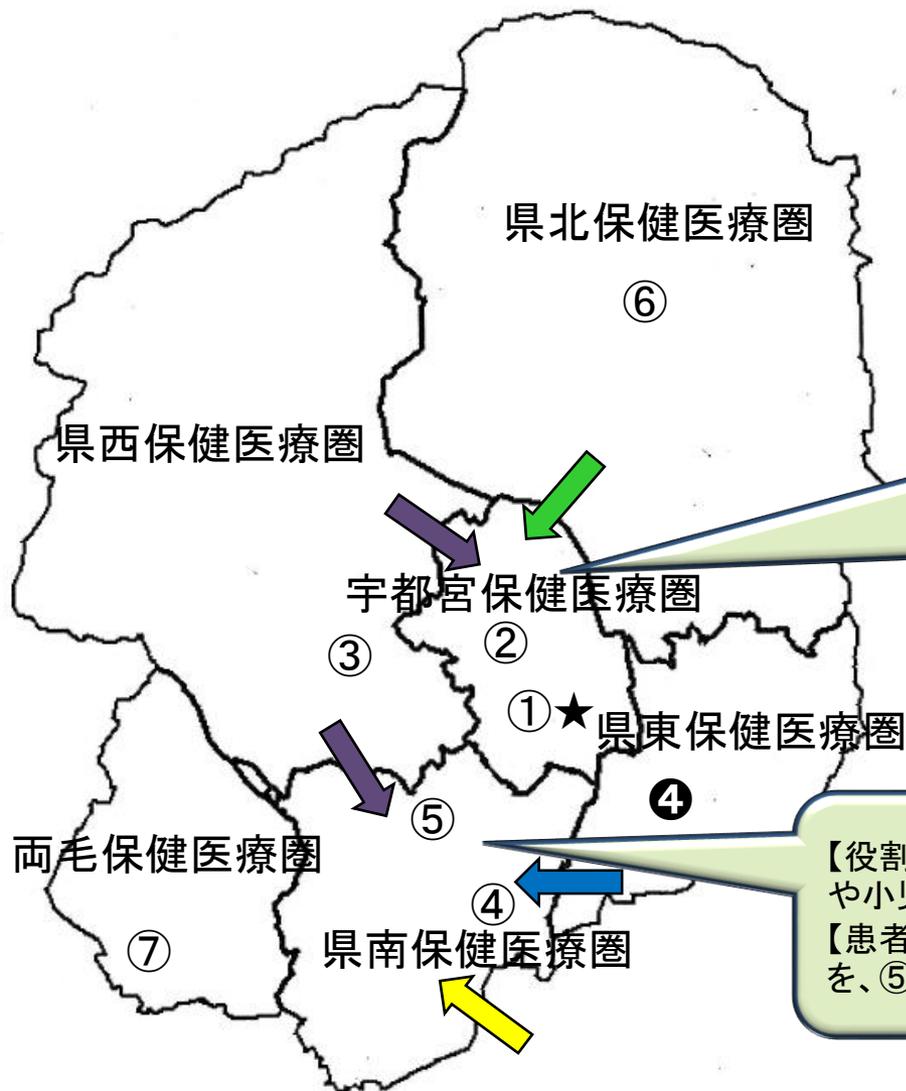
令和3年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
県北保健医療圏	2,229.5	367,616	18.8	164.9	21	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
県西保健医療圏(※)	1,940.5	172,314	8.8	88.8	11	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
宇都宮保健医療圏	416.9	518,864	26.6	1,244.6	31	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0
県東保健医療圏(※)	563.8	138,340	7.1	245.4	5	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
県南保健医療圏	723.6	476,454	24.4	658.4	22	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0
両毛保健医療圏(※)	533.8	258,503	13.2	484.3	16	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
計	6,408.1	1,932,091	100	301.5	106	6	1	0	7	0	0	0	1	0	0

※印は、医師数がおおむね300人を下回る医療圏

栃木県 令和3年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★: 都道府県拠点 ◇: 地域拠点(高度型) ◎: 特定領域拠点



- ① 栃木県立がんセンター★(2019年4月1日)
- ② 栃木県済生会宇都宮病院(2019年4月1日)
- ③ 上都賀総合病院(2019年4月1日)
- ④ 自治医科大学附属病院(2019年4月1日)
- ⑤ 獨協医科大学病院(2019年4月1日)
- ⑥ 那須赤十字病院(2021年4月1日)
- ⑦ 足利赤十字病院(2019年4月1日)
- ④ 芳賀赤十字病院(2019年4月1日)

【役割】①はがん専門病院として高度進行がんや再発がんの患者等の診療を行い、②はDPC特定病院群の総合病院として合併症を抱えるがん患者、救急対応を要するがん患者等の診療を行う。

【患者受療動向】①は県西・県北のがん患者を、②は県北のがん患者を多く診療している。

【役割】④及び⑤は特定機能病院として、高度ながん医療や小児がん医療を提供する。

【患者受療動向】④は茨城県・宇都宮・県東等のがん患者を、⑤は宇都宮・県西等のがん患者を多く診療している。

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

- ・()内は平成元年度提出の数値、下段は令和3年度提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
- ・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				年間入院がん患者延べ数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) <u>500件以上</u>	悪性腫瘍の手術件数(年間) <u>400件以上</u>	のべ患者数(年間) <u>1000人以上</u>	のべ患者数(年間) <u>200人以上</u>	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) <u>50件以上</u>	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) <u>2割程度</u>	相談件数(年間)
1 宇都宮	★	現況	栃木県立がんセンター	(1,670) 3,725	78.3	(1,491) 1,589	(1,074) 1,080	(2,570) 2,592	(499) 490	(90) 82	(17.3) 20	(3,270) 4,131
2 宇都宮		現況	栃木県済生会宇都宮病院	(2,588) 3,775	22.5	(1,859) 1,763	(1,053) 1,061	(1,795) 1,840	(476) 490	(134) 171	(27) 26	(479) 455
3 県西		現況	上都賀総合病院	(554) 735	14.3	(632) 598	(135) 165	(583) 1,116	(62) 58	(53) 61	(23.1) 29	(410) 441
4 県南		現況	自治医科大学附属病院	(2,517) 6,672	29.5	(2,981) 2,945	(2,539) 2,500	(5,099) 4,226	(921) 957	(269) 251	(26.2) 27	(12,355) 14,598
5 県南		現況	獨協医科大学病院	(1,990) 6,829	27.6	(2,743) 2,463	(2,494) 2,359	(3,477) 3,350	(721) 718	(168) 219	(20.7) 23	(3,218) 1,758
6 県北		更新	那須赤十字病院	(2,135) 36,168	29.9	(1,082) 736	(514) 591	(1,216) 1,333	(201) 199	(90) 89	(44) 43	(700) 882
7 両毛		現況	足利赤十字病院	(1,390) 55,026	28.6	(1,534) 1,258	(845) 817	(1,199) 1,308	(444) 411	(207) 232	(38.6) 34	(616) 1,255

地域がん診療病院の診療実績等

- ・上段は平成元年度提出の数値、下段は令和3年度提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				年間入院がん患者延べ数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)						
④	県東	現況	芳賀赤十字病院	(940) 1,002	12.8	(939) 634	(359) 329	(1,001) 1275	(0) 0	(61) 91	(482) 705

栃木県 令和4年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★: 都道府県拠点 ◇: 地域拠点(高度型) ◎: 特定領域拠点

- ① 栃木県立がんセンター★(現況)
- ② 栃木県済生会宇都宮病院(現況)
- ③ 上都賀総合病院(現況)
- ④ 自治医科大学附属病院(現況)
- ⑤ 獨協医科大学病院(現況)
- ⑥ 那須赤十字病院(更新)
- ⑦ 足利赤十字病院(現況)
- ④ 芳賀赤十字病院(現況)



⑥は県土の1/3に及ぶ広域な医療圏のがん患者に対応している。

【役割】 ①はがん専門病院として高度進行がんや再発がんの患者等の診療を行い、②はDPC 特定病院群の総合病院として、合併症を抱えるがん患者、救急対応を要するがん患者等の診療を行う。
 【患者受療動向】 ①は県全域のがん患者を、②は県北等のがん患者をカバーする。

【役割】 ④及び⑤は特定機能病院として高度ながん医療や小児がん医療を提供する。
 【患者受療動向】 共に県域にとどまらず県域を越えたがん患者も受け入れる。県域では特に④が宇都宮・県東等のがん患者を、⑤が宇都宮・県西等のがん患者をカバーする。

⑦は圏内トップのがん診療実績を有し、圏域のみならず群馬県のがん患者も受け入れる。

④は④との連携により、圏内がん患者の診療を行う。

栃木県 今回の指定更新推薦について

病院名	医療圏	特徴・役割分担等
⑥那須赤十字病院 (地域拠点)	県北	・県土の1/3を占める県北医療圏を対応 ・診療・治療をはじめ相談支援や緩和ケアなど、県北地域におけるがん医療の中核をなしている。

⇒ 充足できていない要件(放射線治療医の配置)については、今年度中(3/1)に配置することが決まっている。これまで、地域のがん医療の中核的な役割を果たしており、今後も県民が求める質の高いがん医療を適切に提供していくため、引き続き指定を得られるよう推薦する。

群馬県

群馬県 がんの医療圏の概要

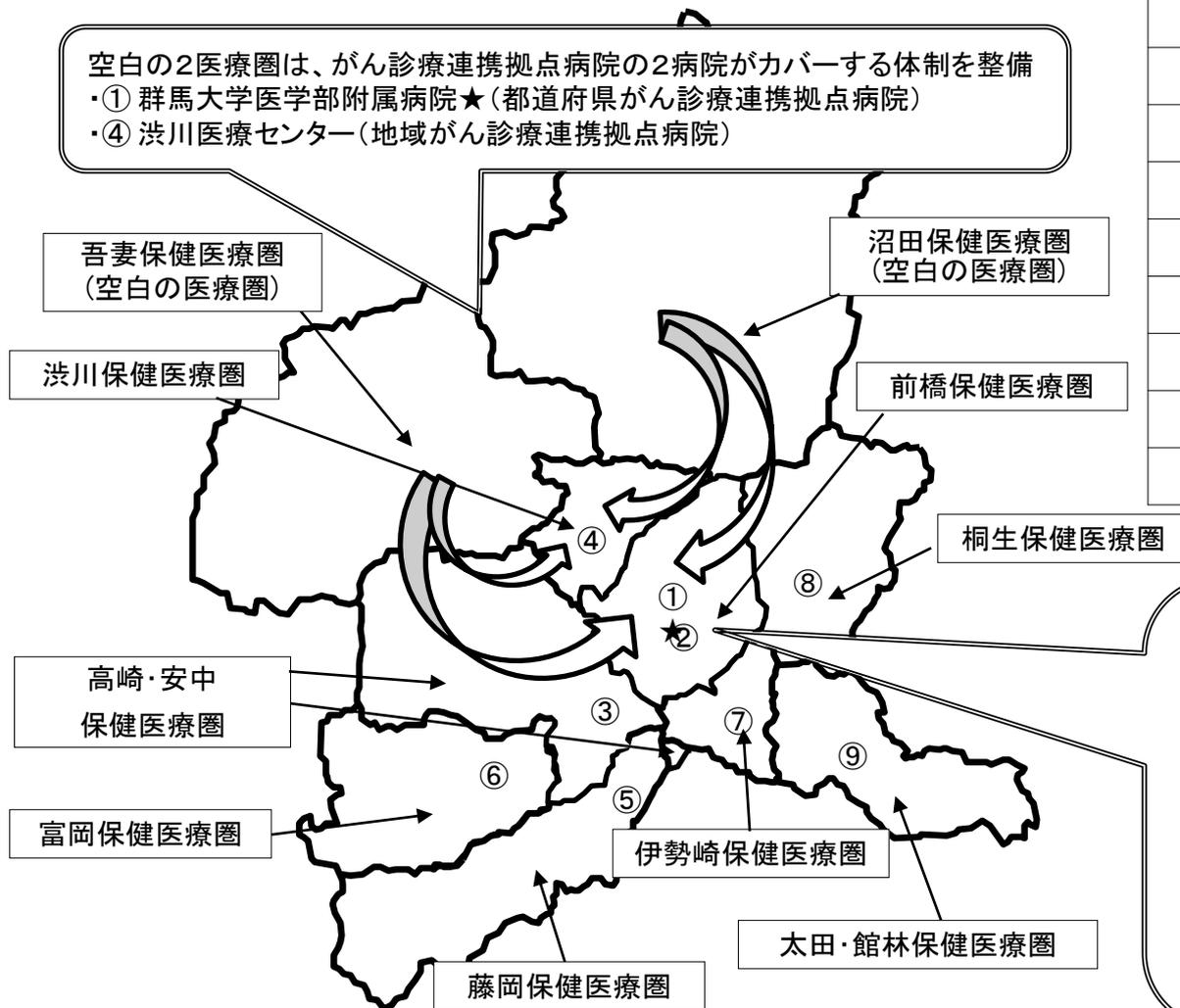
令和3年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院			
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計
前橋保健医療圏	311.6	331,150	17.2%	1062.7	20	2			2
高崎・安中保健医療圏	735.5	426,649	22.1%	580.1	31	1			1
渋川保健医療圏	288.7	109,911	5.7%	380.7	10	1			1
藤岡保健医療圏	476.7	65,390	3.4%	137.2	5	1			1
富岡保健医療圏	488.7	67,050	3.5%	137.2	4	1			1
吾妻保健医療圏	1278.6	50,998	2.6%	39.9	9				0
沼田保健医療圏	1765.7	75,988	3.9%	43.0	7				0
伊勢崎保健医療圏	165.2	247,224	12.8%	1496.5	11	1			1
桐生保健医療圏	482.9	154,055	8.0%	319.0	12	1			1
太田・館林保健医療圏	368.9	400,114	20.7%	1084.6	19	1			1
計	6362.5	1,928,529	100%	5280.9	128	9	0	0	9

群馬県 令和3年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

空白の2医療圏は、がん診療連携拠点病院の2病院がカバーする体制を整備

- ・① 群馬大学医学部附属病院★(都道府県がん診療連携拠点病院)
- ・④ 渋川医療センター(地域がん診療連携拠点病院)



①	群馬大学医学部附属病院★	R1. 7. 1
②	前橋赤十字病院	H31. 4. 1
③	高崎総合医療センター	R2. 4. 1
④	渋川医療センター	R2. 4. 1
⑤	公立藤岡総合病院	R3. 8. 1
⑥	公立富岡総合病院	H31. 4. 1
⑦	伊勢崎市民病院	R2. 4. 1
⑧	桐生厚生総合病院	R2. 4. 1
⑨	群馬県立がんセンター	R2. 4. 1

複数配置による役割分担

①★の病院の役割

- ・ 県内のがん医療の中核
- ・ 人材育成及び高度医療の提供
- ・ 拠点病院が空白の医療圏のカバー
- ・ 群馬県がん診療連携推進病院(県独自の指定病院)の支援

②の病院の役割

- ・ 地域のがん医療の中核
- ・ 地域の医療機関等に向けた緩和ケア研修等の実施
- ・ 地域連携クリティカルパスの利用促進

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3

★：都道府県拠点

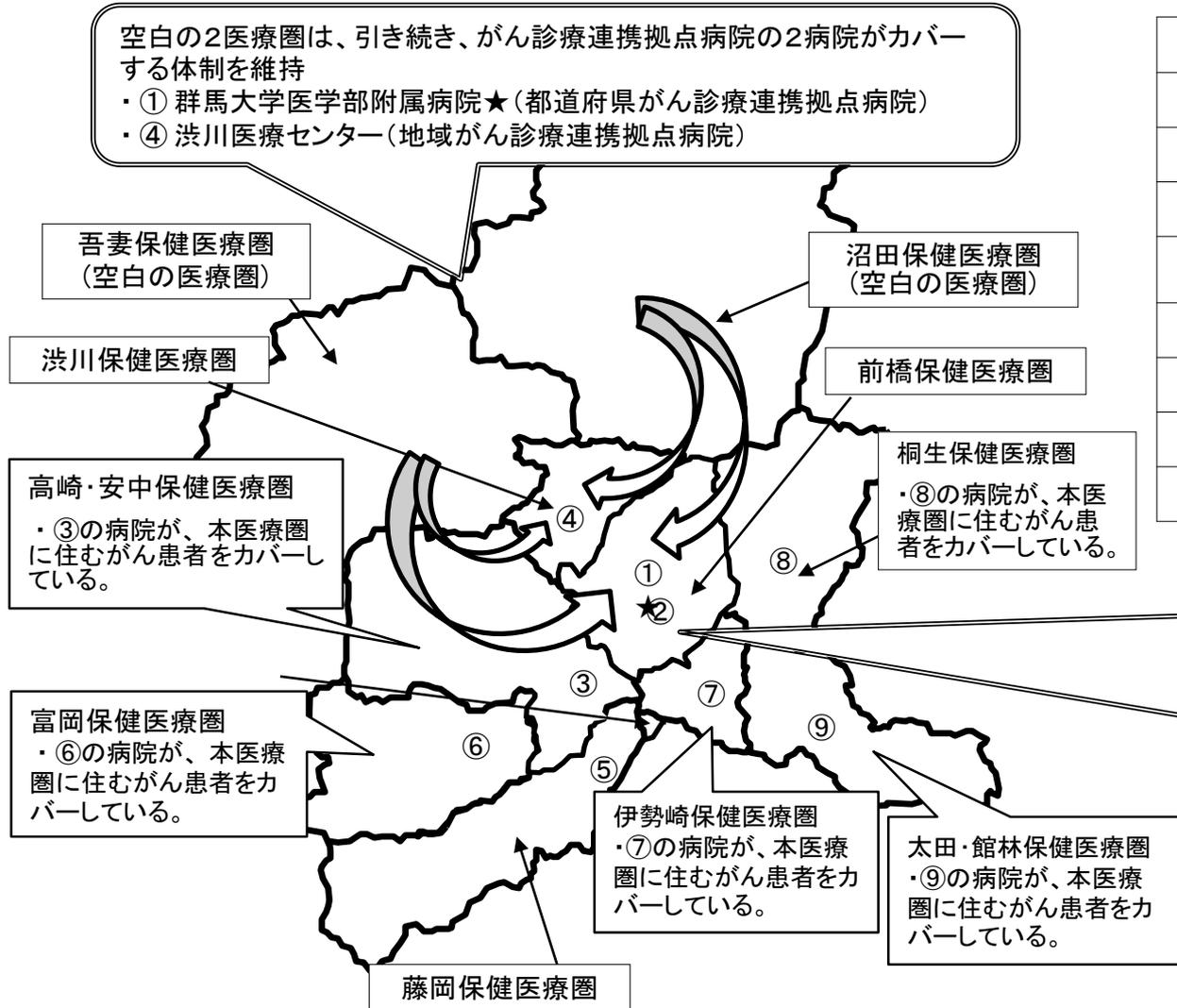
・()内は平成31年1月～令和元年12月の数値、下段は令和3年11月提出の数値

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録 500件以上	手術件数 400件以上	がんに係る 薬物療法 1000人以上	放射線治療 200人以上	緩和ケア 緩和ケアチームに対する新規診療依頼数 (年間) 50件以上	診療の割合 当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談支援センター 相談件数 (年間)
					年間入院がん患者延べ数 ()は年間新入院がん患者数	年間入院患者延べ数に占めるがん患者数の割合 ()は年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)							
1	前橋	★	現況	群馬大学 医学部附属病院	(4,894)	(34.1)	(2,737)	(1,757)	(2,130)	(1,216)	(96)	(21)	(1,524)
					4,552	33.2	2,484	1,752	2,070	1,392	19	1,186	
2	前橋		現況	前橋赤十字病院	(3,140)	(21.6)	(1,350)	(915)	(1,322)	(471)	(89)	(30)	(1,619)
					2,740	1.6	1,297	727	1,218	473	104	25	2,125
3	高崎・ 安中		現況	高崎総合医療センター	(3,184)	(24.5)	(1,794)	(950)	(6,856)	(366)	(105)	(28)	(3,222)
					2,714	22.5	1,686	947	6,940	417	153	28	3,063
4	渋川		現況	渋川医療センター	(3,355)	(49.0)	(1,189)	(588)	(2,670)	(360)	(96)	(41)	(3,160)
					2,794	41.5	1,142	621	1,974	363	77	24	3,850
5	藤岡	類型 変更		公立藤岡総合病院	(1,742)	(19.5)	(768)	(426)	(1,983)	(318)	(322)	(56)	(331)
					1,826	22.6	849	404	2,062	219	382	53	400
6	富岡		現況	公立富岡総合病院	(1,111)	(13.6)	(656)	(414)	(491)	(80)	(189)	(49)	(738)
					13,657	16.0	648	353	341	90	386	53	857
7	伊勢崎		現況	伊勢崎市民病院	(2,931)	(22.5)	(1,384)	(826)	(719)	(253)	(435)	(36)	(650)
					2,799	24.7	1,160	938	1,056	279	539	36	171
8	桐生		現況	桐生厚生総合病院	(1,365)	(18.8)	(583)	(341)	(539)	(160)	(64)	(57)	(97)
					1,530	1.4	665	412	683	151	94	42	152
9	太田・ 館林		現況	県立がんセンター	(4,822)	(85.1)	(2,246)	(1,424)	(3,333)	(746)	(76)	(45)	(13,718)
					4,306	80.8	1,647	1,411	3,061	700	75	40	13,284

群馬県 令和3年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点

①	群馬大学医学部附属病院★	現況
②	前橋赤十字病院	現況
③	高崎総合医療センター	現況
④	渋川医療センター	現況
⑤	公立藤岡総合病院	指定類型変更
⑥	公立富岡総合病院	現況
⑦	伊勢崎市民病院	現況
⑧	桐生厚生総合病院	現況
⑨	群馬県立がんセンター	現況



引き続き複数配置により、以下の役割を分担

- ①★の病院の役割
 - ・県内のがん医療の中核
 - ・人材育成及び高度医療の提供
 - ・拠点病院が空白の医療圏のカバー
 - ・群馬県がん診療連携推進病院(県独自の指定病院)の支援
- ②の病院の役割
 - ・地域のがん医療の中核
 - ・地域の医療機関等に向けた緩和ケア研修等の実施
 - ・地域連携クリティカルパスの利用促進

本県の考え方

本県における拠点病院整備に関する基本方針

群馬県がん対策推進計画(平成30年度～35年度)

- ① 県民がどこに住んでいても適切ながん医療が受けられる体制の維持
- ② がん医療圏(2次保健医療圏)ごとに、がん診療連携拠点病院を整備
 - ・都道府県がん診療連携拠点病院を中心としたがん診療連携拠点病院の相互連携による機能の維持・強化
- ③ 空白の医療圏は、がん診療連携拠点病院と本県独自指定の「群馬県がん診療連携推進病院」との連携による地域がん医療提供体制を整備

空白の医療圏のがん医療提供体制

【吾妻保健医療圏、利根沼田保健医療圏】

- ・当該保健医療圏のがん患者の受診を、群馬大学医学部附属病院(都道府県がん診療連携拠点病院)と渋川医療センター(地域がん診療連携拠点病院)がカバーする体制の維持

埼玉県

埼玉県がんの医療圏の概要

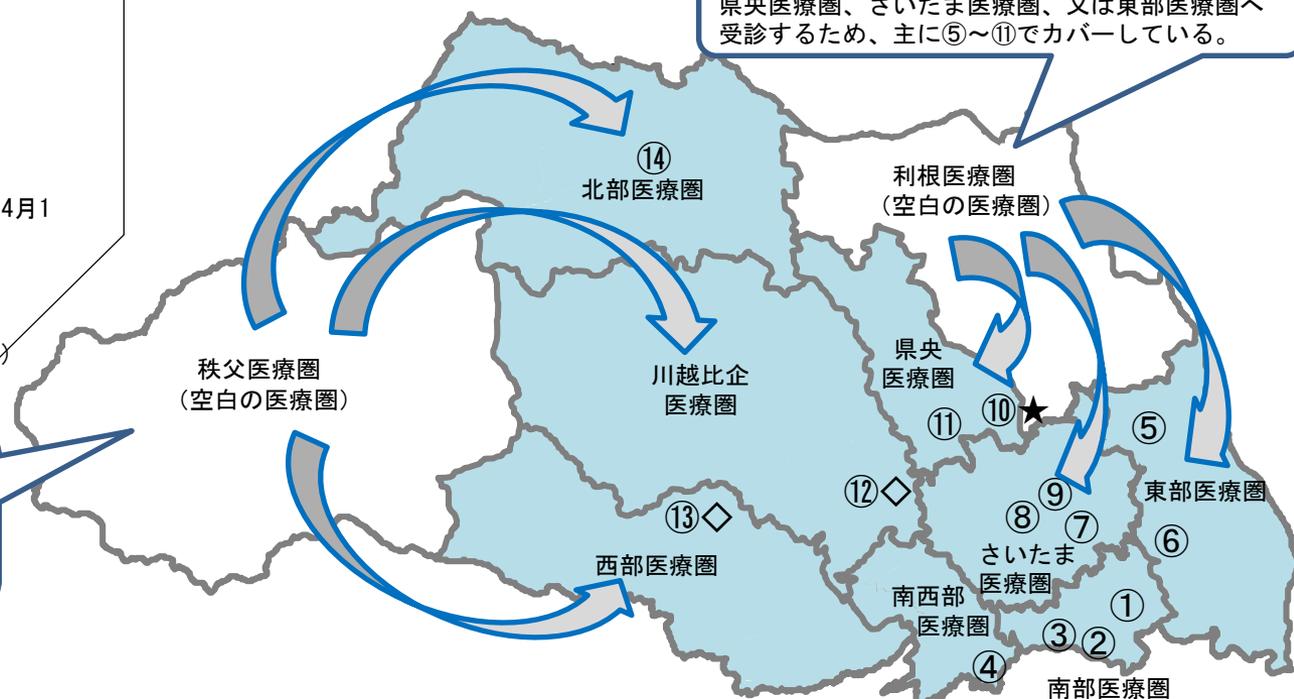
令和3年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院			
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計
南部	85.25	809,655	11%	9497.4	29	3	0	0	3
南西部	110.95	731,329	10%	6591.5	30	1	0	0	1
東部	249.71	1,155,384	16%	4626.9	50	2	0	0	2
さいたま	217.43	1,332,491	18%	6128.4	39	3	0	0	3
県央	172.91	528,861	7%	3058.6	18	2	0	0	2
川越比企	626.53	792,742	11%	1265.3	50	1	0	0	1
西部	406.32	769,404	10%	1893.6	53	1	0	0	1
利根	473.95	632,750	9%	1335.1	32	0	0	0	0
北部	562.12	498,391	7%	886.6	34	1	0	0	1
秩父	892.62	93,254	1%	104.5	8	0	0	0	0
計	3797.79	7,344,261	100%	35387.8	320	14	0	0	14

埼玉県 令和3年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

- ①川口市立医療センター(令和2年4月1日)
 - ②済生会川口総合病院(令和2年4月1日)
 - ③戸田中央総合病院(令和2年4月1日)
 - ④国立病院機構埼玉病院(令和2年4月1日)
 - ⑤春日部市立医療センター(令和3年4月1日)
 - ⑥獨協医科大学埼玉医療センター(令和2年4月1日)
 - ⑦さいたま市立病院(令和3年4月1日)
 - ⑧さいたま赤十字病院(令和2年4月1日)
 - ⑨自治医科大学附属さいたま医療センター(平成31年4月1日)
 - ⑩埼玉県立がんセンター★(平成31年4月1日)
 - ⑪上尾中央総合病院(令和3年4月1日)
 - ⑫埼玉医科大学総合医療センター◇(令和2年4月1日)
 - ⑬埼玉医科大学国際医療センター◇(平成31年4月1日)
 - ⑭深谷赤十字病院(令和2年4月1日)
- ★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型)

利根医療圏に住むがん患者は、
県央医療圏、さいたま医療圏、又は東部医療圏へ
受診するため、主に⑤～⑪でカバーしている。



秩父医療圏に住むがん患者は、
西部医療圏、川越比企医療圏 又は
北部医療圏へ受診するため、
2箇所の高度型を含む
⑬、⑫及び⑭でカバーしている。

※同一医療圏に複数の拠点病院が
指定されている場合の過去の申請理由等

○さいたま医療圏

当該医療圏は、非常に多くの人口を抱えていることから、質の高いがん医療の提供のためには、複数の配置が適当。

⑦⑧⑨の病院は市内にバランスよく位置し、⑦の病院はさいたま医療圏内の患者を主体に、⑧⑨の病院は近隣医療圏からも多くの患者を受け入れている。

○東部医療圏

当該医療圏の人口は100万人を超えている。⑤の病院は圏域の最北部に位置するとともに、空白医療圏である利根医療圏の患者を受け入れていることから、主に人口集中地域の圏域南部の患者を受け入れている⑥の病院と併せ、圏域全体におけるがん医療提供の均てん化が図られる。

○南部医療圏

当該医療圏に加え、人口増加傾向にある隣接医療圏の東部、南西部の患者も受け入れている。3病院はバランスよく位置し、日頃から連携をとっている。

①の病院は、乳がん、肺がんの手術を多く実施。②の病院は、県内有数のPET-CTを導入。③の病院は、唯一緩和ケア病棟を有し、地域の医療機関からの新規紹介緩和ケア外来患者数も多い。

○県央医療圏

⑪は、21床を有する緩和ケア病棟を整備しており、緩和ケア体制の充実を図っている。

⑪は、様々な基礎疾患のあるがん患者を受け入れており、特にがん関連血栓症や心不全等のがん治療に伴う様々な心血管合併症に対応できる体制を整備し、都道府県拠点である⑩との間で連携を推進している。

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

・()内は令和2年9月提出の数値、下段は令和3年11月提出の数値

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型)

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1	南部		現況	川口市立医療センター	(-) 2,141	(-) 17.5	1,051	(738) 706	(1,114) 1,090	(334) 328	176	23	1,646
2	南部		現況	済生会川口総合病院	(-) 1,781	(-) 18.3	915	(862) 665	(1,447) 1,245	(223) 203	53	19	370
3	南部		現況	戸田中央総合病院	(-) 1,039	(-) 10.0	827	(669) 606	(1,019) 1,139	(257) 271	196	11	7,157
4	南西部		現況	国立病院機構埼玉病院	(-) 28,991	(-) 21.6	1,454	(842) 770	(1,258) 1,272	(348) 390	258	21	444
5	東部		現況	春日部市立医療センター	(-) 2,715	(-) 34.0	929	(728) 697	(1,105) 1,315	(346) 358	53	15	2,230
6	東部		現況	獨協医科大学埼玉医療センター	(-) 5,293	(-) 24.8	2,765	(1,233) 1,477	(1,900) 4,063	(435) 444	181	23	2,299
7	さいたま		現況	さいたま市立病院	(-) 1,910	(-) 14.1	1,283	(788) 659	(1,089) 1,282	(187) 554	210	7	151

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

・()内は令和2年9月提出の数値、下段は令和3年11月提出の数値

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型)

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
8	さいたま		現況	さいたま赤十字病院	(-) 3,435	(-) 19.8	1,670	(1,375) 1,314	(1,523) 1,665	(721) 704	120	18	593
9	さいたま		現況	自治医科大学さいたま医療センター	(-) 4,166	(-) 25.2	2,160	(1,261) 1,183	(2,940) 2,004	(448) 476	105	17	4,261
10	県央	★	現況	埼玉県立がんセンター	(-) 134,755	(-) 99.9	4,393	(2,141) 2,911	(5,593) 5,884	(1,441) 1,497	695	32	27,287
11	県央		現況	上尾中央総合病院	(-) 2,689	(-) 15.2	1,601	(1,013) 1,299	(1,194) 1,104	(792) 359	185	19	851
12	川越比企	◇	現況	埼玉医科大学総合医療センター	(-) 3,381	(-) 29.1	1,454	(1,685) 1,565	(2,389) 2,283	(830) 800	204	24	1,561
13	西部	◇	現況	埼玉医科大学国際医療センター	(-) 7,994	(-) 53.7	4,002	(2,606) 2,456	(4,933) 5,130	(1,933) 2,060	168	8	2,299
14	北部		現況	深谷赤十字病院	(-) 37,861	(-) 30.6	910	(457) 494	(1,012) 816	(234) 214	237	30	188

埼玉県 令和4年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型)

秩父医療圏に住むがん患者の1/3は、西部医療圏へ受診しており、主に⑬がカバーしている。加えて、隣接する⑫及び⑭もフォローする体制が整備されている。

利根医療圏に住むがん患者は、県央医療圏、さいたま医療圏、又は東部医療圏へ受診するため、主に⑩、⑨、⑤及び⑥でカバーしている。加えて、⑧、⑦及び⑪もフォローする体制が整備されている。



- ①川口市立医療センター(現況)
- ②済生会川口総合病院(現況)
- ③戸田中央総合病院(現況)
- ④国立病院機構埼玉病院(現況)
- ⑤春日部市立医療センター(現況)
- ⑥獨協医科大学埼玉医療センター(現況)
- ⑦さいたま市立病院(現況)
- ⑧さいたま赤十字病院(現況)
- ⑨自治医科大学附属さいたま医療センター(現況)
- ⑩埼玉県立がんセンター★(現況)
- ⑪上尾中央総合病院(現況)
- ⑫埼玉医科大学総合医療センター◇(現況)
- ⑬埼玉医科大学国際医療センター◇(現況)
- ⑭深谷赤十字病院(現況)

縦に長い医療圏であり、利根医療圏の患者も受け入れていることから、圏域北部及び南部を担う2病院の指定が必要である。

人口増加傾向にある南部、東部、南西部の患者に対応していることから、複数指定が必要である。

様々な基礎疾患のあるがん患者を受け入れている地域拠点と都道府県拠点との間で連携を推進している。

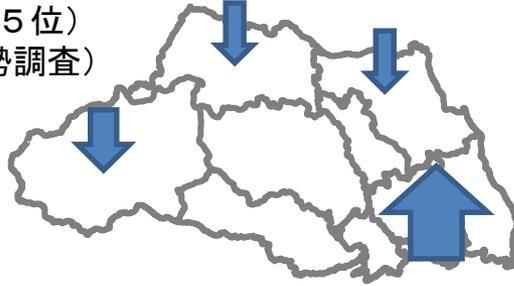
圏域に非常に多くの人口を抱えていることから、複数指定が必要である。

今回の指定推薦等に係る埼玉県の考え方

資料5

1 埼玉県の地域特性と現状

- 人口は約734万人。(全国第5位)
- 人口増減率(令和2年度国勢調査)は+1.08%(全国第4位)
- 県内でも北部・利根・秩父地域は人口が減少。県南東部は人口が増加し、患者が集中。
- 人口100万人を超える医療圏は2箇所。(さいたま、東部)
- 今後、高齢化が急速に進むことが予想される。
- 人口10万人当たりの医師数は169.8人。(全国最下位)
- 県内の拠点病院数は14箇所。
- 10医療圏うち8医療圏で拠点病院を指定。(利根・秩父が空白)



2 がん診療連携体制の整備方針

- (1) 都道府県拠点病院は、引き続き埼玉県立がんセンターとし、連携体制を維持。
- (2) 地域拠点病院は、①～④のとおり体制をつくる。
 - ①各医療圏1箇所に拠点病院を整備することを原則とし、地域ごとに異なる条件や実情を踏まえ、限られた医療資源を効率的に活用できるよう整備を進める。
 - ②複数の拠点病院が必要な医療圏は引き続き、特性や役割を活かし、質の高いがん医療の提供を維持。
 - ③空白医療圏(利根・秩父)は、隣接医療圏の拠点病院や、県が拠点病院に準じて医療を提供できるとして指定した「埼玉県がん診療指定病院」で補填。
 - ④地域拠点病院のうち、特に診療機能等が高い病院には、高度型として県内のがん医療を牽引する役割を担っていただく。

3 同一医療圏に複数配置する拠点病院の役割分担

〈さいたま〉

さいたま市立病院は、当該医療圏の患者を中心に地域医療に貢献。

さいたま赤十字病院は、幅広いがん種と合併症に対応可能であり、またロボット型放射線治療装置を導入するなど、高度な医療を提供。

自治医科大学さいたま医療センターは、空白医療圏である利根医療圏の患者も多く受け入れるとともに、希少がんや他の拠点病院で治療できないがんに対応。

〈南部〉

川口市立医療センターは、公立病院として地域医療を支えながら、乳がんや肺がんの手術を多く実施。済生会川口総合病院は、人材育成や、地域の医療機関との積極的な医療連携に貢献。

戸田中央総合病院は、医療圏内の拠点病院で唯一の緩和ケア病棟を有し多くの緩和ケア外来患者に対応。

〈東部〉

春日部市立医療センターは、初診から末期がん在宅医療まで切れ目のない医療を提供し、利根医療圏のがん医療も補填。

獨協医科大学埼玉医療センターは、人口が増加する圏域南部を支えるとともに、総合がん診療センターを立ち上げて積極的にがん診療を推進。

〈県央〉

埼玉県立がんセンターは、都道府県拠点病院として、全県を対象とした、高度で先進的ながん医療を提供。上尾中央総合病院は、総合的な診療機能を有し、感染症や基礎疾患を有する患者を受け入れている。

千葉県

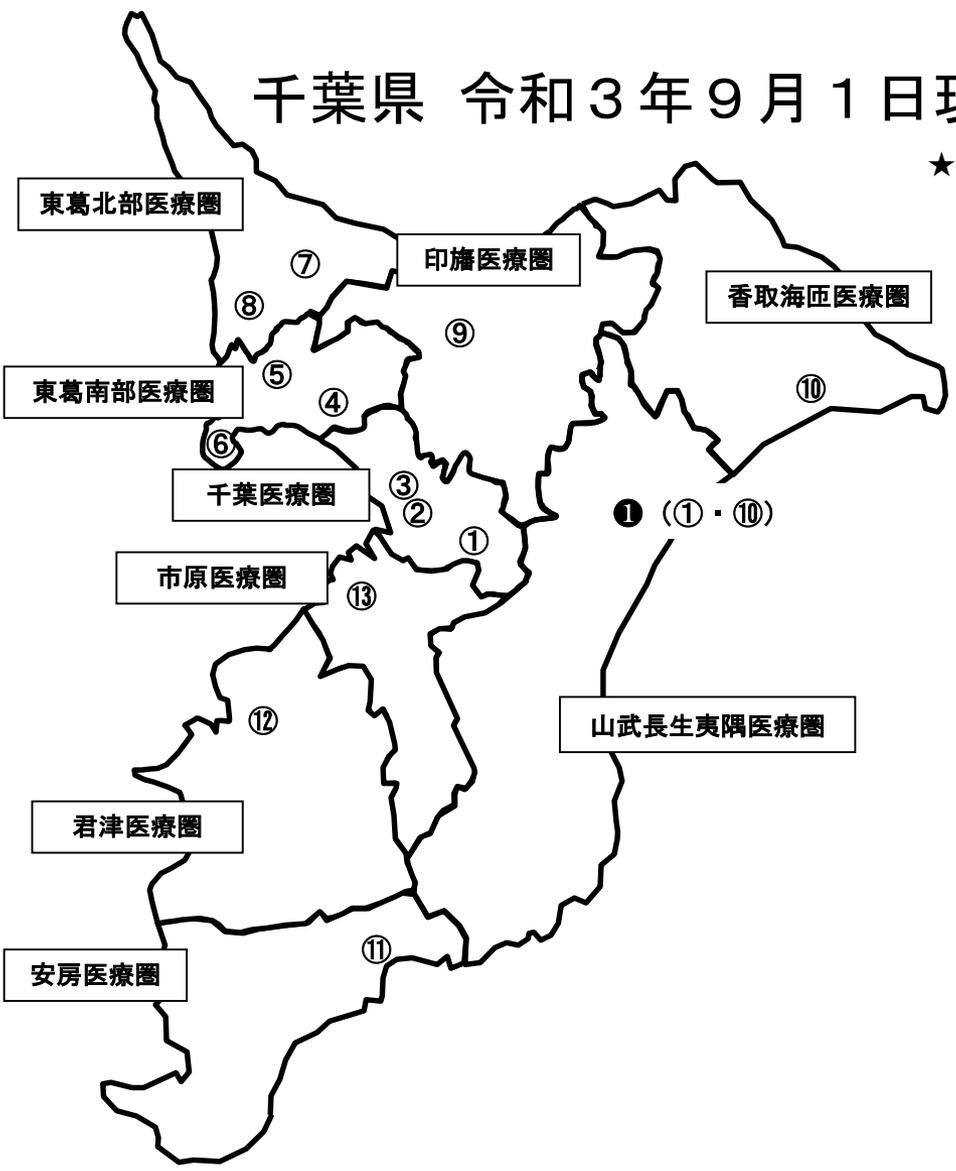
千葉県がんの医療圏の概要

令和3年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院			
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	
千葉	271.77	978,013	15.6%	3,598.7	47	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0
東葛南部	253.91	1,689,061	26.9%	6,652.2	61	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0
東葛北部	358.14	1,522,996	24.2%	4,252.5	59	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
印旛	691.66	716,426	11.4%	1,035.8	30	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
香取海匠	717.47	258,485	4.1%	360.3	21	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
山武長生夷隅	1,161.75	406,210	6.5%	349.7	23	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
安房	576.50	118,365	1.9%	205.3	16	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
君津	758.22	323,878	5.2%	427.2	19	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
市原	368.17	268,285	4.3%	728.7	13	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
計	5,157.59	6,281,719	100%	17,610.3	289	13	0	0	13	0	0	0	1	0	0	0

千葉県 令和3年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点



- ①千葉県がんセンター★ (平成31年4月1日)
- ②千葉大学医学部附属病院 (平成31年4月1日)
- ③国立病院機構 千葉医療センター (令和3年4月1日)
- ④船橋市立医療センター◇ (令和2年4月1日)
- ⑤東京歯科大学市川総合病院 (令和2年4月1日)
- ⑥順天堂大学医学部附属浦安病院 (令和2年4月1日)
- ⑦東京慈恵会医科大学附属柏病院 (平成31年4月1日)
- ⑧松戸市立総合医療センター (令和2年4月1日)
- ⑨日本医科大学 日本医科大学千葉北総病院 (平成31年4月1日)
- ⑩総合病院国保旭中央病院◇ (令和2年4月1日)
- ⑪亀田総合病院 (令和2年4月1日)
- ⑫国保直営総合病院 君津中央病院 (平成31年4月1日)
- ⑬労働者健康安全機構 千葉労災病院 (令和2年4月1日)
- さんむ医療センター (令和2年4月1日)

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

- ・()内太枠部分は令和2年11月提出の数値、それ以外は令和元年11月提出の数値、下段は令和3年11月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
- ・★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点
- ・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1 千葉	★	現況	千葉県がんセンター	(6,378) 6,847	(91.2) 92.3	(3,726) 3,018	(2,143) 2,212	(3,431) 3,598	(690) 757	(318) 414	(18) 19	(2,749) 3,707
2 千葉		現況	千葉大学病院	(5,968) 7,501	(29.9) 41.6	(3,934) 3,693	(2,229) 2,174	(4,391) 4,503	(799) 745	(265) 215	(21) 26	(9,814) 8,467
3 千葉		現況	千葉医療センター	(2,421) 2,317	(27.0) 28.9	(998) 871	(754) 612	(2,299) 1,941	(203) 222	(189) 164	(16) 13	(472) 219
4 東葛南部	◇	現況	船橋医療センター	(3,324) 2,885	(26.1) 25.5	(1,534) 1,505	(1,063) 1,029	(1,305) 1,374	(430) 422	(84) 330	(12) 11	(1,573) 1,752
5 東葛南部		現況	市川総合病院	(2,627) 2,781	(21.1) 24.5	(1,279) 1,237	(852) 934	(1,449) 1,114	(481) 366	(1,149) 177	(12) 9	(1,316) 1,125
6 東葛南部		現況	順天堂浦安病院	(3,999) 4,276	(19.4) 22.8	(1,822) 1,735	(1,147) 982	(1,428) 1,428	(484) 484	(1,144) 1,163	(11) 12	(673) 479
7 東葛北部		現況	慈恵大柏病院	(4,180) 2,487	(27.1) 17.1	(2,338) 1,683	(1,977) 1,194	(2,353) 2,824	(227) 417	(202) 207	(12) 12	(1,195) 1,189
8 東葛北部		現況	松戸総合医セ	(1,613) 1,822	(12.5) 15.4	(1,049) 969	(566) 466	(1,735) 1,971	(338) 352	(103) 90	(6) 4	(1,078) 1,238
9 印旛		現況	日医北総病院	(2,543) 2,937	(17.8) 22.7	(1,217) 1,241	(1,242) 1,277	(1,351) 1,424	(213) 218	(241) 224	(18) 19	(1,556) 1,703

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

- ・()内太枠部分は令和2年11月提出の数値、それ以外は令和元年11月提出の数値、下段は令和3年11月提出の数値
 - ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
 - ・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)
- ★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
10	香取海匝	◇	現況	旭中央病院	(4,498)	(22.6)	(2,597)	(1,583)	(2,093)	(646)	(75)	(52)	(3,910)
					4,275	22.3	2,397	1,508	2,666	617	71	47	4,383
11	安房		現況	亀田総合病院	(4,916)	(22.6)	(2,439)	(2,290)	(1,843)	(693)	(354)	(63)	(1,267)
					5,965	28.9	2,778	1,725	2,571	602	345	57	1,043
12	君津		現況	君津中央病院	(3,381)	(21.7)	(1,546)	(908)	(1,204)	(307)	(199)	(53)	(1,792)
					2,928	21.5	1,496	849	1,394	243	185	46	1,931
13	市原		現況	千葉労災病院	(2,765)	(25.1)	(1,482)	(1,472)	(4,987)	(320)	(91)	(44)	(2,272)
					2,998	28.7	1,534	784	1,499	238	111	27	2,129

地域がん診療病院の診療実績等

資料3-2

- ・（ ）内太枠部分は令和2年11月提出の数値、それ以外は令和元年11月提出の数値、下段は令和3年11月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療(実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間)	悪性腫瘍手術総数(年間)	のべ患者数(年間)	のべ患者数(年間)	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間)	相談件数(年間)
①	山武長生夷隅	現況	さんむ医療センター	(705) 509	(21) 15.5	(425) 182	(71) 80	(760) 550	実施なし	(203) 81	(419) 394

今回の指定推薦等に係る千葉県の考え方

1 千葉県のがんの状況

- 昭和57年以来がんは死亡順位の第1位
- 急速に進む人口の高齢化
 - ー平成22年から15年間で
 - 全国第3位のスピードで高齢化ー

今後さらになん患者が増加
がん対策への取組は重要課題



2 がん診療連携拠点病院等の整備

【基本方針】

県民の誰もが、自らが選択し、安心して
納得した質の高いがん医療を、身近な地域
で受けられるように整備を進める。

二次医療圏に1か所を基本に、
一定人口規模（概ね人口50万人
程度）単位に地域がん診療連携
拠点病院を整備し機能的役割分担

【現状】・県内9つの二次医療圏のうち、8医療圏に12の地域がん診療連携拠点病院が、
1医療圏に地域がん診療病院がある。

【今回】・今後の人口の高齢化予測を踏まえると、現状のがん診療連携拠点病院の確保
は必須

東京都

東京都がんの医療圏の概要

令和3年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
区中央部	63.64	949,485	6.8%	14,919.6	48	8	0	0	8	0	0	0	0	0	0
区南部	84.7	1,163,655	8.3%	13,738.5	44	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0
区西南部	87.83	1,473,738	10.5%	16,779.4	53	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0
区西部	67.87	1,281,122	9.1%	18,876.1	41	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0
区西北部	113.92	1,988,569	14.2%	17,455.8	92	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0
区東北部	98.21	1,363,453	9.7%	13,883.0	91	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
区東部	111.36	1,491,039	10.6%	13,389.4	52	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0
西多摩	572.7	377,027	2.7%	658.3	30	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
南多摩	324.46	1,444,329	10.3%	4,451.5	75	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0
北多摩西部	90.05	664,693	4.7%	7,381.4	26	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
北多摩南部	96.1	1,065,878	7.6%	11,091.3	45	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0
北多摩北部	76.51	750,707	5.3%	9,811.9	40	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
島しょ	406.7	24,117	0.2%	59.4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	2194.05	14,037,872	1	142,495.8	638	27	0	3	28	0	0	0	1	0	0

東京都 令和3年9月1日現在の指定状況と患者受療動向

北多摩南部

患者との連携に特色がある高度型の⑮、大学病院として人材育成の実績がある⑮、多摩地域唯一の都立総合病院である⑰が連携し、多摩地域のがん医療の充実を図る。

南多摩

圏域内人口（約144万人）を⑳と㉑で連携してカバーするとともに、拠点病院の少ない西多摩圏域もフォローする。

区西北部

圏域内人口（約199万人）、医療機関数（約1,770施設）ともに多く、緩和ケア推進に積極的な高度型の⑲と㉒が連携してカバーする。

区東北部

①と都道府県拠点病院①をグループ指定し、連携して体制を整備するとともに、患者の利便性を考慮して①と⑧が引き続きがん診療をフォローする。

区東部

圏域内の患者を多く受け入れている⑩と都道府県拠点病院の②とともに、隣接する⑨が引き続き診療をフォローする。

- ① 東京都立駒込病院★ (現況)
- ② 公益財団法人がん研究会有明病院★ (現況)
- ③ 東京慈恵会医科大学附属病院 (現況)
- ④ 虎の門病院 (現況)
- ⑤ 順天堂大学医学部附属順天堂医院 (現況)
- ⑥ 東京大学医学部附属病院 (現況)
- ⑦ 東京医科歯科大学医学部附属病院 (現況)
- ⑧ 日本医科大学付属病院 (現況)
- ⑨ 聖路加国際病院 (現況)
- ⑩ 東京都立墨東病院 (現況)
- ⑪ NTT東日本関東病院◇ (現況)
- ⑫ 昭和大学病院 (現況)
- ⑬ 東邦大学医療センター大森病院 (現況)
- ⑭ 国立病院機構東京医療センター◇ (現況)
- ⑮ 日本赤十字社医療センター (現況)
- ⑯ 慶應義塾大学病院◇ (現況)
- ⑰ 国立国際医療研究センター病院 (現況)
- ⑱ 東京医科大学病院 (現況)
- ⑲ 帝京大学医学部附属病院◇ (現況)
- ⑳ 日本大学医学部附属板橋病院 (現況)
- ㉑ 青梅市立総合病院 (現況)
- ㉒ 東京医科大学八王子医療センター (現況)
- ㉓ 東海大学医学部付属八王子病院 (新規)
- ㉔ 国立病院機構災害医療センター (現況)
- ㉕ 武蔵野赤十字病院◇ (現況)
- ㉖ 杏林大学医学部付属病院 (現況)
- ㉗ 東京都立多摩総合医療センター (現況)
- ㉘ 公立昭和病院 (現況)
- ① 東京女子医科大学東医療センター (現況)

西多摩

⑲

北多摩北部

⑳

北多摩西部

㉑

南多摩

㉒

北多摩南部

区西部

緩和ケア推進に積極的な高度型の⑯、感染症や合併症にも対応した特別な診療機能がある⑰、先進医療の積極的な取組がある⑱が連携し、緩和ケアの普及促進、がん医療の充実、高度ながん医療の提供を図る。

区西南部

放射線治療の実績が高い高度型の⑭と緩和医療の積極的な取組がある⑮が連携し、がん治療実績の向上、緩和ケアの普及促進を図る。

区南部

地域の医療連携の中核を担う高度型の⑪、特定機能病院として高度ながん診療機能・教育機能を備えた⑫、地域向け緩和ケア勉強会等に積極的な⑬が連携し、がん医療の充実、高度ながん医療の提供、緩和ケアの普及促進を図る。

区西北部

⑲

区西部

⑱

区西南部

⑭

区中央部

⑮

⑫

⑬

区東北部

①

区東部

⑩

島しょ(※) (空白の医療圏)

※医師・歯科医師・薬剤師調査に基づく2次医療圏の医師数(病院従事者)の過去3回の平均値がおおむね300人を下回る2次医療圏

区中央部

区中央部へは交通網の発達により都内外から多くのがん患者が流入している。それぞれ特段に高い実績・専門性を有する③、④、⑤、⑥、⑦の連携により、高度かつ専門ながん医療の提供、がん専門医の養成、相談支援の充実等、他県を含め広域ながん医療の向上を図る。

がん診療連携拠点病院の診療実績等について

資料3-1-①-1

・()内は令和元年10月提出の数値、下段は令和3年10月提出の数値

・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...とってください)

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				年間入院がん患者延べ数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数 (年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数 (年間) 1000人以上	のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数 (年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数 (年間)
1 区中央部	★	現況	都立駒込病院	9,398	63.9%	3717	(3023)	(5441)	(1730)	335	4	14,791
						3619	2719	5683	1621	371	4	7,626
2 区東部	★	現況	がん研有明病院	14,610	85.3%	8866	(6575)	(8138)	(1804)	1373	1	4,258
						6286	5776	7889	1550	949	1	4,433
3 区中央部		現況	慈恵医大病院	5,247	27.6%	2732	(1758)	(2232)	(1032)	502	4	1,102
						2719	1583	2342	989	169	4	1,339
4 区中央部		現況	虎の門病院	5,783	33.1%	2982	(4046)	(3006)	(590)	198	3	4,134
						2557	4076	8424	680	208	3	4,567
5 区中央部		現況	順天堂医院	7,632	28.0%	3676	(3191)	(5045)	(885)	512	3	1,718
						3409	2887	4782	1020	462	33	2,383
6 区中央部		現況	東大病院	10,930	41.5%	3091	(2498)	(11798)	(1045)	960	7	1,307
						2678	2437	13877	1056	955	7	946
7 区中央部		現況	東京医科歯科大学病院	4,178	28.0%	2503	(2453)	(8629)	(801)	342	2	2,478
						1952	1957	2324	651	423	2	2,666
8 区中央部(区東北部)		現況	日本医科大学病院	7,279	35.5%	2832	(1970)	(2822)	(662)	244	6	9,754
						2707	2018	3761	538	189	28	8,833
9 区中央部(区東部)		現況	聖路加国際病院	3,073	22.9%	2630	(1700)	(2374)	(742)	193	3	7,480
						1779	1537	2370	615	225	3	2,023
10 区東部		現況	都立墨東病院	2,998	20.4%	1429	(971)	(1176)	(254)	88	11	757
						1356	993	1756	339	91	11	3,098

8 日本医科大学病院は、区中央部に所在するが、区東北部を担当する。

9 聖路加国際病院は、区中央部に所在するが、区東部を担当する。

がん診療連携拠点病院の診療実績等について

資料3-1-①-2

・()内は令和元年10月提出の数値、下段は令和3年10月提出の数値

・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...とってください)

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録 (年間)	手術件数 悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	がんに係る薬物療法 のべ患者数 (年間)	放射線治療 のべ患者数 (年間)	緩和ケア 緩和ケアチームに対する新規診療依頼数 (年間)	診療の割合 当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談支援センター 相談件数 (年間)
					年間入院がん患者延べ数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)							
11	区南部	◇	現況	NTT関東病院	4,870	35.2%	3348	(1541)	(3814)	(515)	340	11	3,973
							2119	1467	3938	436	219	11	2,872
12	区南部		現況	昭和大学病院	4,864	24.2%	2606	(1654)	(2215)	(693)	624	24	11,346
							2508	5717	2387	693	586	13	8,484
13	区南部		現況	東邦大森病院	4,470	22.7%	1893	(1159)	(8700)	(464)	316	22	301
							1836	1142	2713	573	408	21	309
14	区西南部	◇	現況	東京医療センター	3,691	24.7%	1890	(979)	(2057)	(969)	237	14	2,499
							1783	1128	1967	906	251	11	2,549
15	区西南部		現況	日赤医療センター	3,148	20.9%	1245	(1284)	(2735)	(771)	244	5	2,111
							1003	939	2442	528	181	4	2,808
16	区西部	◇	現況	慶応義塾大学病院	5,042	25.0%	2967	(2440)	(3146)	(887)	466	5	6,016
							2757	2543	3464	823	435	4	6,213
17	区西部		現況	国立国際医療研究センター病院	3,692	23.3%	1266	(714)	(2117)	(440)	312	10	1,818
							1236	1092	2326	274	309	10	2,456
18	区西部		現況	東京医科大学病院	7,285	31.2%	3340	(1685)	(6062)	(1160)	369	18	3,164
							3235	2280	8313	1167	352	16	3,468
19	区西北部	◇	現況	帝京大学病院	4,280	22.5%	1766	(1353)	(2656)	(539)	376	11	2,932
							1735	1605	3309	589	350	10	4,521
20	区西北部		現況	日大板橋病院	4,896	24.1%	2245	(1839)	(3601)	(580)	183	10	1,272
							1970	1648	2909	520	210	9	937

がん診療連携拠点病院の診療実績等について

資料3-1-①-2

・()内は令和元年10月提出の数値、下段は令和3年10月提出の数値

・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...とってください)

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録数 (年間)	手術件数 悪性腫瘍の手術件数(年間)	がんに係る薬物療法 のべ患者数 (年間)	放射線治療 のべ患者数 (年間)	緩和ケア チームに対する新規診療依頼数 (年間)	診療の割合 当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談支援センター 相談件数 (年間)
					年間入院がん患者延べ数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)							
21	西多摩		更新	青梅市立総合病院	1,812	21.3%	909	(563)	(1079)	(181)	173	43	1,042
							822	498	1162	171	190	23	1,066
22	南多摩		現況	東医大八王子医療センター	3,912	2.6%	1412	(1164)	(1624)	(359)	235	14	3,759
							1479	834	2143	353	207	15	2,914
23	南多摩		新規	東海大八王子病院	3,810	28.9%	1384	1102	1842	379	116	15	1,397
							1501	1436	2208	418	68	12	2,494
24	北多摩西部		現況	災害医療センター	2,370	21.8%	963	(676)	(1200)	(246)	113	15	3,083
							1050	517	1554	306	81	18	2,576
25	北多摩南部	◇	現況	武蔵野赤十字病院	4,278	22.4%	2677	(1380)	(3377)	(577)	463	14	1,697
							2044	1220	3361	520	456	14	2,160
26	北多摩南部		現況	杏林大学病院	2,989	13.3%	2532	(1978)	(3055)	(1738)	193	12	765
							2520	2091	3300	589	195	10	708
27	北多摩南部		現況	都立多摩総合医療センター	5,120	23.9%	2539	(1184)	(3038)	(781)	441	10	1,155
							2693	1005	2906	687	347	12	863
28	北多摩北部		現況	公立昭和病院	2,335	20.5%	1372	(962)	(1205)	(352)	113	19	2,544
							1133	924	1209	288	170	15	2,162

地域がん診療病院の診療実績について

- ・上段は令和元年10月提出の数値、下段は令和3年10月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				年間入院がん患者延べ数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合 (%)						
①	区東北部	現況	東京女子医科大学東医療センター	(12818)	(17.6%)	1239	(925)	(920)	0	39	2147
				11273	9.3%	1084	939	958	0	67	1549

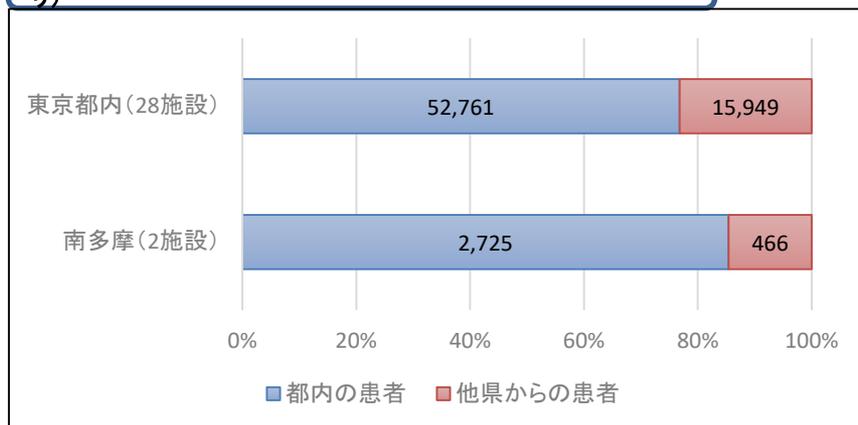
東京都の地域特性

① がん患者が全国の10分の1、一方、
拠点病院数が全国の14分の1
～拠点病院が足りない～

- ◆ 都の人口 約1,404万人⇒ 全国の1/9
- ◆ 都民の総がん患者数(推計) 約29万人⇒ 全国の1/10
- ◆ がんの医療圏の平均人口 約108万人⇒ 全国平均の約2.9倍
- ◆ 都内の拠点病院数 28か所⇒ 全国の1/14
- ◆ 高齢者数(65歳以上) 2015年:307万人 ⇒ 2040年:375万人

② 大学病院が多数あり、交通網や道路網が高度に発達し、昼間人口も多いため、他道府県からの流入患者**25%弱程度**も含め、がんの医療圏を越えて患者が受診

【参考】他県からの患者流入割合(2019年院内がん登録より)



東京都における拠点病院の必要数及び整備方針

◆ 都の人口や患者数、他都道府県からの流入状況を見ても、**都内の拠点病院数は不足**

◆ がんの医療圏を超えて患者が受診

さらに、

◆ 地域連携の推進に当たり、東京都は診療所の数が多く、1施設当たりが連携する診療所数が全国平均と比較し約1.9倍程度

◆ 都平均 13,707か所/28病院≒490か所

◆ 全国平均 102,616か所/403病院≒255か所
※地域がん診療病院を含む。

現状の拠点病院数では不足しており、さらなる整備が必要

(※都が独自に東京都がん診療連携拠点病院を整備し、拠点病院数の不足を補っている。)

がんの医療圏数を超えて拠点病院を整備することによる効果

資料 4 - 2

《効果1》 がん患者の通院圏域に応じたがん医療の提供

◆交通網の発達による多様な受療行動

がんの医療圏数を超えて拠点病院を整備

◇患者・家族のニーズに合った医療提供の推進

◆治療と就労の継続

がんの医療圏数を超えて拠点病院を整備

◇職場の近くで治療可能な体制確保

《効果2》 専門的ながん医療提供体制の充実

◆全国トップクラスの医療機関が集結

がんの医療圏数を超えて拠点病院を整備

◇高度かつ専門的ながん医療提供の推進

《医師緩和ケア研修》

◆1か所の拠点病院で研修を受けられる医師数には限りがある

◆既に複数回開催している拠点病院が多数あり

がんの医療圏数を超えて拠点病院を整備

◇医師緩和ケア研修修了者数の拡大

《効果3》 相談支援体制の充実

◆高齢化の進展により多くの医療提供・相談支援ニーズの増加・複雑化

がんの医療圏数を超えて拠点病院を整備

◇身近な地域での医療提供体制の充実

◇きめ細かい相談支援の推進

《効果4》 地域の診療所・中小病院との連携促進

《拠点病院1か所あたりの診療所数》

◆ 都平均 490か所

◆ 全国平均 255か所

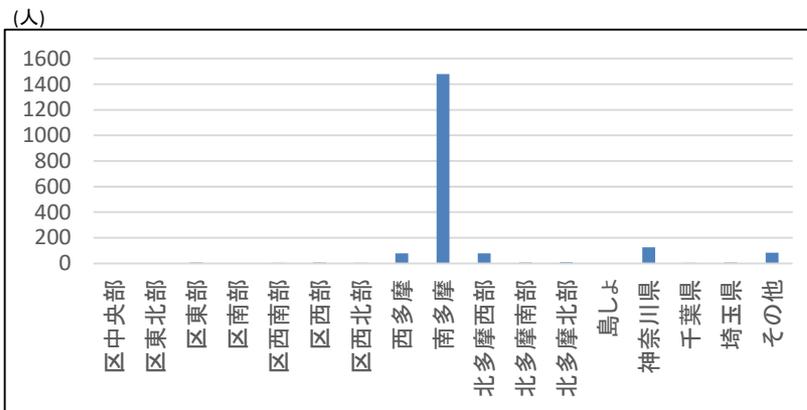
がんの医療圏数を超えて拠点病院を整備

◇切れ目ないがん医療提供の推進

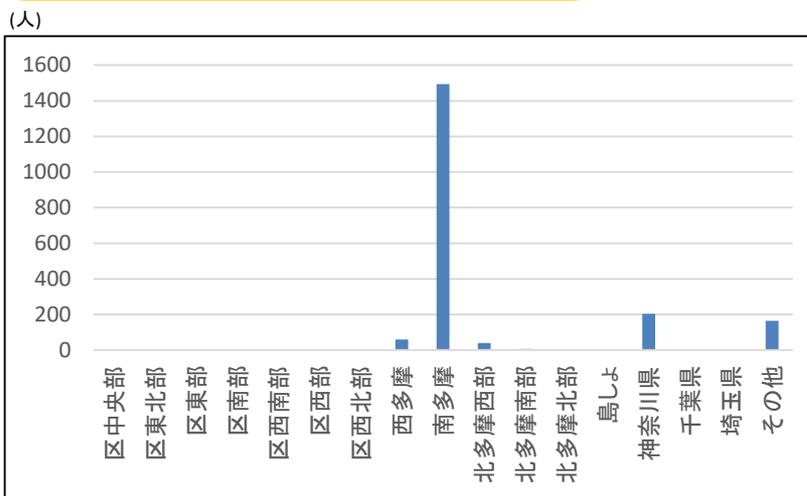
推薦する病院の状況

「令和元年院内がん登録患者住所地別流入割合」調査

東海大学医学部附属八王子病院



【参考】 東京医科大学八王子医療センター



病院の特徴

<医療提供体制>

- ◆圏域内で唯一の強度変調放射線治療実施施設として、多摩地区のみならず広域にわたり実績を重ねている
- ◆造血管腫瘍の専門医が不足する中、3人の専門医により地域診療をカバー
- ◆化学療法部門においては8割を外来化学療法で行っており、患者のQOLの維持・向上および就労支援に貢献している。

<緩和ケア>

- ◆医師、看護師、薬剤師、理学・作業療法士、歯科衛生士、臨床心理士、管理栄養士、社会福祉士など多職種連携による緩和ケアチームを編成し、精神・心理面、リハビリテーション、栄養面、口腔内ケアなどの多面的なサポートが受けやすい体制を整備
- ◆院内外の緩和ケアの質の向上のため、緩和ケア研修会並びに地域医療従事者向け講習会、市民向け講演会等を定期的実施

<相談支援>

- ◆専門の相談員(社会福祉士)が、相談内容に応じて、医師、看護師、管理栄養士、心理士、薬剤師等多職種と連携して相談対応しており、また定期的のがんサロンを開催し、患者や家族の悩みや体験を語り合うような場を提供している。また、就労支援の取組として、「がん患者就労支援フロー」を作成し、就労関係施設等と連携体制を構築している。

<地域連携>

- ◆血液腫瘍につき、化学療法を実施できる医療機関に対し、医師の派遣や施設内での教育活動を通じ、地域での治療の分散化及び治療水準の平均化に努めている
- ◆地域の多職種の医療従事者を対象とした研修会を実地やWebで開催し、がん治療についての情報提供を行うほか、小中学校へ医師を講師派遣しがん教育の推進に努めるなどなど、積極的に地域連携の取組を行っている。

東海大学医学部付属八王子病院を指定する必要性

- ◆南多摩圏域は、人口約144万人(島しょを除く都内医療圏で4番目)、面積約324キロ平米(島しょを除く都内医療圏で2番目)の大都市医療圏である。
- ◆現在、東海大学医学部付属八王子病院と東京医科大学八王子医療センターの2拠点病院で、当該圏域をカバーするほか、西多摩医療圏や隣県からのがん患者のフォローも行っている。1拠点病院当たりがカバーする人口が非常に大きく、更に高齢化に伴いがん患者数も年々増加傾向にあることから、圏域内での医療連携による充実したがん診療連携体制の構築が必須である。
- ◆東海大学医学部付属八王子病院は、充実した医療提供体制の下、当該圏域有数の診療実績を有しており、拠点指定に伴いその実績も年々増加傾向にある。そのため、今後も引き続き、当該圏域のがん診療の中心的な役割を担っていくことが期待出来る。

神奈川県

神奈川県がんの医療圏の概要

令和 3 年 9 月 1 日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
横浜	437.55	3,778,263	40.9%	8635.04	134	9			9						
川崎北部	64.28	874,054	9.5%	13597.6	20	1		1	2						
川崎南部	78.72	667,634	7.2%	8481.12	19	2		1	3						
相模原	328.91	725,708	7.9%	2206.4	36	1	1		2						
横須賀・三浦	206.86	688,420	7.4%	3327.95	29	2			2						
湘南東部	118.6	732,665	7.9%	6177.61	25	1			1						
湘南西部	253.4	580,466	6.3%	2290.71	22	1			1						
県 央	292.75	860,632	9.3%	2939.82	32	1			1						
県 西	635.09	334,882	3.6%	527.298	23	1			1						
計	2416.16	9,242,724	100%	48183.6	340	19	1	2	22	0	0	0	0	0	0

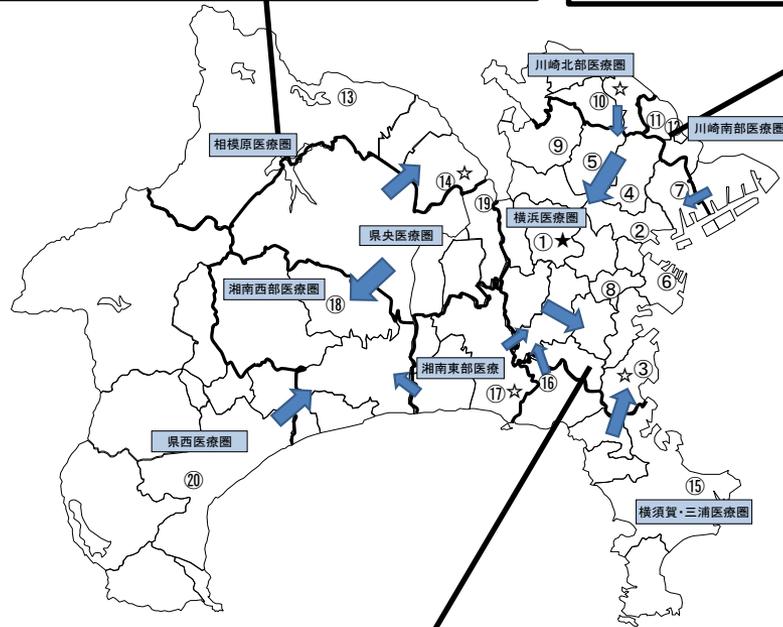
神奈川県 令和3年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★:都道府県拠点 ☆:特定機能病院
◇:地域拠点(高度型)

- ①★神奈川県立がんセンター
(平成31年4月1日)
- ②横浜市立市民病院 (令和2年4月1日)
- ③☆◇横浜市立大学附属病院
(令和2年4月1日)
- ④横浜労災病院 (令和2年4月1日)
- ⑤昭和大学横浜市北部病院
(令和2年4月1日)
- ⑥横浜市立みなと赤十字病院
(令和2年4月1日)
- ⑦済生会横浜市東部病院
(令和2年4月1日)
- ⑧横浜市立大学附属市民総合医療センター
(令和2年4月1日)
- ⑨昭和大学藤が丘病院
(令和3年4月1日)
- ⑩☆◇聖マリアンナ医科大学病院
(令和2年4月1日)
- ⑪川崎市立井田病院 (令和2年4月1日)
- ⑫関東労災病院 (平成31年4月1日)
- ⑬相模原協同病院 (令和2年4月1日)
- ⑭☆◇北里大学病院 (令和2年4月1日)
- ⑮横須賀共済病院 (令和2年4月1日)
- ⑯湘南鎌倉総合病院 (令和2年4月1日)
- ⑰◇藤沢市民病院 (令和3年4月1日)
- ⑱☆◇東海大学医学部付属病院
(令和2年4月1日)
- ⑲大和市立病院 (令和2年4月1日)
- ⑳小田原市立病院 (令和2年4月1日)

相模原医療圏は、特定機能病院である⑭が、圏域を越えた患者を対象とした高度ながん医療の提供や診療支援、研修会等を実施し、⑬が、地域の患者へのがん医療の提供や地域の医療従事者への研修会等を実施する。

川崎南部医療圏は、⑪が「緩和ケア」を軸とした「在宅ケア」「地域連携」に力を注ぎ、⑫が多くの入院患者の受入れ、地域のニーズに合わせた幅広い取り組みを行うことで、圏域内のがん診療が質・量ともに向上する。



横浜医療圏は、平成30年4月から北部(②④⑤⑦⑨の5病院)・西部(①)・南部(③⑥⑧の3病院)の3つの二次医療圏が1つに統合された。

申請当時、北部及び南部に複数の病院が必要であったとした理由は次のとおりである。

北部二次医療圏は 労災病院である④、大学の附属病院である⑤、総合病院で高度ながん医療に力を注いでいる⑦が機能的に役割分担をすることで、圏域内のがん診療が、量・質ともに向上するため。

南部二次医療圏は、特定機能病院である③が、圏域を越えた高度ながん医療を提供し、圏域唯一の緩和ケア病棟を有する⑥と当該医療圏の診療実績が最も多い⑧が連携することで、圏域内の患者が身近な地域でがん診療を受けられるため。

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①-1

・()内は令和2年10月提出の数値、下段は令和3年10月提出の数値

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型)

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録数 (年間) 500件以上	手術件数 悪性腫瘍の手術 件数(年間) 400件以上	がんに係る薬物療法 のべ患者数 (年間) 1000人以上	放射線治療 のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケア 緩和ケアチーム に対する新規診 療依頼数 (年間) 50件以上	診療の割合 当該2次医療圏 に居住する がん患者の診療 の割合(%) 2割程度	相談支援セン ター 相談件数 (年間)
				年間新入 院がん患 者数	年間新入 院患者数 に占める がん患者 の割合 (%)							
1 横浜	★	現況	県立がんセンター	(11,891) 10,762	(93.7) 92.4	(3,775) 3,811	(3,432) 3,487	(6,041) 4,191	(2,018) 2,004	(54) 39	(10) 9	(7,938) 6,798
2		現況	横浜市立市民病院	(7,230) 6,269	(39.2) 38.8	(1,665) 1,473	(1,074) 1,034	(2,645) 1,095	(425) 498	(267) 207	(5) 10	(1,163) 1,337
3	◇	現況	横浜市大附属病院	(5,313) 5,690	(32.2) 35.8	(2,341) 2,151	(1,901) 2,132	(3,553) 3,884	(514) 715	(283) 227	(8) 3	(5,864) 4,924
4		現況	横浜労災病院	(3,640) 3,270	(19.0) 20.3	(2,568) 1,665	(1,440) 1,318	(1,886) 1,791	(987) 925	(159) 138	(4) 4	(423) 849
5		現況	横浜市北部病院	(4,732) 4,196	(17.4) 24.4	(1,701) 2,113	(1,163) 1,055	(1,435) 1,569	(271) 311	(110) 155	(6) 5	(439) 371
6		現況	みなと赤十字病院	(1,483) 2,236	(8.9) 15.2	(1,313) 1,160	(764) 724	(1,336) 1,477	(309) 240	(140) 132	(3) 4	(10,360) 7,576
7		現況	横浜市東部病院	(3,104) 2,566	(19.0) 15.0	(1,748) 1,673	(1,148) 1,306	(1,277) 1,118	(686) 668	(88) 77	(5) 3	(1,765) 1,743
8		現況	市大附属市民総合医療センター	(5,412) 4,911	(26.8) 29.3	(2,977) 3,075	(2,505) 2,172	(3,751) 3,070	(563) 554	(238) 221	(8) 7	(585) 1,183
9		現況	昭和大学藤が丘病院	(3,797) 2,876	(24.2) 21.8	(2,275) 1,900	(1,043) 933	(1,819) 1,988	(346) 393	(77) 88	(4) 3	(1,082) 1,396
10 川崎北部	◇	現況	聖マリアンナ病院	(4,677) 4,658	(19.1) 21.3	(2,536) 2,338	(2,327) 1,563	(3,574) 3,775	(650) 702	(299) 344	(24) 23	(1,192) 1,138

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料 3-1-①-2

・()内は令和2年10月提出の数値、下段は令和3年10月提出の数値

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型)

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録		手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)	
11	川崎北部		新規	新百合ヶ丘総合病院	1,677	12.8	978	879	2,539	665	110	13	2,061	
12	川崎南部		現況	川崎市立井田病院	(1,766) 1,570	(27.5) 27.2	(894) 724	(573) 469	(2,264) 2,375	(287) 329	(352) 321	(5) 3	(3,117) 3,159	
13			現況	関東労災病院	(2,446) 2,250	(15.7) 16.9	(1,331) 1,265	(569) 518	(1,601) 1,873	(240) 261	(59) 130	(11) 11	(759) 645	
14			新規	川崎市立川崎病院	2,472	20.6	1,578	643	1,392	336	118	23	364	
15	相模原		更新	相模原協同病院	(1,454) 2,091	(13.0) 22.0	(1,246) 832	(608) 554	(1,744) 1,317	(531) 268	(211) 144	(19) 21	(1,122) 978	
16		◇	現況	北里大学病院	(7,434) 7,483	(28.0) 29.9	(3,185) 3,031	(2,792) 2,722	(4,234) 4,733	(1,374) 1,487	(248) 294	(29) 30	(3,188) 3,397	
17	横須賀・三浦		現況	横須賀共済病院	(4,401) 4,287	(20.9) 21.8	(2,077) 1,954	(1,795) 1,626	(3,397) 3,328	(230) 257	(199) 422	(33) 32	(401) 435	
18			現況	湘南鎌倉総合病院	(3,160) 2,761	(14.2) 13.6	(1,751) 1,633	(991) 1,056	(1,760) 1,793	(390) 408	(155) 171	(10) 9	(40) 252	
19	湘南東部	◇	現況	藤沢市民病院	(2,344) 2,609	(14.1) 17.6	(1,251) 1,128	(889) 1,067	(1,407) 1,183	(341) 257	(85) 249	(24) 28	(817) 771	
20	湘南西部	◇	現況	東海大学医学部付属病院	(7,151) 7,425	(30.7) 34.3	(3,139) 3,164	(1,946) 1,925	(5,114) 6,259	(1,127) 1,131	(209) 248	(23) 25	(3,073) 2,720	

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料 3-1-①-3

・()内は令和2年10月提出の数値、下段は令和3年10月提出の数値

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型)

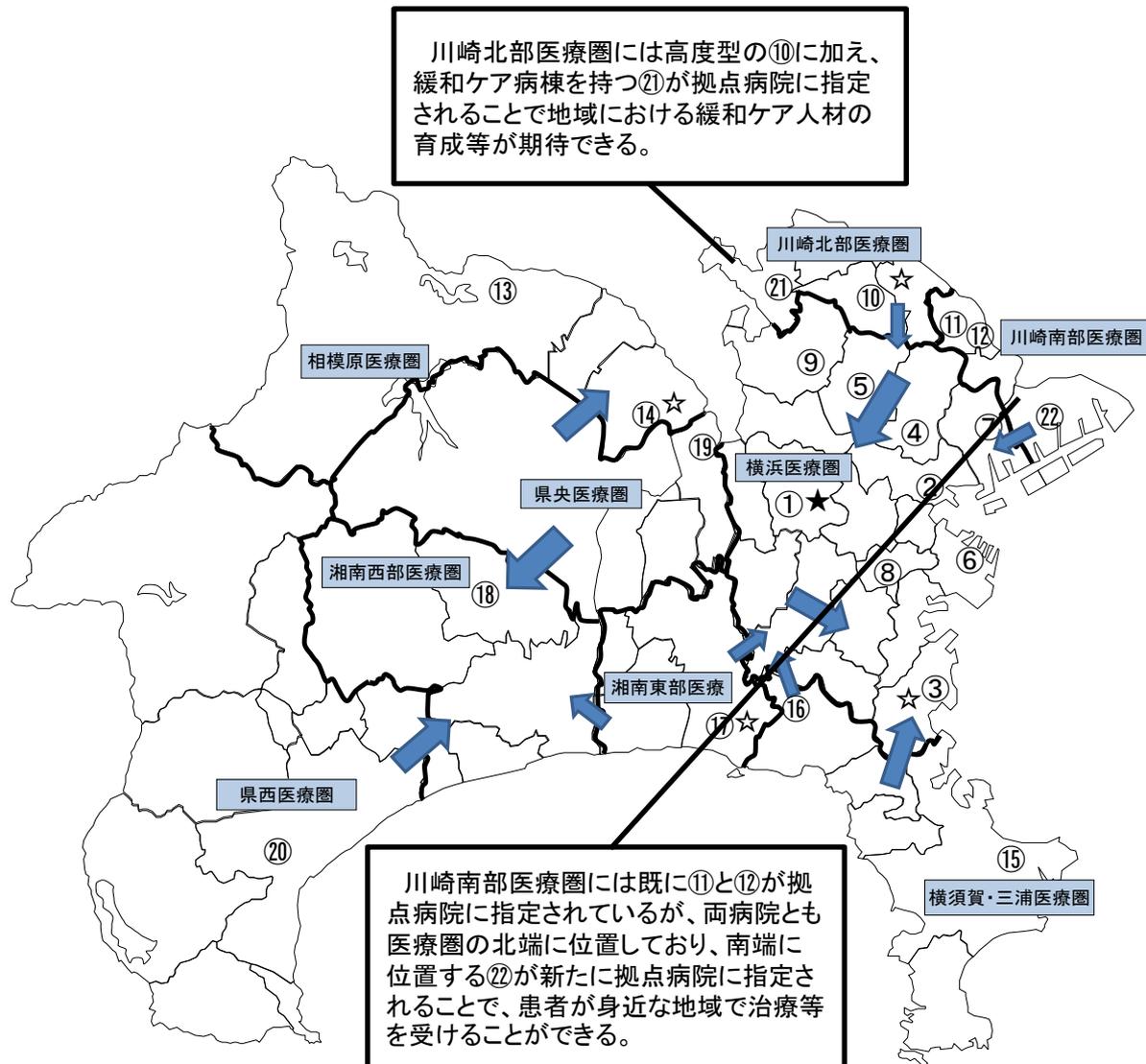
医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
21	県央	現況	大和市立病院	(2,015) 1,926	(19.0) 21.5	(987) 935	(592) 547	(1,108) 1,239	(180) 259	(55) 76	(18) 18	(3,064) 802
22	県西	現況	小田原市立病院	(1,518) 1,342	(12.7) 13.6	(1,216) 1,171	(688) 579	(1,036) 1,226	(235) 149	(84) 135	(32) 27	(223) 162

神奈川県 令和4年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

資料 4

★:都道府県拠点 ☆:特定機能病院 ◇:地域拠点(高度型)

- ①★神奈川県立がんセンター (現況)
- ②横浜市立市民病院 (現況)
- ③☆◇横浜市立大学附属病院 (現況)
- ④横浜労災病院 (現況)
- ⑤昭和大学横浜市北部病院 (現況)
- ⑥横浜市立みなと赤十字病院 (現況)
- ⑦済生会横浜市東部病院 (現況)
- ⑧横浜市立大学附属市民総合医療センター (現況)
- ⑨昭和大学藤が丘病院 (現況)
- ⑩☆◇聖マリアンナ医科大学病院 (現況)
- ⑪川崎市立井田病院 (現況)
- ⑫関東労災病院 (現況)
- ⑬相模原協同病院 (更新)
- ⑭☆◇北里大学病院 (現況)
- ⑮横須賀共済病院 (現況)
- ⑯湘南鎌倉総合病院 (現況)
- ⑰◇藤沢市民病院 (現況)
- ⑱☆◇東海大学医学部附属病院 (現況)
- ⑲大和市立病院 (現況)
- ⑳小田原市立病院 (現況)
- ㉑新百合ヶ丘総合病院 (新規)
- ㉒川崎市立川崎病院 (新規)



神奈川県のがん診療連携拠点病院整備の考え方

1 現在のがん診療連携拠点病院の整備状況

【都道府県がん診療連携拠点病院】 県立がんセンター

【地域がん診療連携拠点病院】 県内9の二次医療圏に19病院整備(空白医療圏なし)

2 神奈川県状況を踏まえた整備方針

- 県立がんセンターを中心に、拠点病院が連携・協力し、本県のがん医療の充実を推進する。
- 特定機能病院である地域がん診療連携拠点病院4カ所を分散配置し、がん診療に携わる人材の育成や先端的治療を推進する。
- 本県の中でも人口が集中する大都市部では、二次医療圏の人口が多いことから、がん患者が身近な地域で高度ながん医療を受けられるよう、複数の拠点病院を整備する必要がある。

3 新規推薦についての考え方

(1) 地域がん診療連携拠点病院

① 新百合ヶ丘総合病院

- 新百合ヶ丘総合病院は平成24年8月に開院後、平成28年3月24日に神奈川県がん診療連携指定病院(拠点病院に準じる病院。以下、「県指定病院」という)として県の指定を受け、その後も令和2年に186床増床し川崎北部医療圏で初の緩和ケア病棟(21床)を立ち上げる等、機能強化を図っている。

神奈川県のがん診療連携拠点病院整備の考え方

- 緩和ケア診療の充実も図っており、薬物による疼痛コントロールや緩和ケア病棟を利用した終末期ケアだけではなく、サイバーナイフを用いた転移・再発に対する緩和的放射線治療も多く実施している。
- 今後は緩和ケア診療の充実を図るだけではなく、地域における緩和ケアに関わる人材育成にも力を入れてれていくことが期待できるため、新百合ヶ丘総合病院を地域がん診療連携拠点病院に新規指定推薦することとした。

② 川崎市立川崎病院

- 川崎市立川崎病院は交通利便性の高い位置にあり、川崎南部医療圏だけでなく、隣接する横浜市鶴見区や東京都大田区からの患者も多い。
- 平成29年3月23日に県指定病院として県の指定を受けており、病床数は川崎南部医療圏最大で、当該医療圏に居住するがん患者の診療割合は23%を占めている。
- 医療機関からの要請に応じて24時間365日「断らない」ことをモットーに大腸がん閉塞や大腸がん穿孔などの急性腹症の緊急対応を行う「腹急ホットライン」を令和2年7月から運用しており、今後もさらに地域の診療所・病院との連携に力を入れることで地域のがん診療の質が向上することが期待されるため、川崎市立川崎病院を地域がん診療連携拠点病院に新規指定推薦することとした。

新潟県

新潟県 がんの医療圏※1 の概要

(令和3年9月1日現在)

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
下越(※)	2319.14	198,177	9.0459026	85.5	19	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
新潟	2223.81	888,070	40.536463	399.3	47	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0
県央(※)	733.51	214,202	9.7773729	292.0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中越	1636.85	426,009	19.445425	260.3	14	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0
魚沼(※)	2649.2	155,230	7.0855622	58.6	11	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
上越(※)	2165.76	257,791	11.767018	119.0	19	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
佐渡(※)	855.68	51,314	2.3422569	60.0	5	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
計	12583.95	2190793	100	174.1	125	7	1	0	8	0	0	0	1	0	0

※1 新潟県のがんの医療圏は2次医療圏と一致している。

※2 「医師・歯科医師・薬剤師調査」に基づく当該2次医療圏の医師数(病院の従事者)の過去3回の平均値が概ね300人を下回る2次医療圏。

新潟県 令和3年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

佐渡医療圏に住むがん患者を新潟医療圏の2病院（①★、③）と連携して対応している。

佐渡医療圏

①(①★③)

下越医療圏

②

①★ ③

④

①★の病院は、5大がん以外のがんについて、③の病院は、希少がん等高度専門的医療について全県的に対応しており、また、新潟医療圏は人口が集中し、空白の県央医療圏からも患者が流入しているため、④の病院を含む3病院で対応している。

新潟医療圏

空白の県央医療圏に住むがん患者にも対応するため、中越医療圏の2病院で対応している。

中越医療圏

⑤

⑥

県央医療圏
(空白の医療圏)

★：都道府県拠点

上越医療圏

⑦

魚沼医療圏

⑧

- ① 県立がんセンター新潟病院★（平成27年4月1日）
- ② 県立新発田病院（平成28年4月1日）
- ③ 新潟大学医歯学総合病院（平成27年4月1日）
- ④ 新潟市民病院（平成28年4月1日）
- ⑤ 長岡赤十字病院（平成27年4月1日）
- ⑥ 長岡中央総合病院（平成27年4月1日）
- ⑦ 県立中央病院（平成27年4月1日）
- ⑧ 魚沼基幹病院（令和3年4月1日）
- ① 佐渡総合病院（平成29年4月1日）

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

- ・()内は令和2年10月提出の数値、下段は令和3年10月提出の数値
 - ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
 - ・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...とってください)
- ★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1	新潟	★	現況	県立がんセンター新潟病院	(3,000) 3,006	(3,283) 3,315	(1,352) 1,390	(1,005) 985	(254) 380	(33%) 24%	(14,664) 15,614
2	下越		現況	県立新発田病院	(1,138) 1,220	(681) 1,220	(6,363) 6,196	(288) 248	(8) 10	(36%) 37%	(571) 1,640
3	新潟		現況	新潟市民病院	(1,748) 1,553	(1,412) 1,501	(1,495) 1,542	(235) 227	(196) 223	(20%) 18%	(651) 569
4	新潟		現況	新潟大学医学歯学総合病院	(2,108) 2,124	(1,755) 1,469	(2,112) 2,013	(721) 756	(138) 246	(12%) 13%	(2,698) 2,755
5	中越	◇	更新	長岡赤十字病院	(1,826) 1,806	(1,104) 1,092	(1,674) 2,415	(277) 426	(195) 295	(27%) 36%	(599) 673
6	中越		現況	長岡中央総合病院	(1,817) 1,786	(1,265) 1,030	(2,199) 1,826	(401) 294	(65) 55	(31%) 31%	(341) 592
7	上越		現況	県立中央病院	(1,522) 1,413	(940) 1,158	(1,061) 1,730	(316) 378	(23) 78	(44%) 36%	(594) 975
8	魚沼		現況	魚沼基幹病院	(1,183) 947	(409) 151	(2,304) 939	(219) 86	(53) 18	(41%) 26%	(0) 353

地域がん診療病院の診療実績等

- ・上段は令和2年10月提出の数値、下段は令和3年10月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療 圏名	申請 区分	病院名	院内がん 登録	手術件数	がんに係る 薬物療法	放射線治療 (実施してい れば)	緩和ケア	がん相談支援 センター
				院内がん 登録数 (年間)	悪性腫瘍手術 総数 (年間)	のべ患者数 (年間)	のべ患者数 (年間)	緩和ケアチーム に対する新規 診療依頼数 (年間)	相談件数 (年間)
①	佐渡	現況	佐渡総合病院	(410) 409	(127) 151	(486) 939	(2,060) 86	(18) 18	(134) 138

新潟県 令和4年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

新潟医療圏の2病院（①★、③）と連携して佐渡医療圏に住むがん患者に対応するため、①の病院を推薦する。

佐渡医療圏

①(①★③)

下越医療圏

②

①★ ③

④

①★の病院は、5大がん以外のがんについて、③の病院は、希少がん等高度専門的医療について全県的に対応しており、また、新潟医療圏は人口が集中し、空白の県央医療圏からも患者が流入しているため、④の病院を含む3病院を推薦する。

新潟医療圏

県央医療圏
(空白の医療圏)

空白の県央医療圏に住むがん患者にも対応するため、中越医療圏の2病院を推薦する。

中越医療圏

⑤◇

⑥

★: 都道府県拠点、◇: 地域拠点(高度型)

魚沼医療圏

⑧

魚沼医療圏に住むがん患者に対応するため、推薦する。

上越医療圏

⑦

上越医療圏に住むがん患者に対応するため、推薦する。

- ① 県立がんセンター新潟病院★（現況）
- ② 県立新発田病院（現況）
- ③ 新潟大学医歯学総合病院（現況）
- ④ 新潟市民病院（現況）
- ⑤ 長岡赤十字病院◇（指定類型更新）
- ⑥ 長岡中央総合病院（現況）
- ⑦ 県立中央病院（現況）
- ⑧ 魚沼基幹病院（現況）
- ① 佐渡総合病院（現況）

1. 今回推薦に係る新潟県の考え方

- 本県におけるがん患者の受療動向及びがん医療提供体制等を踏まえ、現在指定を受けている全病院を推薦したい。
※本県におけるがん患者の受療動向については【参考1】を、がん医療提供体制については、【参考2】を参照
- 空白となっている以下の医療圏については、引き続き、がん診療連携拠点病院等の指定を検討していく。
・県央医療圏・・・令和5年度開院予定の「県央基幹病院」の動向を踏まえ、指定推薦を検討。

指定類型更新病院について 地域がん診療連携拠点病院(高度型)

長岡医療圏より長岡赤十字病院を地域がん診療連携拠点病院(高度型)として推薦する。

放射線治療科は医師常勤1名非常勤1名体制でリニアIMRTが可能な機器で放射線治療を行っている。

外来化学療法では、肺がんや乳腺内分泌腫瘍、消化器がん、血液がん、婦人科がんなど、幅広い疾患に対し、がん薬物療法専門医とがん化学療法看護認定看護師が中心となり治療と日常生活ができるよう患者支援を行っている。

今年度より緩和ケアセンターを設立し、リンクナースを配置し終末期のみならず、診断や治療期からの緩和ケア提供体制に力を入れている。また臨床遺伝診療部を立ち上げ、令和2年年1月にがんゲノム医療連携病院の指定を受け、包括的がんゲノムプロファイリングを行っている。

このように、がん患者の治療、精神的サポート、あるいは生活の質を担保すべく地域の病院、診療所、訪問看護ステーション等と連携をはかり、患者・家族の安心・安全を第一に考えた長岡医療圏における総合的がん治療の基幹病院としている。

今後も新潟県のがん対策の推進に、また長岡医療圏の医療へ一層貢献してもらおう観点から、推薦する。

2. 同一医療圏における複数の拠点病院等の指定について

(1)新潟医療圏

- 県立がんセンター新潟病院は、5大がん以外のがんについて全県的に対応しており、特に血液腫瘍等では全国有数の診療実績
- 新潟大学医歯学総合病院は、希少がん等高度専門的医療について全県的に対応
- 政令指定都市である新潟市を含む新潟医療圏は人口が集中(90万人強・県人口の40%)し、空白の県央医療圏からも患者が流入しているため、新潟市民病院を含む3病院で対応する必要有

(2)中越医療圏

- 隣接する空白の県央医療圏に住むがん患者にも対応するため、長岡赤十字病院及び長岡中央総合病院の2病院が必要

⇒以上は、本県における患者の受療動向とも一致しており、推薦する全病院は本県のがん医療提供体制の充実・向上に必要である。

【参考1】新潟県におけるがん患者の受療動向

- 新潟医療圏は、県内で唯一全県から患者が流入している。
- 新潟医療圏では、人口が集中し、患者も多い中、同圏域内での受療率は9割を超えている。
- 空白の県央医療圏に住む患者の4割は、隣接する新潟・中越医療圏で受療している。

		受療先医療機関							合計
		下越	新潟	県央	中越	魚沼	上越	佐渡	
患者 居 住 地	下越	患者数(人)	5,393	1,205					6,598
		自足率(%)	81.7%	18.3%					100.0%
	新潟	患者数	571	27,383	371	59		33	28,417
		自足率	2.0%	96.4%	1.3%	0.2%		0.1%	100.0%
	県央	患者数	14	1,967	4,583	823			7,387
		自足率	0.2%	26.6%	62.0%	11.1%			100.0%
	中越	患者数	10	408	232	12,820	36	21	13,527
		自足率	0.1%	3.0%	1.7%	94.8%	0.3%	0.2%	100.0%
	魚沼	患者数		141		1,020	3,919	35	5,115
		自足率		2.8%		19.9%	76.6%	0.7%	100.0%
	上越	患者数		114		54		8,091	8,259
		自足率		1.4%		0.7%		98.0%	100.0%
	佐渡	患者数		475				1,938	2,413
		自足率		19.7%				80.3%	100.0%

※集計対象となっているレセプトは国民健康保険、退職国保、後期高齢者医療制度の平成28年度の診療分

※二次医療圏単位で10未満の数は集計対象外となっている

【参考2】新潟県におけるがん医療提供体制

【全県レベルの機能】

- ・日本に多いがん(肺、胃、肝、大腸、乳がん)以外のがんに対応
- ・高度な診断・診療機能
- ・地域がん診療連携拠点病院等との連携による県全体のがん医療提供体制の充実・向上(県立がんセンター新潟病院)

県立がんセンター新潟病院 (都道府県がん診療連携拠点病院)

- ・5大がん以外のがんについて、全県的に対応(特に、血液がん等では全国有数の診療実績)
- ・地域がん診療連携拠点病院等との連携

新潟大学医歯学総合病院

- ・県内唯一の特定機能病院・大学病院・がんゲノム拠点病院として、5大がんを含むすべてのがんに対する治療と研究を実施

【2次医療圏レベルの機能】

連携によるがん医療提供体制の充実・向上

- ・日本に多いがん(肺、胃、肝、大腸、乳がん)に対応。その他、各病院が得意とするがんに対応
- ・地域のがん診療を担う病院やかかりつけ医と連携し、地域のがん医療提供体制を充実・向上

下越医療圏

【下越医療圏を1病院で対

県立新発田病院

- ・圏域の基幹的な医療機関
- ・圏域内の医療従事者の研修の実施等、地域のがん診療の質の向上に寄与

佐渡医療圏

【新潟医療圏と連携して対

佐渡総合病院

- ・佐渡島内唯一の総合病院として、がん患者の大半を診療しているがん医療の中心的病院

新潟医療圏

【新潟医療圏、県央医療圏の一部を3病院で対応】

県立がんセンター新潟病院

- ・定位照射装置、PET等で高度な医療を提供
- ・がん登録の向上に重要な役割

新潟市民病院

- ・消化器がんへの鏡視下手術は県内最多の手術数、手術の後進育成に中心的役割
- ・県内病院の緩和ケア体制整備・普及に指導的役割

新潟大学医歯学総合病院

- ・希少ながんに全県的対応
- ・放射線療法・薬物療法・手術の全てで高度な治療
- ・肝疾患診療連携拠点病院
- ・がんゲノム医療拠点病院

中越医療圏

【中越医療圏、県央医療圏の一部を2病院で対応】

長岡赤十字病院

- ・肺がん等で高い実績
- ・患者支援チームによる質の高いがん医療の提供

長岡中央総合病院

- ・がん予防に尽力
- ・外来薬物療法の充実

上越医療圏

【上越医療圏を1病院で対応】

県立中央病院

- ・上部消化器腫瘍に重点
- ・隣接圏域も対象に高度な放射線治療の提供

魚沼医療圏

【魚沼医療圏を1病院で対応】

魚沼基幹病院

- ・圏域内の医療従事者への研修を実施、地域のがん診療の質の向上に寄与
- ・県内唯一の動物追跡併用定位放射線治療を実施

富山県

富山県がんの医療圏の概要

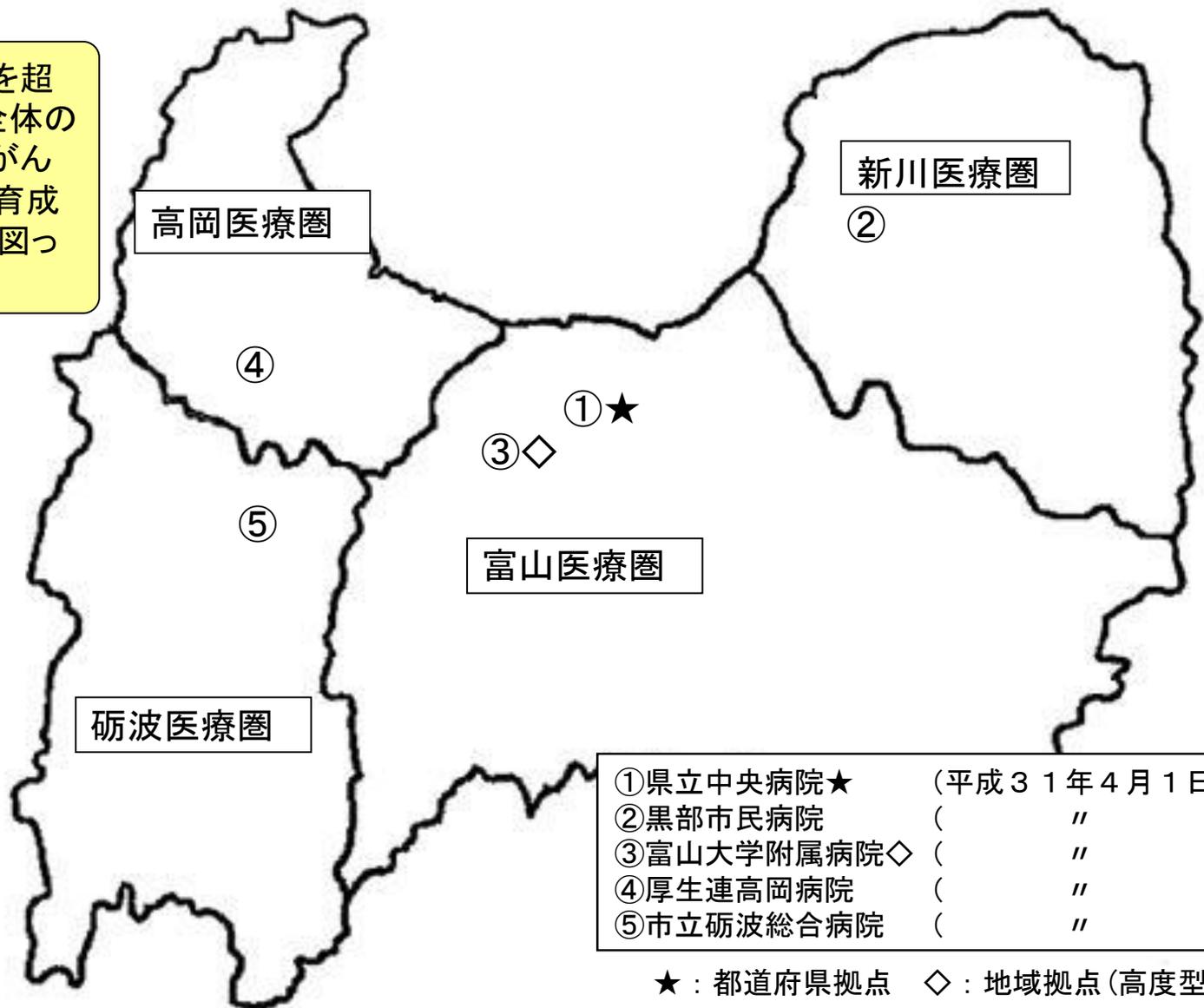
令和3年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
新川	924	113,766	11.1%	123.12	14	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
富山	1,844	491,008	47.8%	266.27	50	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0
高岡	549	298,558	29.1%	543.82	26	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
砺波	930	123,635	12.0%	132.94	16	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
計	4,247	1,026,967	100.0%	241.81	106	4	0	1	5	0	0	0	0	0	0

富山県 令和3年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

資料2

5つの拠点病院が圏域を超えて相互に連携し、県全体のがん医療の均てん化、がん医療水準の強化、人材育成及び診療設備の充実を図っている。



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料 3 - 1 - ①

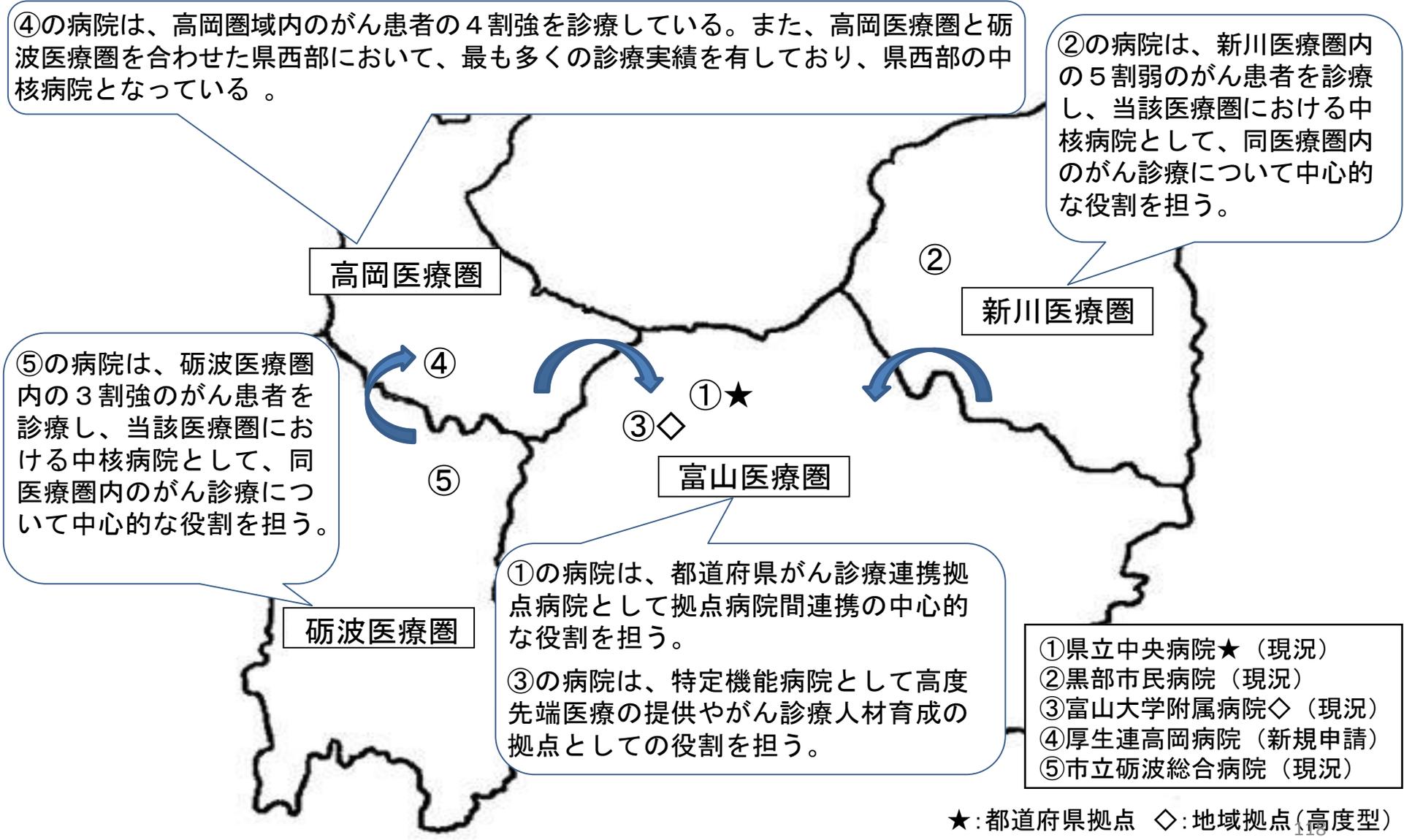
・()内は令和元年10月提出の数値、下段は令和3年10月提出の数値
 ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

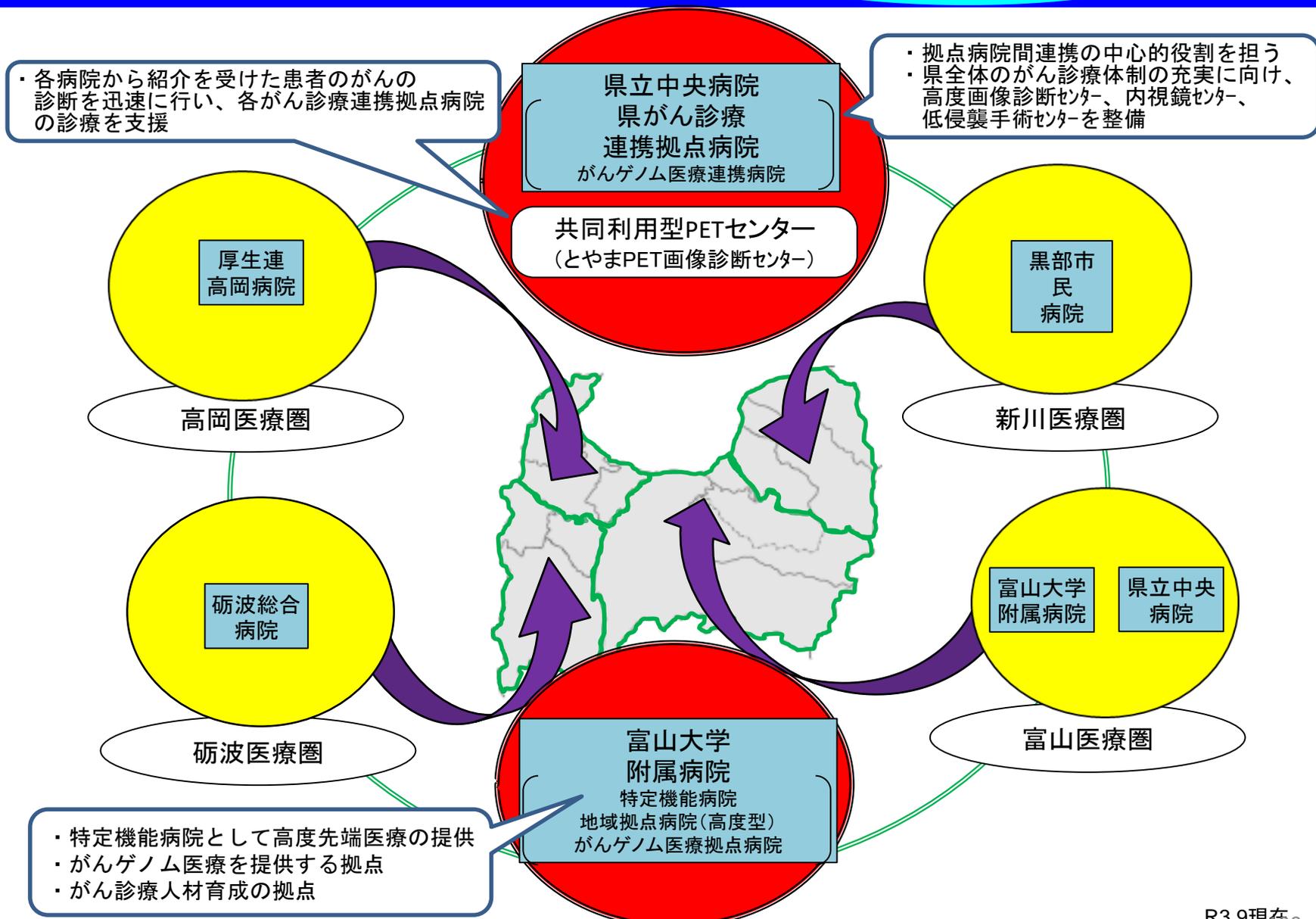
・「類型」については、★：都道府県拠点、◇：地域拠点(高度型)で表示

	医療 圏名	累計	申請 区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登 録	手術件数	がんに係る 薬物療法	放射線 治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援 センター
					年間入院 がん患者 延べ数	年間入院患 者延べ数に 占めるがん 患者の割合 (%)							
1	新川		現況 報告	黒部市民病 院	(1283) 1211	(13.7) 14.3	(583) 536	(409) 392	(845) 850	(122) 137	(98) 83	(53) 47	(861) 556
2	富山	★	現況 報告	富山県立中 央病院	(4127) 3899	(23.1) 24.8	(2433) 2161	(1491) 1134	(1888) 1950	(611) 645	(150) 232	(23) 22	(1285) 1397
3	富山	◇	現況 報告	富山大学附 属病院	(3809) 4078	(28.1) 30.4	(1501) 1514	(1141) 1303	(1701) 1811	(391) 399	(93) 89	(12) 13	(983) 1221
4	高岡		新規 申請	厚生連高岡 病院	(2673) 3256	(21.6) 26.7	(1537) 1518	(776) 768	(1397) 1525	(316) 342	(87) 86	(38.2) 43	(194) 198
5	砺波		現況 報告	市立砺波総 合病院	(926) 869	(11.0) 11.3	(845) 633	(592) 591	(664) 612	(122) 128	(92) 108	(34) 34	(661) 778

富山県 令和元年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

資料 4





石 川 県

石川県 がんの医療圏の概要

令和3年9月1日現在

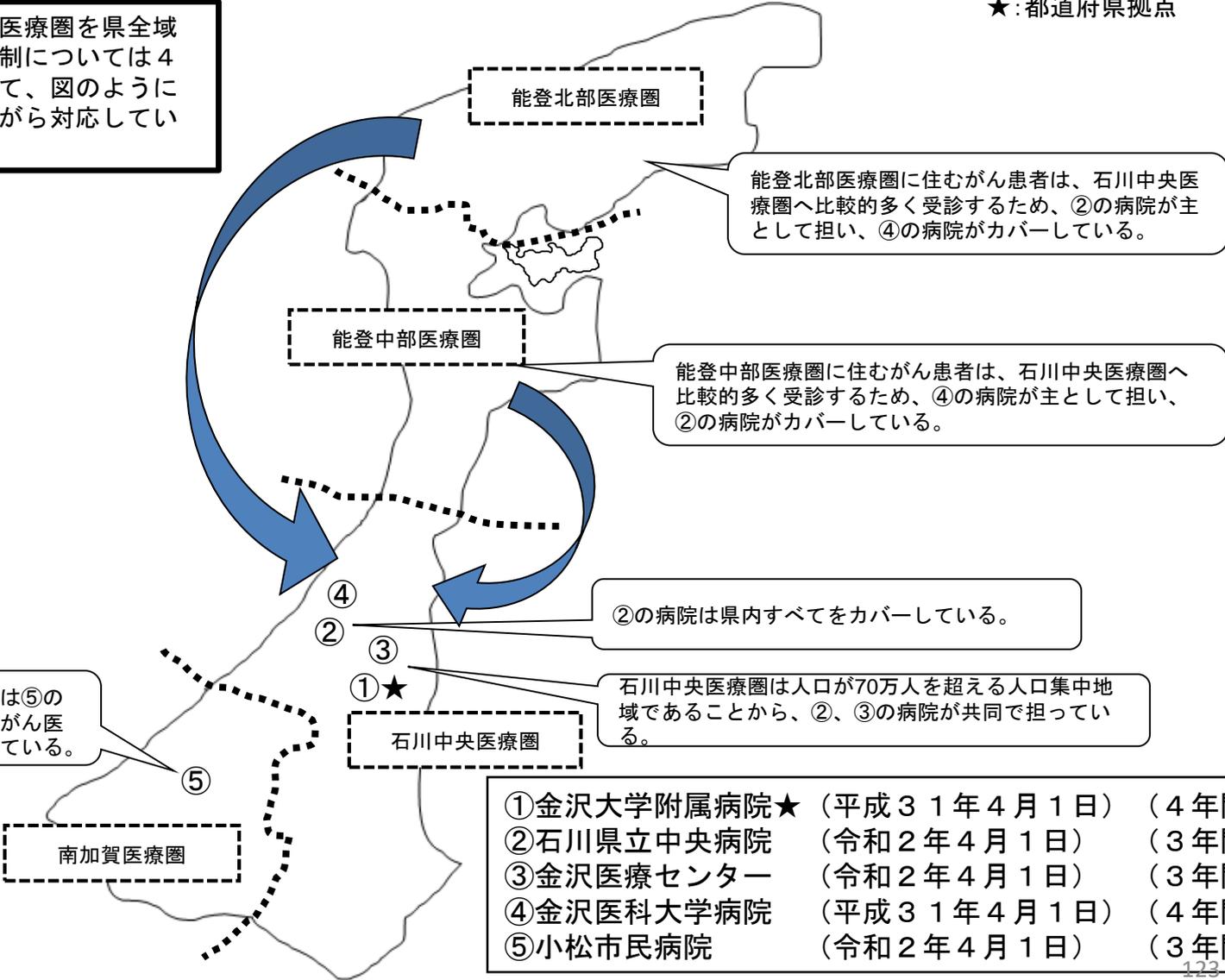
医療圏名		面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院			
							現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計
二次 医療圏	能登北部医療圏	1,129.99	59,568	5.3	52.7	5	0	0	0	0
	能登中部医療圏	847.91	116,037	10.3	136.9	10	0	0	0	0
	石川中央医療圏	1,432.49	728,410	64.7	508.5	58	5	0	0	5
	南加賀医療圏	775.7	222,420	19.7	286.7	18	0	0	0	0
石川県		4,186.09	1,126,435	100.0	984.8	91	5	0	0	5

※ 特定領域がん診療連携拠点病院及び地域がん診療病院は該当なし

石川県 令和3年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

石川県医療計画では、がん医療圏を県全域としているが、医療提供体制については4つの二次医療圏を基本として、図のように病院ごとに役割分担をしながら対応している状況である。

★: 都道府県拠点



①金沢大学附属病院★	(平成31年4月1日)	(4年間)
②石川県立中央病院	(令和2年4月1日)	(3年間)
③金沢医療センター	(令和2年4月1日)	(3年間)
④金沢医科大学病院	(平成31年4月1日)	(4年間)
⑤小松市民病院	(令和2年4月1日)	(3年間)

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

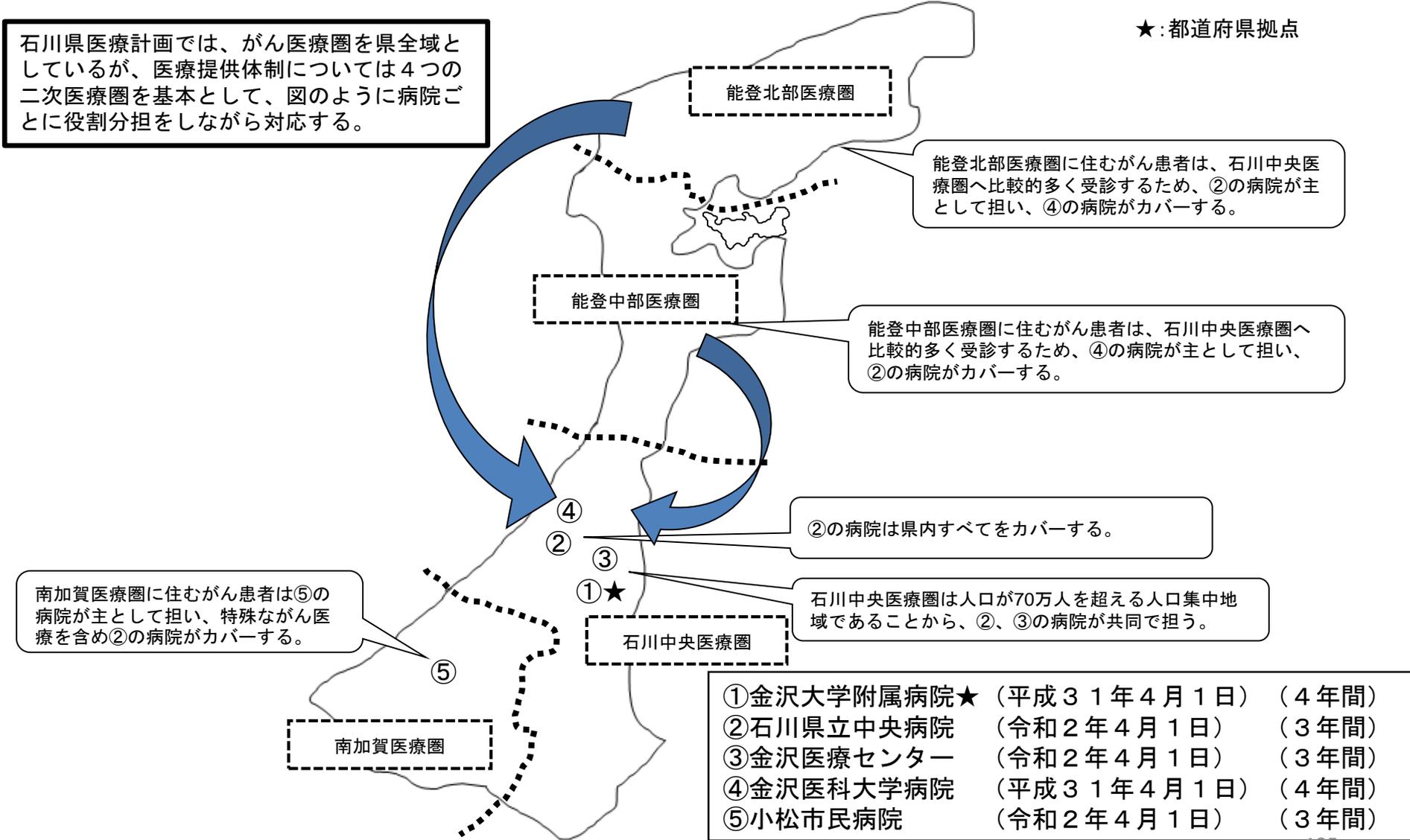
資料3-1-①

- ・ () 内は令和元年10月提出の数値、下段は令和3年10月提出の数値
- ・ 申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
- ・ 1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

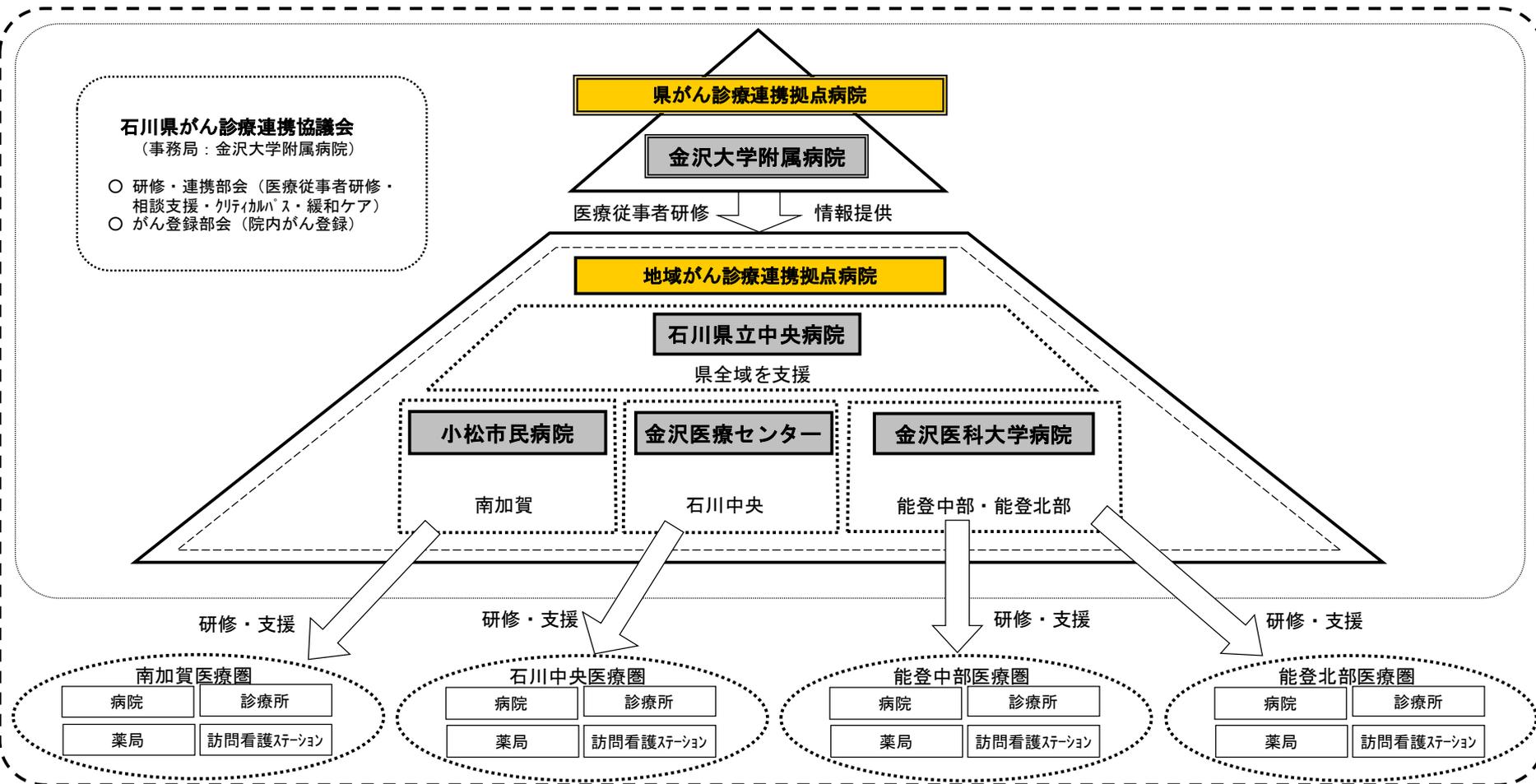
★：都道府県拠点

医療 圏名	類型	申請 区分	病院名	年間入院患者数の 状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る 薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				年間新入 院がん患 者数	年間新入院 患者数に占 めるがん患 者の割合 (%)	院内がん登録数 (年間) <u>500件以上</u>	悪性腫瘍の 手術件数 (年間) <u>400件以上</u>	のべ患者数 (年間) <u>1000人以上</u>	のべ患者数 (年間) <u>200人以上</u>	緩和ケアチーム に対する 新規診療依頼数 (年間) <u>50件以上</u>	当該2次医療圏に 居住する がん患者の診療 の割合(%) <u>2割程度</u>	相談件数 (年間)
1	★	現況 報告	金沢大学 附属病院	(5,818) 6,664	(39.1) 47.3	1,758	(1,283) 460	(9,301) 8,176	(484) 536	136	22	4,419
2		現況 報告	石川県立 中央病院	(4,911) 4,316	(29.5) 29.5	1,648	(1,508) 1,429	(2,323) 2,136	(378) 418	91	22	835
3		現況 報告	金沢医療 センター	(1,743) 1,460	(16.5) 17.7	688	(474) 461	(1,746) 1,519	(207) 236	153	12	3,820
4		現況 報告	金沢医科 大学病院	(3,109) 2,984	(20.1) 20.8	1,381	(933) 653	(1,197) 1,320	(350) 280	117	33	1,101
5		現況 報告	小松市民 病院	(1,274) 1,271	(18.9) 22.2	680	(424) 448	(737) 759	(142) 101	88	52	908

石川県 令和4年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



石川県のがん医療対策



1 本県の地域特性と整備にあたっての方針

がん診療については基本的に二次医療圏内で対応しているが、専門的で高度ながん診療については二次医療圏の枠を超えて県全域で対応している。

このため、地域がん診療連携拠点病院については4つの二次医療圏を基本として整備しているところであるが、人口も医療資源も金沢市を中心とする石川中央医療圏に集中しており、国が定める指定要件を満たす医療機関が、能登北部・能登中部医療圏には存在せず、南加賀医療圏には存在するものの、その診療レベル等は単独でがん診療の核となるには十分とは言えない状況にある。

地域がん診療連携拠点病院の整備にあたっては、各医療機関の診療レベル、スタッフを含めた体制整備の状況及び患者の受療動向等を総合的に勘案して、医療圏内に所在する医療機関に拘らず、がん診療の核となりうる複数の医療機関が役割分担をしながらがん診療を担う体制の構築を目指す。

2 県立中央病院と金沢大学附属病院の役割分担

金沢大学附属病院は、特定機能病院として、薬物療法や放射線治療などの専門部署であるがんセンターを置き、がんの集学的治療を行うとともに、地域がん診療連携拠点病院等のがん医療の中心となる医師を対象とした薬物療法、放射線治療、緩和ケア等に関する研修を行うなど、地域がん診療連携拠点病院のがん診療レベルの向上を図り、本県におけるがん診療の均てん化を進めていく役割を担う。

一方、県立中央病院は、唯一の県立総合病院であり、県内すべての地域の医療機関との間で患者の受入や紹介といった地域連携を進めているほか、積極的な診療支援を行うなど、県全域を支援する。

福井県

福井県 令和3年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

・①の病院は、主に福井市、②の病院は、主に坂井市、あわら市、永平寺町のがん医療を担う。

・①の病院は、がん医療センターや陽子線治療施設による高度ながん医療の提供および県内地域拠点病院の質の向上と均てん化を図る。

・②の病院は、他病院への人的支援、医療従事者への研修を実施し、がん医療の人材育成・提供を行う。また、①、②の病院ともゲノム医療連携病院および小児がん連携病院としての指定を受け、県内のがんゲノム、小児がん医療の中心的な役割を担っている。

奥越医療圏に住むがん患者は、福井・坂井医療圏へ受診するため、③の病院でカバーする。

丹南医療圏に住むがん患者は、福井・坂井医療圏へ受診するため、④の病院でカバーする。

福井・坂井医療圏

丹南医療圏
(空白の医療圏)

奥越医療圏
(空白の医療圏)

嶺南医療圏

- ①福井県立病院★ (平成31年4月1日)
- ②福井大学医学部附属病院 (平成31年4月1日)
- ③福井県済生会病院 (平成31年4月1日)
- ④福井赤十字病院 (平成31年4月1日)
- ⑤国立病院機構 敦賀医療センター (平成31年4月1日)

京都府

滋賀県

岐阜県

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

・上段は令和3年10月提出の数値、()内は令和元年10月提出の数値

・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1	福井・坂井医療圏	★	現況	福井県立病院	2,977 (2,801)	23.1 (23.6)	1,258 (1,309)	711 (828)	1,481 (1,253)	388 (334)	178 (251)	79 (29)	712 (856)
2	福井・坂井医療圏		現況	福井大学医学部附属病院	4,123 (3,919)	30.5 (27.8)	1,475 (1,661)	1,199 (1,227)	2,011 (1,788)	347 (289)	405 (353)	15 (27)	1,971 (1,643)
3	奥越医療圏		現況	福井県済生会病院	3,276 (2,986)	29.1 (25.2)	1,268 (1,362)	736 (793)	2,704 (2,156)	307 (327)	399 (470)	38 (42)	791 (1,350)
4	丹南医療圏		現況	福井赤十字病院	3,130 (2,979)	25.5 (21.7)	1,139 (1,146)	875 (879)	1,270 (1,241)	273 (293)	152 (84)	52 (52)	1,660 (1,804)
5	嶺南医療圏		現況	国立病院機構敦賀医療センター	364 (313)	25.9 (15.8)	101 (179)	54 (56)	632 (438)	10 (12)	61 (48)	30 (26)	521 (973)

福井県 がんの医療圏の概要

令和3年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院			
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計
福井・坂井	957.49	394,657	51.8	412.2	35	2	0	0	2
奥越	1126.31	52,569	6.9	46.7	6	1	0	0	1
丹南	1006.78	180,829	23.8	179.6	16	1	0	0	1
嶺南	1099.94	133,251	17.5	121.1	10	1	0	0	1

福井県 令和4年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

- ・①の病院は、主に福井市、②の病院は、主に坂井市、あわら市、永平寺町のがん医療を担う。
- ・①の病院は、がん医療センターや陽子線治療施設による高度ながん医療の提供および県内地域拠点病院の質の向上と均てん化を図る。
- ・②の病院は、他病院への人的支援、医療従事者への研修を実施し、がん医療の人材育成・提供を行う。また、①、②の病院ともゲノム医療連携病院および小児がん連携病院としての指定を受け、県内のがんゲノム、小児がん医療の中心的な役割を担っている。

奥越医療圏に住むがん患者は、福井・坂井医療圏へ受診するため、③の病院でカバーする。

丹南医療圏に住むがん患者は、福井・坂井医療圏へ受診するため、④の病院でカバーする。

道路交通の利便性が悪く、嶺南医療圏に住むがん患者は自医療圏内の医療機関に受診するため、⑤の病院を維持する必要性が高い。

福井・坂井医療圏

丹南医療圏
(空白の医療圏)奥越医療圏
(空白の医療圏)

嶺南医療圏

- ①福井県立病院★ (現況)
- ②福井大学医学部附属病院 (現況)
- ③福井県済生会病院 (現況)
- ④福井赤十字病院 (現況)
- ⑤国立病院機構 敦賀医療センター (現況)

京都府

滋賀県

岐阜県

福井県のがん診療連携拠点病院整備について

資料5-1

(1) がん診療連携拠点病院の整備に関する本県の基本的考え方

- ・全国でもトップクラスの健康長寿県
- ・昭和55年以降、死因の第1位ががんであり、死因の約3割を占めている。
- ・がん医療提供体制の一層の充実を図り、県内どこでも質の高いがん医療を受けることができるよう、地域のがん医療の中核を担う地域がん診療連携拠点病院を県内4つのがんの医療圏に1か所ずつ、都道府県がん診療連携拠点病院をそれとは別に1か所整備する。
- ・今回、既指定の病院が引き続き指定を受けることにより、それぞれが担当するがんの医療圏で構築された病診連携体制をさらに発展させることができる。

(2) 福井・坂井医療圏 県がん診療連携拠点病院1か所指定（福井県立病院）、地域がん診療連携拠点病院1か所指定（福井大学医学部附属病院）

- 担当地域と医療機能の分担による、限られた医療資源の効果的な発展
 - ・福井県立病院は主に福井市、福井大学医学部附属病院は主に坂井市、あわら市、永平寺町のがん医療を担当している。
 - ・福井県立病院はがん医療センターや陽子線施設による高度ながん医療の提供やがん登録の推進および各地域がん診療連携拠点病院間の連携および地域のがん診療を行う医療機関との連携体制の構築等において中核的役割を果たしている。
 - ・福井大学医学部附属病院は専門医の育成や他病院への医師派遣など県内全域におけるがん医療の人材育成・提供機能を有している。
 - ・両病院とも、がんゲノム医療連携病院および小児がん連携病院の指定を受け、県内のがんゲノムおよび小児がん医療を集約し、提供している。

(3) 奥越医療圏、丹南医療圏 地域がん診療連携拠点病院 各1か所指定（奥越：福井県済生会病院、丹南：福井赤十字病院）

- 空白の医療圏からのがん患者流入の実態を考慮した指定による受療機会の均てん化
 - ・両医療圏には、地域がん診療連携拠点病院、地域がん診療病院の指定要件を満たす病院がなく、将来的にも整備される見込みがない。
 - ・各医療圏から地理的に近く、各医療圏のがん患者を多く受け入れている病院を地域がん診療連携拠点病院として指定している。

福井県済生会病院	奥越医療圏に居住するがん患者の診療実績の割合	42%
福井赤十字病院	丹南医療圏に居住するがん患者の診療実績の割合	52%
 - ・福井県済生会病院は、最新の放射線治療機器であるトモセラピーを導入し高度な医療を行うとともに、ハローワークと連携したがん患者の就労支援やがん哲学外来、多職種と相談できるメディカルカフェの開設等を行うなど、がん患者の支援に力を入れている。
 - ・福井赤十字病院は、最新の放射線治療機器であるVero4DRTの導入し、高度な医療を行うとともに、県の地域連携クリティカルパスの整備、令和元年度から小児がん連携病院としての指定を受け、地域の医療機関との病診連携体制の構築において中心的な役割を担っている。

(4) 嶺南医療圏 地域がん診療連携拠点病院 1か所指定（国立病院機構敦賀医療センター）

- 地元医師会や医療機関との連携による医療体制の充実
 - ・東西に長い地形に加え、交通の便が悪く、他医療圏への患者の流出が少ないため、当医療圏内での拠点整備の必要性が高い。
 - ・敦賀医療センターは、地元医療機関や訪問看護ステーション等と連携し、在宅緩和ケアを推進するなど、医療圏内におけるがん診療の中核的役割を担うとともに、ハローワークや産業保健総合支援センターと連携したがん患者の就労支援にも力を入れている。
 - ・福井県立病院と連携した陽子線治療の相談外来の開設や福井大学医学部附属病院との連携強化によるがん医療従事者の充実が見込まれる。

福井県のがん医療連携体制

資料5-2

県がん診療連携拠点病院

緩和ケア
センター
緩和ケア病棟



**福井県立病院
(がん医療センター)**

陽子線がん治療
施設

がんゲノム医療連携病院
小児がん連携病院
(R1.11.1指定)

- ・がん診療連携拠点病院間の連携促進および地域のがん治療を行う医療機関との病診連携の促進
- ・がん医療の全県的な向上
- ・緩和ケア体制の推進
- ・患者相談支援の推進
- ・チーム医療の実施、医療従事者の各種研修の実施
- ・がん登録の推進、病院等への技術的支援(分析・評価)
- ・がんゲノム、小児がん医療の推進

協力・連携・分担

- ・がん登録の推進
- ・がん相談支援
- ・情報交換 等

福井県がん診療 連携協議会

地域がん診療連携拠点病院(福井・坂井)



**福井大学医学部附属病院
(がん診療推進センター)**

がんゲノム医療連携病院
(H30.4.1指定)
がんゲノム外来
小児がん連携病院
(R1.11.1指定)

- ・高度先端医療の実施
- ・医師、看護師の人材育成、確保
- ・病院等への人的、技術的支援
- ・圏域内病院等との連携
- ・がんゲノム、小児がん医療の実施

地域がん診療連携拠点病院(丹南)



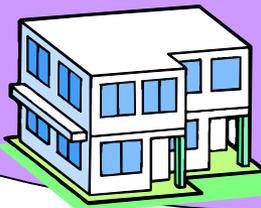
緩和ケア
病棟

**福井赤十字病院
(がん診療センター)**

- ・圏域内病院等との連携
- ・情報連携体制の整備
- ・緩和ケア体制の推進
- ・小児がん医療の推進

小児がん連携病院
(R1.11.1指定)
がんゲノム医療連携病院
(R3.4.1指定)

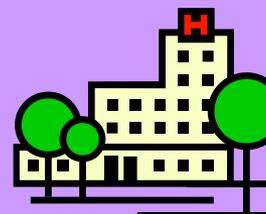
地域がん診療連携拠点病院(嶺南)



国立病院機構 敦賀医療センター

- ・圏域内病院等との連携
- ・嶺南地域の医療水準の向上
- ・患者相談支援の推進

地域がん診療連携拠点病院(奥越)



緩和ケア
病棟

**福井県済生会病院
(集学的がん診療センター)**

- ・圏域内病院等との連携
- ・緩和ケア体制の推進
- ・患者相談支援の推進

山 梨 県

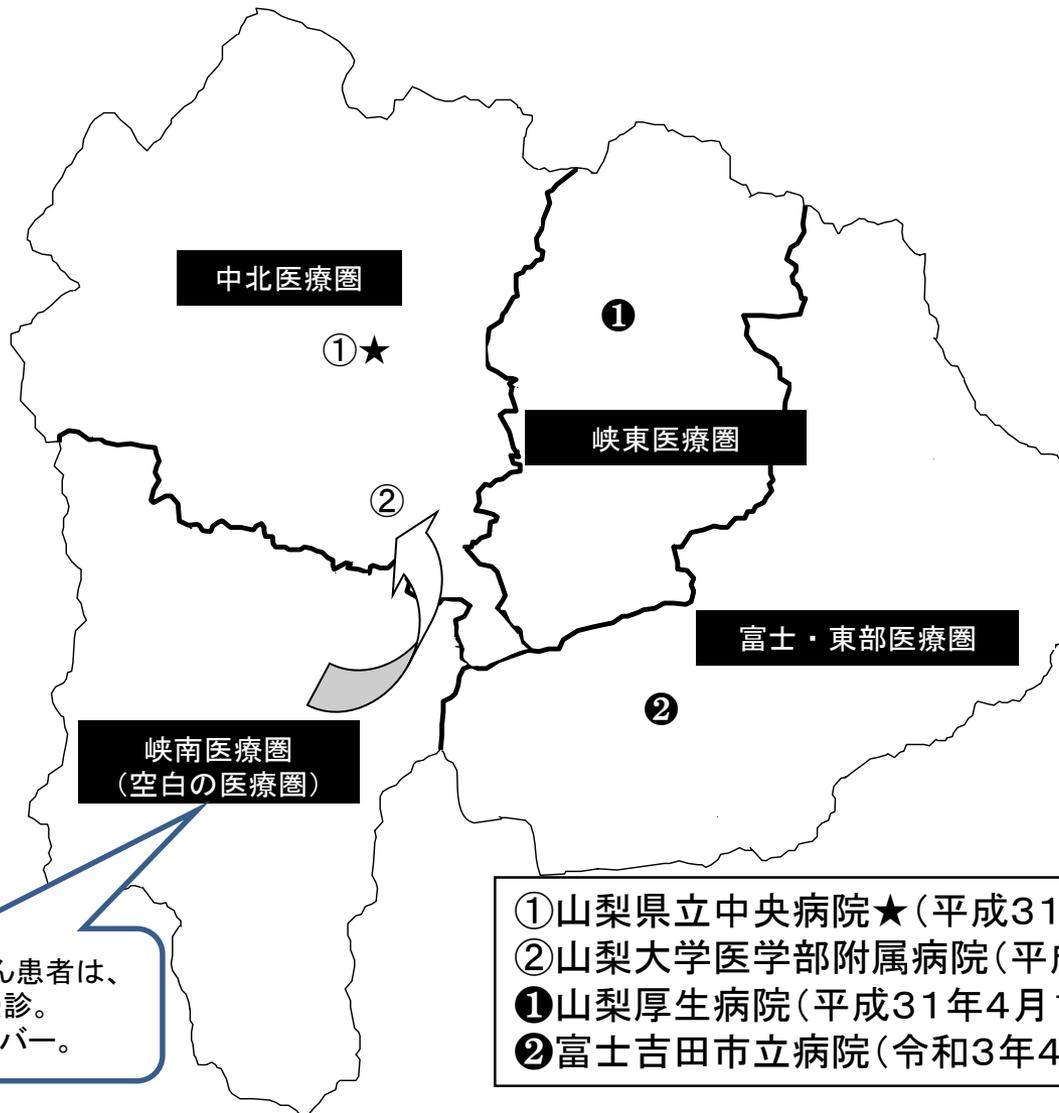
山梨県がんの医療圏の概要

令和3年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口 密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況 報告 病院数	今回 更新 病院数	新規 申請 病院数	計	現況 報告 病院数	今回 更新 病院数	新規 申請 病院数	現況 報告 病院数	今回 更新 病院数	新規 申請 病院数
中北医療圏	1,335.99	459,164	56.96	343.7	32	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0
峡東医療圏	755.80	128,679	15.96	170.3	14	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
峡南医療圏	1,059.54	46,782	5.80	44.2	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
富士・東部 医療圏	1,309.34	171,491	21.27	131.0	8	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
計	4,460.67	806,116	100.00	180.7	60	2	0	0	2	0	0	0	2	0	0

山梨県 令和3年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★: 都道府県拠点



峡南医療圏に住むがん患者は、
中北医療圏へ受診。
主に②の病院でカバー。

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料 3 - 1 - ①

★：都道府県拠点

- ・()内は令和2年11月提出の数値、下段は令和3年11月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
①	中北	★	現況報告	山梨県立中央病院	2,858	1.8	(2,024) 1,998	(1,820) 1,106	(13,428) 13,166	(477) 537	(341) 252	(34) 40	(2,120) 1,540
②	中北		現況報告	山梨大学医学部附属病院	3,620	29.7	(1,860) 1,765	(1,345) 1,096	(2,540) 4,069	(669) 706	(329) 329	(26) 25	(466) 511

地域がん診療病院の診療実績等

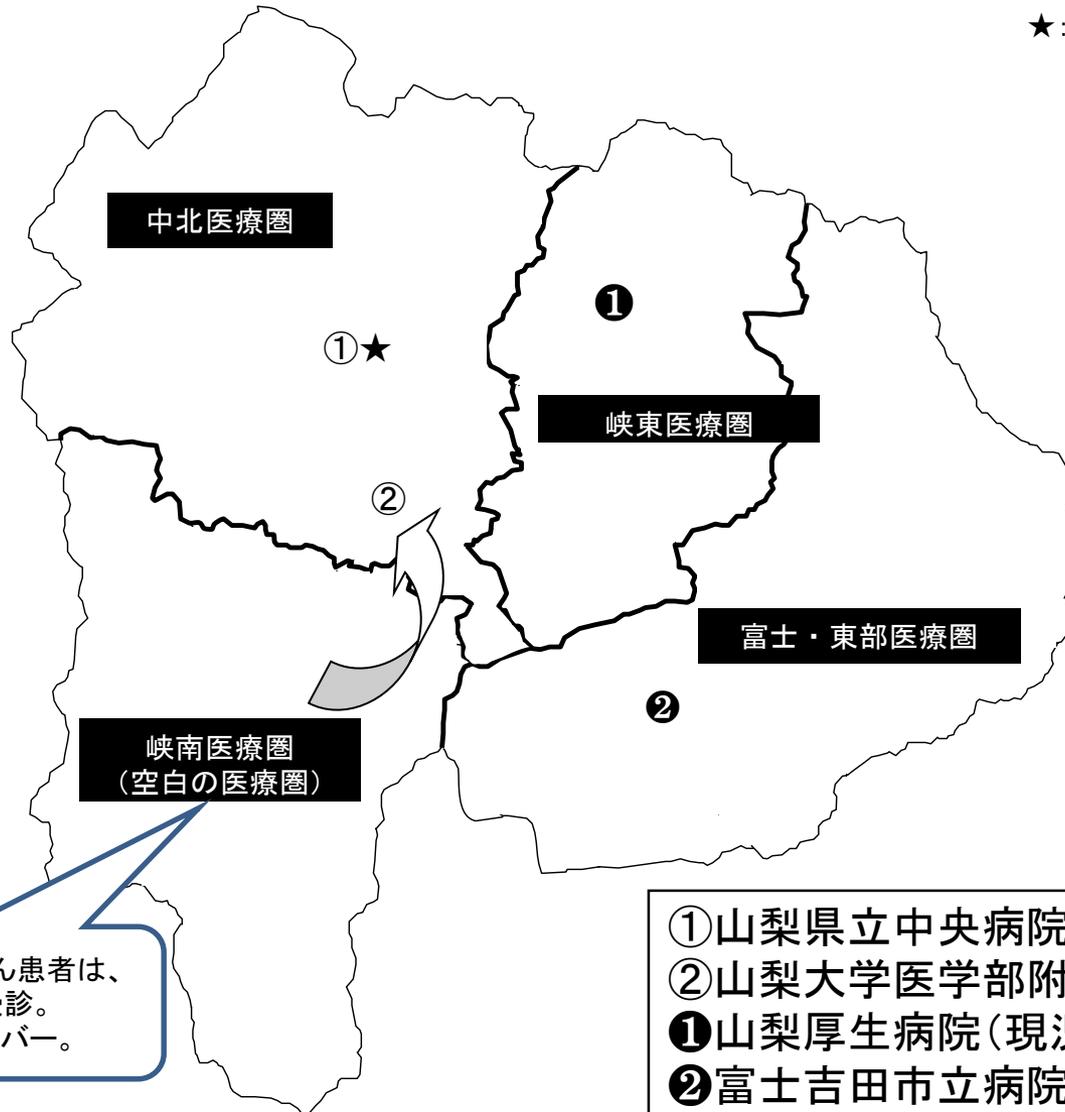
資料 3 - 2

- ・上段は令和2年11月提出の数値、下段は令和3年11月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数 (年間)	悪性腫瘍手術総数 (年間)	のべ患者数 (年間)	のべ患者数 (年間)	緩和ケアチーム に対する新規診療 依頼数 (年間)	相談件数 (年間)
①	峡東	現況報告	山梨厚生病院	882	15.3	(396) 253	(309) 339	(1,405) 1,670	実施なし	(109) 55	(626) 303
②	富士・東部	現況報告	富士吉田市立病院	(6,495) 9,522	(8.9) 13.0	(506) 488	(261) 233	(808) 812	(138) 124	(60) 38	(1,056) 1,059

山梨県 令和3年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★：都道府県拠点



峡南医療圏に住むがん患者は、
中北医療圏へ受診。
主に②の病院でカバー。

今回の指定推薦に係る山梨県の考え方

がん医療の質の向上、それぞれのがんの特性に応じたがん医療の均てん化と集約化及び効率的かつ持続可能ながん医療を実現することを目標とする。

現 状

- 高度で専門的な医療機関が、中北医療圏に集中しており、全ての医療圏において、質の高いがん医療を提供できるよう、がん医療の均てん化を図ってきた。
- 空白の医療圏となっている峡南医療圏については、中北医療圏内の拠点病院がカバーしている。

今後の方針

- **2 拠点病院 + 2 診療病院により現行のがん医療体制を維持**
- **各拠点病院等が連携・協力することにより、県全体のがん医療の充実を図っていく。**

- 今後も各拠点病院が行う診療体制の強化・充実に対して、積極的に支援し、中北医療圏については、自圏域内ではがん医療を完結する体制を維持。
- 峡東医療圏については、地域がん診療病院である山梨厚生病院が県立中央病院と連携することで、診療機能の充実を図り、基本的がん診療の体制を継続する。
- 富士・東部医療圏については、地域がん診療病院である富士吉田市立病院が山梨大学医学部附属病院と連携することで、診療機能の充実を図り、基本的がん診療の体制を継続する。
- 峡南医療圏については、立地状況や患者の受療動向等から、今後も中北医療圏内の拠点病院でカバーする体制を継続する。

長野県

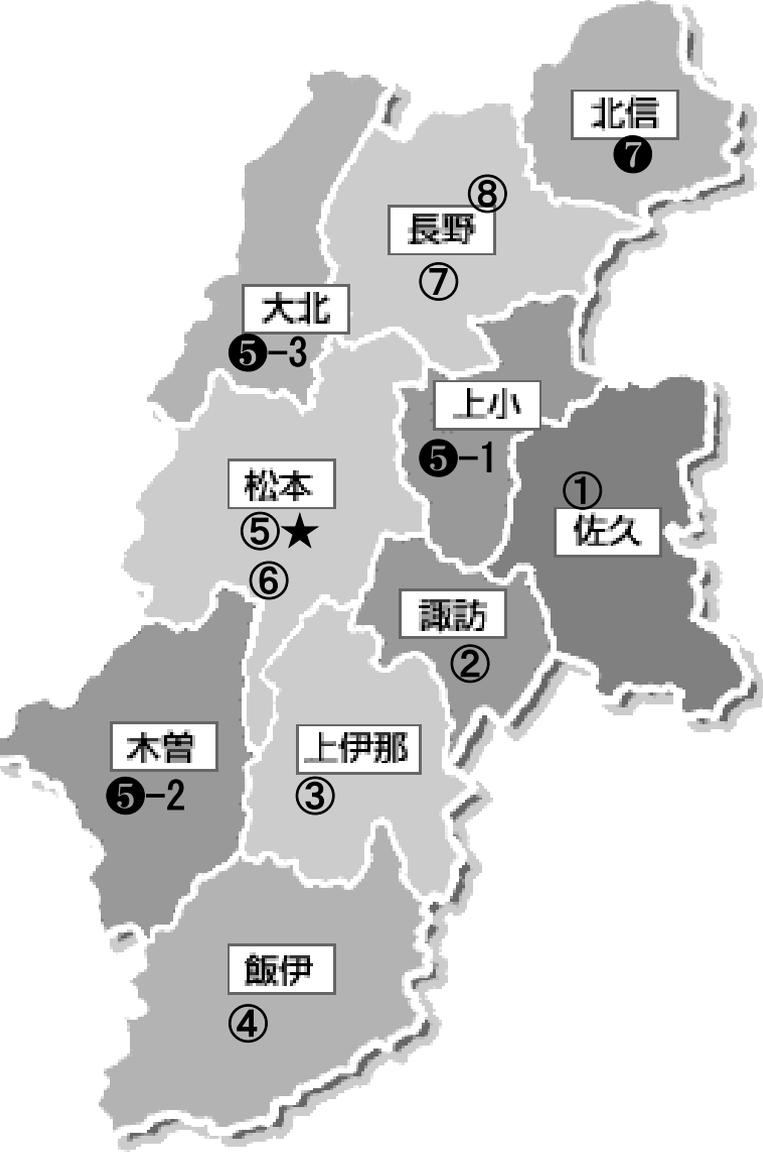
長野県 がん医療圏の概要

令和3年9月1日現在

2次医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院			特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院			計
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	
佐久医療圏	1,571.62	204,510	10.1%	130.1	14	1									1
上小医療圏	905.34	190,535	9.4%	210.5	16							1			1
諏訪医療圏	715.40	190,162	9.4%	265.8	11	1									1
上伊那医療圏	1,348.28	178,085	8.8%	132.1	10	1									1
飯伊医療圏	1,929.19	152,385	7.5%	79.0	10	1									1
木曾医療圏	1,546.26	24,842	1.2%	16.1	1							1			1
松本医療圏	1,869.14	419,115	20.7%	224.2	26	2									2
大北医療圏	1,109.53	55,450	2.7%	50.0	2							1			1
長野医療圏	1,558.39	524,579	26.0%	336.6	35	2									2
北信医療圏	1,009.08	80,678	4.0%	80.0	3							1			1
計	13,562.23	2,020,341	100%	1524.3	128	8	0	0	0	0	0	4	0	0	12

長野県令和3年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点



- | | | |
|-----|------------------|-------------|
| ① | 佐久総合病院佐久医療センター | (平成31年4月1日) |
| ② | 諏訪赤十字病院 | (平成31年4月1日) |
| ③ | 伊那中央病院 | (平成31年4月1日) |
| ④ | 飯田市立病院 | (平成31年4月1日) |
| ⑤ | 信州大学医学部附属病院★ | (平成31年4月1日) |
| ⑥ | 相澤病院 | (平成31年4月1日) |
| ⑦ | 長野赤十字病院 | (平成31年4月1日) |
| ⑧ | 長野市民病院 | (平成31年4月1日) |
| ⑤-1 | 信州上田医療センター | (平成31年4月1日) |
| ⑤-2 | 県立木曾病院 | (平成31年4月1日) |
| ⑤-3 | 北アルプス医療センターあづみ病院 | (平成31年4月1日) |
| ⑦ | 北信総合病院 | (平成31年4月1日) |

がん診療連携拠点病院の診療実績等

資料3-1-①

()内： H31.1.1~R1.12.31 の数値

★：都道府県拠点 ◇：地域拠点(高度型) ◎：特定領域拠点

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録数 (年間) 500件以上	手術件数 悪性腫瘍の手術件数 (年間) 400件以上	がんに係る薬物療法 のべ患者数 (年間) 1000人以上	放射線治療 のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケア 緩和ケアチームに対する新規診療依頼数 (年間) 50件以上	診療の割合 当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談支援センター 相談件数 (年間)
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)							
1	佐久	現況	佐久総合病院佐久医療センター	(2,186) 2,269	(17.1) 19.5	(1,659) 1,330	(1,581) 1,038	(1,680) 1,692	(484) 500	(145) 148	(57) 35	(882) 1,273
2	諏訪	◇	諏訪赤十字病院	(2,703) 2,700	(22.4) 23.9	(1,298) 1,192	(853) 807	(2,331) 1,722	(309) 482	(269) 332	(56) 53	(1,503) 1,407
3	伊那	現況	伊那中央病院	(1,445) 1,308	(15.1) 15.9	(955) 898	(605) 546	(1,110) 1,361	(227) 245	(233) 275	(60) 54	(441) 607
4	飯伊	現況	飯田市立病院	(1,954) 1,693	(22.0) 16.6	(936) 856	(582) 531	(1,688) 1,186	(356) 308	(67) 75	(52) 96	(1,179) 1,096
5	松本	★	信州大学医学部附属病院	(4,209) 4,543	(27.3) 28.6	(1,793) 1,805	(1,065) 1,087	(1,780) 1,879	(482) 471	(262) 306	(27) 27	(764) 1,060
6	松本	現況	相澤病院	(1,723) 1,735	(14.6) 15.2	(1,052) 829	(645) 585	(1,012) 1,010	(581) 646	(132) 108	(19) 19	(456) 590
7	長野	現況	長野赤十字病院	(3,791) 5,549	(23.0) 36.8	(1,959) 1,501	(955) 919	(8,398) 8,285	(676) 632	(329) 341	(34) 32	(2,380) 3,605
8	長野	現況	長野市民病院	(3,151) 3,058	(27.8) 28.8	(1,690) 1,674	(1,347) 1,317	(1,251) 1,238	(531) 508	(415) 872	(20) 19	(2,768) 2,680

地域がん診療病院の診療実績等

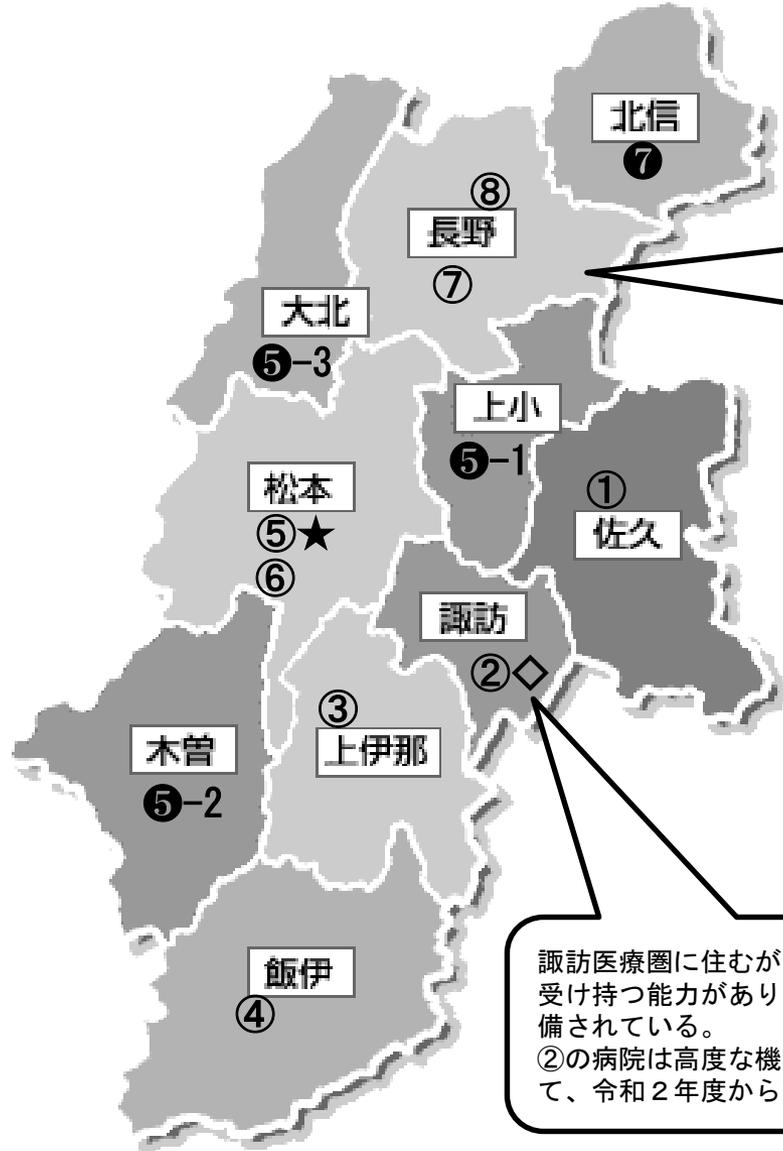
資料 3 - 2

()内： H31. 1. 1～R1. 12. 31 の数値

	医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録数 (年間)	手術件数 悪性腫瘍手術 総数 (年間)	がんに係る 薬物療法 のべ患者数 (年間)	放射線治療 (実施してい れば) のべ患者数 (年間)	緩和ケア 緩和ケアチー ムに対する新 規診療依頼数 (年間)	がん相談支援 センター 相談件数 (年間)
				年間新入院 がん患者数	年間新入院患 者数に占める がん患者の割 合(%)						
⑤	上田	現況	信州上田医療センター	(1,454) 1,458	(17.5) 18.4	(823) 710	(623) 570	(407) 694	(192) 162	(235) 297	(1,277) 1,282
⑤	木曾	現況	県立木曾病院	(220) 185	(8.6) 8.8	(170) 138	(77) 85	(605) 65	(665) 14	(29) 29	(806) 1,412
⑤	大北	現況	北アルプス医療センター あづみ病院	(896) 947	(17.6) 19.9	(416) 282	(356) 163	(735) 1,092	(-) -	(69) 46	(526) 651
⑦	北信	現況	北信総合病院	(990) 857	(12.6) 12.1	(570) 497	(280) 247	(435) 358	(77) 90	(18) 22	(687) 659

長野県 令和3年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点



患者動向について、圏域中央部から南が長野赤十字病院へ、北が長野市民病院へと、圏域内における分担がされている。

- | | | |
|-----|------------------|------|
| ① | 佐久総合病院佐久医療センター | (現況) |
| ② | 諏訪赤十字病院◇ | (現況) |
| ③ | 伊那中央病院 | (現況) |
| ④ | 飯田市立病院 | (現況) |
| ⑤ | 信州大学医学部附属病院★ | (現況) |
| ⑥ | 相澤病院 | (現況) |
| ⑦ | 長野赤十字病院 | (現況) |
| ⑧ | 長野市民病院 | (現況) |
| ⑤-1 | 信州上田医療センター | (現況) |
| ⑤-2 | 県立木曾病院 | (現況) |
| ⑤-3 | 北アルプス医療センターあづみ病院 | (現況) |
| ⑦ | 北信総合病院 | (現況) |

諏訪医療圏に住むがん患者は②の病院が受け持つ能力があり、受け入れ体制が整備されている。
②の病院は高度な機能を有するものとして、令和2年度から高度型に指定。

今回の指定推薦等に係る長野県の考え方

◇ 基本的な考え方

平成30年3月に策定した、第2期信州保健医療総合計画（長野県がん対策推進計画を包括）では、第3期がん対策推進基本計画を踏まえ、「科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実」・「患者本位のがん医療の実現」・「がんになっても尊厳をもって安心して暮らせる社会の構築」の実現を目指し、県民及び関係機関・団体と連携したがん対策に取り組むこととしています。

医療提供体制については、平成31年4月から全ての2次医療圏にがん診療連携拠点病院等を整備することができました。今後も、がん医療の質の維持・向上に向けて一層取り組んでいきます。

◇ 現況報告について

本県では、県独自にがん診療連携拠点病院等における診療機能の維持向上を図るための機能評価（書面審査・現地調査）を実施しております。

現在指定されている病院は、地域におけるがん診療の中核を担い、十分な実績と機能を有し、機能向上に努め、地域住民からの信頼も得ていることから、それぞれがん診療連携拠点病院等としての指定の継続を望むものです。

岐 阜 県

岐阜県がんの医療圏の概要

令和3年9月1日現在

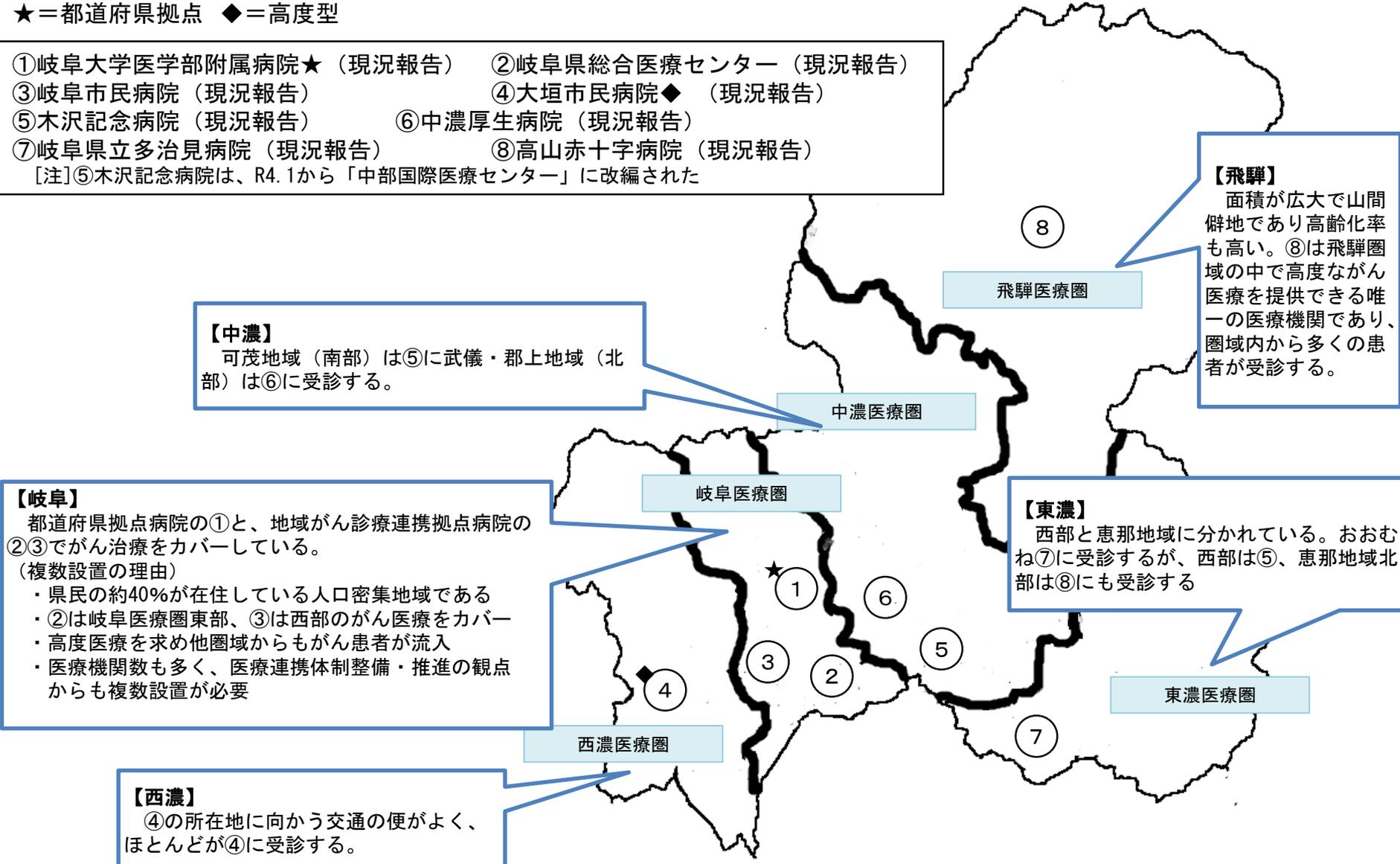
医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口 密度	病院 数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療 連携拠点病院		地域がん 診療病院	
						現況 報告 病院数	今回 更新 病院数	新規 申請 病院数	計	現況 報告 病院数	新規 申請 病院数	現況 報告 病院数	新規 申請 病院数
岐 阜	993.2	789,849	40.3	795.2	41	3	0	0	3	0	0	0	0
西 濃	1,432.9	354,704	18.1	247.4	15	1	0	0	1	0	0	0	0
中 濃	2,454.2	360,832	18.4	146.9	18	2	0	0	2	0	0	0	0
東 濃	1,562.8	319,672	16.3	204.6	14	1	0	0	1	0	0	0	0
飛 騨	4,177.9	136,905	7.0	32.7	9	1	0	0	1	0	0	0	0
計	10,621.2	1,961,962	100.0	1,426.8	97	8	0	0	8	0	0	0	0

岐阜県 令和3年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★=都道府県拠点 ◆=高度型

- ①岐阜大学医学部附属病院★（現況報告） ②岐阜県総合医療センター（現況報告）
 ③岐阜市民病院（現況報告） ④大垣市民病院◆（現況報告）
 ⑤木沢記念病院（現況報告） ⑥中濃厚生病院（現況報告）
 ⑦岐阜県立多治見病院（現況報告） ⑧高山赤十字病院（現況報告）

[注]⑤木沢記念病院は、R4.1から「中部国際医療センター」に改編された



がん診療連携拠点病院

資料3

★：都道府県拠点 ◆：地域拠点（高度

※（ ）内はR1現況報告

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					年間入院がん患者延べ数	年間入院患者延べ数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1,000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームの新規介入患者数(年間) 50人以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1	岐阜	★	現況報告	岐阜大学医学部附属病院	4,892	34.4	1,969	(1,807) 1,391	(2,433) 3,170	(666) 628	206	17	1,302
2	岐阜		現況報告	岐阜県総合医療センター	3,068	21.4	1,851	(1,313) 1,172	(1,623) 1,801	(409) 458	209	18	905
3	岐阜		現況報告	岐阜市民病院	2,327	18.3	1,563	(880) 822	(1,612) 11,514	(394) 484	125	14	1,597
4	西濃	◆	現況報告	大垣市民病院	5,038	25.9	2,573	(1,328) 1,741	(1,860) 1,648	(556) 517	125	83	1,197
5	中濃		現況報告	木沢記念病院 (現：中部国際医療センター)	2,016	19.6	1,166	(669) 734	(1,784) 2,001	(348) 351	132	27	976
6	中濃		現況報告	中濃厚生病院	1,319	15.8	628	(461) 473	(2,112) 2,302	(203) 194	77	33	958
7	東濃		現況報告	岐阜県立多治見病院	3,198	22.4	1,257	(820) 693	(1,290) 1,703	(543) 8,416	114	38	1,164
8	飛騨		現況報告	高山赤十字病院	1,435	20.0	665	(402) 402	(1,920) 912	(214) 243	92	40	1,281

岐阜県 令和3年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★: 都道府県拠点 ◇: 地域拠点(高度型)

- | | |
|----------------|--------------|
| ①岐阜大学医学部附属病院 ★ | ②岐阜県総合医療センター |
| ③岐阜市民病院 | ④大垣市民病院 ◇ |
| ⑤木沢記念病院 | ⑥中濃厚生病院 |
| ⑦岐阜県立多治見病院 | ⑧高山赤十字病院 |

[注]⑤木沢記念病院は、R4.1から「中部国際医療センター」に改編

【中濃】⑤⑥

⑤が木曾川流域(南部)に居住するがん患者、⑥が長良川流域(北部)に居住するがん患者に医療を提供している。身近な地域で等しくがん医療やがん相談及び緩和ケアの提供を受けられる体制が整備されている。

【岐阜】①★ ②③

都道府県拠点病院の①と、地域がん診療連携拠点病院の②③でがん治療をカバーしている。

①は都道府県拠点病院及び大学病院として、岐阜県全体のがん医療を牽引する。

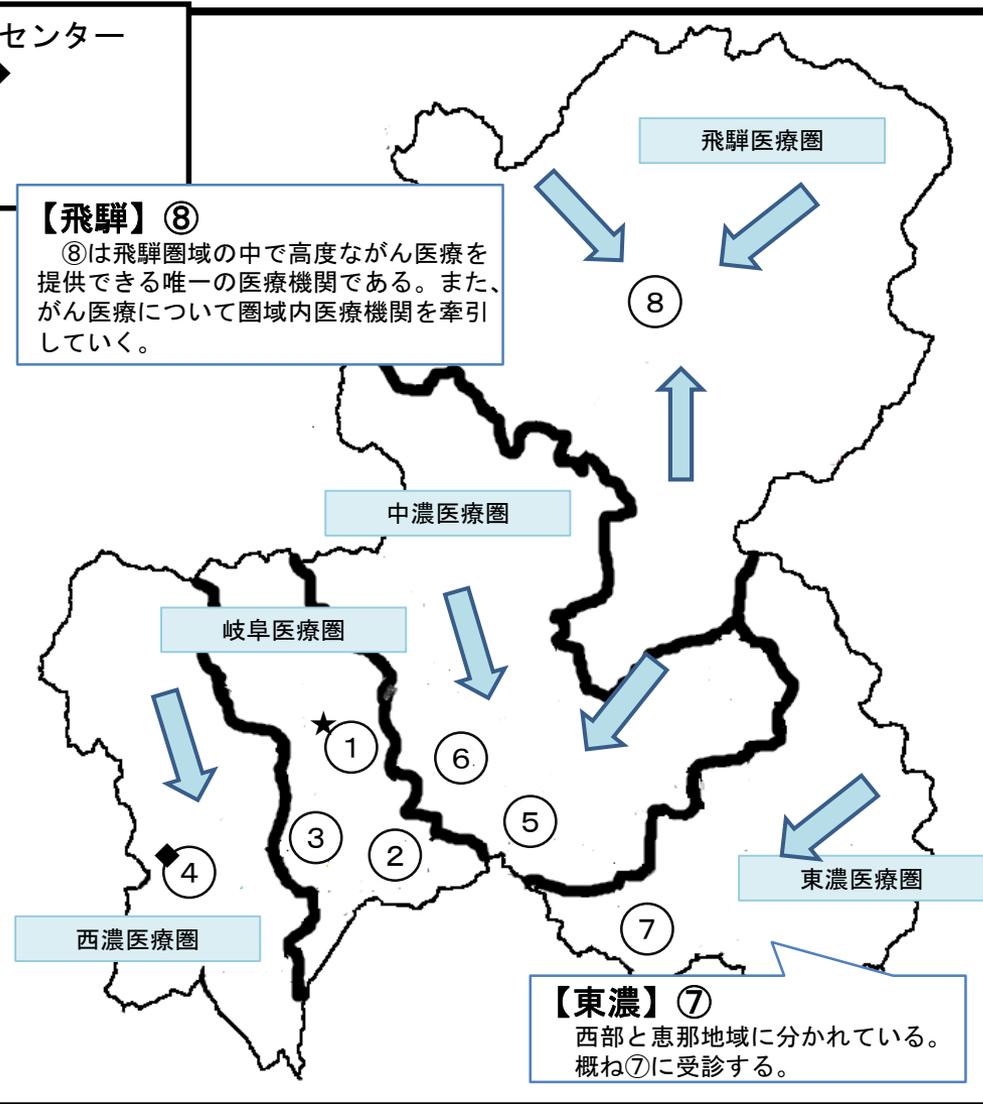
②③は、地域がん診療連携拠点病院として、岐阜圏域及び隣接圏域のがん患者の受入や、①と協力のうへ、圏域内医療機関等を牽引する。

【西濃】④◇

④高度型の指定要件をすべて満たしており、西濃医療圏の医療を担っている。

【飛騨】⑧

⑧は飛騨圏域の中で高度ながん医療を提供できる唯一の医療機関である。また、がん医療について圏域内医療機関を牽引していく。



【東濃】⑦

西部と恵那地域に分かれている。概ね⑦に受診する。

指定推薦等にかかる岐阜県の考え方

1. 基本的な考え方

第7期保健医療計画及び第3次岐阜県がん対策推進計画にある「患者本位のがん医療の実現」に向け、本県におけるがん医療水準の均てん化を図るとともに、がん患者の共住する地域で最適ながん医療及びがん相談支援が受けられるよう、全ての二次医療圏域に1か所以上のがん診療連携拠点病院等を整備することを目指してきました。

令和2年度に、中濃厚生病院が新規指定を受け、さらに大垣市民病院が高度型の指定を受けたことで、県下のがん医療が充実してきました。

2. がん診療連携拠点病院の指定継続の必要性について

県内8拠点病院の院内がん登録数では、令和2年が12,772件で、前年比6.6%減（903件減）であり、全国の4.6%減と同様の傾向であり、新型コロナウイルス感染症による受診控えが懸念されています。

一方で、平成30年と令和2年の「年間外来がん患者延数」を比較すると、8拠点病院中、6拠点病院が増加しています（平均4.4%増）。減少した2拠点病院は、感染症指定医療機関でもあり、がん診療と並行し、コロナ病床を確保し重症患者の診療にも貢献しています。

現行の各拠点病院は、県民にがん医療の中核医療機関として認知され、その機能と役割を有していると推察されます。よって、8拠点病院の指定継続の推薦をします。

静岡県

静岡県 2次医療圏の概要

令和3年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口 密度	病院 数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況 報告 病院数	今回 更新 病院数	新規 申請 病院数	計	現況 報告 病院数	今回 更新 病院数	新規 申請 病院数	現況 報告 病院数	今回 更新 病院数	新規 申請 病院数
賀 茂	583.6	58,446	1.6	100.2	8	0	0	0	0	-	-	-	0	0	0
熱海伊東	185.9	98,469	2.7	529.7	7	0	0	0	0	-	-	-	1	0	0
駿東田方	1,276.9	635,142	17.6	497.4	46	2	0	0	2	-	-	-	0	0	0
富 士	634.0	371,399	10.3	585.8	17	0	0	0	0	-	-	-	1	0	0
静 岡	1,411.8	689,433	19.1	488.3	27	2	0	0	2	-	-	-	0	0	0
志太榛原	1,209.4	449,478	12.5	371.7	13	1	0	0	1	-	-	-	0	0	0
中東遠	831.1	463,167	12.8	557.3	19	0	0	1	1	-	-	-	0	0	0
西 部	1,644.6	844,934	23.4	513.8	34	4	0	0	4	-	-	-	0	0	0
計 (県全体)	7,777.3	3,610,468	100	464.2	171	9	0	1	10	0	0	0	2	0	0

静岡県 令和3年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

- ① 静岡県立静岡がんセンター★（平成31年4月1日）
- ② 順天堂大学医学部附属静岡病院（令和2年4月1日）
- ③ 静岡県立総合病院◇（令和2年4月1日）
- ④ 静岡市立静岡病院（平成31年4月1日）
- ⑤ 藤枝市立総合病院◇（令和2年4月1日）
- ⑥ 磐田市立総合病院（令和2年4月1日）
- ⑦ 聖隷三方原病院（令和2年4月1日）
- ⑧ 聖隷浜松病院（平成31年4月1日）
- ⑨ 浜松医科大学医学部附属病院◇（令和3年4月1日）
- ⑩ 浜松医療センター（平成31年4月1日）
- ①-（1）国際医療福祉大学熱海病院（令和2年4月1日）
- ①-（2）富士市立中央病院（令和2年4月1日）

駿東田方医療圏

病院名	複数必要である理由	機能分担
① 静岡県立静岡がんセンター★	①が県全域をカバーするほか、2病院で駿東田方、賀茂、熱海伊東及び富士医療圏のがん医療を担っているため。	県拠点病院機能全般 県全体の医療連携
② 順天堂大学医学部附属静岡病院		主に伊豆地域の医療連携

志太榛原医療圏

地域医療の中核を担う公立病院の医師不足に伴い、一部が隣接する医療圏等を受診

熱海伊東医療圏

賀茂医療圏及び熱海伊東医療圏のがん患者は駿東田方医療圏へ受診するため、①、②及び①-（1）の病院が駿東田方医療圏、賀茂医療圏及び熱海伊東医療圏をカバーする。

賀茂医療圏 (空白の医療圏)

富士医療圏

富士医療圏のがん患者の一部は隣接医療圏の拠点病院を受診するが、①-（2）の病院を中心にがん医療の診療連携体制の一層の充実・強化を図る。

静岡医療圏

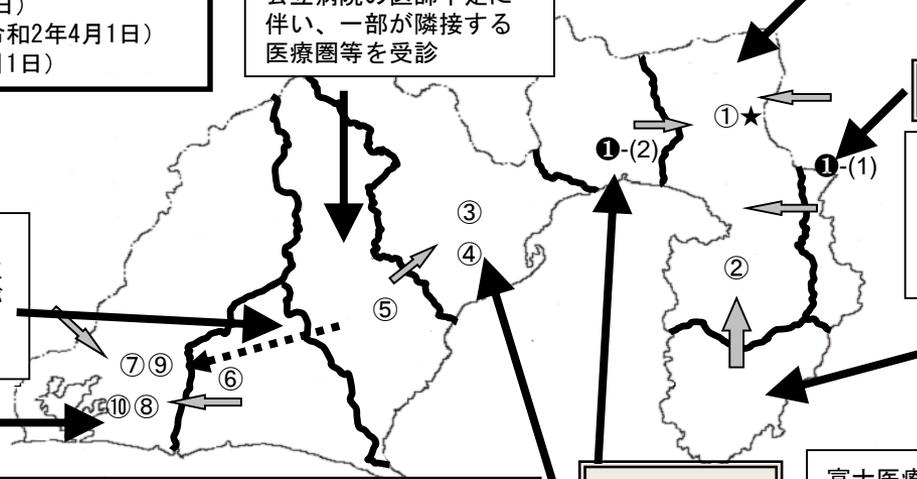
病院名	複数必要である理由	機能分担
③ 静岡県立総合病院	人口約70万人、県内で西部医療圏に次いで2番目に多い医療圏であり、既指定の2病院で約5割のがん患者を受け入れているため。	集学的治療
④ 静岡市立静岡病院		地域連携 共同診療

中東遠医療圏

中東遠医療圏のがん患者の一部は、隣接する西部医療圏の拠点病院を主に受診するが、⑥の病院を中心にがん医療の診療連携体制の一層の充実・強化を図る。

西部医療圏

病院名	複数必要である理由	機能分担
⑦ 聖隷三方原病院	人口約85万人と県内医療圏で最も多く、また、地形も南北に広いことから、既指定の4つの拠点病院が連携し、それぞれの特長を活かしながら機能等を分担し、がん医療体制を維持しているため。	地域における緩和ケアネットワークの構築（在宅緩和ケア）
⑧ 聖隷浜松病院		多職種チーム医療による集学的治療の実践（手術療法、放射線療法等）
⑨ 浜松医科大学医学部附属病院		がん専門医の育成と医師派遣（がんプロ、医師派遣、臨床試験）
⑩ 浜松医療センター		地域連携（在宅医療）体制の構築（共同診療、病診連携、就労支援）



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料 3-1-①

()内は令和2年10月提出の数値、下段は令和3年11月提出の数値 ★:都道府県拠点 ◇:地域拠点病院(高度型)

医療圏名	申請区分	類型	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録 500件以上	手術件数 悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	がんに係る薬物療法 のべ患者数(年間) 1000人以上	放射線治療 のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケア 緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	診療の割合 当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談支援センター 相談件数(年間)
				年間入院がん患者数	年間入院患者数に占めるがん患者の割合(%)							
1 駿東田方	★	現況	県立静岡がんセンター	14,386	95.9	(5,424)	(4,525)	(10,883)	(2,061)	(419)	(30)	(14,025)
						5,151	4,394	9,115	1,999	1,202	31	12,404
2 駿東田方		現況	順天堂大学医学部附属静岡病院	3,182	20.4	(1,319)	(937)	(1,416)	(289)	(140)	(16)	(1,766)
						1,291	920	1,396	299	186	18	993
3 静岡	◇	現況	静岡県立総合病院	5,209	31.2	(2,750)	(1,842)	(3,733)	(798)	(399)	(37)	(4,749)
						2,646	1,654	3,844	830	500	36	4,514
4 静岡		現況	静岡市立静岡病院	2,045	17.4	(1,340)	(914)	(1,438)	(348)	(88)	(17)	(3,487)
						1,294	803	1,383	395	57	9	2,781
5 志太榛原	◇	現況	藤枝市立総合病院	2,139	17.7	(1,065)	(830)	(1,030)	(430)	(184)	(24)	(1,648)
						973	681	1,185	481	123	22	1,911
6 中東遠	◇	新規	磐田市立総合病院	2,090	17.6	(1,260)	(822)	(1,420)	(437)	(164)	(33)	(2,564)
						1,120	755	1,609	440	181	34	2,387
7 西部		現況	聖隷三方原病院	4,116	27.0	(1,298)	(791)	(1,343)	(379)	(315)	(23)	(2,079)
						1,259	767	1,320	332	273	21	2,292
8 西部		現況	聖隷浜松病院	4,075	19.8	(1,798)	(1,454)	(1,972)	(535)	(292)	(22)	(4,039)
						1,853	1,530	1,982	597	250	22	4,478
9 西部	◇	現況	浜松医科大学医学部附属病院	3,874	26.3	(1,703)	(1,050)	(1,785)	(561)	(180)	(20)	(2,297)
						1,616	1,120	2,515	625	252	27	3,740
10 西部		現況	浜松医療センター	2,331	16.9	(967)	(579)	(1,574)	(254)	(254)	(16)	(3,192)
						975	591	1,599	240	244	16	1,797

地域がん診療病院の診療実績等

・()内は令和2年10月提出の数値、下段は令和3年11月提出の数値

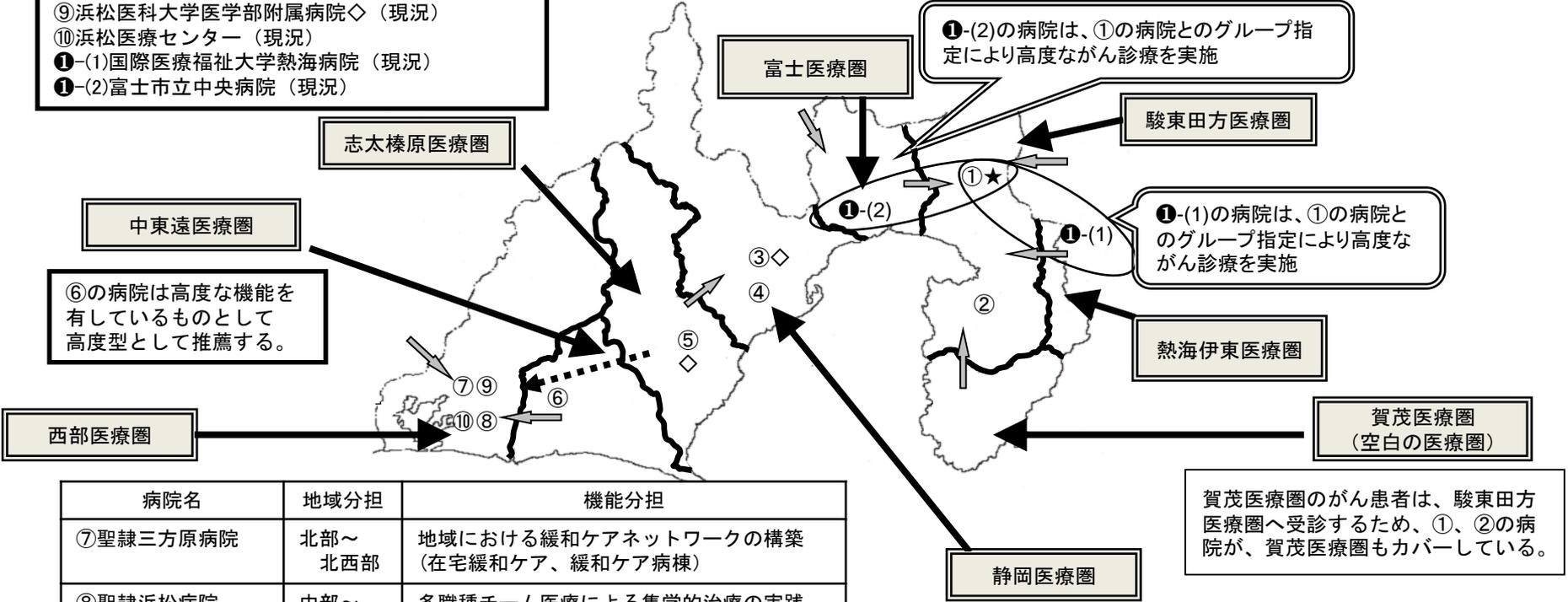
	医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				年間入院がん患者数	年間入院患者数に占めるがん患者の割合(%)						
①	熱海伊東	更新	国際医療福祉大学熱海病院	825	15.6	(371) 424	(237) 255	(1,931) 2,364	(実施なし) 実施なし	(58) 53	(865) 1,001
②	富士	更新	富士市立中央病院	1,886	17.9	(810) 804	(596) 595	(1,132) 1,100	(151) 140	(134) 108	(941) 789

静岡県 令和3年度の指定推薦状況と想定される患者受療動向

資料4

- ①静岡県立静岡がんセンター★（現況）
- ②順天堂大学医学部附属静岡病院（現況）
- ③静岡県立総合病院◇（現況）
- ④静岡市立静岡病院（現況）
- ⑤藤枝市立総合病院◇（現況）
- ⑥磐田市立総合病院◇（新規）
- ⑦聖隷三方原病院（現況）
- ⑧聖隷浜松病院（現況）
- ⑨浜松医科大学医学部附属病院◇（現況）
- ⑩浜松医療センター（現況）
- ①-①国際医療福祉大学熱海病院（現況）
- ①-②富士市立中央病院（現況）

病院名	地域分担	機能分担
①静岡県立静岡がんセンター★	①が県全域をカバーするほか、当該2病院で駿東田方、賀茂及び熱海伊東医療圏における連携体制の充実・強化を図る。	県拠点病院機能全般 県全体の医療連携 ①-①及び①-②のグループ指定先病院
②順天堂大学医学部附属静岡病院		主に伊豆地域の医療連携



病院名	地域分担	機能分担
⑦聖隷三方原病院	北部～北西部	地域における緩和ケアネットワークの構築（在宅緩和ケア、緩和ケア病棟）
⑧聖隷浜松病院	中部～南東部	多職種チーム医療による集学的治療の実践（手術療法、放射線療法、化学療法）
⑨浜松医科大学医学部附属病院	東部～北東部	がん専門医の育成と医師派遣（がんプロフェッショナル養成、医師派遣、臨床試験）
⑩浜松医療センター	西部～南西部	地域連携（在宅医療）体制の構築（共同診療、病診連携）

病院名	地域分担	機能分担
③静岡県立総合病院◇	中心部～北部 隣接医療圏の一部	集学的治療
④静岡市立静岡病院	中心部～南部	地域連携 共同診療

静岡県 令和3年度指定推薦の考え方

資料5-①

○ 第3次静岡県がん対策推進計画におけるがん診療連携拠点病院等の位置付け

これまで県では、県民がどこに住んでいても質の高いがん医療が受けられるように2次医療圏ごとにがん診療連携拠点病院等を整備することを目標とし、医療体制の整備を進めてきたところである。

第3次静岡県がん対策推進計画（計画期間：2018年度～2023年度）では、がん診療連携拠点病院及び地域がん診療病院が県指定のがん診療連携推進病院等と連携することにより、地域差のないがん対策を進めることとしており、既存の国指定12病院が今後も国の指定要件を満たすことを目標の1つとして設定している。

第3次静岡県がん対策推進計画

Ⅱ 患者一人ひとりに合わせたがん医療の実現

5 がん診療連携拠点病院等の整備

【目標】

県内のがん診療連携拠点病院等12病院は、今後も新しい国指定要件を満たします。

項目	現状値 (2017年)	目標値 (2023年)
国指定要件を満たす がん診療連携拠点病院及び 地域がん診療病院の数	12施設	12施設

○ 国指定病院が空白の2次医療圏について

「空白の医療圏」である賀茂医療圏については、現在、隣接する医療圏の拠点病院ががん医療を担っているが、将来的に当該医療圏の医療機関が、「地域がん診療病院」の指定要件を満たせるよう、引き続き支援していく。

静岡県 令和3年度指定推薦の考え方

資料5-②

○ 地域がん診療連携拠点病院(高度型)の指定推薦について

<推薦方針>

指定要件をすべて満たす場合、地域がん診療連携拠点病院(高度型)として推薦する。

<推薦する医療機関>

地域がん診療連携拠点病院から地域がん診療連携拠点病院(高度型)へ指定類型を変更して新規指定

医療機関名	2医療圏
磐田市立総合病院	中東遠

<推薦理由>

磐田市立総合病院は、中東遠医療圏で唯一、地域がん診療連携拠点病院として指定されており、地域がん診療連携拠点病院(高度型)の指定要件を全て満たしていると判断したため。

愛 知 県

愛知県がんの医療圏の概要

令和3年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
名古屋・尾張中部	368.35	2,497,372	33.2	6779.9	125	8	0	0	8	0	0	0	0	0	0
海部	208.38	323,684	4.3	1553.3	11	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
尾張東部	230.14	476,562	6.3	2070.7	19	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0
尾張西部	193.17	512,492	6.8	2653.1	20	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
尾張北部	295.96	733,194	9.7	2477.3	26	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
知多半島	392.2	625,729	8.3	1595.4	19	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
西三河北部	950.51	481,744	6.4	506.8	20	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
西三河南部東	443.92	426,724	5.7	961.3	16	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
西三河南部西	363.76	700,785	9.3	1926.5	22	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
東三河北部	1052.43	51,784	0.7	49.2	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東三河南部	671.04	692,344	9.2	1031.7	37	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
計	5169.86	7,522,414	100	1457.4	318	19	0	0	19	0	0	0	0	0	0

※面積：所属未定地は各医療圏値に含んでいないため、各医療圏値の合計と一致しない。

愛知県 令和3年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★: 都道府県拠点 ◇: 地域拠点 (高度型)

①は都道府県拠点病院として、県のがん医療を牽引し、②、④の大学病院は、豊富な人材と高度な診療能力を活かし、全県的に患者を受け入れ、人材育成、診療支援など、①を補佐する役割を担う。

人口が集中した都市部の医療圏の概ね東西南北を③⑥⑧⑤⑦が担当し、更に、近隣医療圏から流入する患者を受け入れる。

⑦は陽子線治療の拠点として県全体をカバーする。

また、それぞれの得意な分野で、地域にとどまらず県全体のがん医療の中核的な役割を担う。

名古屋・尾張中部医療圏

- ①愛知県がんセンター★ (平成31年4月1日)
- ②名古屋大学医学部附属病院 (平成31年4月1日)
- ③日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 (平成31年4月1日)
- ④名古屋市立大学病院 (平成31年4月1日)
- ⑤名古屋医療センター (令和2年4月1日)
- ⑥日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 (令和2年4月1日)
- ⑦名古屋市立大学医学部附属西部医療センター (平成31年4月1日)
- ⑧地域医療推進機構中京病院 (平成31年4月1日)
- ⑨厚生連 海南病院 (平成31年4月1日)
- ⑩藤田医科大学病院◇ (平成31年4月1日)
- ⑪愛知医科大学病院 (平成31年4月1日)
- ⑫公立陶生病院 (平成31年4月1日)
- ⑬一宮市立市民病院 (平成31年4月1日)
- ⑭小牧市民病院 (平成31年4月1日)
- ⑮半田市立半田病院 (令和2年4月1日)
- ⑯厚生連 豊田厚生病院 (令和2年4月1日)
- ⑰岡崎市民病院 (平成31年4月1日)
- ⑱厚生連 安城更生病院 (平成31年4月1日)
- ⑲豊橋市民病院 (令和2年4月1日)



⑩、⑪の大学病院はその豊富な人材と高度な診療能力を活かし、全県的に患者を受け入れ、人材育成、診療支援など、①を補佐する役割を担う。

⑩は県内トップクラスの診療実績を誇り、高度型として役割を果たす。
⑫は、地域医療支援病院、地域密着型病院として当該医療圏の患者を主に診療し、地域医療機関の相談室への支援を始めた、医療連携を推進する。

東三河北部医療圏に住むがん患者は主に東三河南部医療圏へ受診するため、⑲の病院でカバーする。

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①-1

- ・()内は令和元年の数値(平成31年1月1日～令和元年12月31日)、下段は令和3年10月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
- ・★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点
- ・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				年間入院がん患者延べ数	年間入院患者延べ数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1 名古屋・尾張中部	★	現況	愛知県がんセンター	(10,101) 9,234	(90.0) 91.9	(2,979) 2,786	(2,602) 1,882	(6,112) 6,209	(1,110) 1,070	(589) 628	(6) 6	(5,223) 4,219
2 名古屋・尾張中部		現況	名古屋大学医学部附属病院	(9,330) 7,965	(43.1) 36.3	(3,080) 2,664	(2,905) 2,041	(3,360) 3,241	(746) 826	(172) 183	(20) 15	(1,408) 823
3 名古屋・尾張中部		現況	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院	(5,860) 5,545	(27.1) 29.1	(2,393) 2,239	(1,729) 1,656	(3,189) 2,702	(640) 576	(276) 218	(10) 2	(4,026) 4,565
4 名古屋・尾張中部		現況	名古屋市立大学病院	(5,980) 6,256	(33.0) 34.4	(2,612) 2,362	(855) 1,872	(2,004) 1,944	(688) 724	(530) 446	(13) 10	(564) 664
5 名古屋・尾張中部		現況	名古屋医療センター	(3,239) 3,264	(22.7) 23.8	(1,928) 1,765	(801) 754	(2,302) 2,218	(321) 298	(397) 424	(5) 4	(3,389) 3,947
6 名古屋・尾張中部		現況	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院	(3,873) 3,536	(15.8) 16.8	(2,377) 2,015	(1,039) 1,206	(1,777) 1,626	(407) 395	(163) 120	(3) 2	(743) 412
7 名古屋・尾張中部		現況	名古屋市立大学医学部附属西部医療センター	(3,838) 3,819	(27.7) 30.2	(1,734) 1,198	(808) 812	(1,864) 1,863	(932) 1,060	(134) 132	(6) 6	(1,043) 888
8 名古屋・尾張中部		現況	中京病院	(2,799) 2,708	(17.8) 19.5	(1,194) 989	(833) 752	(1,324) 1,370	(240) 302	(62) 76	(6) 4	(2,350) 1,851
9 海部		現況	海南病院	(2,442) 2,767	(18.0) 21.4	(1,296) 1,324	(840) 693	(1,419) 6,842	(316) 400	(270) 263	(60) 61	(1,963) 1,058
10 尾張東部	◇	現況	藤田医科大学病院	(7,120) 7,014	(23.1) 23.6	(3,182) 3,088	(1,413) 1,938	(3,756) 4,389	(795) 987	(620) 636	(15) 15	(5,113) 5,169

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①-1

- ・()内は令和元年の数値(平成31年1月1日～令和元年12月31日)、下段は令和3年10月提出の数値
 - ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
 - ・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)
- ★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					年間入院がん患者延べ数	年間入院患者延べ数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
11	尾張東部		現況	愛知医科大学病院	(3,661) 3,756	(15.0) 16.5	(2,163) 2,134	(1,140) 1,163	(2,184) 2,326	(655) 611	(408) 398	(38) 18	(3,216) 3,951
12	尾張東部		現況	公立陶生病院	(3,380) 3,288	(20.6) 21.8	(1,450) 1,266	(755) 707	(1,160) 1,348	(212) 223	(399) 328	(35) 34	(2,107) 2,239
13	尾張西部		現況	一宮市民病院	(2,594) 2,411	(17.3) 18.3	(1,506) 1,250	(579) 549	(1,223) 1,033	(430) 381	(140) 131	(27) 25	(1,470) 1,313
14	尾張北部		現況	小牧市民病院	(3,335) 3,195	(23.6) 24.6	(1,822) 1,841	(975) 1,235	(1,268) 1,243	(507) 472	(363) 354	(19) 19	(362) 390
15	知多半島		現況	半田市立半田病院	(1,407) 2,006	(11.0) 18.9	(1,397) 994	(724) 621	(968) 1,033	(230) 233	(63) 88	(29) 27	(1,281) 1,565
16	西三河北部		現況	豊田厚生病院	(3,179) 3,095	(18.2) 18.4	(1,655) 1,634	(1,175) 1,134	(1,749) 1,967	(334) 299	(148) 163	(35) 34	(3,011) 2,576
17	西三河南部東		現況	岡崎市民病院	(2,839) 1,957	(16.2) 12.4	(1,776) 1,551	(945) 981	(1,712) 1,911	(316) 326	(261) 218	(39) 36	(845) 1,569
18	西三河南部西		現況	安城更生病院	(7,259) 7,557	(34.2) 37.2	(2,541) 2,077	(1,468) 1,211	(3,014) 3,127	(409) 466	(281) 267	(23) 45	(2,454) 2,402
19	東三河南部		現況	豊橋市民病院	(2,622) 4,667	(12.6) 24.6	(2,653) 2,299	(1,361) 1,298	(2,966) 2,841	(654) 671	(105) 153	(21) 30	(1,505) 1,353

愛知県 令和4年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型)

①は都道府県拠点病院として、県のがん医療を牽引し、②、④の大学病院は、豊富な人材と高度な診療能力を活かし、全県的に患者を受け入れ、人材育成、診療支援など、①を補佐する役割を担う。

人口が集中した都市部の医療圏の概ね東西南北を③⑥⑧⑤⑦が担当し、更に、近隣医療圏から流入する患者を受け入れる。

⑦は陽子線治療の拠点として県全体をカバーする。

また、それぞれの得意な分野で、地域にとどまらず県全体のがん医療の中核的な役割を担う。

名古屋・尾張中部医療圏

- ①愛知県がんセンター★(現況)
- ②名古屋大学医学部附属病院(現況)
- ③日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院(現況)
- ④名古屋市立大学病院(現況)
- ⑤名古屋医療センター(現況)
- ⑥日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院(現況)
- ⑦名古屋市立大学医学部附属西部医療センター(現況)
- ⑧地域医療推進機構中京病院(現況)
- ⑨厚生連 海南病院(現況)
- ⑩藤田医科大学病院◇(現況)
- ⑪愛知医科大学病院(現況)
- ⑫公立陶生病院(現況)
- ⑬一宮市立市民病院(現況)
- ⑭小牧市立市民病院(現況)
- ⑮半田市立半田病院(現況)
- ⑯厚生連 豊田厚生病院(現況)
- ⑰岡崎市民病院(現況)
- ⑱厚生連 安城更生病院(現況)
- ⑲豊橋市民病院(現況)

⑩、⑪の大学病院はその豊富な人材と高度な診療能力を活かし、全県的に患者を受け入れ、人材育成、診療支援など、①を補佐する役割を担う。

⑩は県内トップクラスの診療実績を誇り、高度型として役割を果たす。

⑫は、地域医療支援病院、地域密着型病院として当該医療圏の患者を主に診療し、地域医療機関の相談室への支援を始めとした、医療連携を推進する。



東三河北部医療圏に住むがん患者は主に東三河南部医療圏へ受診するため、⑲の病院でカバーする。

愛知県の拠点病院推薦にあたっての考え方

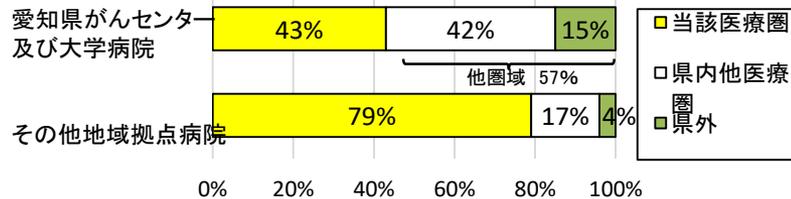
愛知県の地域特性

- ◇県の人口 約752万人(5年間で約2万人増加)
- ◇新規がん患者数 約5.0万人(5年間で約0.8万人増加)
- ◇名古屋・尾張中部医療圏の人口 約250万人(県人口の3分の1)
←全国平均37万人の約6.8倍
- ◇上記以外の2次医療圏の平均人口 約50万人 ←全国の約1.36倍

課題1

- ・都市部に人口が集中している
- ・人口に対し拠点病院が足りない

≪都道府県拠点である「愛知県がんセンター」及び大学病院であるがん診療連携拠点病院の入院患者の受け入れ割合≫



課題2

- ・大学病院が都市部及び近郊に集中している
- ・愛知県がんセンター及び大学病院へ他圏域から高度な医療を求めて患者が流入している

拠点病院の整備指針

県内どこに住んでいても病状に応じた適切ながん治療や緩和ケアを受けられるがん対策を推進するため、高度な医療を有する都道府県拠点病院と大学病院が地域の拠点病院を支援し、がん医療の均てん化を図る。

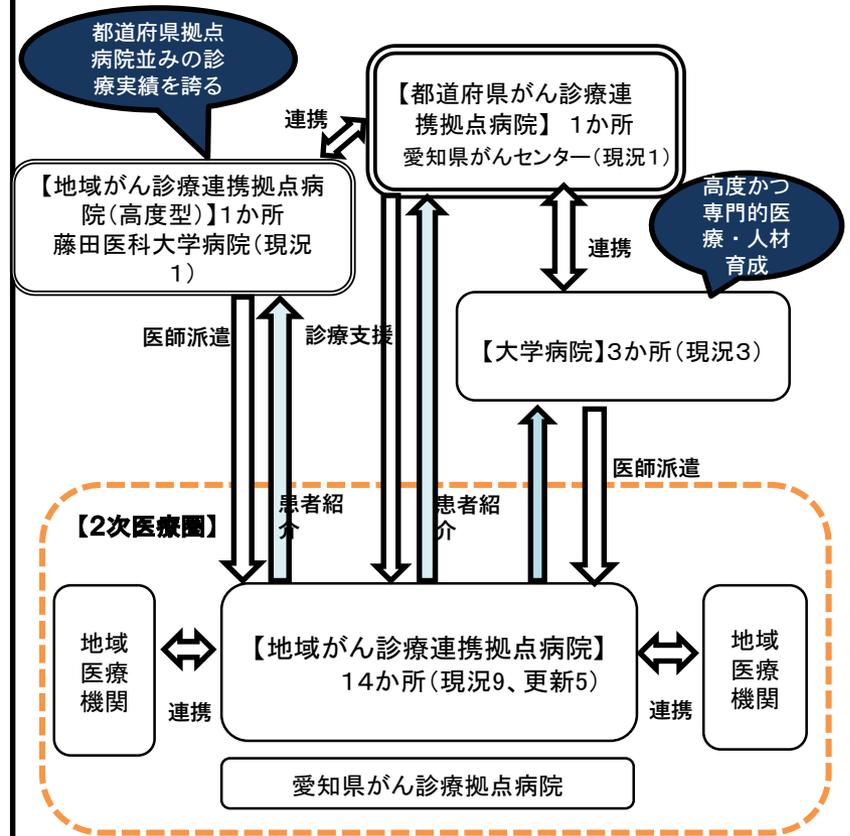
≪必要拠点病院数≫

- 名古屋・尾張中部医療圏 人口249万人÷37万人=6.7か所
 - 上記以外の2次医療圏 人口506万人÷37万人=13.6か所
- 合計 20か所

現在、拠点病院は19か所であるが、さらに質の高いがん医療を提供するためには20か所必要

がん拠点病院の役割分担

- 都道府県拠点病院：拠点病院の統括
 - 大学病院：高度かつ専門的な医療の提供
 - その他の拠点病院：地域の患者の生活環境に合わせた医療の提供
- 全県的な拠点



三重県

三重県がんの医療圏の概要

令和3年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
北勢	1,108.6	829,532	47.2	748.2	42	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0
中勢伊賀	1,399.2	436,566	24.8	312.0	28	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
南勢志摩	2,276.3	427,828	24.3	188.0	19	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0
東紀州	990.3	63,960	3.6	64.6	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	5,777.4	1,768,632	100.0	304.4	94	5	0	0	5	0	0	0	0	0	0

三重県 令和3年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★: 都道府県拠点 ◇: 地域拠点(高度型) ◎: 特定領域拠点

がん患者の受療動向

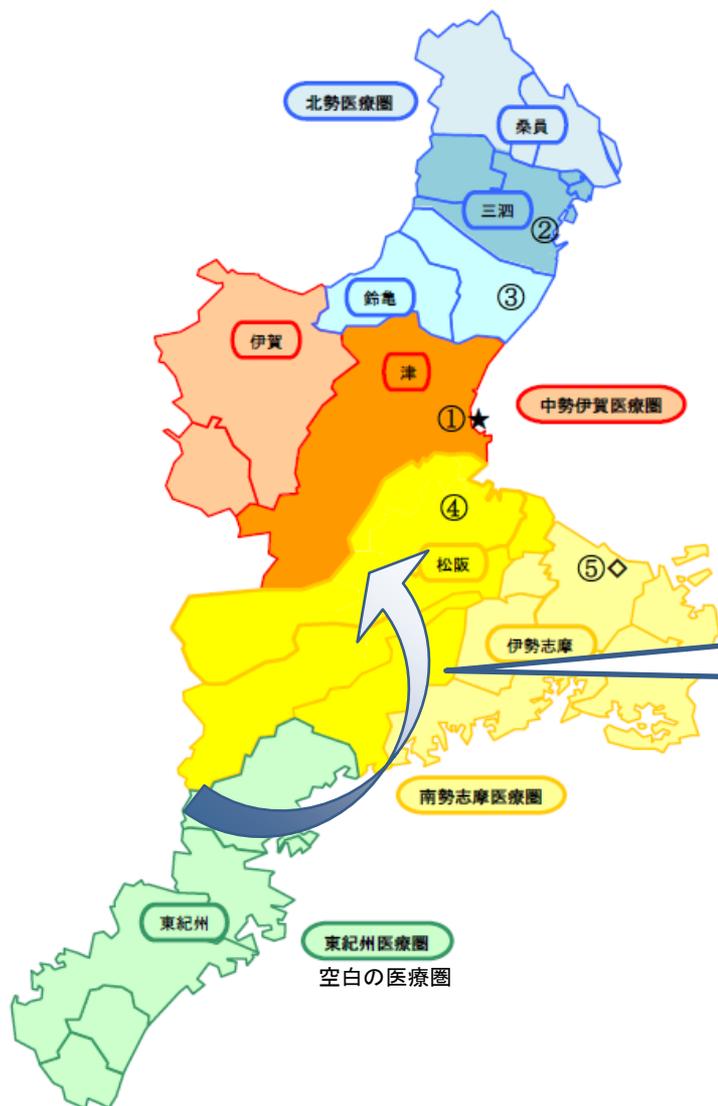
拠点病院のない空白の医療圏である東紀州医療圏の圏外への流出割合が高くなっています。また、北勢医療圏、中勢伊賀医療圏では、県外への流出割合が高い状況にあります。

流出状況

医療圏名	(入院(県外分) : 外来(県外分))
北勢医療圏	(18.2% (10.9%) : 14.4% (9.5%))
中勢伊賀医療圏	(16.5% (9.7%) : 14.7% (8.5%))
南勢志摩医療圏	(7.8% (0.9%) : 5.9% (1.3%))
東紀州医療圏	(44.4% (8.6%) : 33.6% (14.9%))

東紀州医療圏に住むがん患者は、南勢志摩医療圏へ受診するため、おもに④の病院でカバーしている。

※ 桑員、三泗、鈴亀、津、伊賀、松阪、伊勢志摩、東紀州は地域医療構想区域



- ①三重大学医学部附属病院★ (平成31年4月1日)
 ②市立四日市病院 (平成31年4月1日)
 ③鈴鹿中央総合病院 (平成31年4月1日)
 ④松阪中央総合病院 (平成31年4月1日)

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

・()内は令和2年10月提出の数値、下段は令和3年10月提出の数値

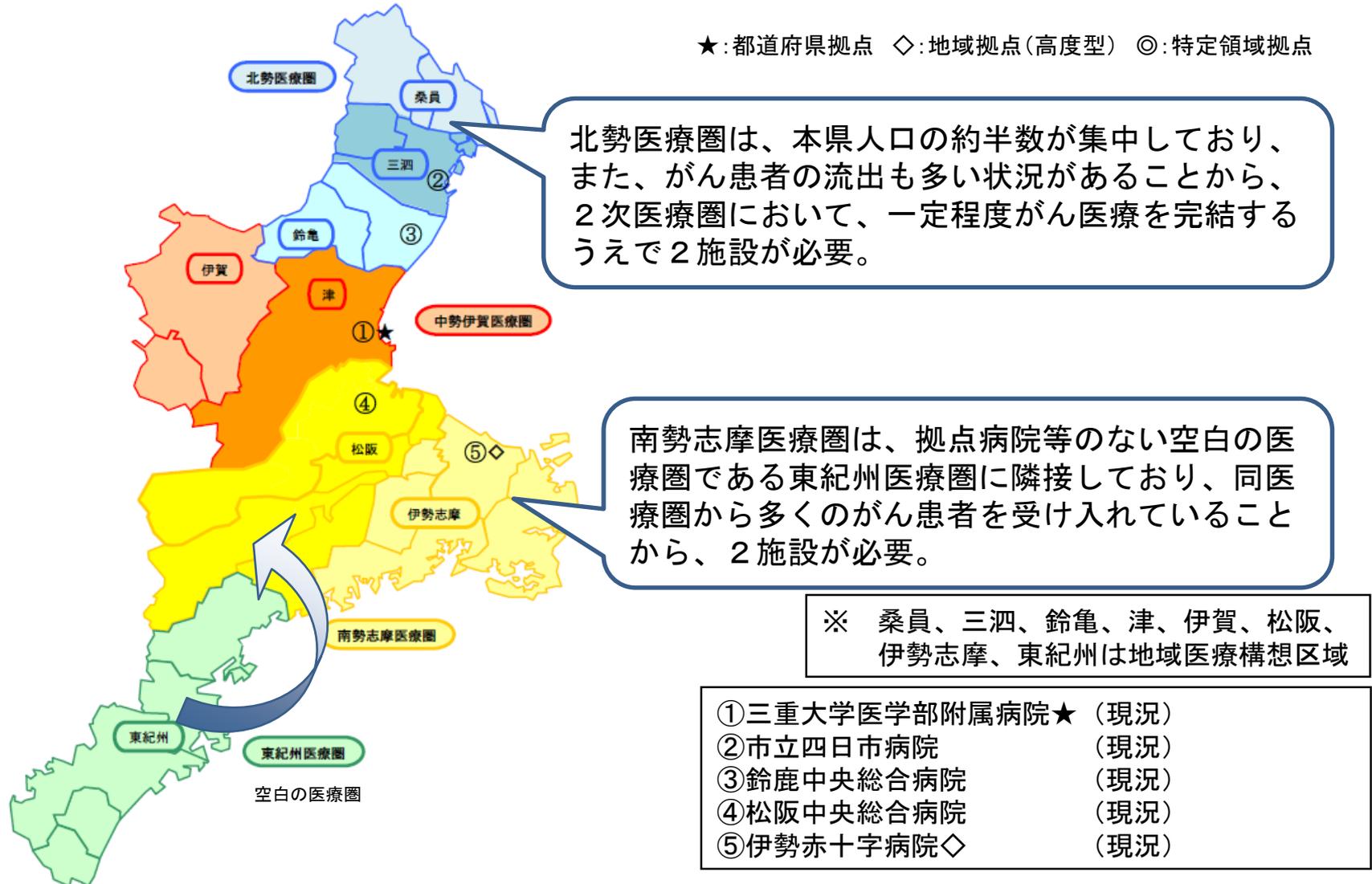
★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合
					院内がん登録数 (年間) <u>500件以上</u>	悪性腫瘍の手術件数 (年間) <u>400件以上</u>	のべ患者数 (年間) <u>1000人以上</u>	のべ患者数 (年間) <u>200人以上</u>	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数 (年間) <u>50件以上</u>	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) <u>2割程度</u>
1	中勢伊賀	★	現況	三重大学医学部附属病院	(2756) 2667	(2289) 2214	(2693) 2893	(792) 793	(543) 423	36
2	北勢		現況	市立四日市病院	(1554) 1506	(1253) 1212	(1659) 1800	(237) 237	(81) 94	21
3	北勢		現況	鈴鹿中央総合病院	(1003) 1117	(649) 518	(1046) 1068	(207) 232	(100) 57	19
4	南勢志摩		現況	松阪中央総合病院	(982) 962	(513) 500	(1039) 1016	(259) 244	(62) 57	13
5	南勢志摩	◇	現況	伊勢赤十字病院	(1954) 1871	(1263) 1213	(1676) 1592	(369) 336	(118) 246	30

三重県 令和3年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



今回の指定推薦等に係る三重県の考え方について

本県では、県内5施設のがん診療連携拠点病院を中心として各医療機関の連携による医療提供体制の整備・充実に取り組んでいますが、がん医療の均てん化を図る観点から、がんの医療圏は4つの2次医療圏を細分化した地域医療構想区域（桑員、三泗、鈴亀、津、伊賀、松阪、伊勢志摩、東紀州）を基本とし、県独自のがん診療指定制度も設けている一方、高度医療・希少がん診療については集約化の観点から、全県域を中心にがん診療連携体制の構築を図ることが適切と考えます。

引き続き、がん診療連携体制の構築に努めるとともに、がん医療が高度化、複雑化してきていることを踏まえ、高度の専門性を必要とする医療の一定の集約化を行うなど、すべての県民が身近な地域においてより質の高いがん治療が受けられる体制づくりを推進することを目指します。

1 がん診療連携体制の整備にかかる課題

(1) 地勢上の特性

本県は南北に長い地勢であることに加え、一定規模の人口を擁する都市が長軸方向に点在しており、各地域で一定の生活圏が形成される傾向にあります。

(2) 医療圏ごとの人口割合

北勢医療圏の人口が県内人口の約47%を占める一方、東紀州医療圏の人口割合は約4%と大きな隔たりがあるなど、医療圏ごとに対策を講じることが必要です。

(3) 受療動向

患者流出率は入院で16.4%、外来で13.1%（厚生労働省「NDB」平成27年度）と高い状況にあります。

県民に、居住する地域で質の高いがん医療を提供するため、一定の診療実績を有する医療機関に医療資源を一定程度集約化し、地域の拠点としての役割を担えるよう環境を整えることが必要です。

2 医療圏ごとの体制整備の考え方

これらの状況や課題に鑑み、各医療圏の特性を踏まえて拠点となる医療機関を整備することで、県内全域のがん診療提供体制の強化を図ります。

【北勢医療圏】

本県人口の約47%が居住する人口集中地域で、桑員、三泗、鈴亀それぞれの区域で一定の生活圏が形成されていることから、複数の拠点病院が連携してがん医療を提供することが必要です。

市立四日市病院は主に三泗区域、桑員区域、鈴鹿中央総合病院は主に鈴亀区域のがん医療を担っています。

【中勢伊賀医療圏】

三重大学医学部附属病院が、県がん診療連携拠点病院として、高度の専門性を必要とするがん患者の受入など中心的な役割を担っています。

【南勢志摩医療圏】

空白の医療圏である東紀州医療圏に隣接しており、同医療圏から多くのがん患者を受け入れているため、その補完的な役割を担うことが必要です。

松阪中央総合病院は松阪区域に加え東紀州医療圏のがん医療を補完する役割を担い、伊勢赤十字病院は地域に離島や多くの中山間地域を含む伊勢志摩区域において医療を提供する役割を担っています。

【東紀州医療圏】

拠点病院等のない空白の医療圏で、高齢化の進行に伴う医療需要への対応が求められます。当面は隣接する医療圏の松阪中央総合病院などを中心にがん医療を提供するとともに、将来的にはそれらと連携した地域がん診療病院の整備等を検討する必要があります。

滋 賀 県

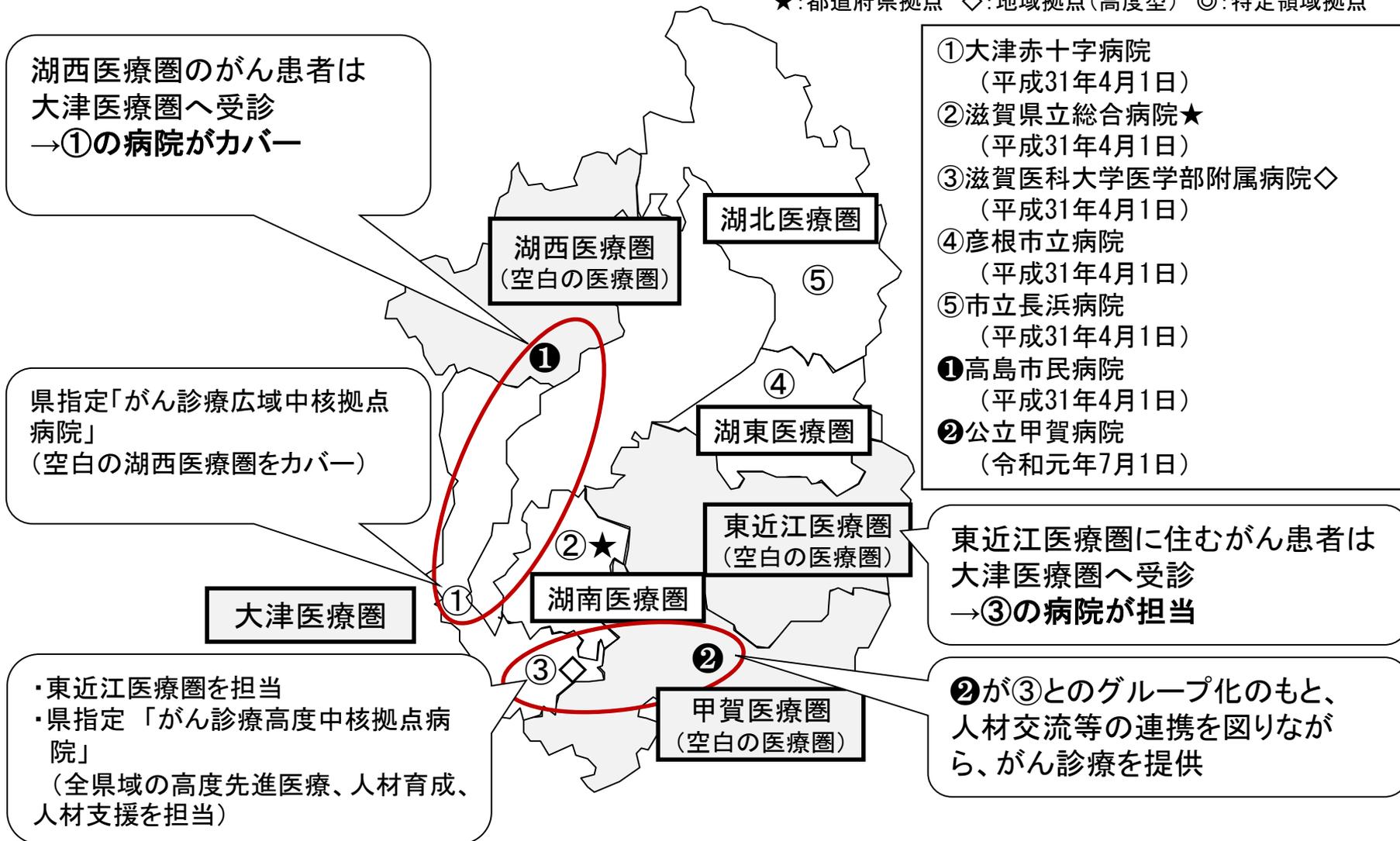
滋賀県 がんの医療圏の概要

令和3年9月1日現在

2次医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院			特定領域がん診療連 携拠点病院		地域がん診療病院			
						既指定 病院数	今回更新 病院数	計	既指定 病院数	計	既指定 病院数	今回更新 病院数	計	
大津保健医療圏	464.51	342,552	24.3	737.4	15	2		2		0				0
湖南保健医療圏	256.39	347,668	24.7	1356.0	13	1		1		0				0
甲賀保健医療圏	552.02	142,262	10.1	257.7	7			0		0	1			1
東近江保健医療圏	727.97	226,259	16.1	310.8	11			0		0				0
湖東保健医療圏	392.04	154,586	11.0	394.3	4	1		1		0				0
湖北保健医療圏	931.4	150,266	10.7	161.3	4	1		1		0				0
湖西保健医療圏	693.05	45,872	3.3	66.2	3			0		0	1			1
								0		0				0
計	4017.38	1,409,465	100	3283.8141	57	5	0	5	0	0	2	0		2

滋賀県 令和2年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★: 都道府県拠点 ◇: 地域拠点(高度型) ◎: 特定領域拠点



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

- ・()内は令和2年10月提出の数値、下段は令和3年10月提出の数値
 - ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
 - ・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)
- ★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1		現況	大津赤十字病院	3328	22.2	(1562) 1382	(680) 732	(1311) 1334	(353) 311	(169) 240	(34) 32	(814) 853
2	★	現況	滋賀県立総合病院	3074	34.6	(1559) 1518	(1042) 840	(1425) 1772	(506) 465	(258) 216	(24) 24	(2574) 2120
3	◇	現況	滋賀医科大学医学部附属病院	3038	23.2	(1487) 1246	(1164) 1117	(1809) 2084	(576) 651	(120) 114	(11) 11	(214) 189
4		現況	彦根市立病院	792	9.6	(680) 679	(407) 321	(1276) 1194	(163) 120	(59) 55	(23) 26	(1053) 634
5		現況	市立長浜病院	1475	17.8	(717) 607	(419) 398	(831) 876	(234) 246	(67) 44	(39) 37	(1567) 1082

地域がん診療病院の診療実績等

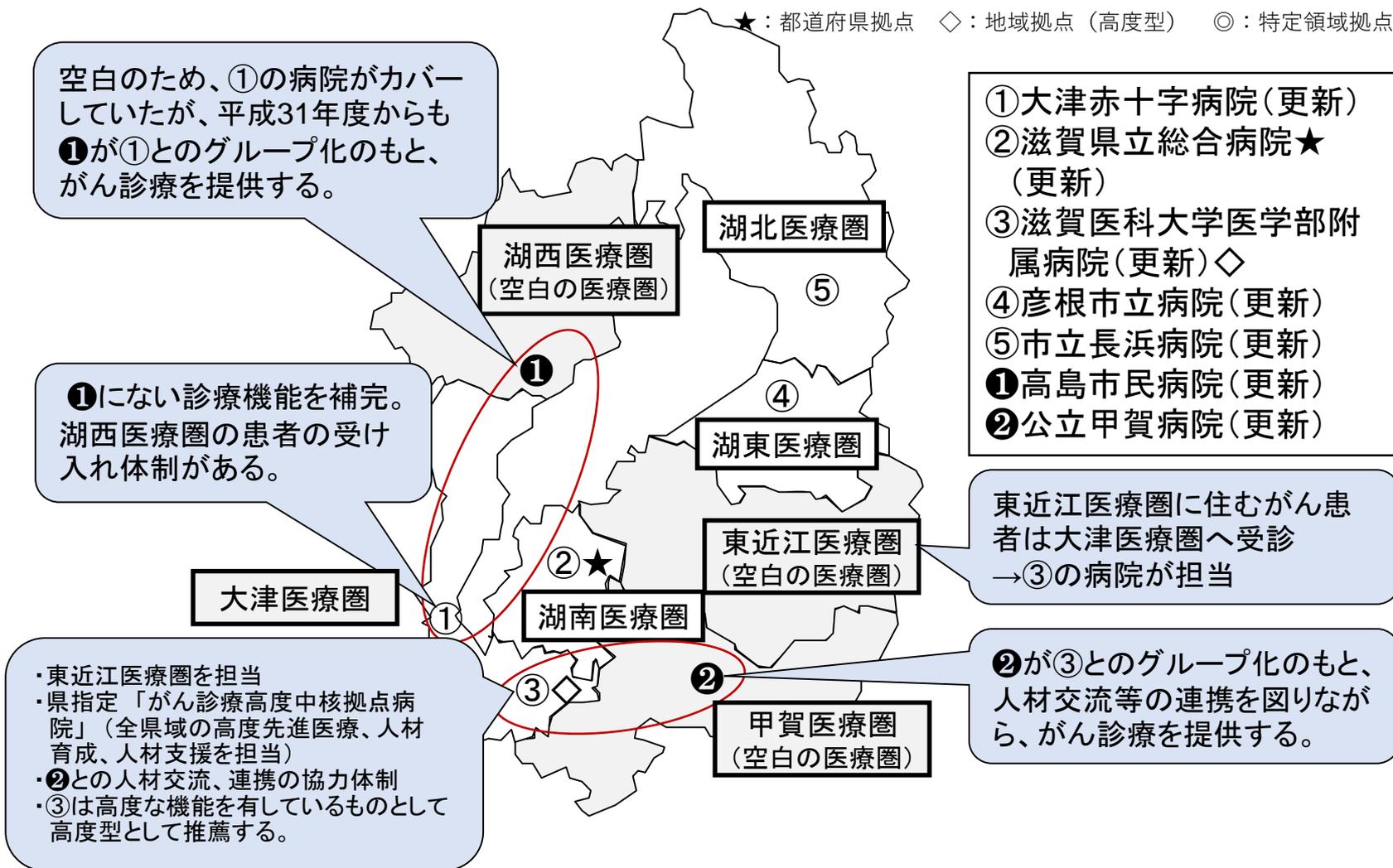
資料3-2

- ・上段は令和2年10月提出の数値、下段は令和3年10月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療(実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間)	悪性腫瘍手術総数(年間)	のべ患者数(年間)	のべ患者数(年間)	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間)	相談件数(年間)
①		現況	高島市民病院	367	0.7	(273) 167	(74) 64	(339) 342	(0) 0	(20) 20	(200) 285
②		現況	公立甲賀病院	1509	22.2	(812) 648	(364) 405	(200) 1446	(134) 161	(142) 155	(1109) 899

滋賀県 令和3年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★：都道府県拠点 ◇：地域拠点（高度型） ◎：特定領域拠点



滋賀県 指定推薦に係る考え方について（1）

1. がんに関する現状

本県において、がんは昭和56年から死因の1位となっており、全死亡の約3割を占め、現在では年間3,600人以上の県民ががんにより亡くなっている。今後、ますます高齢化が進行する中で、がんの罹患数や死亡数は増加することが予測される一方で、がん医療は年々進歩を遂げ、がんは長く付き合う慢性の病気になってきている。

こうしたことから、がんの予防、早期発見、適切な治療、ライフステージに応じた対策、治療と生活の両立支援などの総合的ながん対策は、今後ますます重要となってくる。

2. がん対策における基本理念（第3期滋賀県がん対策推進計画（平成30年3月策定））および目標

<基本理念>

県民一人ひとりが輝ける健やかな滋賀の実現

～県民が、がんを知り、がんを予防し、がんになっても納得した医療・支援が切れ目なく受けられ、自分らしく暮らせる滋賀を目指して～

がん患者を含めた県民全体が、がんの予防およびがんの早期発見を進めるとともに、がんになっても、治療の説明を受けて選択ができ、納得した医療が受けられ、そのために必要な支援が受けられることで、自分らしく暮らせる滋賀を目指すことを基本理念とする。

<全体目標>

- ・科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実
- ・患者本位のがん医療の実現
- ・尊厳をもって安心して暮らせる社会の構築

<取り組みの4つの分野>

- ・がんの予防
- ・がん医療の充実
- ・がんと共生
- ・これらを支える基盤の整備

滋賀県 指定推薦に係る考え方について（２）

資料 5

3. がん診療連携拠点病院等の現状、今後の役割

- 滋賀県のがん医療は、国指定のがん診療連携拠点病院（５病院）、地域がん診療病院（２病院）、県指定のがん診療連携支援病院（６病院）を中心に、我が国に多いがん（５大がん）について、集学的治療を提供する体制を整えている。今後も５大がん、その他専門とするがんについて、がん診療連携拠点病院等を中心にがん医療提供体制をさらに整備していく。
- 都道府県がん診療連携拠点病院（県立総合病院）は、地域がん診療連携拠点病院に対する診療支援、医療従事者に対する研修の実施など、県内のがん医療のコーディネーターの役割を担う。また、地域がん診療連携拠点病院（大津赤十字病院他 ４病院）は、各医療圏域において、専門的ながん医療の提供を行うとともに、圏域内の医療機関に対する診療支援、医療従事者に対する研修、患者等に対する相談支援、情報提供などを行う。
- がん診療連携拠点病院等が中心となり、また、滋賀県がん診療連携協議会などでがん診療の連携協力体制を構築しながら、滋賀県内のがん医療の質の向上や安全確保のための取り組み、看護の質の向上、医療従事者の資質向上などを図っていく。

4. がん診療連携拠点病院が指定されていない空白の医療圏への対策

- 湖西医療圏
高島市民病院を地域がん診療病院として推薦。隣接する大津医療圏の大津赤十字病院との連携を前提にグループとして指定。高島市民病院は、大津赤十字病院と連携しつつ、湖西医療圏の専門的ながん医療の提供、相談支援や情報提供などの役割を担う。
- 東近江医療圏
空白の解消については現在協議中であり、現状は、大津医療圏に位置する滋賀医科大学医学部附属病院が担当する。
- 甲賀医療圏
公立甲賀病院を地域がん診療病院として推薦。隣接する大津医療圏の滋賀医科大学医学部附属病院との連携を前提にグループとして指定。人材交流等の連携を図りながら、がん診療の提供を行う。

5. 大津医療圏の２つの拠点病院の役割分担

大津赤十字病院

- ・大津医療圏のがん診療ならびに高島市民病院とのグループ元として湖西医療圏のがん診療を行う。

滋賀医科大学医学部附属病院

- ・空白の東近江医療圏を担当し、また、公立甲賀病院とのグループ元として甲賀医療圏へのがん診療の提供を行うとともに、大津医療圏のがん診療についても積極的に行う。
- ・県全域の高度先進医療を提供する。
- ・県全域の人材育成、人材支援の中核を担う。
- ・地域がん診療連携拠点病院（高度型）として、高度な医療を提供する。

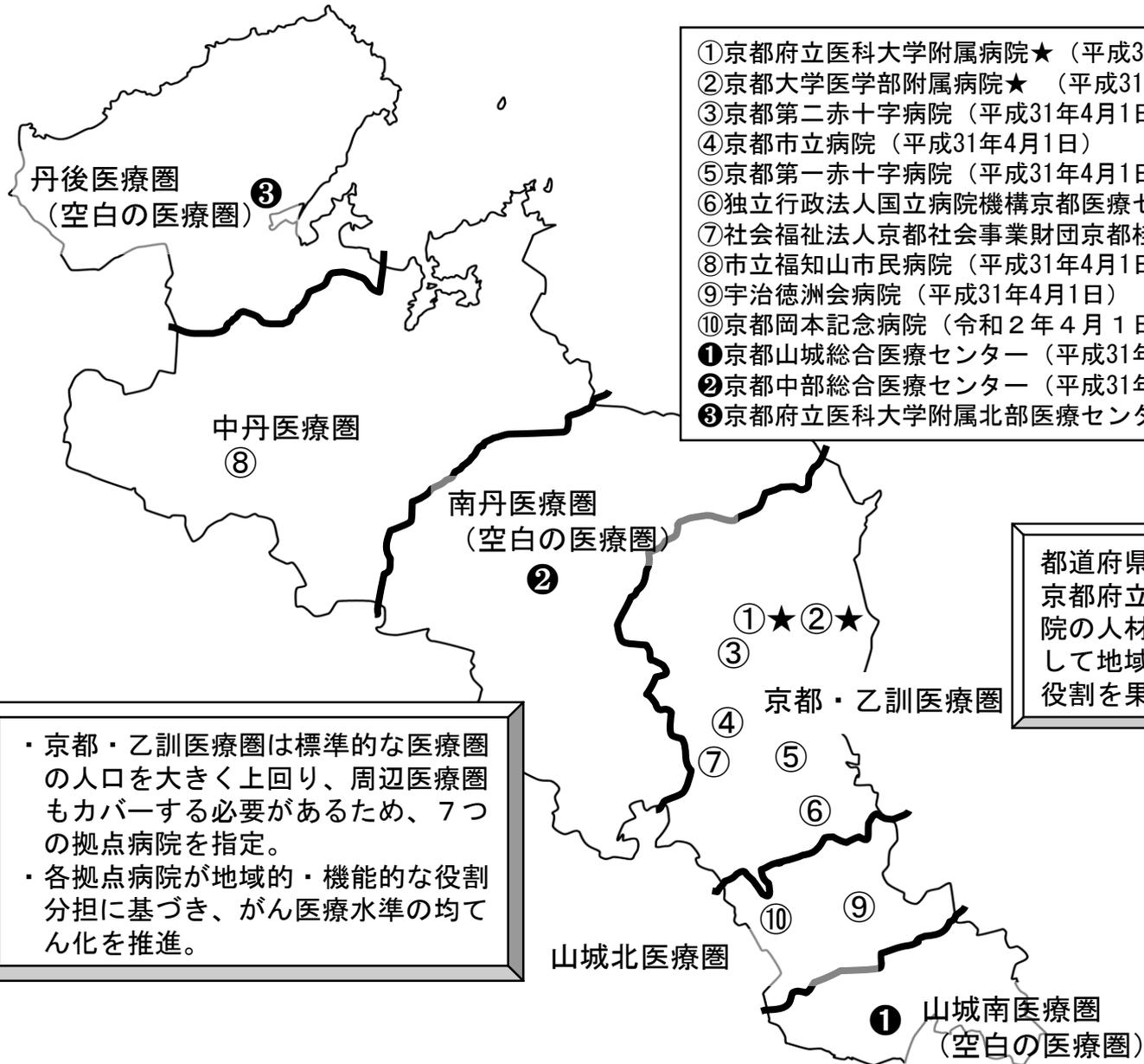
京 都 府

京都府 2 次医療圏の概要

令和 3 年 9 月 1 日現在

2 次医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口 密度	病院数	がん診療連携拠点 病院		特定領域がん診療 連携拠点病院		地域がん 診療病院	
						既指定 病院数	今回更新 病院数	既指定 病院数	今回更新 病院数	既指定 病院数	今回更新 病院数
丹後医療圏	844.5	88,083	3.4%	104.3	6	0	0	0	0	1	0
中丹医療圏	1241.76	187,570	7.3%	151.1	17	1	0	0	0	0	0
南丹医療圏	1144.29	129,866	5.1%	113.5	10	0	0	0	0	1	0
京都・ 乙訓医療圏	860.69	1,610,025	62.8%	1870.6	103	7	0	0	0	0	0
山城北医療圏	257.58	427,903	16.7%	1661.2	24	2	0	0	0	0	0
山城南医療圏	263.37	121,681	4.7%	462.0	3	0	0	0	0	1	0
計	4612.19	2,565,128	100.0%	4362.7	163	10	0	0	0	3	0

京都府 令和3年9月1日現在の指定状況と患者受療動向



がん診療連携拠点病院

・ ()内は令和2年12月提出の数値、下段は令和3年12月提出の数値

	医療 圏名	類型	申請 区分	病院名	院内がん登 録	手術件数	がんに係る 薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合
					院内がん登 録数 (年間) 500件以上	悪性腫瘍の 手術件数 (年間) 400件以上	のべ患者数 (年間) 1000人 以上	のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケアチーム に対する新規 診療依頼数 50人以上	当該2次医療圏に居 住するがん患者の診 療の割合(20%) 2割程度
1	京都・ 乙訓	★	現況	京都府立医科大学附属病院	(3,096) 2,303	(1,800) 1,811	(3,205) 2,383	(692) 654	(101) 119	(11%) 10%
2	京都・ 乙訓	★	現況	京都大学医学部附属病院	(2,642) 3,219	(2,119) 1,947	(6,586) 6,725	(1,250) 1,218	(548) 570	(24%) 17%
3	京都・ 乙訓		現況	京都第二赤十字病院	(1,467) 1,385	(1,012) 939	(1,630) 1,702	(313) 387	(128) 116	(8%) 8%
4	京都・ 乙訓		現況	京都市立病院	(1,519) 1,350	(1,116) 1,057	(2,266) 2,330	(462) 459	(117) 193	(11%) 10%
5	京都・ 乙訓		現況	京都第一赤十字病院	(1,551) 1,568	(865) 915	(1,505) 1,908	(277) 271	(249) 286	(30%) 8%
6	京都・ 乙訓		現況	京都医療センター	(1,837) 1,404	(1,287) 1,092	(1,653) 1,592	(349) 437	(207) 169	(9%) 9%
7	京都・ 乙訓		現況	京都桂病院	(1,456) 1,512	(988) 1,027	(1,964) 1,414	(578) 564	(173) 161	(9%) 5%
8	中丹		現況	福知山市民病院	(770) 777	(480) 433	(993) 1,126	(279) 323	(81) 103	(41%) 42%
9	山城 北		現況	宇治徳洲会病院	(701) 769	(520) 509	(1,071) 1,067	(260) 240	(90) 62	(31%) 44%
10	山城 北		現況	京都岡本記念病院	(675) 726	(507) 552	(1,163) 1,130	(214) 246	(110) 100	(33%) 42%
11	丹後		新規	京都府立医科大学附属 北部医療センター	(386) 372	(426) 365	(314) 404	(0) 583	(29) 53	(79%) 38%

地域がん診療病院

・()内は令和2年12月提出の数値、下段は令和3年12月提出の数値

	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア
			院内がん登録数 (年間)	悪性腫瘍手術総数 (年間)	のべ患者実数 (年間)	のべ患者数 (年間)	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数
①	現況	京都山城総合医療センター	(468) 449	(372) 422	(1,931) 1,594	-	(27) 34
②	現況	京都中部総合医療センター	(693) 558	(478) 498	(5,510) 673	(2,280) 2,363	(37) 37

・ ()内は令和2年12月提出の数値、下段は令和3年12月提出の数値

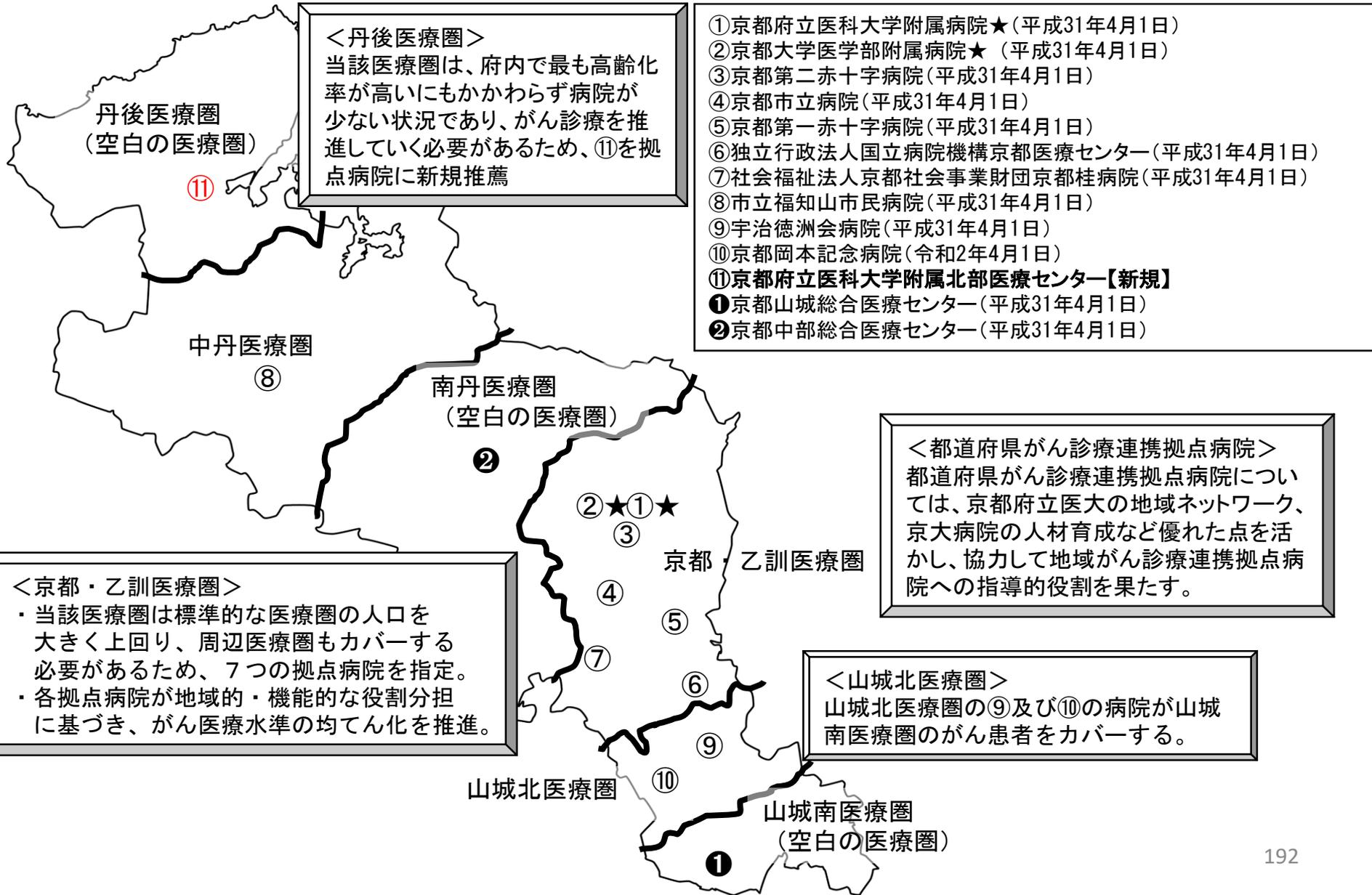
	医療圏名	類型	申請区分	病院名	相談支援センター 相談件数
1	京都・乙訓	★	現況	京都府立医科大学附属病院	(2,430) 2,091
2	京都・乙訓	★	現況	京都大学医学部附属病院	(2,859) 3,611
3	京都・乙訓		現況	京都第二赤十字病院	(1,085) 1,290
4	京都・乙訓		現況	京都市立病院	(5,180) 6,231
5	京都・乙訓		現況	京都第一赤十字病院	(873) 875
6	京都・乙訓		現況	京都医療センター	(1,823) 1,468
7	京都・乙訓		現況	京都桂病院	(1,554) 2,615
8	中丹		現況	福知山市民病院	(4,366) 2,495
9	山城北		現況	宇治徳洲会病院	(1,271) 1,277
10	山城北		現況	京都岡本記念病院	(283) 434
11	丹後		新規	京都府立医科大学附属北部医療センター	(495) 555

地域がん診療病院 相談支援センター関係

・()内は令和2年12月提出の数値、下段は令和3年12月提出の数値

	申請区分	病院名	相談支援センター 相談件数
①	現況	京都山城総合医療センター	(132) 126
②	現況	京都中部総合医療センター	(54) 51

京都府 令和3年度の指定推薦状況と想定される患者受療動向



京都府におけるがん診療体制の整備方針

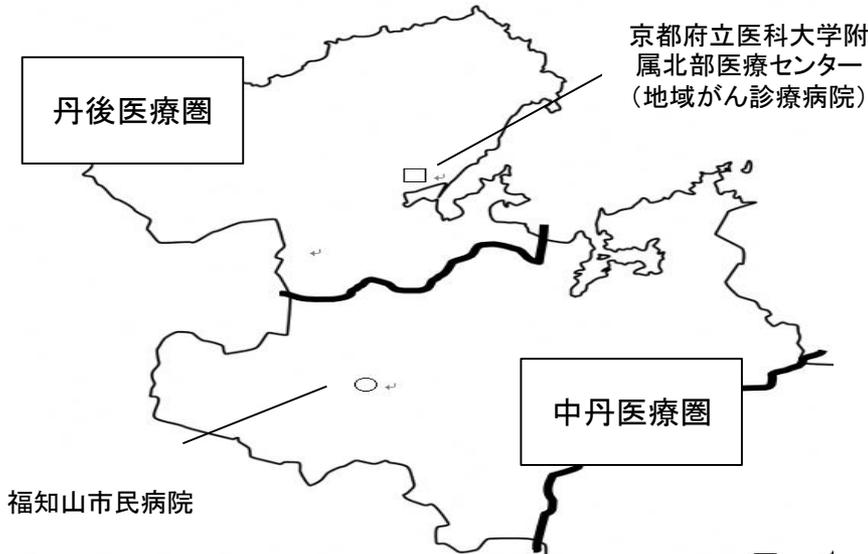
区分	推薦病院	特色	機能分担
都道府県拠点病院	京都府立医科大学附属病院	各地域への医師派遣 地域ネットワークの構築 質の高い緩和ケアの推進、陽子線治療	京都府がん医療戦略推進会議の運営 緩和ケア部会・地域連携部会の事務局
	京都大学医学部附属病院	がん医療従事者の養成 臨床研究・医療技術開発 外来化学療法、ゲノム医療	京都府がん医療戦略推進会議の運営 研修部会・外来化学療法部会の事務局
地域拠点病院	京都第二赤十字病院	消化器系がん治療 地域医療支援	肝がん地域連携パスWGの事務局
	京都市立病院	放射線治療 血液がん・小児がん治療	相談支援部会の事務局
	京都第一赤十字病院	救急医療(化学療法の副作用対策など) 消化器系・婦人科がん治療	乳がん地域連携パスWGの事務局
	国立病院機構京都医療センター	緩和ケア 地域・患者への情報提供	院内がん登録部会の事務局
	京都桂病院	肺がん治療、消化器系がん治療 がん患者支援	肺がん地域連携パスWGの事務局
	福知山市民病院	放射線治療 外来化学療法	大腸がん地域連携パスWGの事務局
	宇治徳洲会病院	消化器系がん治療 緩和ケア	胃がん地域連携パスWGの事務局
	京都岡本記念病院	地域医療支援 放射線治療	前立腺がん地域連携パスWGの事務局
	京都府立医科大学附属北部医療センター 《新規申請》	内視鏡治療、R2リニアック導入	推薦後には、がん診療連携拠点病院として 北部医療圏でがん診療の中核を担っていく。
地域がん診療病院	京都中部総合医療センター	緩和ケア、 ²⁶ リニアック導入	がん診療連携拠点病院との連携を強化し、 地域におけるがん診療の中核を果たす。
	京都山城総合医療センター	内視鏡治療	



京都府立医科大学附属病院及び京都大学医学部附属病院を中心として、各地域がん診療連携拠点病院、地域がん診療病院がそれぞれの機能・役割を果たすがん診療ネットワークを構築し、住み慣れた地域で、質の高いがん医療が受けられる環境づくりを推進する。

丹後医療圏の地域がん拠点病院への新規指定について

【丹後医療圏について《現状》】



【拠点病院指定要件充足】

<京都府立医科大学附属北部医療センター(新規)>

	指定要件の診療実績	R2
1	院内がん登録数 500件以上	372件
	悪性腫瘍の手術件数 400件以上	365件
	化学療法のべ患者数 1,000人以上	404人
	放射線治療のべ患者数 200人以上	583人
	緩和ケアチームの 新規介入患者数 50人以上	53人
2	当該2次医療圏に居住するがん患者の 2割程度について診療実績があること	38%

【推薦理由】

- 丹後医療圏は、府内で最も高齢化率が高い医療圏であるが(令和2年度39.1%)、病院数が6と少なく、がん診療の提供に課題を有している。圏内には地域がん診療病院として京都府立医科大学附属北部医療センターが存在するが、充実したがん診療を受診するため、中丹医療圏にある地域がん診療連携拠点病院の福知山市民病院や府外の病院に入院するケースも少なくない。
- 京都府立医科大学附属北部医療センターは、地域がん診療病院として圏内の地域連携等を担ってきたが、令和2年3月にがん診療棟を新設し、同9月に放射線治療を開始する等、より質の高いがん医療を提供できる体制が整ったところであり、丹後医療圏のがん診療や地域連携のさらなる推進を図っているところであり、地域がん診療連携拠点病院として新規推薦する。

大阪府

大阪府がんの医療圏の概要

令和 4 年 9 月 1 日現在

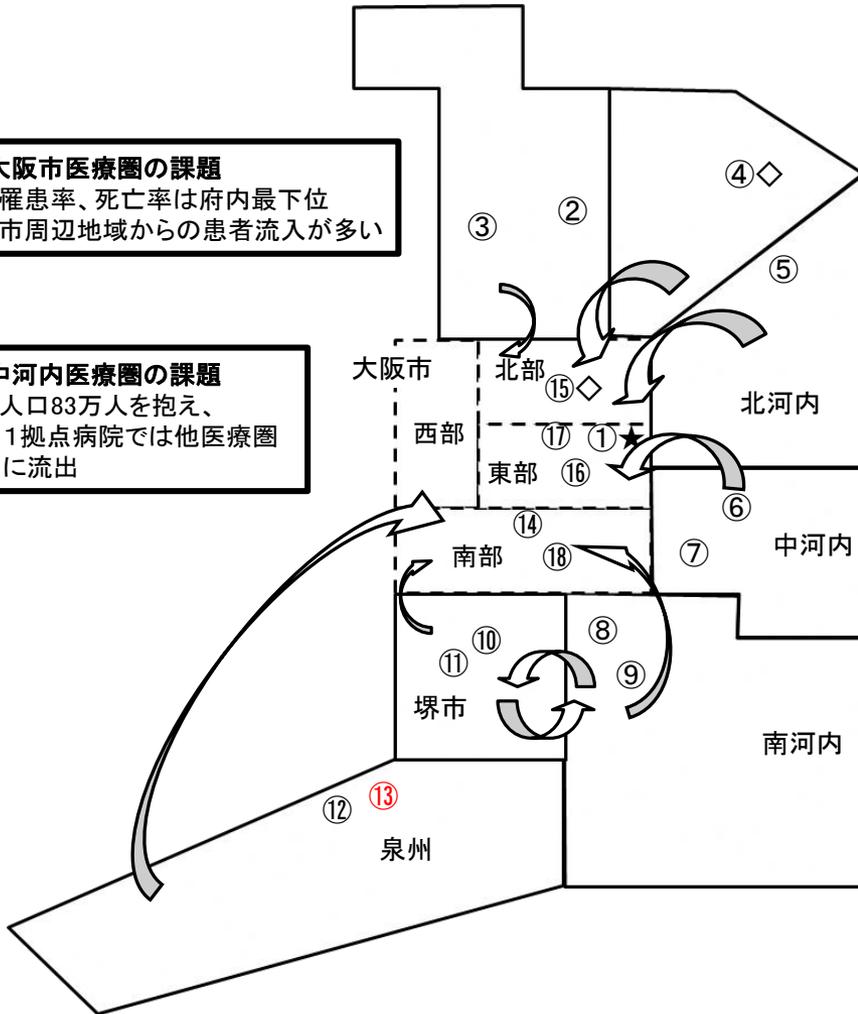
医療圏名	面積 (kn ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院			
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数 (高度型)	計
豊能二次医療圏	239.52	670,652	7.608%	2,799.98	47	2	0	0	2
三島二次医療圏	249.55	1,147,188	13.013%	4,597.03	38	1	0	0	1
北河内二次医療圏	177.34	1,133,026	12.853%	6,389.00	61	1	0	0	1
中河内二次医療圏	128.83	822,167	9.327%	6,381.80	35	2	0	0	2
南河内二次医療圏	290	587,774	6.668%	2,026.81	38	2	0	0	2
堺市二次医療圏	149.83	1,151,851	13.066%	7,687.72	43	2	0	0	2
泉州二次医療圏	444.93	548,278	6.220%	1,232.28	76	2	0	0	2
大阪市二次医療圏	225.21	2,754,440	31.246%	12,230.54	175	6	0	0	6
北部基本保健医療圏	48.65	698,217	7.920%	14,351.84	36	1	0	0	1
西部基本保健医療圏	60.66	489,251	5.550%	8,065.46	28	0	0	0	0
東部基本保健医療圏	47.56	760,627	8.628%	15,993.00	63	3	0	0	3
南部基本保健医療圏	68.46	806,345	9.147%	11,778.34	48	2	0	0	2
計	1,905.32	8,815,376	100.000%	4,626.72	513	18	0	0	18

大阪府 令和3年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

資料 2

大阪市医療圏の課題
 ・罹患率、死亡率は府内最下位
 ・市周辺地域からの患者流入が多い

中河内医療圏の課題
 ・人口83万人を抱え、
 1拠点病院では他医療圏
 に流出



★: 都道府県拠点 ◇: 地域拠点(高度型)

- ①大阪国際がんセンター★ (平成31年4月1日)
- ②大阪大学医学部附属病院 (平成31年4月1日)
- ③市立豊中病院 (平成31年4月1日)
- ④大阪医科大学附属病院◇ (平成31年4月1日)
- ⑤関西医科大学附属病院 (平成31年4月1日)
- ⑥市立東大阪医療センター (平成31年4月1日)
- ⑦八尾市立病院 (平成31年4月1日)
- ⑧近畿大学病院 (平成31年4月1日)
- ⑨大阪南医療センター (平成31年4月1日)
- ⑩大阪労災病院 (平成31年4月1日)
- ⑪堺市立総合医療センター (平成31年4月1日)
- ⑫市立岸和田市民病院 (平成31年4月1日)
- ⑬和泉市立総合医療センター (令和3年4月1日)
- ⑭大阪市立大学医学部附属病院 (平成31年4月1日)
- ⑮大阪市立総合医療センター◇ (平成31年4月1日)
- ⑯大阪赤十字病院 (平成31年4月1日)
- ⑰大阪医療センター (平成31年4月1日)
- ⑱大阪急性期・総合医療センター (平成31年4月1日)

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①-1

・ () 内は令和2年9月提出の数値、下段は令和3年9月提出の数値 ★：都道府県拠点 ◇：地域拠点（高度型） ◎：特定領域拠点

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1,000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1 大阪市	★	現況	大阪国際がんセンター	14,115	94.2	(4,651) 4,291	(4,031) 3,948	(7,514) 7,987	(1,882) 1,993	(160) 192	(7) 7	(13,553) 13,917
2 豊能	◇	現況	大阪大学医学部附属病院	6,510	31.6	(2,706) 2,422	(2,137) 2,116	(3,257) 3,375	(807) 975	(260) 273	(29) 13	(1,257) 763
3 豊能		現況	市立豊中病院	3,560	26.0	(1,702) 1,396	(1,393) 1,438	(2,345) 2,208	(245) 229	(171) 153	(18) 16	(2,237) 1,171
4 三島	◇	現況	大阪医科大学附属病院	6,978	34.9	(2,645) 2,484	(2,057) 1,881	(3,994) 4,066	(875) 819	(310) 294	(31) 29	(2,931) 2,568
5 北河内	◇	現況	関西医科大学附属病院	6,009	26.9	(3,216) 3,023	(2,823) 3,376	(6,353) 6,975	(946) 1,099	(622) 893	(35) 28	(9,203) 10,525
6 中河内		現況	市立東大阪医療センター	2,310	17.0	(1,221) 1,132	(1,040) 1,026	(1,187) 1,070	(263) 240	(396) 236	(10) 22	(735) 444
7 中河内	◇	現況	八尾市立病院	2,512	25.0	(1,386) 1,153	(1,108) 974	(2,476) 3,640	(395) 413	(194) 184	(20) 18	(2,124) 2,124
8 南河内	◇	現況	近畿大学病院	6,493	27.1	(2,717) 2,746	(3,124) 3,114	(3,473) 3,807	(775) 807	(279) 336	(18) 17	(2,003) 2,318
9 南河内		現況	大阪南医療センター	21,624	22.0	(806) 725	(559) 479	(4,029) 3,397	(211) 205	(71) 104	(10) 14	(2,476) 2,432
10 堺市	◇	現況	大阪労災病院	48,393	22.3	(1,706) 1,641	(1,877) 1,908	(2,890) 3,220	(334) 347	(2,013) 2,196	(16) 16	(3,229) 4,360

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料 3 - 1 - ① - 2

・()内は平成30年12月提出の数値、下段は令和元年10月提出の数値

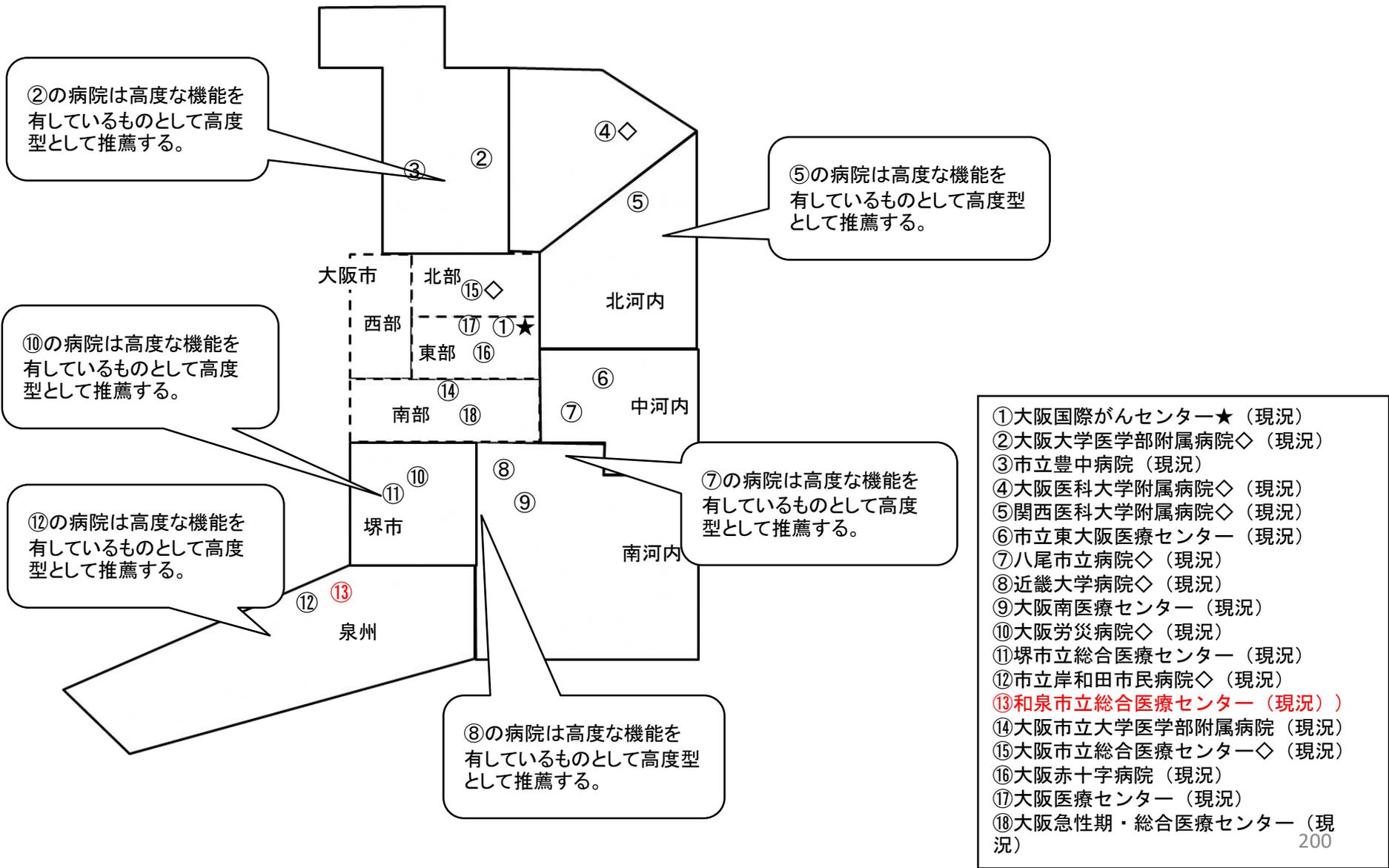
★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1,000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
11	堺市		現況	堺市立総合医療センター	41,295	30.4	(1,656) 1,424	(1,204) 933	(2,120) 2,280	(468) 509	(596) 563	(21) 15	(2,974) 2,316
12	泉州	◇	現況	市立岸和田市民病院	2,372	28.6	(1,304) 1,091	(748) 741	(1,302) 1,652	(390) 314	(120) 98	(23) 19	(4,567) 4,721
13	泉州		現況	和泉市立総合医療センター	2,929	35.5	1,129	731	1,515	303	179	22	1,150
14	大阪市		現況	大阪市立大学医学部付属病院	6,272	30.7	(3,081) 2,736	(2,211) 1,896	(3,024) 3,093	(820) 827	(165) 182	(6) 6	(921) 1,285
15	大阪市	◇	現況	大阪市立総合医療センター	7,591	31.5	(2,542) 2,431	(1,527) 1,455	(3,673) 3,796	(1,045) 973	(1,158) 976	(9) 8	(1,762) 1,217
16	大阪市		現況	大阪赤十字病院	5,488	26.8	(2,666) 2,328	(1,971) 1,810	(3,577) 3,570	(751) 665	(502) 433	(5) 4	(5,307) 5,843
17	大阪市		現況	大阪医療センター	3,610	27.2	(1,113) 1,003	(1,182) 972	(2,761) 2,761	(337) 345	(331) 278	(6) 3	(4,076) 3,928
18	大阪市		現況	大阪急性期・総合医療センター	3,182	16.1	(1,964) 1,742	(1,475) 1,445	(2,231) 2,145	(487) 520	(359) 319	(5) 5	(1,321) 1,511

大阪府 令和3年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

資料4

★: 都道府県拠点 ◇: 地域拠点(高度型)



②の病院は高度な機能を有しているものとして高度型として推薦する。

⑤の病院は高度な機能を有しているものとして高度型として推薦する。

⑩の病院は高度な機能を有しているものとして高度型として推薦する。

⑦の病院は高度な機能を有しているものとして高度型として推薦する。

⑫の病院は高度な機能を有しているものとして高度型として推薦する。

⑧の病院は高度な機能を有しているものとして高度型として推薦する。

- ①大阪国際がんセンター★（現況）
- ②大阪大学医学部附属病院◇（現況）
- ③市立豊中病院（現況）
- ④大阪医科大学附属病院◇（現況）
- ⑤関西医科大学附属病院◇（現況）
- ⑥市立東大阪医療センター（現況）
- ⑦八尾市立病院◇（現況）
- ⑧近畿大学病院◇（現況）
- ⑨大阪南医療センター（現況）
- ⑩大阪労災病院◇（現況）
- ⑪堺市立総合医療センター（現況）
- ⑫市立岸和田市民病院◇（現況）
- ⑬和泉市立総合医療センター（現況）
- ⑭大阪市立大学医学部附属病院（現況）
- ⑮大阪市立総合医療センター◇（現況）
- ⑯大阪赤十字病院（現況）
- ⑰大阪医療センター（現況）
- ⑱大阪急性期・総合医療センター（現況）

大阪府の拠点病院推薦等にあたっての考え方

資料5

地域特性

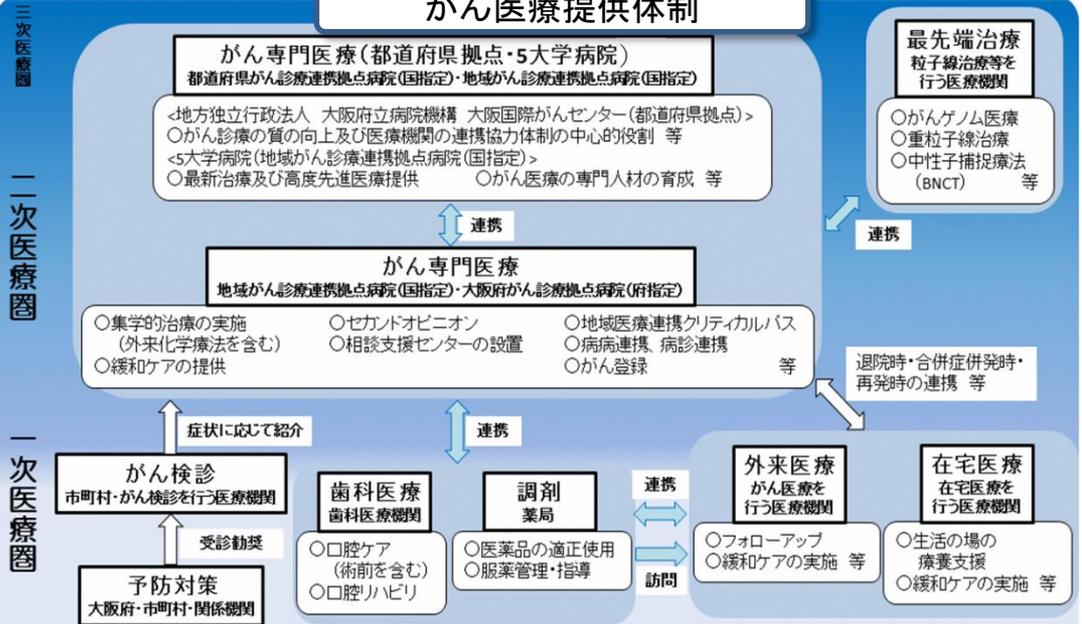
- 府の人口 約882万人
- がん罹患数 約7万人⇒ 約0.8%
- 2次医療圏の平均人口 約110万人⇒ 全国平均の約3倍
- 1拠点病院あたりの人口 約49万人⇒ 約1.6倍
- 1拠点病院あたりの医療機関数 約500機関⇒ 約2倍

死亡率 73.5⇒全国40位
※年齢調整死亡率(75歳未満・人口10万人対)

病院機能

- 1拠点病院あたりの手術件数 約1,680件

がん医療提供体制

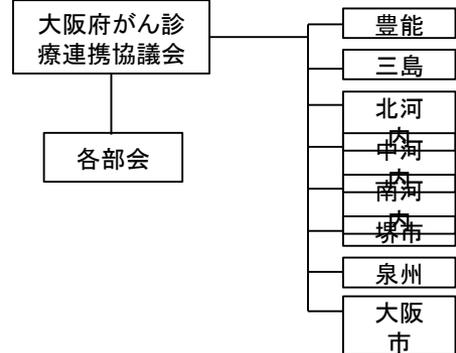


がん診療ネットワーク協議会

2次医療圏毎に国拠点病院が中心となって運営

【メンバー】

圏域内の国・府拠点病院 医師会 保健所
市町村担当課 大阪国際がんセンター 大阪府



大阪府においては、2次医療圏を基本としつつ、面で支えるがん医療提供体制の構築が重要

【既指定拠点病院の指定更新】

大阪府は人口が多く、がんによる死亡率も高い等の課題が多い。府内全域での役割分担と連携体制の強化を図り、より一層、がん医療の充実を図る必要があるため、既指定病院の指定更新が必要不可欠。

【地域拠点病院(高度型)の新規指定】

高度型の指定要件を充足していると認められる病院について大阪府がん対策推進委員会で選考した上で推薦を行った。

兵 庫 県

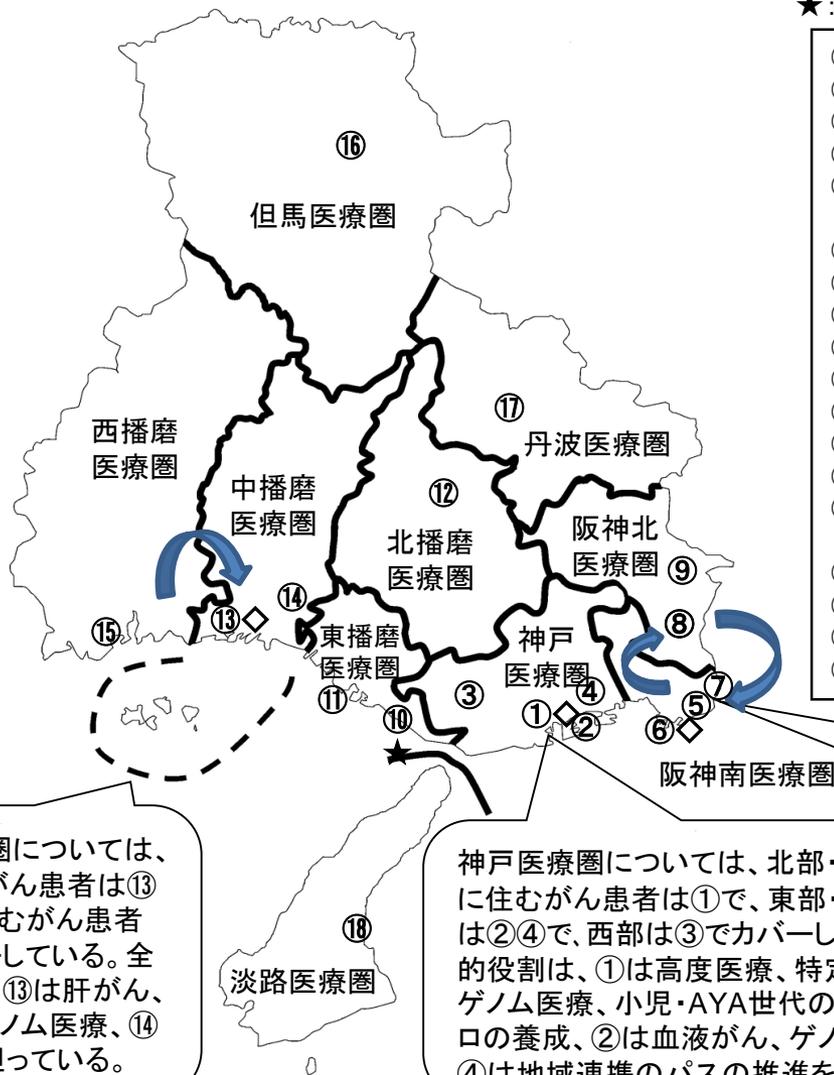
兵庫県がんの医療圏の概要

令和3年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口 密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域がん診療連携拠点病院		地域がん診療病院	
						既指定 病院数	今回 更新 病院数	新規 申請 病院数	計	既指定 病院数	計	既指定 病院数	計
神戸医療圏	557.0	1,520,020	27.9%	2,729	108	4	0	0	4	0	0	0	0
阪神南医療圏	169.2	1,037,071	19.1%	6,131	52	3	0	0	3	0	0	0	0
阪神北医療圏	480.9	712,933	13.1%	1,483	37	2	0	0	2	0	0	0	0
東播磨医療圏	266.3	714,646	13.1%	2,683	39	1	0	1	2	0	0	0	0
北播磨医療圏	895.6	261,182	4.8%	292	22	1	0	0	1	0	0	0	0
中播磨医療圏	865.3	568,504	10.5%	657	37	2	0	0	2	0	0	0	0
西播磨医療圏	1,567.0	243,622	4.5%	155	23	1	0	0	1	0	0	0	0
但馬医療圏	2,133.3	155,482	2.9%	73	11	1	0	0	1	0	0	0	0
丹波医療圏	870.8	99,945	1.8%	115	7	1	0	0	1	0	0	0	0
淡路医療圏	595.6	126,316	2.3%	212	11	1	0	0	1	0	0	0	0
計	8,401.0	5,439,721	100%	648	347	17	0	1	18	0	0	0	0

兵庫県 令和3年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★: 都道府県拠点 ◇: 地域拠点(高度型) ◎: 特定領域拠点



- ①神戸大学医学部附属病院◇ (令和2年4月1日)
- ②神戸市立医療センター中央市民病院 (平成31年4月1日)
- ③神戸市立西神戸医療センター (令和2年4月1日)
- ④神鋼記念病院 (令和3年4月1日)
- ⑤独立行政法人労働者健康安全機構関西労災病院 (令和2年4月1日)
- ⑥兵庫医科大学病院◇ (令和2年4月1日)
- ⑦兵庫県立尼崎総合医療センター (令和3年4月1日)
- ⑧公立学校共済組合近畿中央病院 (令和3年4月1日)
- ⑨市立伊丹病院(平成31年4月1日)
- ⑩兵庫県立がんセンター★ (平成31年4月1日)
- ⑪加古川中央市民病院 (令和2年4月1日)
- ⑫西脇市立西脇病院 (令和2年4月1日)
- ⑬姫路赤十字病院 ◇(平成31年4月1日)
- ⑭独立行政法人国立病院機構姫路医療センター (令和2年4月1日)
- ⑮赤穂市民病院 (令和3年4月1日)
- ⑯公立豊岡病院組合立豊岡病院 (令和2年4月1日)
- ⑰兵庫県立丹波医療センター (令和2年4月1日)
- ⑱兵庫県立淡路医療センター (令和2年4月1日)

中播磨医療圏については、西部に住むがん患者は⑬で、東部に住むがん患者は⑭でカバーしている。全県の役割は、⑬は肝がん、血液がん、ゲノム医療、⑭は肺がんを担っている。

神戸医療圏については、北部・中部(西側)に住むがん患者は①で、東部・中部(東側)は②④で、西部は③でカバーしている。全県の役割は、①は高度医療、特定機能病院、ゲノム医療、小児・AYA世代のがん、がんプロの養成、②は血液がん、ゲノム医療、③④は地域連携のパスの推進を担っている。

阪神南医療圏については、東部に住むがん患者は⑤⑦で、西部に住むがん患者は⑥でカバーしている。全県の役割は、⑤⑦は中皮腫、ゲノム医療、⑥血液がん、中皮腫、ゲノム医療、小児・AYA世代のがん、さらにはがんプロの養成も担っている。

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①-1

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

・()内は令和2年10月提出の数値、下段は令和3年10月提出の数値

医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合
				院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1,000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度
1 神戸	◇	現況	神戸大学医学部附属病院	2,663	(2,551) 2,232	(3,987) 4,954	(827) 838	570	8
2 神戸		現況	神戸市立MC中央市民病院	2,638	(2,250) 1,603	(5,493) 5,123	(703) 672	305	7
3 神戸		現況	神戸市立西神戸MC	1,607	(1,534) 1,516	(2,997) 2,431	(388) 233	496	8
4 神戸		現況	神鋼記念病院	1,243	(853) 1,124	(1,123) 1,368	(264) 362	110	7
5 阪神南		現況	関西労災病院	1,885	(2,921) 2,803	(2,093) 2,738	(613) 688	84	15
6 阪神南	◇	現況	兵庫医科大学病院	2,036	(1,925) 1,843	(5,247) 4,371	(535) 606	404	11
7 阪神南		現況	県立尼崎総合MC	2,126	(1,425) 1,463	(1,538) 1,498	(538) 612	204	18
8 阪神北		現況	近畿中央病院	501	(478) 449	(1,217) 1,181	(211) 202	118	7
9 阪神北		現況	市立伊丹病院	911	(585) 508	(1,565) 1,496	(221) 257	155	16
10 東播磨	★	現況	県立がんC	2,754	(3,451) 3,012	(5,487) 6,453	(615) 849	403	20

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

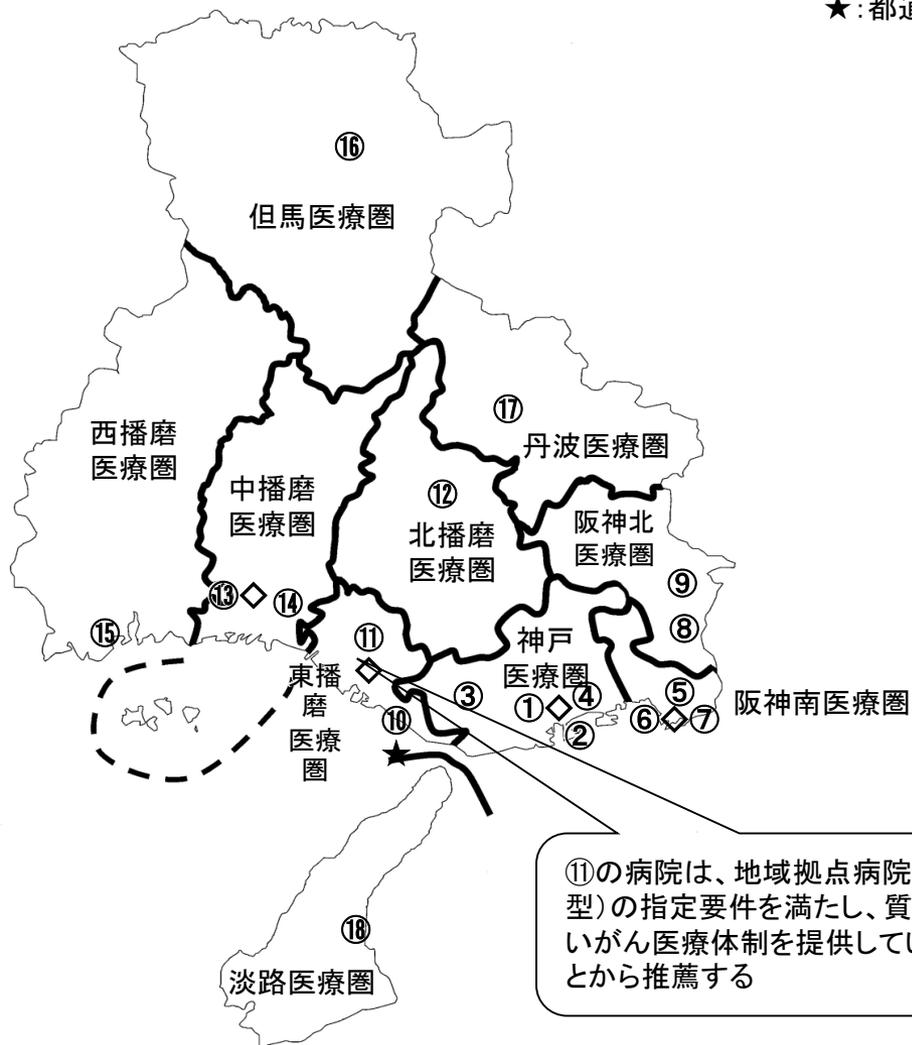
★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

・()内は令和2年10月提出の数値、下段は令和3年10月提出の数値

医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合
				院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1,000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度
11 東播磨	◇	新規	加古川中央市民病院	1,694	(2,107) 1,167	(3,216) 2,522	(389) 366	128	20
12 北播磨		現況	市立西脇病院	482	(239) 175	(285) 279	(138) 65	46	21
13 中播磨	◇	現況	姫路赤十字病院	2,254	(1,724) 1,784	(2,149) 2,174	(413) 446	299	26
14 中播磨		現況	姫路MC	1,346	(1,259) 863	(1,890) 2,333	(489) 480	242	24
15 西播磨		現況	赤穂市民病院	401	(324) 286	(524) 496	(101) 77	37	23
16 但馬		現況	公立豊岡病院	952	(700) 673	(1,001) 1,224	(170) 136	33	66
17 丹波		現況	県立丹波MC	415	(373) 241	(343) 433	(66) 84	120	59
18 淡路		現況	県立淡路MC	929	(876) 735	(1,859) 1,077	(207) 159	63	40

兵庫県 令和4年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点



- ①神戸大学医学部附属病院◇(現況)
- ②神戸市立医療センター中央市民病院(現況)
- ③神戸市立西神戸医療センター(現況)
- ④神鋼記念病院(現況)
- ⑤独立行政法人労働者健康安全機構 関西労災病院(現況)
- ⑥兵庫医科大学病院◇(現況)
- ⑦兵庫県立尼崎総合医療センター(現況)
- ⑧公立学校共済組合近畿中央病院(現況)
- ⑨市立伊丹病院(現況)
- ⑩兵庫県立がんセンター★(現況)
- ⑪加古川中央市民病院◇(新規)
- ⑫西脇市立西脇病院(現況)
- ⑬姫路赤十字病院◇(現況)
- ⑭独立行政法人国立病院機構姫路医療センター(現況)
- ⑮赤穂市民病院(現況)
- ⑯公立豊岡病院組合立豊岡病院(現況)
- ⑰兵庫県立丹波医療センター(現況)
- ⑱兵庫県立淡路医療センター(現況)

⑪の病院は、地域拠点病院(高度型)の指定要件を満たし、質の高いがん医療体制を提供していることから推薦する

- ・ 県内すべてののがんの医療圏に「がん診療連携拠点病院」を整備
- ・ 医療圏の人口規模、患者の通院圏及び拠点病院間の診療機能、役割分担等を考慮し、必要な場合は複数か所を整備

県がん対策推進計画上の重点対策がん

- ・ 肝がん（長年の年齢調整死亡率全国値を上回る状況への対応）
- ・ 肺がん（本県が中皮腫好発地域であることから、中皮腫を含む肺がん対策の実施）
- ・ 小児・AYA世代のがん（小児がん拠点病院を中心とした診療ネットワークの構築）

「肺がん」診療の核となる病院

<医療機関名>	<役割・特徴>
○独)姫路医療センター	中播磨、西播磨医療圏の肺がん手術の大半をカバー
○神戸大学医学部附属病院	
○神戸市立医療センター中央市民病院	他圏域から患者を受入れ
○神戸市立西神戸医療センター	
○独)関西労災病院	全県的なアスベスト疾患に対応
○兵庫医科大学病院	
○県立尼崎総合医療センター	

「肝がん」診療の核となる病院

<医療機関名>	<役割・特徴>
○姫路赤十字病院	中播磨、西播磨医療圏の肝がん手術の大半をカバー
○神戸大学医学部附属病院	先進医療(経皮的肝灌流、生体肝移植等)により高度進行肝がんに対応
○兵庫医科大学病院	肝疾患診療連携拠点病院

「小児・AYA世代のがん」診療の核となる病院 (がん診療連携拠点病院(新規推薦含む)のみ掲載)

<医療機関名>	<役割・特徴>
○神戸大学医学部附属病院	地域の小児がん診療を行う連携病院
○県立尼崎総合医療センター	
○(県立がんセンター)	特定のがん種等についての診療を行う連携病院
○神戸市立西神戸医療センター	小児がん患者等の長期の診療体制の強化のための連携病院
○兵庫医科大学病院	
○加古川中央市民病院	
○姫路赤十字病院	

県立がんセンター・子ども病院を中心として、圏域内に複数整備された病院が、全県の役割を担う

高度型の新規指定推薦を行う 医療機関の特徴

- ・当該圏域で、指定要件Ⅱ8(1)における要件を満たし、質の高いがん医療体制を提供していることから推薦する。

加古川中央市民病院（病床数600床）

- ・がん集学的治療センターを設置。手術療法、放射線療法、薬物療法、緩和医療及び相談の5部門が連携し、診断から治療後のフォローに至るまで一貫した質の高いがん医療を提供。
- ・手術支援ロボット(ダヴィンチ)を用いた、直腸がん手術、肺切除を実施。今後胃がんへの適応拡大予定。
- ・令和2年10月に、脳の定位放射線治療も可能となり、治療件数も増加。強度変調放射線治療(IMRT)の施設基準を満たし、高度な放射線治療装置用動体追跡システムの有効活用による治療の質の向上。また、「医療被ばく低減施設」に認定。
- ・令和2年4月に、遺伝専門医、認定遺伝カウンセラーを配置して遺伝子診療部を開設。
- ・近畿ブロック小児がん連携病院(小児がん患者等の長期の診療体制の強化のための連携病院)として、診療を実施。
- ・当該圏域の新規血液がん患者の80%以上を受入れ、クラス1000の無菌室も10床確保。難治性血液がん患者に、自家移植や血縁者間同種造血幹細胞移植を実施。
- ・令和4年度に、兵庫県立がんセンターのがんゲノム医療連携病院に指定予定。
- ・令和4年1月に、「国立がん研究センター認定がん相談支援センター」に認定。

奈良県

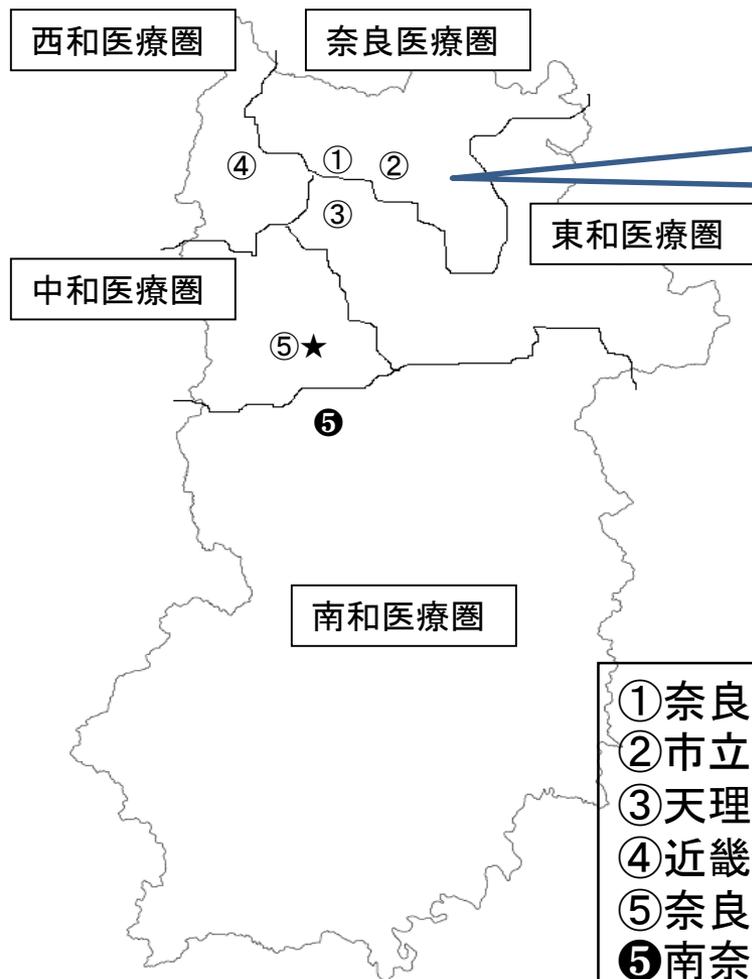
奈良県がんの医療圏の概要

令和3年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
奈良医療圏	276.9	351,659	26.8%	1,269.8	22	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0
東和医療圏	657.8	196,746	15.0%	299.1	12	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
西和医療圏	168.5	336,898	25.6%	1,999.5	18	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
中和医療圏	240.8	366,404	27.9%	1,521.7	19	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
南和医療圏	2,346.9	62,738	4.8%	26.7	4	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
計	3,690.9	1,314,445	100.0%	356.1	75	5	0	0	5	0	0	0	1	0	0

奈良県 令和3年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★: 都道府県拠点 ◇: 地域拠点(高度型) ◎: 特定領域拠点



複数配置の医療圏(奈良医療圏)

①の病院は主に奈良医療圏西部のがん患者を、②の病院は奈良医療圏東部のがん患者をそれぞれ受け持つ。

- | | |
|----------------|-----------------|
| ①奈良県総合医療センター | (令和2年4月1日)(更新) |
| ②市立奈良病院 | (令和2年4月1日)(更新) |
| ③天理よろづ相談所病院 | (令和2年4月1日)(更新) |
| ④近畿大学奈良病院 | (令和2年4月1日)(更新) |
| ⑤奈良県立医科大学附属病院★ | (平成31年4月1日)(更新) |
| ⑥南奈良総合医療センター | (令和2年4月1日)(更新) |

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料 3 - 1

・()内は令和元年の数値、下段は令和3年11月提出の数値

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				年間入院がん患者延べ数	年間入院患者延べ数に占めるがん患者の割合	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1 奈良		現況	奈良県総合医療センター	3,003	25.4%	(2,109) 1,687	(1,838) 1,872	(6,178) 8,447	(439) 471	(277) 219	(31) 30	(1,817) 1,278
2 奈良		現況	市立奈良病院	2,047	23.2%	(913) 888	(736) 761	(1,823) 1,852	(224) 212	(78) 90	(27) 29	(1,499) 2,085
3 東和		現況	天理よろづ相談所病院	4,024	26.4%	(2,013) 1,914	(1,268) 1,277	(1,941) 2,023	(438) 379	(54) 79	(31) 31	(577) 604
4 西和		現況	近畿大学奈良病院	2,398	27.3%	(1,364) 1,194	(1,637) 1,658	(5,250) 5,475	(323) 302	(58) 125	(31) 26	(1,063) 1,190
5 中和	★	現況	奈良県立医科大学附属病院	3,891	23.4%	(2,393) 2,162	(1,595) 1,374	(2,794) 2,712	(739) 904	(343) 209	(18) 15	(763) 621

地域がん診療病院の診療実績等

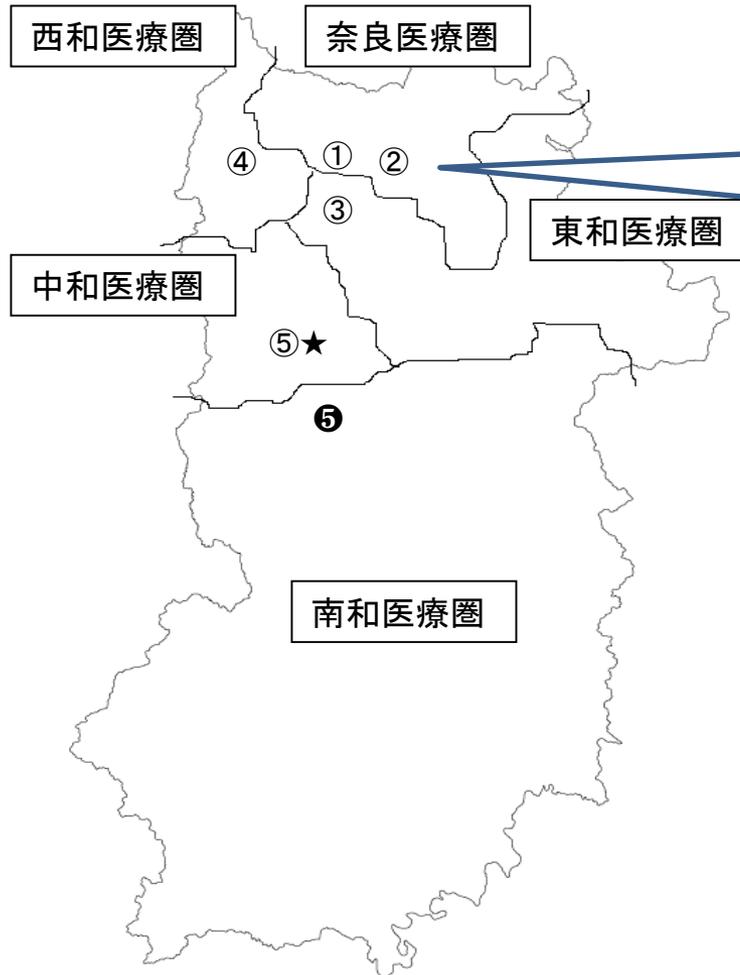
資料3-2

・上段は令和元年の数値、下段は令和3年11月提出の数値

	医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療(実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				年間入院がん患者延べ数	年間入院患者延べ数に占めるがん患者の割合	院内がん登録数(年間)	悪性腫瘍手術総数(年間)	のべ患者数(年間)	のべ患者数(年間)	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間)	相談件数(年間)
⑤	南和	現況	南奈良総合医療センター	634	12.3	(455) 468	(145) 165	(859) 1,197	実施なし	(49) 27	(42) 41

奈良県 令和4年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点



複数配置の医療圏(奈良医療圏)

①の病院は主に奈良医療圏西部のがん患者を、②の病院は奈良医療圏東部のがん患者をそれぞれ受け持つ。

- | | |
|----------------|------|
| ①奈良県総合医療センター | (更新) |
| ②市立奈良病院 | (更新) |
| ③天理よろづ相談所病院 | (更新) |
| ④近畿大学奈良病院 | (更新) |
| ⑤奈良県立医科大学附属病院★ | (更新) |
| ⑤南奈良総合医療センター | (更新) |

◆今回のがん診療連携拠点病院等の推薦・現況報告に係る奈良県の考え方について

●第3期奈良県がん対策推進計画（平成30年3月策定）におけるがん診療連携拠点病院の位置づけ

都道府県がん診療連携拠点病院〔奈良県立医科大学附属病院〕

- ・県のがん診療体制の中核的な存在として、質の高い専門的ながん医療を提供
- ・「奈良県がん診療連携協議会」を運営し、地域がん診療連携拠点病院等と連携して、県全体におけるがん診療の水準の向上とがん診療の連携体制の充実に向けて中心的な役割を担う

地域がん診療連携拠点病院〔奈良県総合医療センター、市立奈良病院、天理よろづ相談所病院、近畿大学奈良病院〕

- ・地域のがん診療体制の中核的な存在として、質の高い専門的ながん医療を提供
- ・都道府県がん診療連携拠点病院と連携して、その属する二次医療圏内のがん診療の連携体制の充実に向けて中心的な役割を担う

地域がん診療病院〔南奈良総合医療センター〕

- ・地域のがん診療体制の中核的な存在として、がん診療連携拠点病院とのグループ指定により専門的ながん医療を提供



すべての医療圏に
拠点病院を整備

県内で、安全かつ安心
な質の高いがん医療
の提供を！

●本県のがん診療連携拠点病院の現状

医療圏	奈良医療圏	東和医療圏	西和医療圏	中和医療圏	南和医療圏
対象市町村数	1（奈良市のみ）	9	9	8	12
がん診療連携拠点病院	奈良県総合医療センター 市立奈良病院	天理よろづ相談所病院	近畿大学奈良病院	奈良県立医科大学附属病院	南奈良総合医療センター
人口割合（％）	26.75	14.97	25.63	27.88	4.77

●同一医療圏で重複するがん診療連携拠点病院の役割（奈良医療圏）

＜奈良医療圏の特徴＞

- ・奈良医療圏は奈良市のみで、市部では面積が最も大きく、県総面積の7.5%を占め、東西長32.02kmと東西に長い。
- ・奈良県の人口の4分の1以上を占める。

＜奈良医療圏におけるがん診療の状況＞

奈良県総合医療センター	相互協力により質の高い がん医療を提供！	市立奈良病院
主に奈良医療圏の西部のがん患者を受け持つ		主に奈良医療圏の東部のがん患者を受け持つ
治療：高度な治療や手術支援ロボットの導入の先進的な療法の実施 緩和ケア：緩和ケアチームの強化		治療：主に大腸がんの内視鏡手術や乳がん手術を多く実施 緩和ケア：緩和ケア病床の設置
へき地医療拠点病院としてへき地へ医師を派遣 へき地における住民の医療を確保・支援し、がん予防や早期発見の機能を担うなど地域医療を補完		

和歌山県

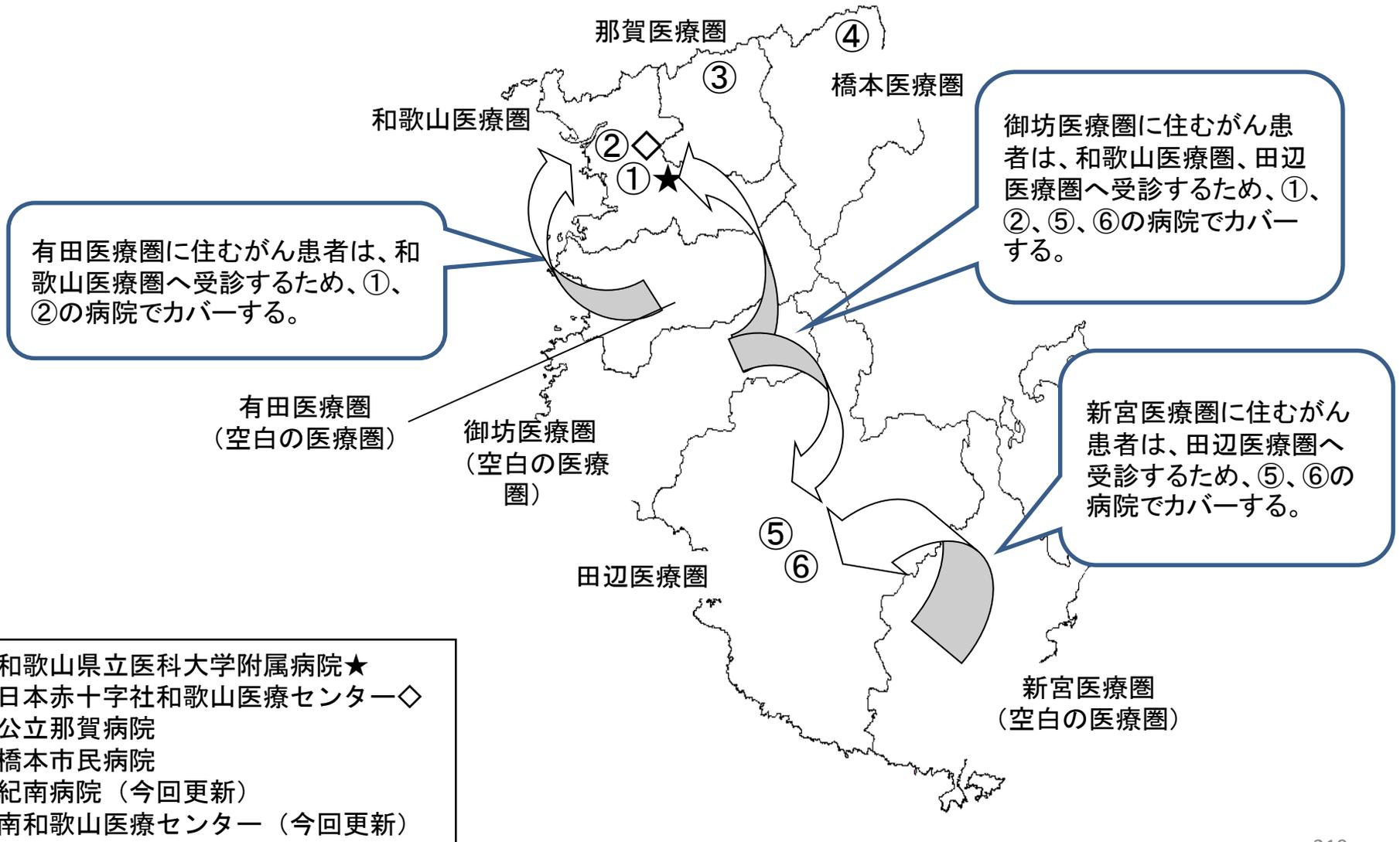
和歌山県のがんの医療圏の概要

(令和3年9月1日現在)

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
和歌山医療圏	438.25	412,982	45.6	942.3	43	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0
那賀医療圏	266.72	112,774	12.4	422.8	8	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
橋本医療圏	463.42	83,863	9.3	181.0	5	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
有田医療圏	474.79	69,988	7.7	147.4	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
御坊医療圏	579.02	60,173	6.6	103.9	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
田辺医療圏	1,579.99	121,509	13.4	76.9	9	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0
新宮医療圏	922.45	44,793	4.9	48.6	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	4,725	906,082	100	1,923	83	4	2	0	6	0	0	0	0	0	0

和歌山県 令和3年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★: 都道府県拠点 ◇: 地域拠点(高度型) ◎: 特定領域拠点



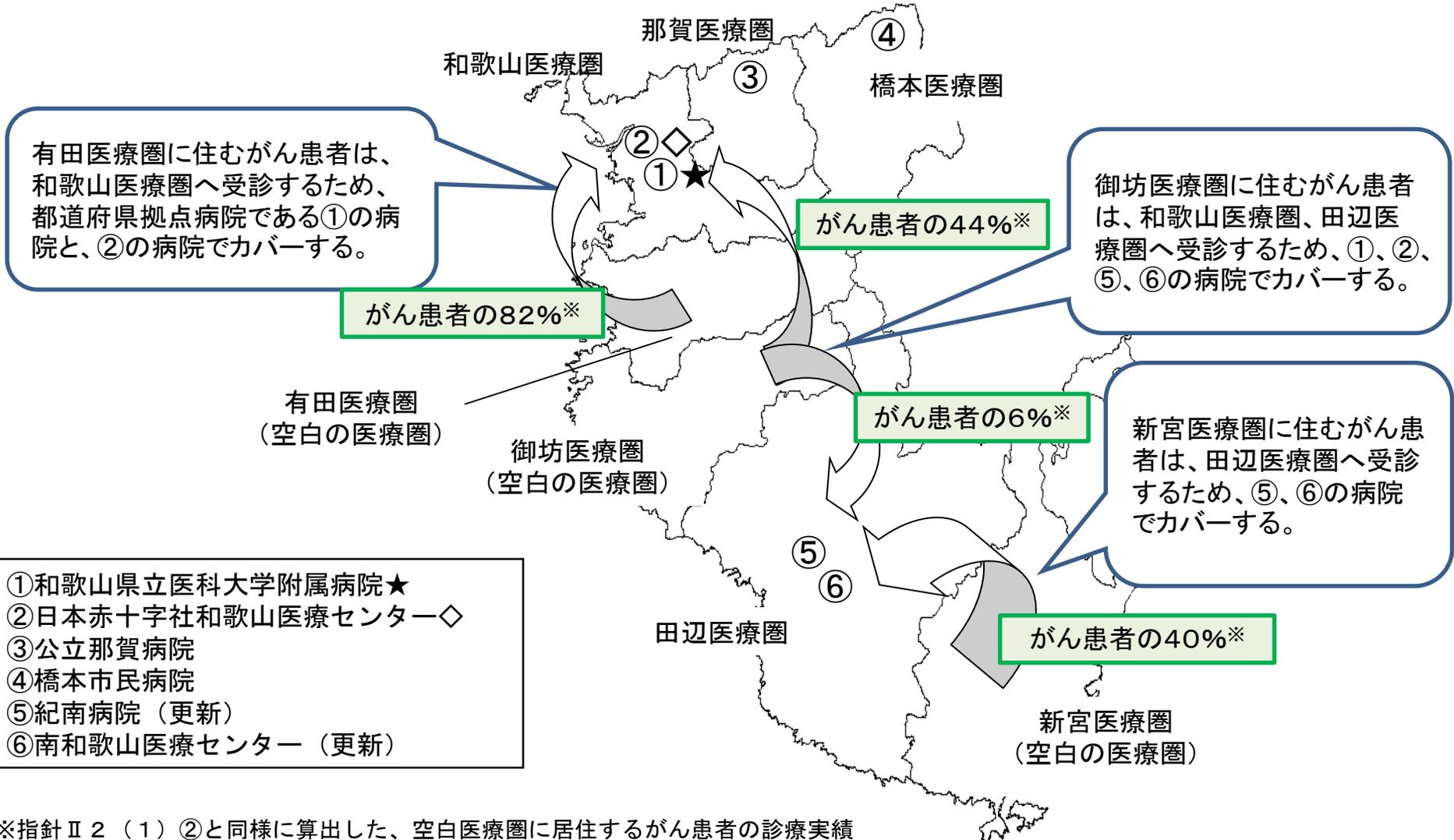
がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

★：都道府県拠点 ◇：地域拠点（高度型）

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合（%）							
1	和歌山	★	報告	和歌山県立医科大学附属病院	71,403	30.5	院内がん登録数（年間） 500件以上	悪性腫瘍の手術件数（年間） 400件以上	のべ患者数（年間） 1000人以上	のべ患者数（年間） 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数（年間） 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合（%） 2割程度	相談件数（年間）
2	和歌山	◇	報告	日本赤十字社和歌山医療センター	52,132	26.8	2,271	1,556	3,843	546	334	37	1,576
3	那賀		報告	公立那賀病院	895	19.0	431	400	1,557	83	74	74	1,203
4	橋本		報告	橋本市民病院	639	11.8	495	242	344	75	102	47	727
5	田辺		更新	紀南病院	1,132	16.8	698	412	1,100	208	124	47	702
6	田辺		更新	南和歌山医療センター	1,395	26.1	737	454	1,521	216	119	35	420

和歌山県 令和4年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★: 都道府県拠点 ◇: 地域拠点(高度型)



※指針Ⅱ 2 (1) ②と同様に算出した、空白医療圏に居住するがん患者の診療実績

今回の指定推薦に係る和歌山県の考え方

今回の指定推薦にあたっては、7つの二次医療圏の内1医療圏で計2施設の指定更新を推薦したい。

県がん診療連携拠点病院

和歌山県立医科大学附属病院(和歌山医療圏)

県内全域をカバー

- ◆和歌山県がん診療連携協議会の運営(地域連携・相談支援、がん登録、緩和ケア・研修教育、化学療法 の各部会)
- ◆地域がん診療連携拠点病院への支援
- ◆がん診療に携わる医療従事者の養成 等

地域がん診療連携拠点病院

北部(和歌山、那賀、橋本、有田)

南部(御坊、田辺、新宮)

日本赤十字社和歌山医療センター(和歌山医療圏)

- ◆最も人口の多い和歌山医療圏で、県立医科大学と連携して高度な医療を提供
- ◆患者数が最も多く、隣接する有田医療圏や大阪府南部からも患者受け入れ

公立那賀病院(那賀医療圏)

- ◆圏域内で中心的な病院であり、隣接する医療圏からも患者は多い
- ◆在宅緩和ケアなど地域との連携に積極的に取り組んでいる

橋本市民病院(橋本医療圏)

- ◆県北東部で中心的な病院であり、隣接する奈良県南西部からも患者は多い
- ◆伊都医療圏で唯一の放射線治療が可能な病院

紀南病院(田辺医療圏・更新)

- ◆県南部で南和歌山医療センターと共に中心的な病院
- ◆隣接する御坊、新宮医療圏からの患者受け入れ、新宮医療圏での診療支援
- ◆地域の医療機関との連携も強い

協力・連携

南和歌山医療センター(田辺医療圏・更新)

- ◆県南部で紀南病院と共に中心的な病院
- ◆隣接する御坊、新宮医療圏からの患者受け入れ、新宮医療圏での診療支援
- ◆緩和ケア病棟を備え、患者の病状に応じた医療体制を提供

未充足項目に関する考え方

- 【南和歌山医療センター】(専従の院内がん登録中級者認定を受けているものの配置)
⇒ 他病院からの人事異動により、令和4年1月1日付で配置が完了し、充足済み

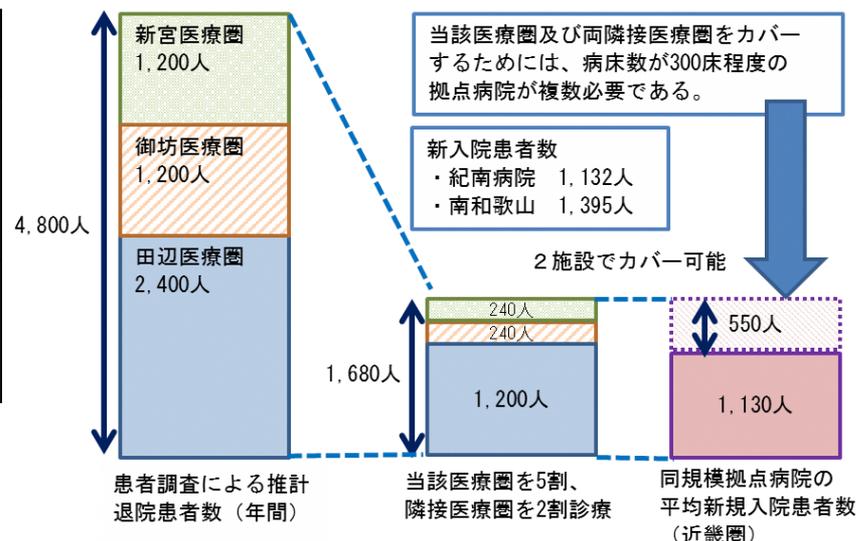
同一医療圏での複数設置について

和歌山医療圏	県内の人口の約43%が集まる医療圏であり、県全体のがん診療の中心的な役割を担う和歌山県立医科大学附属病院と、診療実績も多い日本赤十字社和歌山医療センターで、当該医療圏と隣接する空白医療圏の有田医療圏のがん患者もカバーする必要があることから、複数設置が必要
田辺医療圏	隣接空白医療圏の御坊、新宮両医療圏の患者を連携・協力のもとカバーしており、医師数の少ない当該医療圏ではどちらか一方の施設だけでは困難であるため、複数設置は必要。将来的に、両隣の空白医療圏内の基幹病院が「地域がん診療病院」の指定を目指すためのグループ連携を行っていく上でも、両施設の協力・連携が必要。地域医療構想においても病院機能の分化・連携を進めているところであり、がん治療においても病院医師の専門性に基づき治療対象のがん種の棲み分けなどに取り組んでいる。

○田辺医療圏における地域拠点病院のそれぞれの役割（強み）

	紀南病院	南和歌山医療センター
がん種 (我が国に多いがんを除く)	咽頭がん、甲状腺がん 副腎腫瘍 等	脳腫瘍、脊椎腫瘍 縦隔腫瘍 等
診療機能	ロボット支援下内視鏡 手術	緩和ケア病棟

○田辺医療圏及び隣接医療圏の診療について



空白医療圏に関する考え方

本県では空白医療圏が3圏域存在するが、それぞれ隣接医療圏等でカバーする。また、御坊医療圏、新宮医療圏は、県が独自に指定する「県がん診療推進病院」を設置し、一定のがん診療機能の均てん化を図っている。

有田医療圏	和歌山医療圏に隣接。交通アクセスも良いことから和歌山県立医科大学附属病院、日本赤十字社和歌山医療センターでカバー
御坊医療圏	田辺医療圏に隣接。国保日高総合病院（県指定）を中心に、田辺医療圏（紀南病院、南和歌山医療センター）や和歌山医療圏（和歌山県立医科大学附属病院、日本赤十字社和歌山医療センター）でカバー
新宮医療圏	田辺医療圏に隣接。新宮市立医療センター（県指定）を中心に、田辺医療圏（紀南病院、南和歌山医療センター）でカバー

鳥 取 県

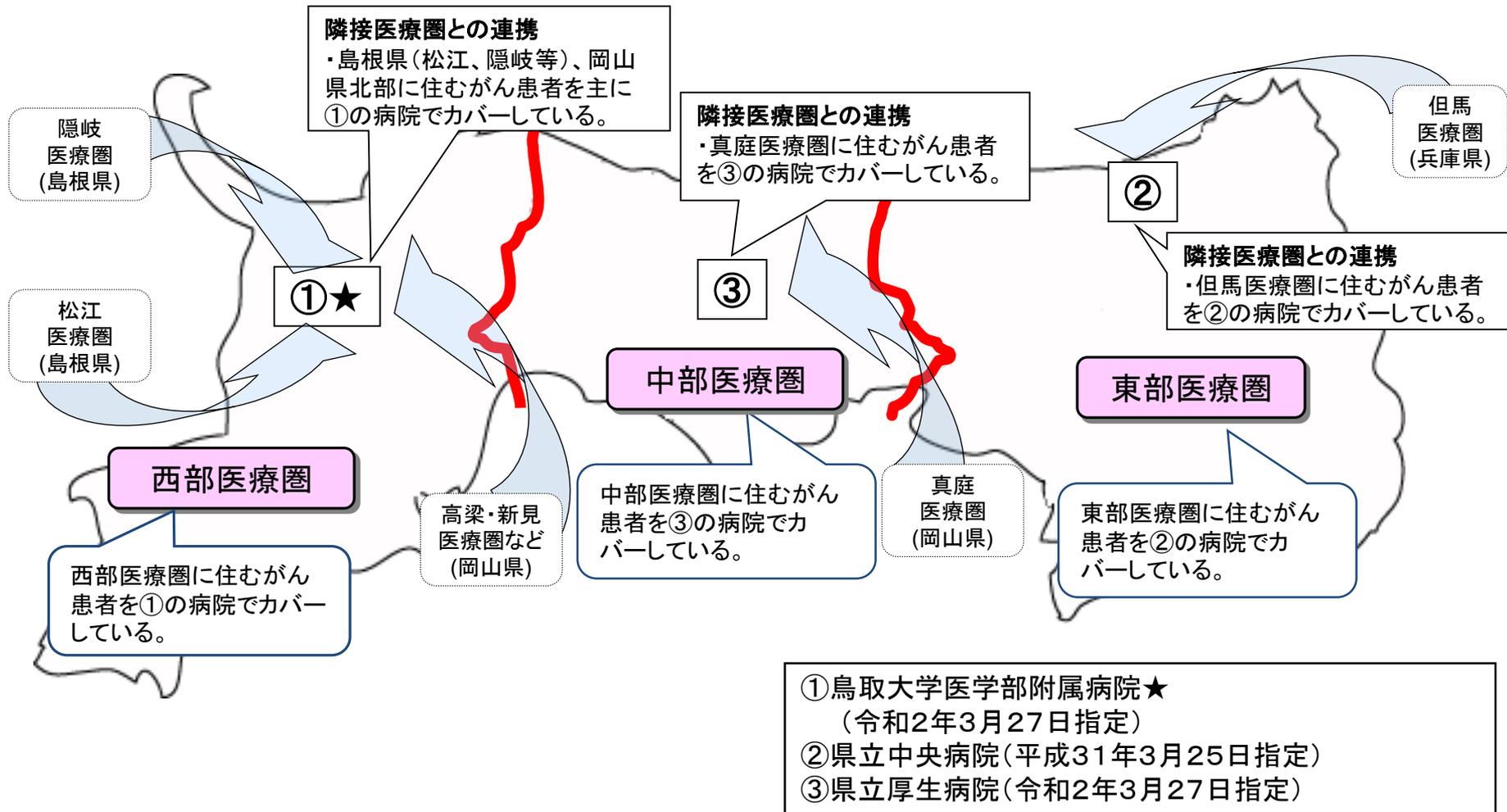
鳥取県がんの医療圏の概要

令和3年9月1日現在

医療圏域名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域がん診療連携拠点病院				地域がん診療病院				
						現況 報告 病院数	今回 更新 病院数	新規 申請 病院数	計	現況 報告 病院数	今回 更新 病院数	新規 申請 病院数	計	現況 報告 病院数	今回 更新 病院数	新規 申請 病院数	計	
東部医療圏	1,518.67	222,918	40.5%	146.8	14	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中部医療圏	780.63	98,096	17.9%	125.7	10	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
西部医療圏	1,207.98	228,484	41.6%	189.1	19	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	3,507.28	549,498	100.0%	156.7	43	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0

鳥取県 令和3年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★：都道府県拠点



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料 3

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1 西部医療圏	★	現況	鳥取大学医学部附属病院	(5,555)	(33.6)	(1,817)	(1,486)	(2,430)	(342)	(77)	(36)	(515)
				5,623	34.9	1,855	1,410	2,513	348	84	40	712
2 東部医療圏		現況	県立中央病院	(2,640)	(24.9)	(994)	(639)	(1,049)	(229)	(115)	(45)	(5,638)
				2,785	26.7	917	593	1,027	206	115	37	5,449
3 中部医療圏		現況	県立厚生病院	(2,163)	(33.1)	(561)	(459)	(422)	(113)	(136)	(87)	(3,334)
				2,054	33.1	565	527	372	119	121	55	2,713

★：都道府県拠点

※()内は令和元年、下段は令和2年の数値

指定推薦に係る鳥取県の考え方

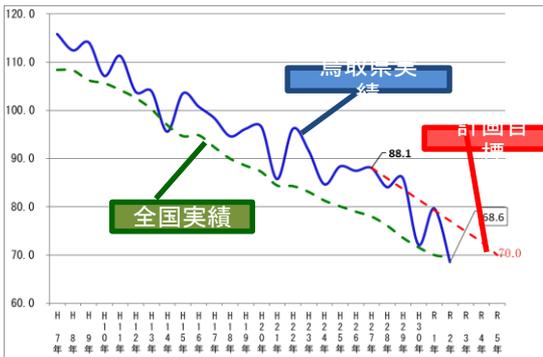
鳥取県の現状

- がんは昭和57年以降死因の第1位となり、全死亡の約3割を占めている。
- 「全国がん登録」のデータを基に公表された平成30年の年齢調整罹患率は全国ワースト1位
- 75歳未満年齢調整死亡率は、令和2年は68.6と全国23位であったが、平成30年、令和元年においては30位、45位であり、改善基調が確かなものか注視が必要

がん対策は喫緊の重要課題！

がんの75歳未満年齢調整死亡率の推移

都道府県別がんの75歳未満年齢調整死亡率の推移(順位)



都道府県	順位	死亡率	都道府県	順位	死亡率	都道府県	順位	死亡率
東京都	1	70.2	東京都	1	70.2	東京都	1	70.2
神奈川県	2	70.3	神奈川県	2	70.3	神奈川県	2	70.3
千葉県	3	70.5	千葉県	3	70.5	千葉県	3	70.5
埼玉県	4	70.6	埼玉県	4	70.6	埼玉県	4	70.6
東京都	5	70.6	東京都	5	70.6	東京都	5	70.6
東京都	6	70.6	東京都	6	70.6	東京都	6	70.6
東京都	7	70.6	東京都	7	70.6	東京都	7	70.6
東京都	8	70.6	東京都	8	70.6	東京都	8	70.6
東京都	9	70.6	東京都	9	70.6	東京都	9	70.6
東京都	10	70.6	東京都	10	70.6	東京都	10	70.6
東京都	11	70.6	東京都	11	70.6	東京都	11	70.6
東京都	12	70.6	東京都	12	70.6	東京都	12	70.6
東京都	13	70.6	東京都	13	70.6	東京都	13	70.6
東京都	14	70.6	東京都	14	70.6	東京都	14	70.6
東京都	15	70.6	東京都	15	70.6	東京都	15	70.6
東京都	16	70.6	東京都	16	70.6	東京都	16	70.6
東京都	17	70.6	東京都	17	70.6	東京都	17	70.6
東京都	18	70.6	東京都	18	70.6	東京都	18	70.6
東京都	19	70.6	東京都	19	70.6	東京都	19	70.6
東京都	20	70.6	東京都	20	70.6	東京都	20	70.6
東京都	21	70.6	東京都	21	70.6	東京都	21	70.6
東京都	22	70.6	東京都	22	70.6	東京都	22	70.6
東京都	23	70.6	東京都	23	70.6	東京都	23	70.6
東京都	24	70.6	東京都	24	70.6	東京都	24	70.6
東京都	25	70.6	東京都	25	70.6	東京都	25	70.6
東京都	26	70.6	東京都	26	70.6	東京都	26	70.6
東京都	27	70.6	東京都	27	70.6	東京都	27	70.6
東京都	28	70.6	東京都	28	70.6	東京都	28	70.6
東京都	29	70.6	東京都	29	70.6	東京都	29	70.6
東京都	30	70.6	東京都	30	70.6	東京都	30	70.6
東京都	31	70.6	東京都	31	70.6	東京都	31	70.6
東京都	32	70.6	東京都	32	70.6	東京都	32	70.6
東京都	33	70.6	東京都	33	70.6	東京都	33	70.6
東京都	34	70.6	東京都	34	70.6	東京都	34	70.6
東京都	35	70.6	東京都	35	70.6	東京都	35	70.6
東京都	36	70.6	東京都	36	70.6	東京都	36	70.6
東京都	37	70.6	東京都	37	70.6	東京都	37	70.6
東京都	38	70.6	東京都	38	70.6	東京都	38	70.6
東京都	39	70.6	東京都	39	70.6	東京都	39	70.6
東京都	40	70.6	東京都	40	70.6	東京都	40	70.6
東京都	41	70.6	東京都	41	70.6	東京都	41	70.6
東京都	42	70.6	東京都	42	70.6	東京都	42	70.6
東京都	43	70.6	東京都	43	70.6	東京都	43	70.6
東京都	44	70.6	東京都	44	70.6	東京都	44	70.6
東京都	45	70.6	東京都	45	70.6	東京都	45	70.6
東京都	46	70.6	東京都	46	70.6	東京都	46	70.6
東京都	47	70.6	東京都	47	70.6	東京都	47	70.6
東京都	48	70.6	東京都	48	70.6	東京都	48	70.6
東京都	49	70.6	東京都	49	70.6	東京都	49	70.6
東京都	50	70.6	東京都	50	70.6	東京都	50	70.6

第3次鳥取県がん対策推進計画

- 全体目標: 1 がんによる死亡者の減少
 75歳未満年齢調整死亡率(人口10万人対)を70.0未満とする。(男性:90.0未満、女性50.0未満)
 2 がんになっても自分らしく生きることのできるがんとの共生社会を実現する。

がん診療連携拠点病院の整備方針

- 都道府県がん診療連携拠点病院を1病院、地域がん診療連携拠点病院を二次医療圏(東部・中部・西部)において、概ね1箇所程度整備するが、必要に応じて複数を整備する。
- 都道府県がん診療連携拠点病院を核に、地域性・専門性等を踏まえ各医療圏に指定された地域がん診療連携拠点病院と共に行う、県全域及び隣接県(島根県、岡山県及び兵庫県)医療圏域の住民に対するがん医療の提供。
- 県民が身近な地域(各医療圏)で、安心して質の高いがん医療が受けられる診療体制の構築。
- がん診療連携拠点病院を中心とした地域医療との連携、がん医療の均てん化を実現する体制の推進。

島根県

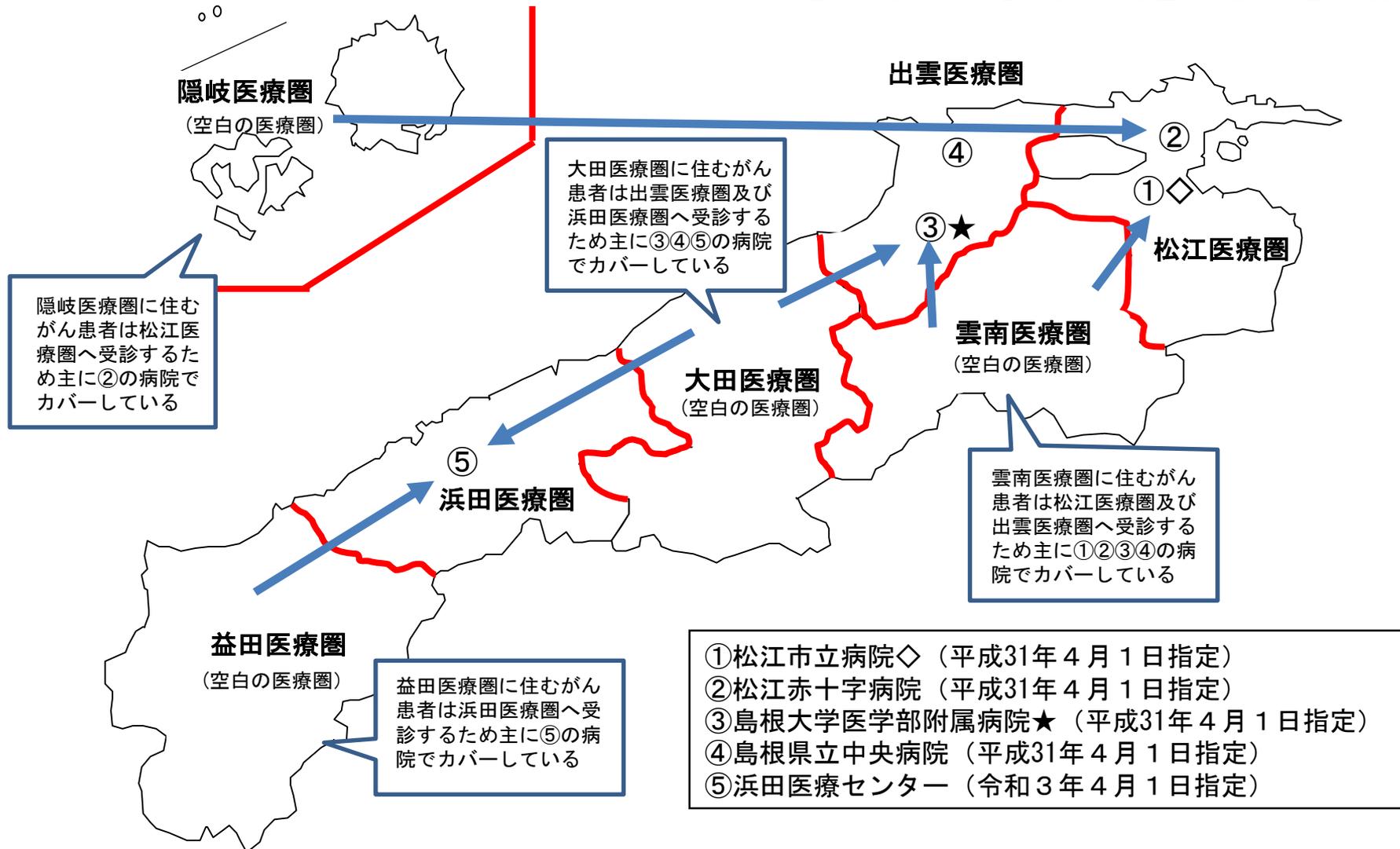
島根県 がんの医療圏の概要

令和3年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
松江	993.92	239,031	35.9	240.5	13	2			2						
雲南	1164.07	51,525	7.7	44.3	5				0						
出雲	624.36	172,943	26.0	277.0	11	2			2						
大田	1243.97	49,808	7.5	40.0	4				0						
浜田	958.92	76,324	11.5	79.6	7	1			1						
益田	1376.73	57,133	8.6	41.5	5				0						
隠岐	345.93	18,960	2.9	54.8	2				0						
計	6707.90	665,724	100	99.2	47	5	0	0	5	0	0	0	0	0	0

島根県 令和3年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★：都道府県拠点 ◇：地域拠点（高度型） ◎：特定領域拠点



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

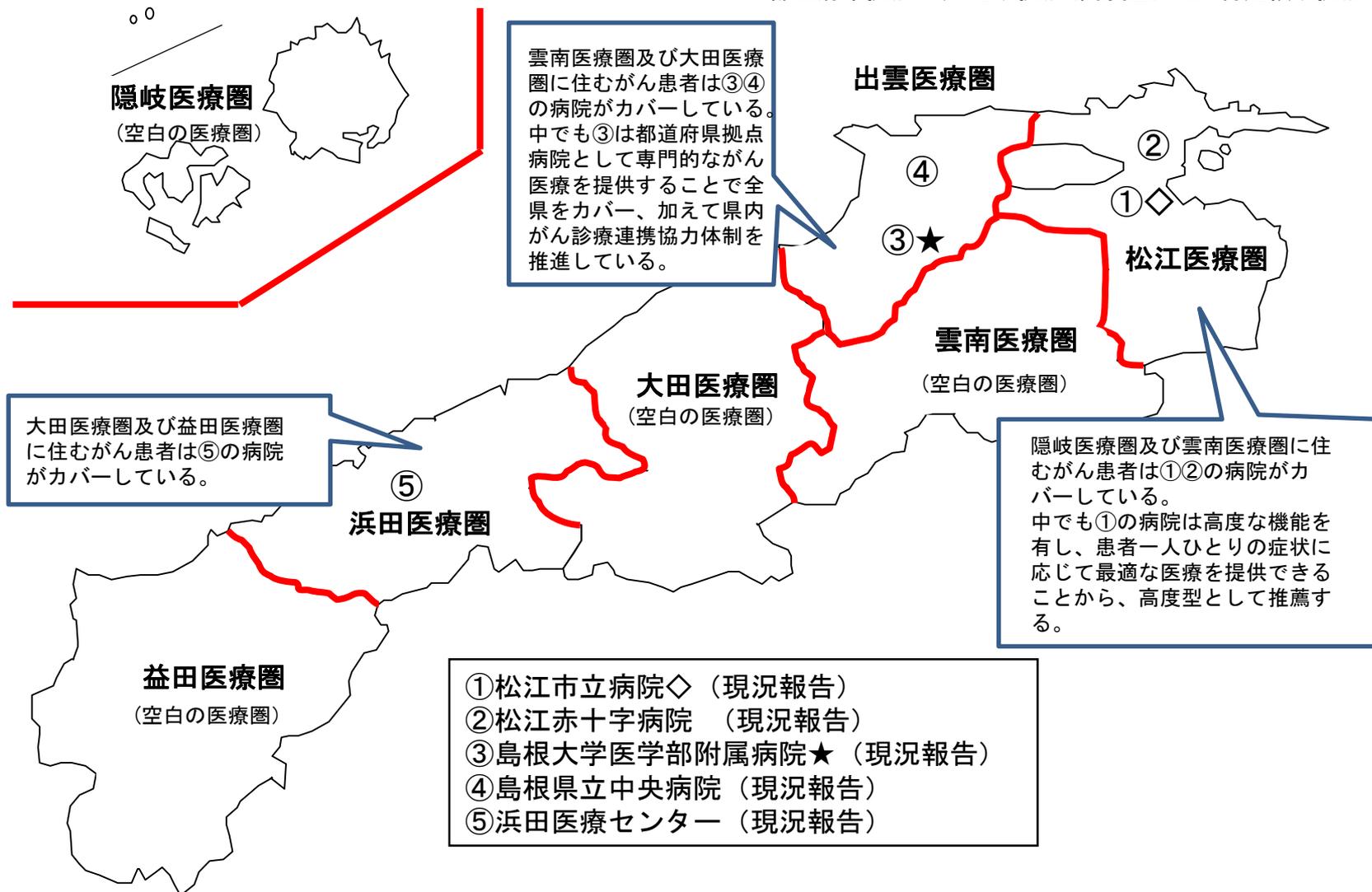
- ・ () 内は平成31年1月～令和元年12月の数値、下段は令和3年10月提出の数値
- ・ 申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
- ・ 1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】，【資料3-1-①-2】としてください)

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				年間入院がん患者延べ数	年間入院患者延べ数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) <u>500件以上</u>	悪性腫瘍の手術件数(年間) <u>400件以上</u>	のべ患者数(年間) <u>1,000人以上</u>	のべ患者数(年間) <u>200人以上</u>	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) <u>50件以上</u>	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) <u>2割程度</u>	相談件数(年間)
1 松江	◇	現況報告	松江市立病院	2,001	23.5	(888) 640	(532) 439	(2,092) 1,948	(243) 216	(289) 292	(31) 31	(2,389) 2,166
2 松江		現況報告	松江赤十字病院	3,156	1.9	(1,079) 1,120	(1,079) 1,067	(1,430) 1,407	(237) 203	(89) 95	(44) 42	(349) 399
3 出雲	★	現況報告	島根大学医学部附属病院	3,975	2.1	(1,526) 1,433	(921) 837	(1,281) 1,289	(450) 586	(177) 275	(38) 39	(2,062) 2,680
4 出雲		現況報告	島根県立中央病院	2,490	20.6	(969) 940	(699) 572	(1,066) 1,145	(209) 217	(238) 153	(24) 25	(1,225) 1,003
5 浜田		現況報告	浜田医療センター	1,286	20.7	(891) 879	(478) 488	(1,149) 1,176	(135) 140	(65) 61	(48) 54	(323) 344

島根県 令和4年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★: 都道府県拠点 ◇: 地域拠点(高度型) ◎: 特定領域拠点



新規指定及び指定更新推薦に係る島根県の考え方

1. 患者本位で将来にわたって持続可能なしまねらしいがん医療の実現

東西に長く離島や中山間地域からなる本県特有の地理的要因に関わらず、県内どこに住んでいても安心してがん医療が受けられ、患者や家族の痛みやつらさが緩和され、生活の質が向上している状態を目指す。

2. がん医療体制の目指すべき姿

- ①拠点病院体制の維持とがん医療機能の向上
- ②拠点病院と地域の病院の連携・機能分担の促進
- ③都道府県拠点病院を中心に集約化されている医療等へのアクセスの推進

3. 推薦の概要

目指すべき姿の実現のため、都道府県拠点病院及び地域拠点病院について、引き続き推薦を行う。ただし、地域拠点病院のうち松江市立病院については、敷地内にがんセンターを併設、緩和ケア病床もあることなどから高度型として推薦を行う。

4. 指定により期待される効果

拠点病院と空白の医療圏及び拠点病院のある医療圏にある地域の病院等との連携・機能分担を促進させることにより、「できる治療は患者に身近な病院・場所で実施する仕組み」を実現する。

岡山県

岡山県がんの医療圏の概要

令和3年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院			特定領域 がん診療 連携拠点病院		地域がん診療病院			
						既指定 病院数	今回 更新 病院数	計	既指定 病院数	計	既指定 病院数	今回 更新 病院数	計	
県南東部	1,899	912,353	49	480.4	75	4	0	4	0	0	0	0	0	0
県内西部	1,124	695,151	37	618.5	53	2	0	2	0	0	0	0	0	0
高梁・新見	1,340	55,964	3	41.8	8	0	0	0	0	0	1	0	0	1
真庭	829	42,106	2	50.8	7	0	0	0	0	0	1	0	0	1
津山・英田	1,915	172,468	9	90.1	17	1	0	1	0	0	0	0	0	0
計	7,107	1,878,042	100	1281.6	160	7	0	7	0	0	2	0	0	2

岡山県 令和3年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★: 都道府県拠点 ◇: 地域拠点(高度型) ◎: 特定領域拠点



医療需要の増加に対応するため、複数の病院が必要。

川崎医科大学附属病院は、高梁・新見医療圏のがん医療をサポートする役割を担う。

倉敷中央病院は、圏域内を広範囲にカバーするとともに、地域医療連携について中心的役割を担う。

医療需要の増加に対応するため、複数の病院が必要。

岡山大学病院は県拠点病院として、他の拠点病院等を牽引。

岡山済生会総合病院は、緩和ケアの全県的な普及について中心的役割を担う。

岡山赤十字病院は、相談支援について中心的役割を担う。

岡山医療センターは、真庭医療圏のがん医療をサポートする役割を担う。

- ①岡山大学病院★
(平成31年4月1日)
- ②岡山済生会総合病院
(平成31年4月1日)
- ③岡山赤十字病院
(平成31年4月1日)
- ④岡山医療センター
(令和2年4月1日)
- ⑤川崎医科大学附属病院
(平成31年4月1日)
- ⑥倉敷中央病院
(令和2年4月1日)
- ⑦津山中央病院
(令和2年4月1日)
- ④金田病院
(令和3年4月1日)
※④を中心に⑦ともグループ指定
- ⑤高梁中央病院
(令和2年4月1日)
※⑤を中心に①ともグループ指定

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

- ・()内は令和元年10月提出の数値、下段は令和3年10月提出の数値
 - ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
 - ・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)
- ★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
①	県南東部	★	現況	岡山大学病院	6,159	32.6	(2,747) 2,452	(1,896) 1,697	(5,187) 5,315	(640) 682	(137) 189	(18) 21	(2,096) 2,117
②	県南東部		現況	岡山済生会総合病院	3,160	25.5	(1,301) 1,227	(1,057) 949	(1,131) 1,115	(231) 179	(193) 161	(14) 14	(887) 854
③	県南東部		現況	岡山赤十字病院	21,146	15.1	(1,070) 1,190	(743) 745	(1,427) 1,583	(285) 298	(243) 234	(6) 6	(868) 658
④	県南東部		現況	岡山医療センター	2,959	19.7	(1,171) 1,166	(574) 610	(1,202) 1,188	(207) 215	(191) 206	(17) 17	(1,838) 1,838
⑤	県南西部		現況	川崎医科大学附属病院	3,830	23.1	(1,408) 1,450	(993) 958	(5,362) 5,924	(384) 393	(171) 189	(15) 16	(1,366) 2,560
⑥	県南西部		現況	倉敷中央病院	6,437	21.9	(3,044) 3,128	(2,177) 2,271	(4,271) 4,328	(928) 940	(246) 227	(39) 40	(1,497) 2,362
⑦	津山英田		現況	津山中央病院	1,756	14.9	(1,099) 1,010	(715) 622	(1,009) 987	(307) 223	(90) 88	(46) 39	(860) 478

地域がん診療病院の診療実績等

資料 3 - 2

- ・上段は令和元年10月提出の数値、下段は令和3年10月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療(実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間)	悪性腫瘍手術総数(年間)	のべ患者数(年間)	のべ患者数(年間)	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間)	相談件数(年間)
④	真庭	現況	金田病院	205	12.7	(73) 151	(8) 16	(565) 598	実施なし	(40) 8	(652) 309
⑤	高梁・新見	現況	高梁中央病院	136	8.2	(133) 120	(13) 19	(23) 26	実施なし	(16) 34	(113) 126

岡山県 令和4年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

高梁・新見医療圏及び真庭医療圏に、引き続き地域がん診療病院を指定することにより、患者が自らの医療圏において基本的ながん診療を受けることが可能となる。

なお、高度ながん医療が必要な場合には、グループ先の拠点病院において提供できる体制を構築する。

医療需要の増加に対応するため、複数の病院が必要。

⑤の病院は、高梁新見医療圏のがん医療をサポートする役割を担う。

⑥の病院は、圏域内を広範囲にカバーするとともに、地域医療連携について中心的役割を担う。

県南の医療圏においては、各拠点病院が自らの医療圏に居住する患者へがん診療を提供する。また、グループを形成する拠点病院(主に④、⑤等)が、地域がん診療病院をサポートする。

医療需要の増加に対応するため、複数の病院が必要。

①の病院は県拠点病院として、他の地域拠点病院等を牽引する。

②の病院は、①と連携し、緩和ケアの全県的な普及について中心的役割を担う。

③の病院は、①と連携し、相談支援について中心的役割を担う。

④の病院は、真庭医療圏のがん医療をサポートする役割を担う。



- ①岡山大学病院★(現況)
(平成31年4月1日)
- ②岡山済生会総合病院(現況)
(平成31年4月1日)
- ③岡山赤十字病院(現況)
(平成31年4月1日)
- ④岡山医療センター(現況)
(令和2年4月1日)
- ⑤川崎医科大学附属病院(現況)
(平成31年4月1日)
- ⑥倉敷中央病院(現況)
(令和2年4月1日)
- ⑦津山中央病院(現況)
(令和2年4月1日)
- ④金田病院(現況)
(令和3年4月1日)
※④を中心に⑦ともグループ指定
- ⑤高梁中央病院(現況)
(令和2年4月1日)
※⑤を中心に①ともグループ指定

岡山県 令和3年度指定推薦の考え方

第3次岡山県がん対策推進計画

がん患者がどこに住んでいても標準的な専門治療が受けられるよう、がん医療の均てん化を図る

県南東部二次医療圏

- 人口約91万人
- 他の医療圏からも患者流入
- 高齢者人口の増加に伴い、今後がん医療需要が増大

岡山大学病院★(853床・現況)

- ・ 県拠点病院として、地域拠点病院・地域がん診療病院を牽引
- ・ 大学病院の特徴を活かし、がん専門医療人材を育成

岡山済生会総合病院(473床・現況)

- ・ 緩和ケア推進の中心的役割 ・岡山市中心域からのアクセスが良好
- ・ 地域の医療機関との医療連携を積極的に推進

岡山赤十字病院(500床・現況)

- ・ がんに特化した相談支援センターを設け、がん相談に注力
- ・ 独立型緩和ケア病床12床を開設 ・圏域南部からのアクセスが良好

岡山医療センター(609床・現況)

- ・ グループ指定を受ける金田病院が属する真庭医療圏との連携強化
- ・ 血液悪性腫瘍に対応する無菌室23床を設置
- ・ 圏域北部及び圏域外からのアクセスが良好

県南西部二次医療圏

- 人口約70万人
- 他の医療圏からも患者流入
- 高齢者人口の増加に伴い、今後がん医療需要が増大

川崎医科大学附属病院(1,182床・現況)

- ・ 最新の機器を用いての高精度放射線治療や先進医療を実践
- ・ 大学病院の特徴を活かし、がん専門医療人材を育成
- ・ 緩和ケア病床25床を設置
- ・ グループ指定を受ける高梁中央病院が属する高梁・新見医療圏との連携強化

倉敷中央病院(1,172床・現況)

- ・ 年間外来患者延べ62万人、うちがん患者が約14万人
- ・ 病床数、職員数、標榜診療科数等、日本でも最大規模
- ・ 5大がん地域連携クリティカルパスを積極的に運用し、県内最大の活用実績
- ・ がん医療に係るさまざまなセンターを設け、設備を充実
- ・ 緩和ケア病床14床を設置

相互に連携、協力

高梁・新見二次医療圏

- 人口約6万人
- 地域がん診療連携拠点病院との密接な連携により、圏域内でのがん医療を提供

真庭二次医療圏

- 人口約4万人

津山・英田二次医療圏

- 人口約17万人

地域がん診療病院

高梁中央病院(160床・現況)

- ・ 地域の中核病院として、救急医療等に尽力
- ・ グループ指定先の拠点病院との連携強化
- ・ 高梁市の中心部に位置し、交通アクセス良好

金田病院(172床・現況)

- ・ 地域の中核病院として、外来薬物療法室を設置
- ・ グループ指定先の拠点病院との連携強化
- ・ 医療圏内の主要な地域から通院が容易

津山中央病院(515床・現況)

- ・ 県北の中核病院であり、医療圏のほぼ中央に位置している
- ・ 県北で唯一、放射線治療に対応
- ・ がん陽子線治療センターを整備(岡山大学との共同運用)
- ・ プライバシーに配慮した薬物療法室を設置

○本県の指定推薦の考え方

本県では、「第3次岡山県がん対策推進計画」に基づき、各種施策を推進しているが、がん患者がどこに住んでいても標準的な専門治療が受けられるよう、がん医療の均てん化を図ることを目標の一つとしている。

このため、現在のがん医療提供体制を維持し、県拠点病院を中核として、地域拠点病院や地域診療病院等がそれぞれの特徴を活かし、相互に連携、協力することにより、がん医療の均てん化と医療水準の向上を図っていく必要がある。

○二次医療圏における指定推薦の考え方

【県南東部医療圏】

県南東部医療圏は、面積が広大で、県内で最多の人口を擁する医療圏であり、交通網も発達し、高度ながん医療の提供が可能な病院も多く存在しており、今後ながん医療需要の増大が見込まれるため、複数の地域拠点病院が必要である。岡山大学病院は、県拠点病院として地域拠点病院や地域診療病院を牽引するとともに、各地域拠点病院はそれぞれの特徴を活かして、県全体のがん医療水準の向上を図る。

【県南西部医療圏】

県南西部医療圏は、多数の人口を擁し、人口密度が県内で最も高く、交通の利便性もあることから、今後ながん医療需要の増大が見込まれ、複数の地域拠点病院が必要である。各地域拠点病院は、それぞれの特徴を活かして、県全体のがん医療水準の向上を図る。川崎医科大学附属病院は、高梁中央病院のグループ指定先として高梁・新見医療圏との連携強化を図り、同圏域のがん医療をサポートする。また、倉敷中央病院は、圏域内を広範囲にカバーし、地域連携について中心的な役割を担う。

【高梁・新見医療圏】

高梁中央病院は、県南西部医療圏等に流出していたがん患者の受け入れ施設としての役割を担うとともに、グループ指定先の拠点病院との連携強化により、医療水準の向上、がん医療の均てん化を図る。

【真庭医療圏】

金田病院は、県南東部医療圏等に流出していたがん患者の受け入れ施設としての役割を担うとともに、グループ指定先の拠点病院との連携強化により、医療水準の向上、がん医療の均てん化を図る。

【津山・英田医療圏】

津山中央病院は、県北におけるがん医療の中核的な役割を担い、医療水準の向上、がん医療の均てん化を図る。

広島県

広島県がんの医療圏の概要

令和3年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院			
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	
広島	2,506.14	1,361,555	49.0	543.3	94	5			5							
広島西	568.15	140,711	5.1	247.7	13	1			1							
呉	453.55	230,601	8.3	508.4	30		1		1							
広島中央	796.50	227,565	8.2	285.7	20	1			1							
尾三	1,034.76	232,040	8.4	224.2	23	1			1							
福山・府中	1,095.45	501,480	18.1	457.8	45	2			2							
備北	2,024.67	82,335	3.0	40.7	10	1			1							
計	8,479.22	2,776,287	100.0	327.4	235	11	1	0	12	0	0	0	0	0	0	0

広島県 令和3年10月1日現在の医療圏の状況と指定状況

ネットワーク型がんセンター (①★, ②, ③◇, ④)

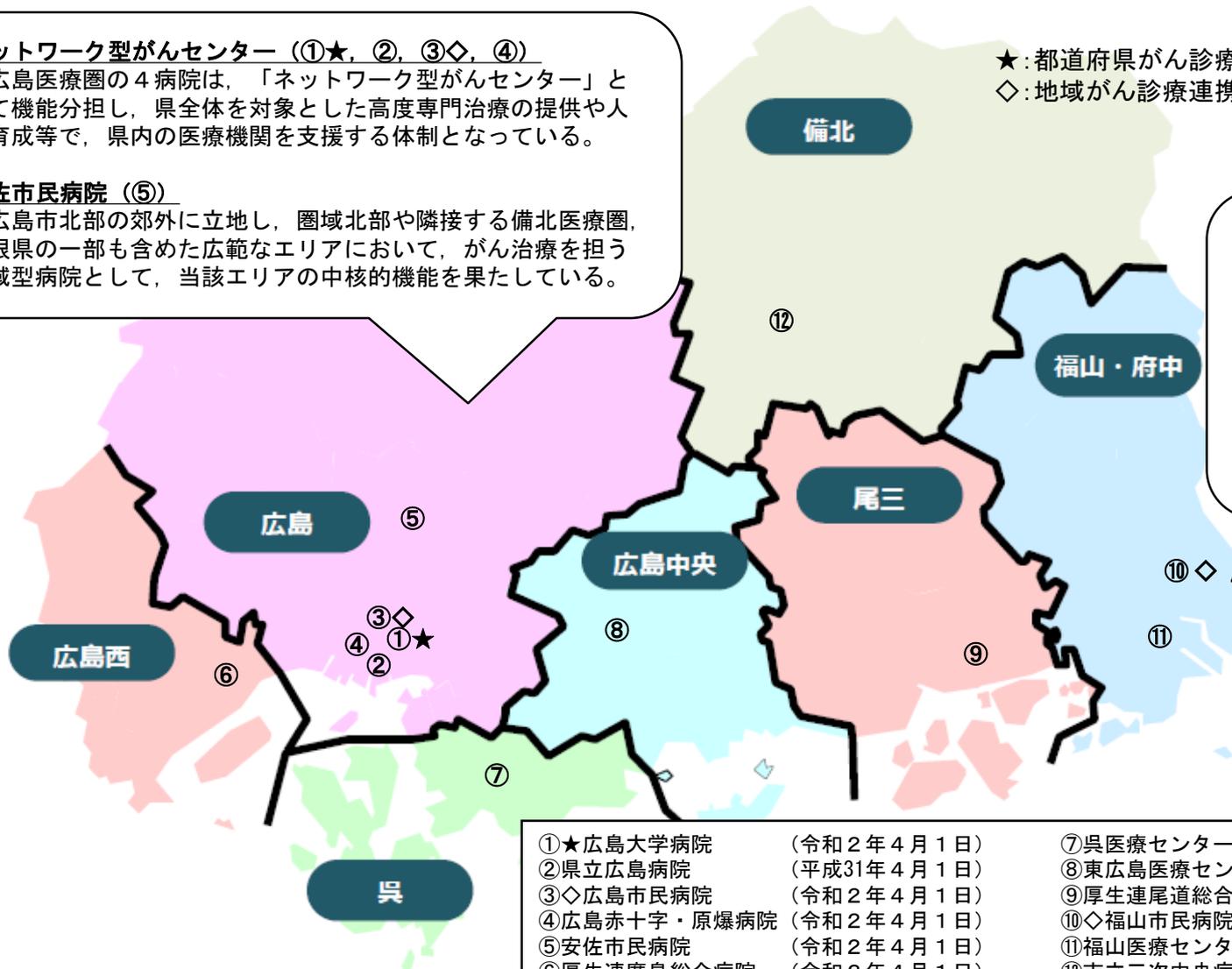
広島医療圏の4病院は、「ネットワーク型がんセンター」として機能分担し、県全体を対象とした高度専門治療の提供や人材育成等で、県内の医療機関を支援する体制となっている。

安佐市民病院 (⑤)

広島市北部の郊外に立地し、圏域北部や隣接する備北医療圏、島根県の一部も含めた広範なエリアにおいて、がん治療を担う地域型病院として、当該エリアの中核的機能を果たしている。

★: 都道府県がん診療連携拠点病院
◇: 地域がん診療連携拠点病院(高度型)

県東部地域において手術症例数等が最も多い⑩と、小児がん及び婦人科系がんの特長があり、患者支援にも積極的な⑫が、隣接県も含めた広範囲の患者のニーズに役割分担をして対応していく。



- | | |
|-------------|-------------|
| ①★広島大学病院 | (令和2年4月1日) |
| ②県立広島病院 | (平成31年4月1日) |
| ③◇広島市民病院 | (令和2年4月1日) |
| ④広島赤十字・原爆病院 | (令和2年4月1日) |
| ⑤安佐市民病院 | (令和2年4月1日) |
| ⑥厚生連広島総合病院 | (令和2年4月1日) |

- | | |
|------------|------------|
| ⑦呉医療センター | (令和3年4月1日) |
| ⑧東広島医療センター | (令和2年4月1日) |
| ⑨厚生連尾道総合病院 | (令和2年7月1日) |
| ⑩◇福山市民病院 | (令和2年4月1日) |
| ⑪福山医療センター | (令和2年4月1日) |
| ⑫市立三次中央病院 | (令和2年4月1日) |

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①-1

・()内は令和2年10月提出の数値、下段は令和3年10月提出の数値

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1	広島	★	現況	広島大学病院	(8,262) 8,489	(42.9) 44.6	(2,898) 2,556	(3,086) 2,729	(3,332) 3,565	(814) 712	(390) 395	(19) 19	(1,321) 1,130
2	広島		現況	県立広島病院	(5,269) 5,232	(31.2) 34.2	(1,699) 1,606	(1,027) 1,814	(2,259) 2,344	(572) 390	(202) 262	(16) 15	(693) 874
3	広島	◇	現況	広島市民病院	(5,091) 5,279	(24.2) 26.3	(3,358) 3,195	(2,382) 2,258	(3,945) 5,147	(674) 844	(300) 347	(15) 15	(1,134) 1,352
4	広島		現況	広島赤十字病院	(4,535) 4,539	(32.7) 43.5	(1,337) 1,398	(581) 595	(3,239) 3,217	(375) 357	(101) 63	(13) 11	(816) 804
5	広島		現況	安佐市民病院	(3,974) 3,411	(25.0) 23.7	(2,584) 1,879	(1,730) 1,397	(2,033) 1,992	(373) 335	(132) 116	(14) 11	(1,184) 1,577
6	広島西		現況	広島総合病院	(2,444) 2,376	(18.4) 23.2	(1,345) 1,588	(1,031) 936	(1,230) 1,255	(255) 252	(139) 115	(41) 36	(600) 475
7	呉		更新	呉医療センター	(3,996) 3,907	(28.6) 31.5	(1,719) 1,571	(1,217) 1,287	(2,033) 2,381	(302) 293	(386) 400	(23) 47	(322) 414
8	広島中央		現況	東広島医療センター	(1,910) 2,031	(19.1) 21.3	(928) 1,235	(549) 629	(1,117) 1,482	(312) 371	(41) 69	(75) 79	(271) 354
9	尾三		現況	尾道総合病院	(2,571) 2,403	(22.2) 21.4	(1,430) 1,362	(1,412) 872	(1,183) 1,107	(258) 354	(154) 103	(29) 33	(225) 318
10	福山府中	◇	現況	福山市民病院	(4,042) 4,273	(30.0) 40.8	(1,819) 1,711	(1,458) 1,445	(2,019) 1,979	(477) 470	(156) 193	(25) 25	(1,985) 1,762

広島県 令和3年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★: 都道府県拠点

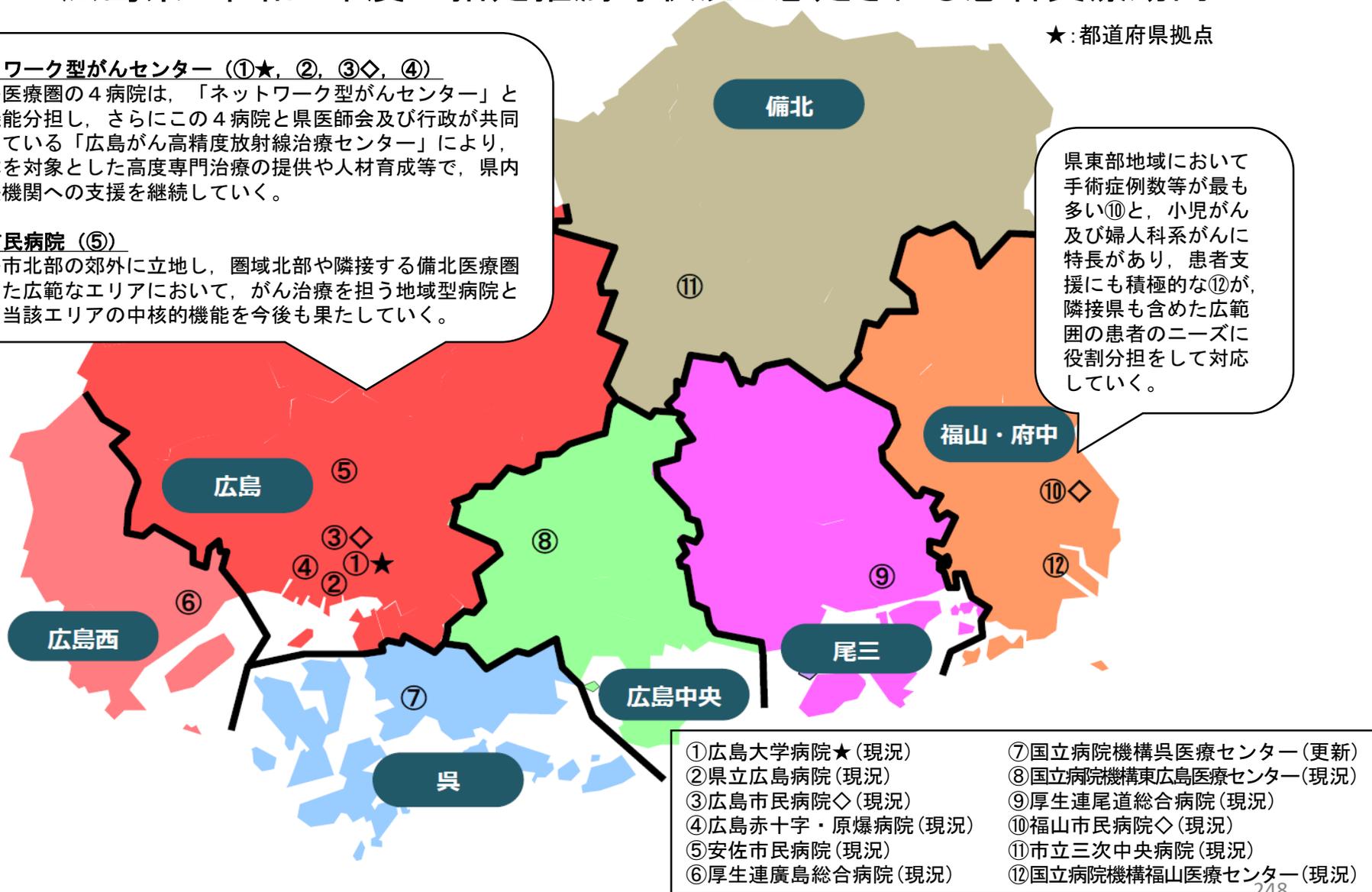
ネットワーク型がんセンター (①★, ②, ③◇, ④)

広島医療圏の4病院は、「ネットワーク型がんセンター」として機能分担し、さらにこの4病院と県医師会及び行政が共同運営している「広島がん高精度放射線治療センター」により、県全体を対象とした高度専門治療の提供や人材育成等で、県内の医療機関への支援を継続していく。

安佐市民病院 (⑤)

広島市北部の郊外に立地し、圏域北部や隣接する備北医療圏も含めた広範なエリアにおいて、がん治療を担う地域型病院として、当該エリアの中核的機能を今後も果たしていく。

県東部地域において手術症例数等が最も多い⑩と、小児がん及び婦人科系がんの特長があり、患者支援にも積極的な⑫が、隣接県も含めた広範囲の患者のニーズに役割分担をして対応していく。



指定更新等に係る広島県の推薦方針

ネットワークで構築する広島のがん医療提供体制

● 広島医療圏の広島大学病院，県立広島病院，広島市立広島市民病院，広島赤十字・原爆病院の4病院については，「ネットワーク型がんセンター」としてそれぞれの特色を組み合わせることで連携した高度な専門医療機能や人材育成など，県全体のがん対策推進に貢献している。

【具体的な成果】

高精度放射線治療が提供可能な「広島がん高精度放射線治療センター」を整備し，4病院からの患者紹介を中心に，県内全域や県外からの紹介患者に対応している。

● また，広島市立安佐市民病院は，広島圏域北部や他県の一部も含めた隣接する圏域の広範なエリアにおいて中核的な機能を果たしている。

● 福山市民病院，福山医療センターの2病院は，両院の機能的特徴と，人口規模が大きく南北に長いといった福山・府中圏域の地域的特徴を踏まえた役割分担を行い，隣接県も含めた広範なエリアにおける患者のニーズに対応する。

● 広島医療圏及び福山・府中医療圏を除く5つの医療圏については，住民が身近な地域で，良質ながん医療や相談支援などのサービスを受けられるように，それぞれ1施設ずつ地域拠点病院を配置し，更なるがん医療水準の向上を推進する。



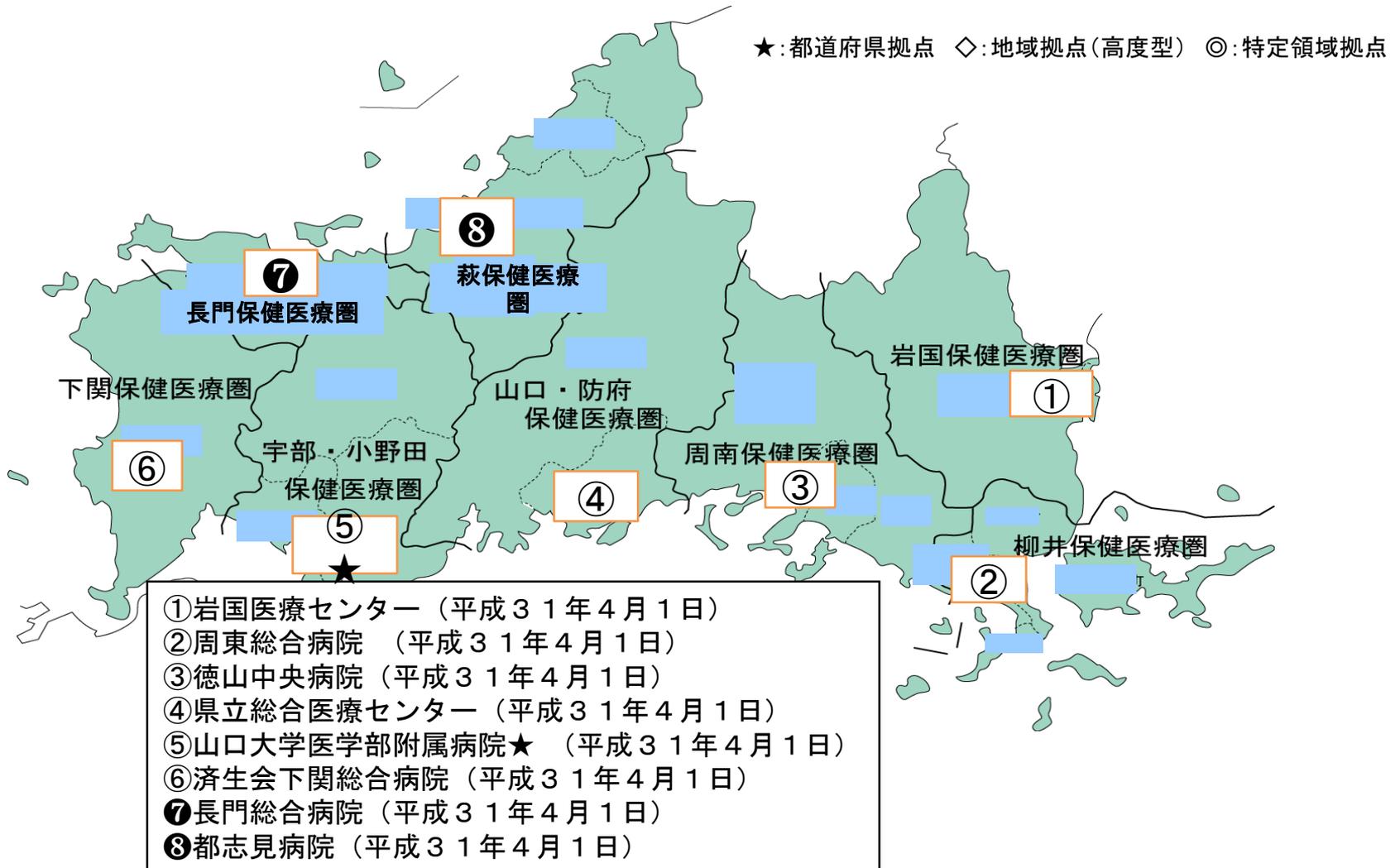
山口県

山口県 がんの医療圏の概要

令和3年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院			特定領域がん診療 連携拠点病院		地域がん診療病院	
						既指定 病院数	今回更新 病院数	計	既指定 病院数	計	既指定 病院数	計
岩国医療圏	884.30	134,936	10.1%	152.6	17	1	0	1	0	0	0	0
柳井医療圏	397.84	74,273	5.5%	186.7	8	1	0	1	0	0	0	0
周南医療圏	837.77	244,316	18.2%	291.6	24	1	0	1	0	0	0	0
山口・防府 医療圏	1,212.60	307,612	22.9%	253.7	27	1	0	1	0	0	0	0
宇部・小野 田医療圏	892.38	246,647	18.4%	276.4	28	1	0	1	0	0	0	0
下関医療圏	716.10	253,875	18.9%	354.5	26	1	0	1	0	0	0	0
長門医療圏	357.31	32,356	2.4%	90.6	5	0	0	0	0	0	1	1
萩医療圏	814.26	47,491	3.5%	58.3	7	0	0	0	0	0	1	1
計	6,112.53	1,341,506	100.0%	1,664.4	142	6	0	6	0	0	2	2

山口県 令和3年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

・()内は令和元年10月提出の数値、下段は令和3年11月提出の数値

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

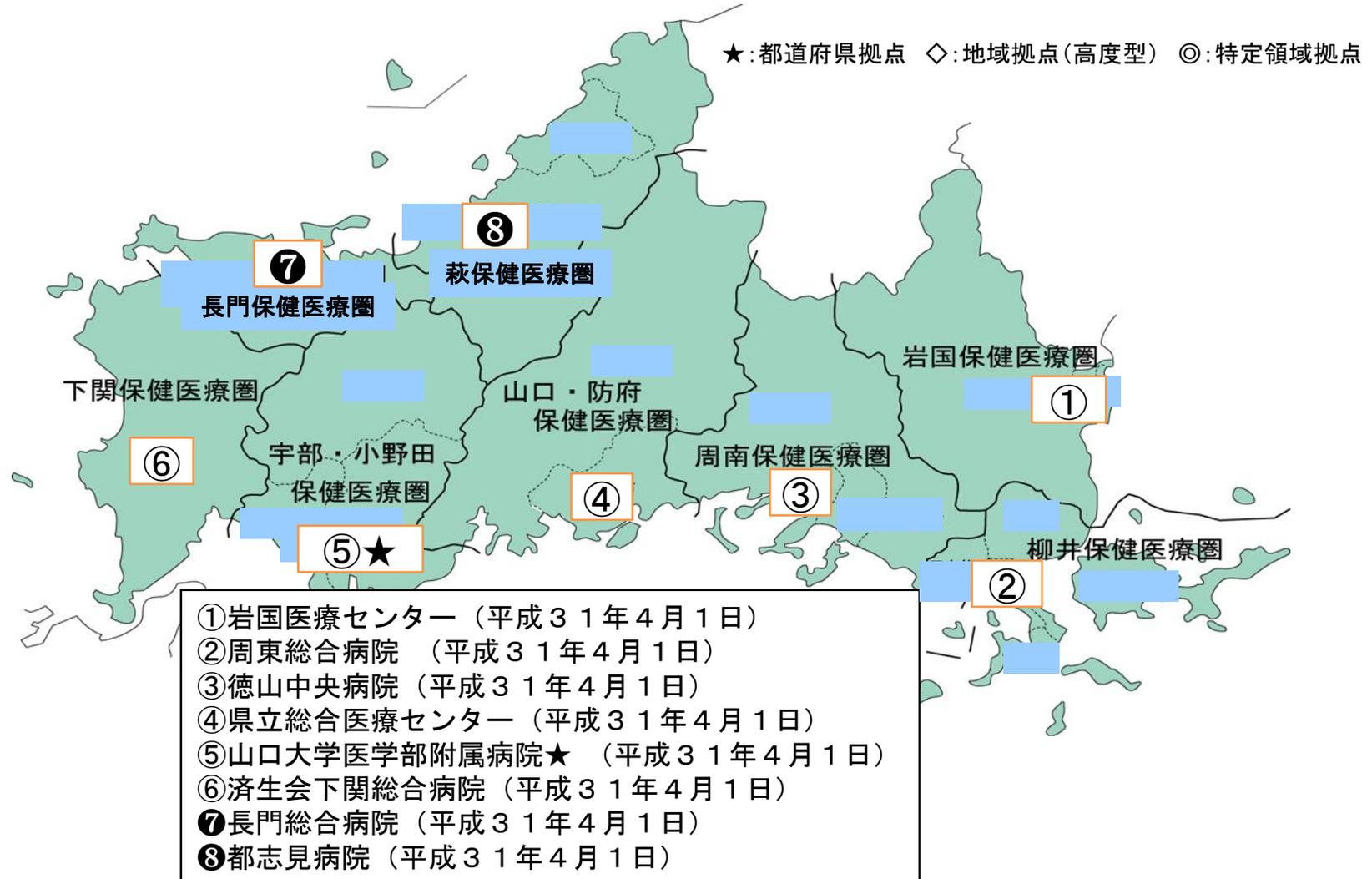
医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				年間入院がん患者延べ数	年間入院患者延べ数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1 岩国		現況	岩国医療センター	3,297	29.6	1,199	(631) 784	(4,194) 3,301	(241) 254	94	49	1,432
2 柳井		現況	周東総合病院	1,571	22.6	540	(302) 415	(474) 475	(117) 82	48	54	1,471
3 周南		現況	徳山中央病院	3,022	23.4	1,406	(1,126) 1,150	(1,701) 1,888	(225) 321	75	49	2,647
4 山口・防府		現況	県立総合医療センター	1,904	17.9	911	(597) 545	(1,283) 1,318	(242) 198	199	24	1,700
5 宇部・小野田	★	現況	山口大学医学部附属病院	4,882	31.2	2,198	(1,272) 1,482	(9,464) 10,755	(431) 456	101	49	957
6 下関		現況	済生会下関総合病院	2,336	24.1	994	(695) 676	(2,333) 2,888	(202) 134	76	32	740

地域がん診療病院の診療実績等

・上段は令和元年10月提出の数値、下段は令和3年11月提出の数値

	医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				年間入院がん患者延べ数	年間入院患者数延べに占めるがん患者の割合(%)						
⑦	長門	現況	長門総合病院	459	10.7	345	(253) 104	(583) 255	(1,208) 77	1	971
⑧	萩	現況	都志見病院	515	27.9	161	(127) 109	(78) 150	実施なし	38	163

山口県 令和3年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



今回の指定推薦等に係る本県の考え方について

○がんは昭和56年以来、本県の死亡原因の1位であり、年間約5千人の県民ががんにより亡くなっている。これまで、がん予防や検診に関する普及啓発、がん登録事業、緩和ケア病棟の整備等、各段階に応じたがん対策を講じてきたが、がんによる死亡は今なお増加しており、がん対策は本県の保健・医療施策の中で非常に重要な課題となっている。

○こうしたことから、県では、地域のがん医療の中核を担うがん診療連携拠点病院の整備を推進してきたところであり、平成30年3月に策定した「第3期山口県がん対策推進計画」に基づき、がん医療水準の更なる向上を目指して、診療機能の充実等を図ることとしている。

なお、本県においてがんの医療圏（以下「医療圏」という。）と2次医療圏は一致している。

○がん診療連携拠点病院については、各地域において等しく質の高いがん医療を提供するため、医療圏に1箇所の整備を基本とするとともに、その指定要件を充たす病院が医療圏内にない場合には、地理的に隣接する医療圏において、当該医療圏からの患者受入が多いがん診療連携拠点病院とのグループ指定により、地域がん診療病院を整備することで、圏域全体をカバーできるようにすることとしている。

○本県では、8つの医療圏のうち6医療圏においてがん診療連携拠点病院の指定を受けており、そのうち、宇部・小野田医療圏の山口大学医学部附属病院は、都道府県がん診療連携拠点病院として本県がん診療連携の中核的役割を担っている。

また、がん診療連携拠点病院のない2医療圏については地域がん診療病院を整備し、がん診療連携拠点病院と連携して専門的ながん医療の提供等を行っている。

○今回、6医療圏のがん診療連携拠点病院、2医療圏の地域がん診療病院の現況報告を提出する。

徳 島 県

徳島県 がんの医療圏の概要

令和3年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
東部医療圏	1,016.79	505,290	71.0	496.95	71	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0
南部医療圏	1,724.13	135,410	19.0	78.54	19	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
西部医療圏	1,405.88	71,288	10.0	50.71	17	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
計	4,146.80	711,988	100	626.2	107	4	0	0	4	0	0	0	1	0	0

徳島県 令和3年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型)



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

- ()内は令和元年(H31.1~R元.12)の数値、下段は令和3年9月提出の数値
- ★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点
- 申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
- 1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1 東部	★	現況	徳島大学病院	(5175) 5054	(32.0) 32.7	(2211) 2165	(1281) 1299	(11849) 11970	(767) 796	(155) 157	(30) 30	(3031) 2967
2 東部	◇	現況	徳島県立中央病院	(2578) 2625	(21.0) 24.1	(1198) 1070	(851) 831	(1161) 1010	(219) 244	(160) 141	(24) 22	(966) 888
3 南部		現況	徳島赤十字病院	(1997) 2041	(12.9) 14.2	(1419) 1338	(911) 898	(6040) 1004	(306) 320	(108) 65	(37) 37	(525) 579
4 東部		現況	徳島市民病院	(1906) 2034	(23.9) 25.9	(1211) 676	(561) 558	(1015) 1059	(251) 178	(154) 118	(20) 19	(1357) 1434

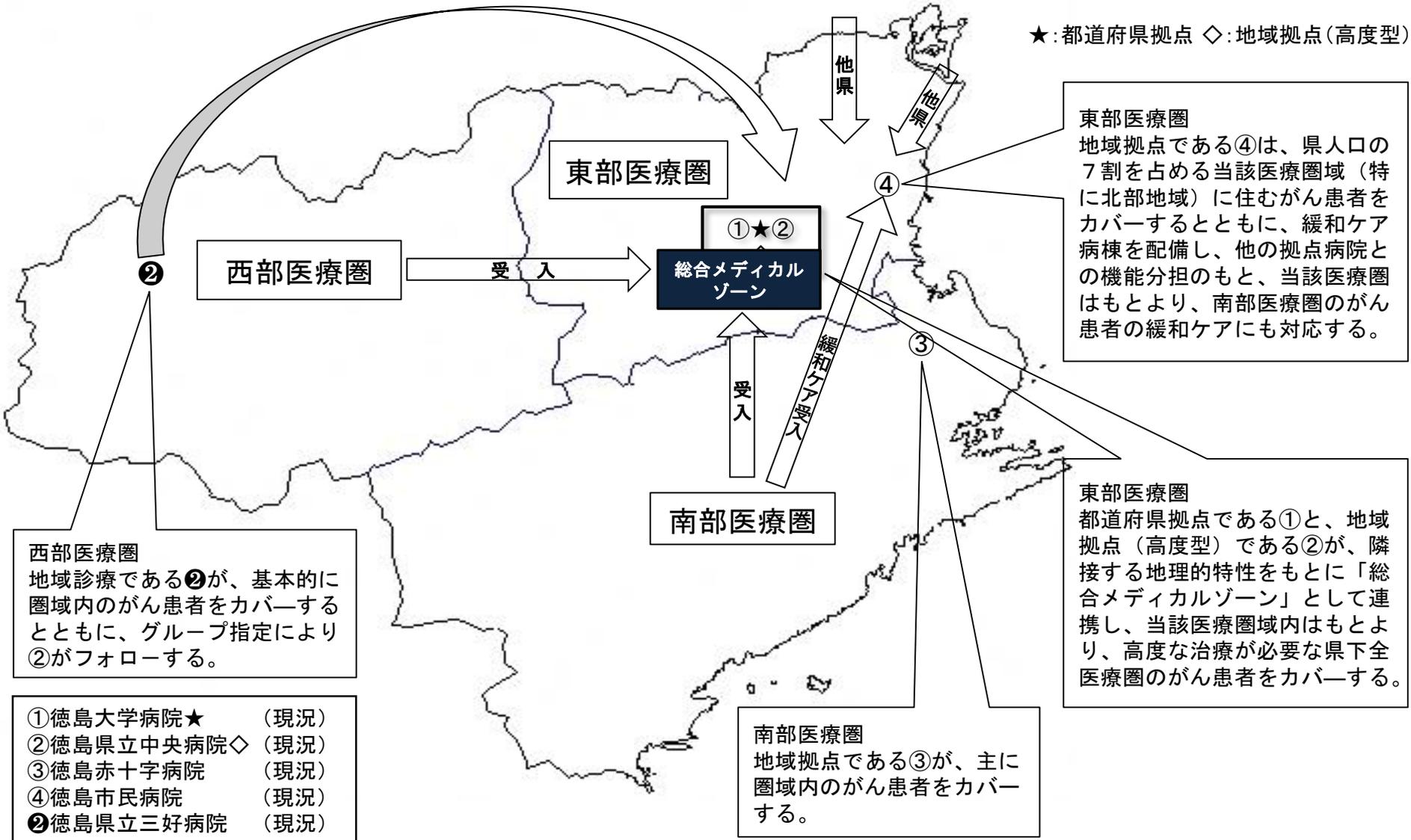
地域がん診療病院の診療実績等

資料 3 - 2

- ・()内は令和元年(H31.1~R元.12)の数値、下段は令和3年9月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療(実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間)	悪性腫瘍手術総数(年間)	のべ患者数(年間)	のべ患者数(年間)	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間)	相談件数(年間)
②	西部	現況	徳島県立三好病院	(466) 447	(13.0) 14.0	(360) 211	(94) 72	(2074) 2158	(867) 567	(77) 86	(1031) 682

徳島県 令和3年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



徳島県のがん医療提供体制に関する考え方

資料5

1. 東部医療圏（県人口の7割）

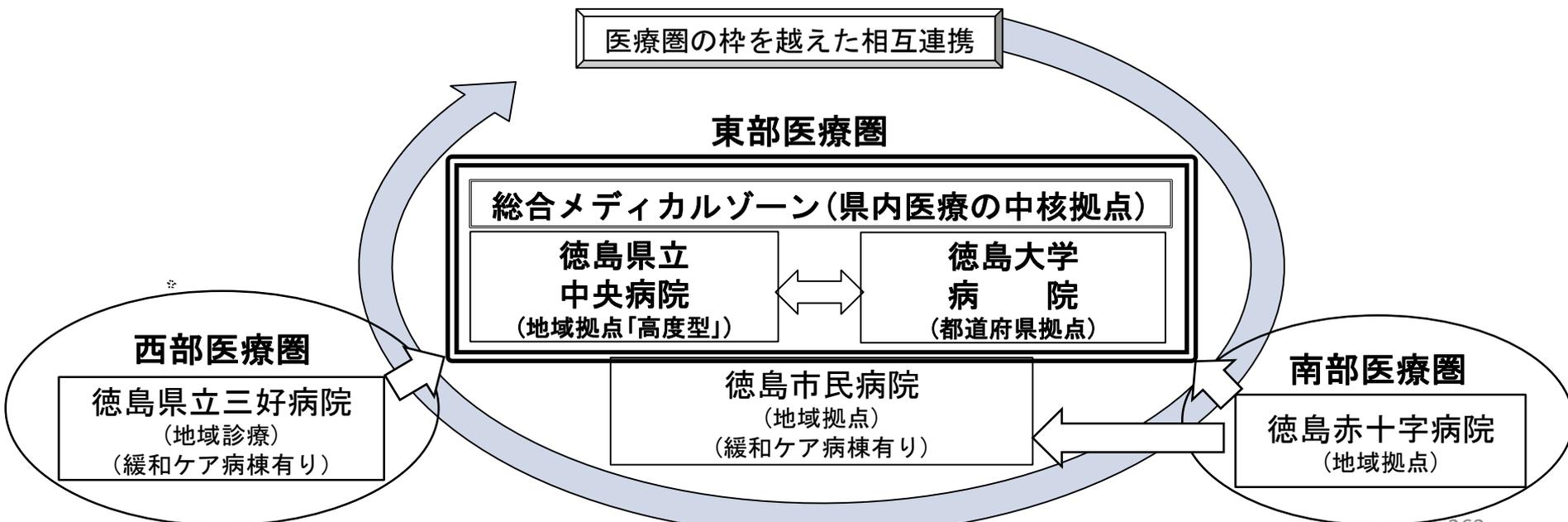
- 都道府県拠点である徳島大学病院と、より高度ながん診療機能を有する地域拠点（高度型）である徳島県立中央病院は、隣接する地理的特性をもとに「総合メディカルゾーン（県内医療の中核拠点）」として当該医療圏はもとより、高度な治療が必要な県下全医療圏のがん患者をカバーする。
- さらに、地域拠点である徳島市民病院は、人口が集中する当該医療圏（特に北部地域）のがん患者をカバーするとともに、緩和ケア病棟を配備し、当該医療圏はもとより南部医療圏のがん患者の緩和ケアにも対応する。

2. 南部医療圏（県人口の2割）

地域拠点である徳島赤十字病院が、当該医療圏内のがん患者をカバーする。

3. 西部医療圏（県人口の1割）

地域診療である徳島県立三好病院は、緩和ケア病棟を有し、連携する徳島県立中央病院とともに、当該医療圏内のがん患者をカバーする。



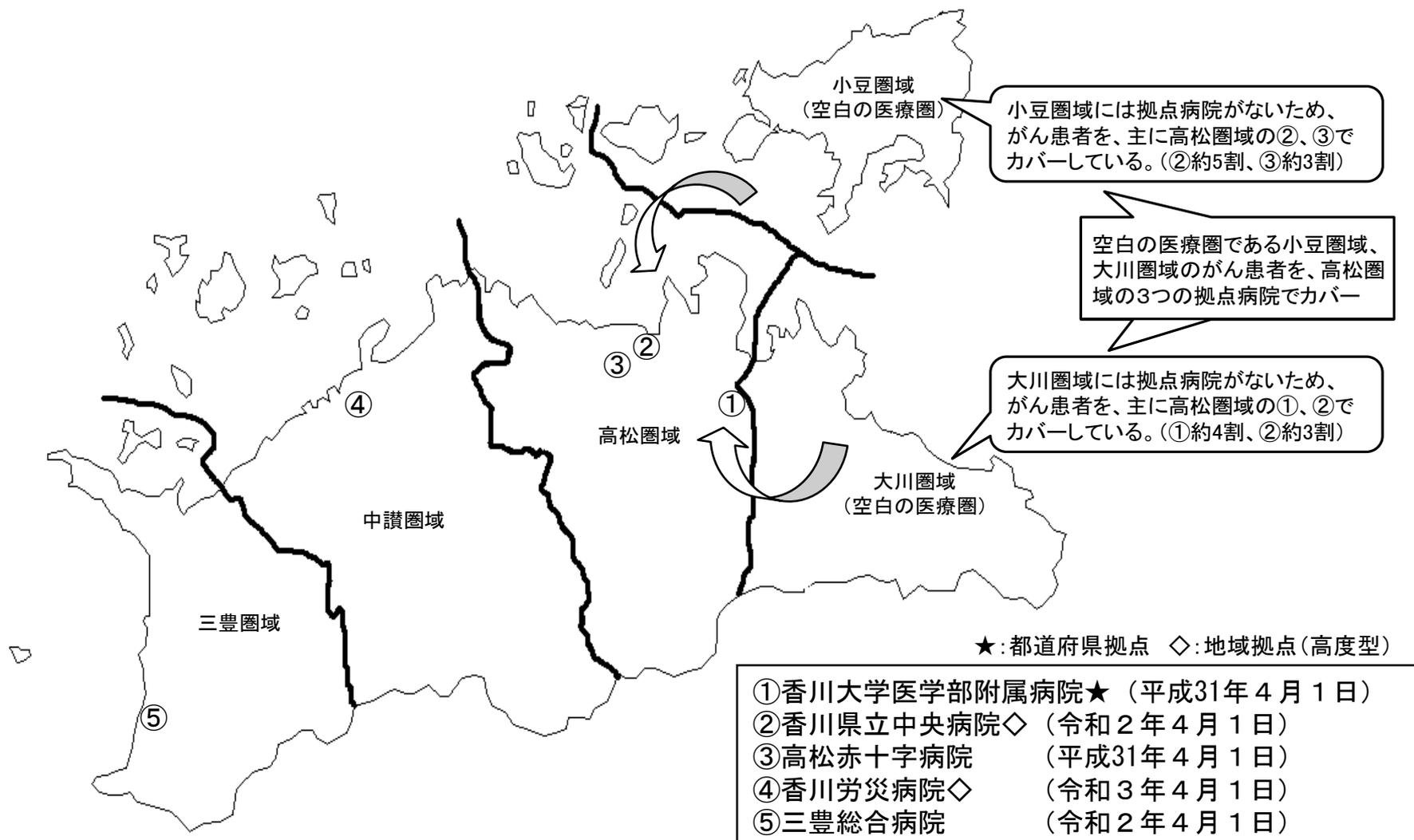
香川県

香川県 がんの医療圏の概要

令和3年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口 密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域がん診療連携拠点病院		地域がん診療病院	
						既指定 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	既指定 病院数	計	既指定 病院数	計
大川圏域	311	76,938	7.9%	247.0	5	0	0	0	0		0		0
小豆圏域	170	27,733	2.8%	163.2	3	0	0	0	0		0		0
高松圏域	465	457,016	46.9%	982.0	37	3	0	0	3		0		0
中讃圏域	589	288,694	29.6%	489.8	31	1	0	0	1		0		0
三豊圏域	341	123,541	12.7%	362.7	12	1	0	0	1		0		0
計	1,877	973,922	100.0%	2,244.7	88	5	0	0	5	0	0	0	0

香川県 令和3年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

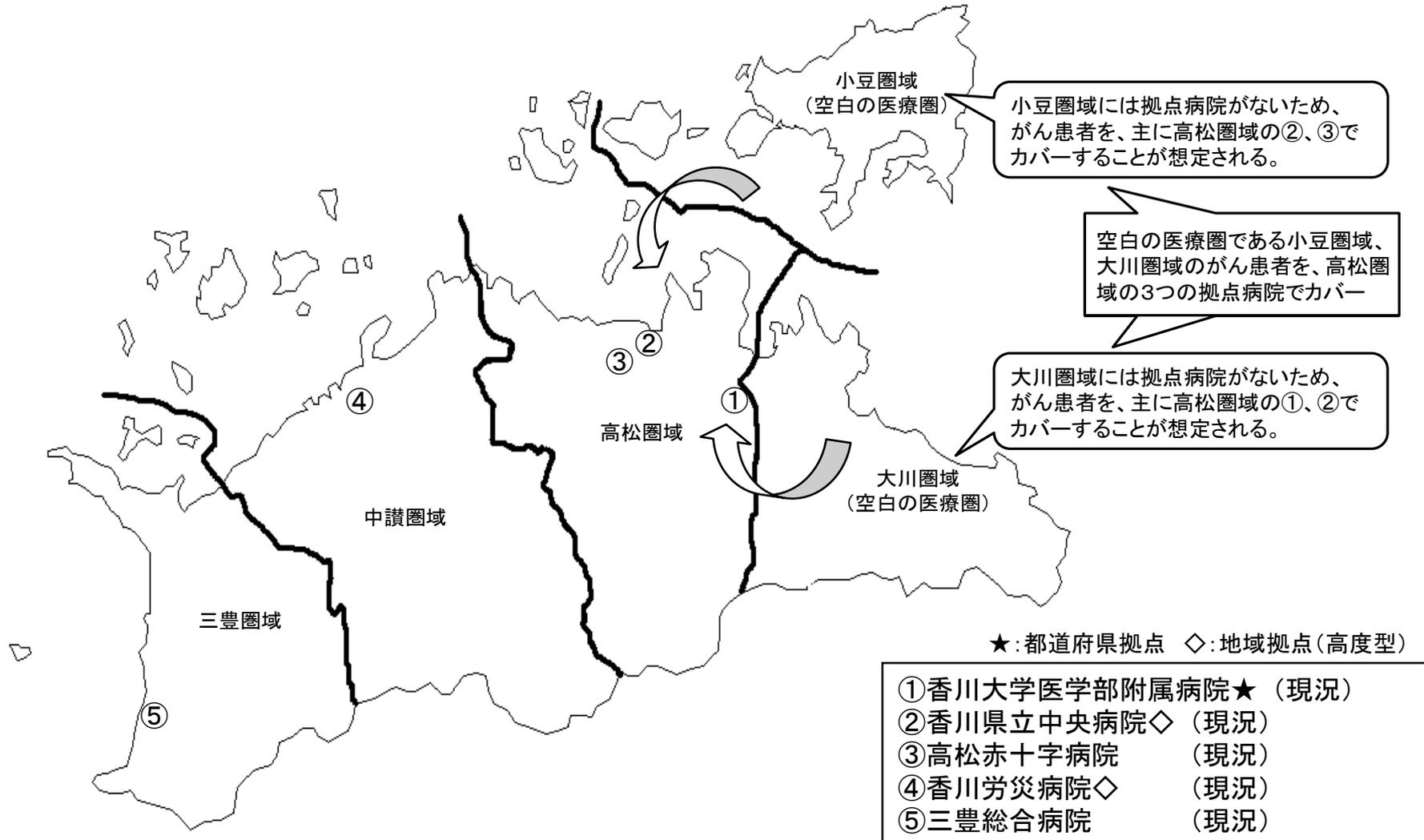


がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型)

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合
					院内がん登録数(年間) <u>500件以上</u>	悪性腫瘍の手術件数(年間) <u>400件以上</u>	のべ患者数(年間) <u>1000人以上</u>	のべ患者数(年間) <u>200人以上</u>	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) <u>50件以上</u>	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) <u>2割程度</u>
1	高松	★	現況	香川大学医学部附属病院	1,329	1,241	1,795	477	86	17%
2	高松	◇	現況	香川県立中央病院	1,508	1,280	2,146	316	171	23%
3	高松		現況	高松赤十字病院	1,185	677	1,476	204	100	19%
4	中讃	◇	現況	香川労災病院	1,313	615	1,749	277	398	31%
5	三豊		現況	三豊総合病院	763	484	790	86	81	48%

香川県 令和4年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



今回の指定推薦等に係る香川県の考え方について

資料5

1. 本県のがんの状況

- 昭和52年以来、がんは死亡原因の第1位
(令和2年は24.6%ががんで死亡し、他要因を大きく上回る)
- 高齢化が全国平均を上回って進行
(令和元年の高齢化率は31.8%。全国平均より10年以上早いペース)

がんは、県民の生命と健康にとって
重要な課題

2. がん診療連携拠点病院の整備の考え方

- 県内の5つのがんの医療圏に対し、5つの拠点病院を整備
- 空白医療圏となっている2医療圏(小豆圏域、大川圏域)を、隣接する医療圏(高松圏域)の3つの拠点病院でカバー

※第七次香川県保健医療計画(計画期間:2018年4月1日～2024年3月31日)で、二次医療圏を従来の5医療圏から3医療圏に見直したが、当該計画の期間中における5疾病・5事業及び在宅医療の圏域は、医療提供体制の継続性や激変緩和の観点からそれぞれ設定。第3次香川県がん対策推進計画においても、この圏域に基づいて、地域に根差したがん医療を行うこととしている。

がんの医療圏	拠点病院
大川	(高松圏域にある3病院でカバー)
小豆	(高松圏域にある3病院でカバー)
高松	香川大学医学部附属病院★ 香川県立中央病院◇ 高松赤十字病院
中讃	香川労災病院◇
西讃	三豊総合病院

★: 都道府県拠点
◇: 地域拠点(高度型)

○拠点病院では、専門的ながん医療を提供するとともに、緩和ケアなどがん医療に関する研修や合同カンファレンスの開催、地域連携クリティカルパスの運用などにより、地域のがん診療を行っている医療機関との連携協力・支援体制を強化。

愛媛県

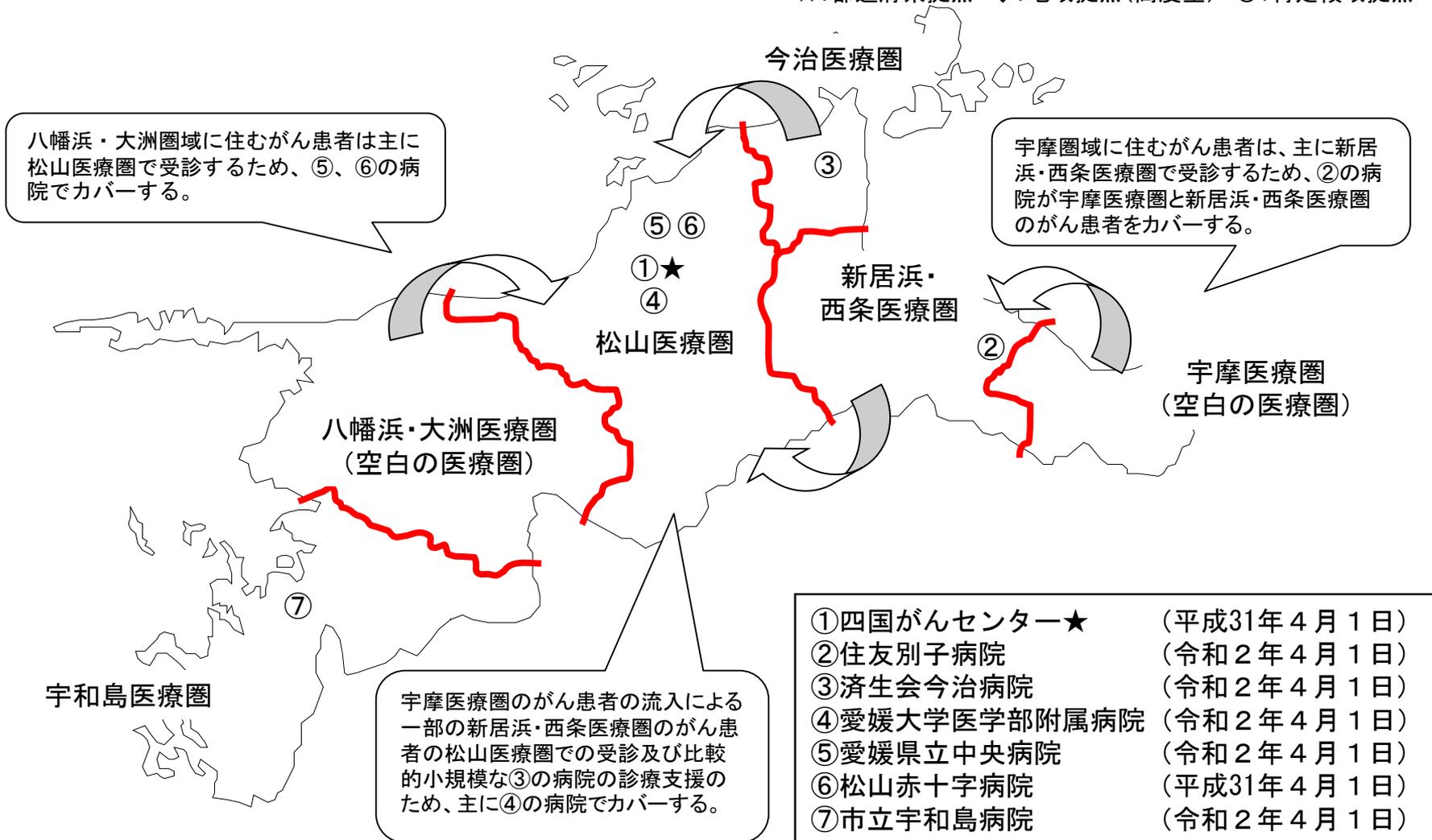
愛媛県がんの医療圏の概要

令和3年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
宇摩	421.24	82,849	6.2%	196.68	9				0						
新居浜・西条	744.48	220,884	16.5%	296.70	21	1			1						
今治	449.52	158,266	11.8%	352.08	28	1			1						
松山	1540.83	638,197	47.8%	414.19	51	4			4						
八幡浜・大洲	1472.65	131,792	9.9%	89.43	15				0						
宇和島	1047.51	103,792	7.8%	99.08	12	1			1						
計	5676.23	1,335,694	100%	235.96	136	7	0	0	7	0	0	0	0	0	0

愛媛県 令和3年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★: 都道府県拠点 ◇: 地域拠点(高度型) ◎: 特定領域拠点



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

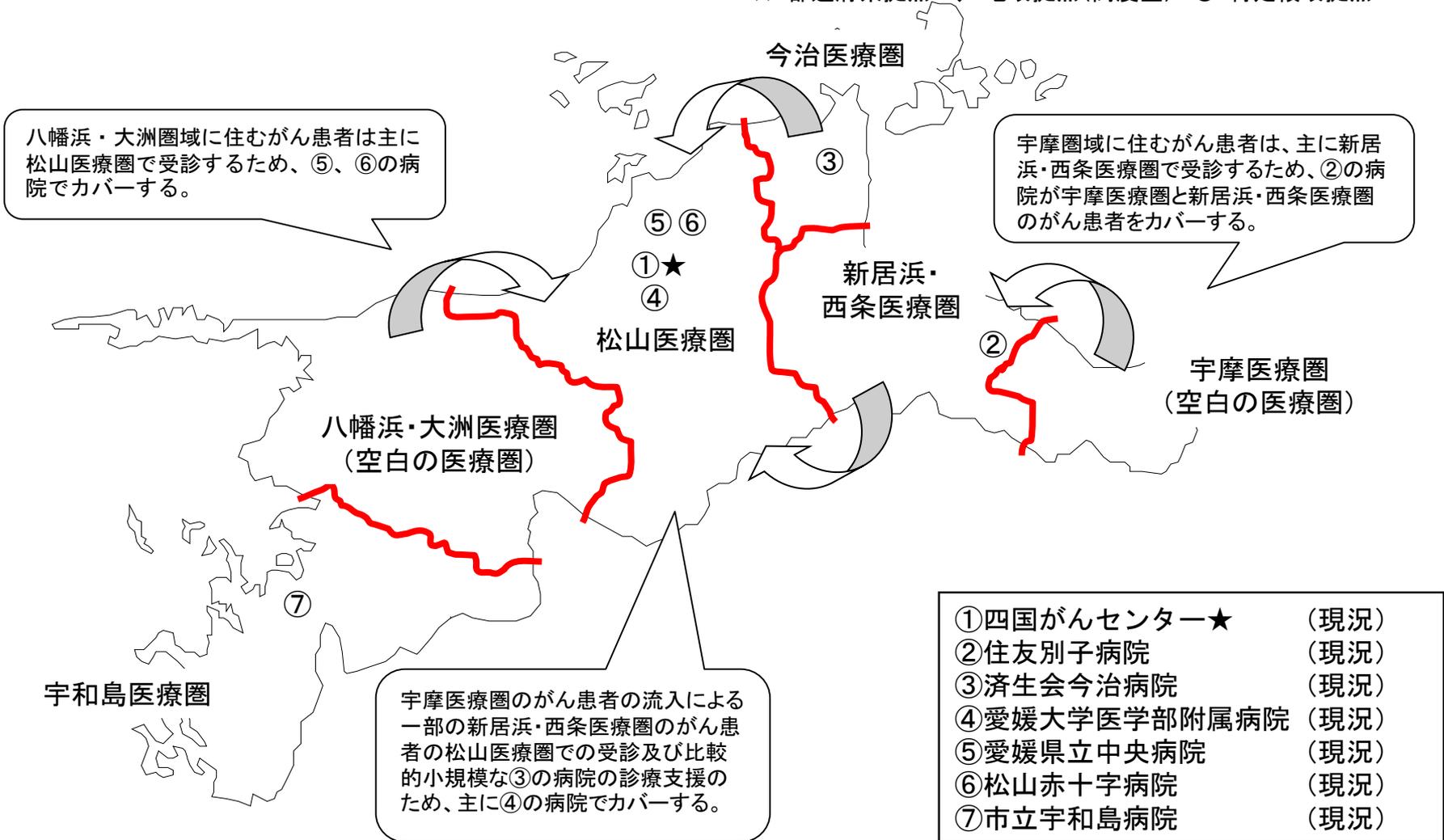
資料3-1-①

- ・()内は平成31年～令和元年の実績、下段は令和3年10月提出の数値
 - ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
 - ・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)
- ★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1 松山	★	現況	四国がんセンター	(6641) 6892	(90.3) 91.2	(2364) 1814	(1356) 1342	(13685) 14628	(646) 764	(483) 398	(15) 23	(9349) 9232
2 新居浜・西条		更新	住友別子病院	(1168) 1154	(16.7) 15.9	(635) 543	(491) 533	(421) 503	(117) 130	(91) 80	(32) 34	(597) 762
3 今治		更新	済生会今治病院	(1139) 1174	(26.8) 27.0	(528) 531	(411) 427	(350) 533	(245) 291	(155) 60	(40) 42	(2874) 3496
4 松山		更新	愛媛大学医学部附属病院	(4837) 4946	(37.3) 36.7	(1747) 1841	(1376) 1452	(4720) 4460	(533) 524	(130) 147	(5) 5	(1314) 1348
5 松山		更新	愛媛県立中央病院	(4370) 4245	(23.0) 22.8	(2214) 2018	(1400) 1337	(2718) 2570	(367) 534	(139) 122	(22) 21	(4028) 4148
6 松山		現況	松山赤十字病院	(2804) 3075	(16.0) 17.5	(1565) 1489	(1167) 1076	(1390) 1618	(272) 266	(194) 268	(18) 16	(1246) 1613
7 宇和島		更新	市立宇和島病院	(1977) 1831	(19.3) 18.1	(1050) 962	(716) 692	(1103) 1210	(188) 166	(94) 97	(53) 64	(1330) 1247

愛媛県 令和4年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点



○愛媛県におけるがん診療体制について

本県の6つの二次医療圏のうち、宇摩圏域及び八幡浜・大洲圏域については、がん診療連携拠点病院としての要件を満たす医療機関がないため、がん診療については、地理的条件や交通事情、医療機能の集積状況等を踏まえ、それぞれ隣接する新居浜・西条圏域、松山圏域と一体的な診療体制を整備することにより、県内を4圏域に区分した上で、各圏域に拠点病院を配置することにより、県内全域をカバーできる体制を整備している。

○二次医療圏の数を上回る拠点病院を整備する理由

本県では、松山圏域に、県拠点病院を含め4拠点病院を整備することに伴い、県全体の拠点病院数は、二次医療圏の数である6を上回る7病院となるが、その理由は次のとおり。

1 患者の受療動向

県内のがんによる入院患者(病院の入院患者。以下同じ。)の約63%が松山圏域に集中し、松山圏域に所在する病院の入院患者の35%は他の圏域からの流入患者であり、県内の入院患者の49%、松山圏域に所在する病院の入院患者の84%を当該4病院で受け入れている。

2 他の二次医療圏との関係

宇摩圏域の患者は、3割が隣接の新居浜・西条圏域、4割が松山圏域に流出し、新居浜・西条圏域の患者の4割近くも松山圏域に流入しているほか、八幡浜・大洲圏域の患者の5割強は、隣接する松山圏域に流出していることから、松山圏域の拠点病院の診療支援は不可欠である。

また、今治圏域は、離島が多い等の地理的条件を考慮し拠点病院を整備するが、より高度な医療を行うには、松山圏域の拠点病院との連携が必要である。

3 拠点病院間の機能分担等

次項「医療機関の機能・役割」のとおり。

以上のことから、医療機関相互の機能や役割分担のもと、本県のがん診療の質的向上を図るための効率・効果的な体制を構築し、県内のがん医療の均てん化を推進する観点から、他の医療圏を支援する体制を構築するため、がん専門病院である四国がんセンターを都道府県拠点病院とするとともに、高度な診療機能を有し、従来から緊密な連携関係にある県立中央病院、愛媛大学医学部附属病院、松山赤十字病院の3病院が主導的役割を果たしていくことが不可欠である。

【県内のがん診療連携拠点病院の機能・役割分担（総括）】

◆都道府県拠点病院（1病院）

医療機関名	医療機関の機能・役割
四国がんセンター	<ul style="list-style-type: none"> ○全国がん(成人病)センター協議会の加盟施設としての機能を発揮し、最新技術の本県への導入の拠点とする。 ○都道府県拠点病院として、県がん診療連携協議会を主宰する。 ○がん専門病院として、全県の医療機関に対する支援を行う。

◆地域拠点病院（6病院）

がん診療の医療圏	医療機関名 (所在圏域)	対象とする2次医療圏 (支援医療圏)	医療機関の機能・役割
東 予	住友別子病院 (新居浜・西条圏域)	宇摩圏域 新居浜・西条圏域	○隣接する「宇摩圏域」を含め、東予地域において、高度ながん診療を行う。
今 治	済生会今治病院 (今治圏域)	今治圏域	<ul style="list-style-type: none"> ○中予地域の医療機関と連携しつつ、今治地域において高度ながん診療を行う。 ○特に、離島の住民の診療、圏域内の中小医療機関の支援を重点的に行う。
中 予	愛媛大学医学部 附属病院 (松山圏域)	松山圏域 八幡浜・大洲圏域 (新居浜・西条 圏域、今治圏域)	<ul style="list-style-type: none"> ○特定機能病院及び大学病院として、高度ながん診療はもとより、次の機能を発揮する。 <ul style="list-style-type: none"> ・症例の少ないがんの診療を行う。 ・がん診療のプロフェッショナルの育成等、専門職の養成を図る。 ・県内医師に対し、大学の教育機能を活かした研修を行う。 ・医療機関人の医師派遣を通じて、県内の医療技術の向上を図る。 ○特に、「新居浜・西条圏域」、「今治圏域」のがん患者診療と医療機関の診療支援を行う。
	県立中央病院 (松山圏域)	松山圏域 八幡浜・大洲圏域 (八幡浜・大洲圏域)	<ul style="list-style-type: none"> ○中予地域の拠点病院であるとともに、本県の基幹病院として、高度な医療を行う。 ○県内4圏域にある県立4病院の拠点として、遠隔医療システムや医師派遣等を通じて各県立病院の診療支援を行う。 ○造血細胞移植療法、ガンマナイフ治療等を特徴とする。 ○PET-CTセンターを稼働させ、県内全域の病院・診療所の検査機関として機能している。 ○特に、「八幡浜・大洲圏域」のがん患者の診療と医療機関の診療支援を行う。
	松山赤十字病院 (松山圏域)	松山圏域 八幡浜・大洲圏域 (八幡浜・大洲圏域)	<ul style="list-style-type: none"> ○中予地域において、高度ながん診療を行うとともに、松山圏域の地域医療支援病院として圏域内の医療機関と緊密な連携体制を築いている。 ○がんの分野においても、かかりつけ医を交えたカンファレンス等を積極的に行っているほか、地域のかかりつけ医やホスピス病院と共同じて、緩和ケアも含めた在宅医療の充実を推進しており、がんにおける病連携・病診連携、がんの在宅医療推進の先駆的役割を果している。 ○大腸がん、肝がん等の診療体制が充実している。 ○特に、「八幡浜・大洲圏域」のがん患者の診療と医療機関の診療支援を行う。
南 予	市立宇和島病院 (宇和島圏域)	宇和島圏域	○南予地域において、高度ながん診療を行うことにより、圏域内完結のがん診療体制を構築する。

高知県

高知県がんの医療圏の概要

令和3年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
安芸医療圏	1128.92	42,530	6.2	37.7	6								1		
中央医療圏	3008.75	511,592	75.0	170.0	91	2			2						
高幡医療圏	1405.44	49,758	7.3	35.4	8										
幡多医療圏	1561.9	78,427	11.5	50.2	17	1			1						
計	7105.01	682,307	100	293.3	122	3	0	0	3	0	0	0	1	0	0

高知県 令和3年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★: 都道府県拠点 ◇: 地域拠点(高度型) ◎: 特定領域拠点



がん診療連携拠点病院及び 特定領域がん診療連携拠点病院

- ・ () 内は平成31年1月～令和元年12月の数値、下段は令和3年10月提出の数値 ★：都道府県拠点 ◇：地域拠点（高度型） ◎：特定領域拠点
- ・ 申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
- ・ 1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。（右上の資料番号は【資料3-1-①-1】，【資料3-1-①-2】...としてください）

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				年間入院がん患者延べ数	年間入院患者延べ数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1 中央	★	現況	高知大学医学部附属病院	67,773	37.7	(1,545) 1,763	(748) 1,191	(3,518) 2,710	(731) 579	(167) 202	(27) 36	(865) 1,007
2 中央		現況	高知医療センター	42,998	26.1	(1,545) 1,261	(927) 698	(1,875) 1,614	(277) 256	(298) 154	(17) 16	(1,185) 965
3 幡多		現況	高知県立幡多けんみん病院	913	17.5	(663) 454	(384) 372	(593) 575	(68) 96	(79) 71	(30) 28	(798) 714

地域がん診療病院の診療実績等

- ・ 上段は平成31年1月～令和元年12月の数値、下段は令和3年10月提出の数値
- ・ 申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				年間入院がん患者延べ数	年間入院患者延べ数に占めるがん患者の割合 (%)	院内がん登録数 (年間)	悪性腫瘍手術総数 (年間)	のべ患者数 (年間)	のべ患者数 (年間)	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数 (年間)	相談件数 (年間)
①	安芸	現況	高知県立あき総合病院	281	9.2	(280) 280	(50) 62	(96) 96	(実施なし) 実施なし	(73) 87	(290) 466

高知県 令和3年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点



指定推薦に係る高知県の考え方（1）

（1）拠点病院の位置づけ

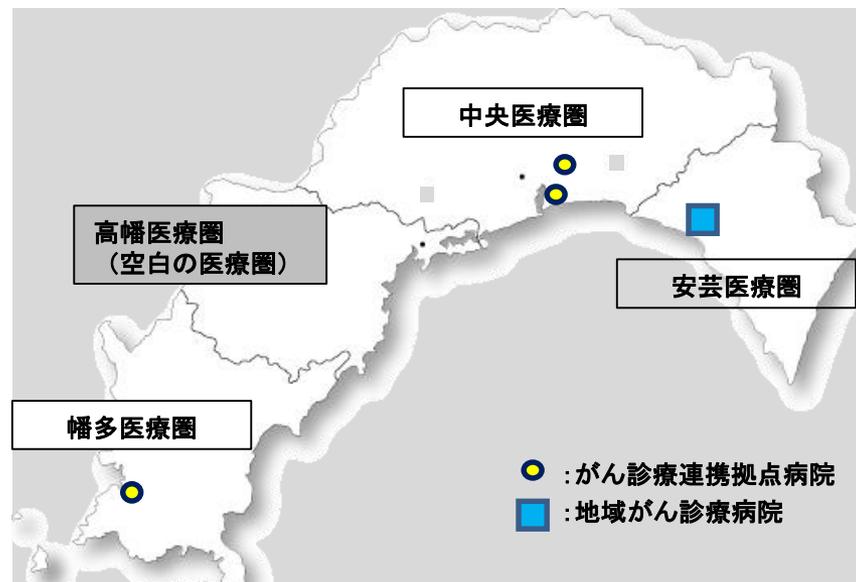
本県では、保健医療計画において4つの二次医療圏（安芸・中央・高幡・幡多）を設定しているが、がん医療提供体制については、次のような医療機能の集積状況やがん患者の医療圏間移動、地理的条件等を踏まえ、県全体として高度医療の確保と患者の利便性の双方を確保できるよう、中央医療圏の拠点病院が中央医療圏に加え安芸・高幡医療圏の患者支援を、幡多医療圏の拠点病院が幡多医療圏の患者支援の患者支援を主にしている。

- ①本県では、安芸及び高幡医療圏では、単独で集学的治療を実施できる医療機関がないことから、その役割を中央医療圏の医療機関が担っている。また、幡多医療圏内で集学的治療ができる医療機関は1か所のみとなっている。
- ②がんの入院患者についても、中央医療圏への流出が多い。

二次医療圏名	入院	
	自圏内	中央医療圏への流出
安芸医療圏	50.8%(21.2%)	49.2%(76.5%)
中央医療圏	99.5%(99.8%)	—
高幡医療圏	36.8%(41.7%)	63.2%(57.5%)
幡多医療圏	71.0%(70.5%)	28.2%(26.5%)

※平成28年度高知県患者動態調査結果による
()内は平成23年度調査結果

- ③本県は、東西に長い地形に加えて、中山間部では過疎化が進行するなど地理的条件が厳しい。
- ④幡多医療圏については、中央圏域から地理的に離れた圏域であり、一部患者が中央医療圏や県外に流出しているものの、概ね自圏域内で医療が完結している。



指定推薦に係る高知県の考え方（2）

（2）がん診療連携拠点病院等の整備方針及び地域連携体制

○がん診療連携拠点病院等の整備方針について

・都道府県がん診療連携拠点病院として、高知大学医学部附属病院を整備している。

・地域がん診療連携拠点病院としては、高知医療センターが高知大学医学部附属病院とともに、安芸・中央・高幡医療圏をカバーし、高知県立幡多けんみん病院が幡多医療圏をカバーするよう整備している。

・地域がん診療病院として、高知大学医学部附属病院とのグループ指定により、高知県立あき総合病院が安芸医療圏をカバーするよう整備している。

【本県のがん診療体制を整備するうえでの必要性】

がん診療については、最新の医療を本県でも提供しうる体制づくりを目標とし、医療従事者の育成、診療の相互支援、がんに係る情報の収集・提供等を行うこととしている。その推進体制としては、特定機能病院及び大学病院である高知大学医学部附属病院が、都道府県がん診療連携拠点病院として県全体のがん治療水準の向上と人材の育成、治療連携体制を構築している。

また、安芸・高幡医療圏にがん診療連携拠点病院としての要件を満たす病院が無いことから、高知医療センターと高知大学医学部附属病院が安芸医療圏・中央医療圏・高幡医療圏を、高知県立幡多けんみん病院が幡多圏域の基幹病院として幡多医療圏をカバーしている。

さらに、高知県立あき総合病院が安芸圏域の基幹病院として高知大学医学部附属病院とのグループ指定により安芸医療圏をカバーすることで、中央医療圏まで診療・治療に行っていた患者を安芸医療圏で一定の診療が完結できる体制を構築する方針である。

圏域	医療機関名	各医療機関の機能等
全域	高知大学医学部附属病院	<ul style="list-style-type: none"> ◆平成18年度に都道府県拠点病院として指定を受けた国立大学法人の附属病院。 ◆大学病院として、県内全域を対象に、高度ながん診療のみならず、次の機能も発揮する。 <ul style="list-style-type: none"> ・症例の少ないがんの診療。 ・県内医師に対し、大学の教育機能を活かした研修。 ・県内医療機関への医師派遣。 ◆県内医療機関の拠点として、遠隔画像システム等を通じて、診療支援を行う。
安芸	高知県立あき総合病院	<ul style="list-style-type: none"> ◆平成30年度に地域がん診療病院として指定。 ◆都道府県拠点病院である高知大学医学部附属病院とのグループ指定により、集学的治療等を提供する。
安芸 中央 高幡	高知医療センター	<ul style="list-style-type: none"> ◆高知大学とともに、安芸・中央・高幡医療圏の患者の診療と、これら医療圏の医療機関の診療支援を行う。 ◆救命救急センター・総合周産期母子医療センター・がんセンター・循環器病センター・地域医療センターといった高度医療機能を備え、県全体の基幹病院と位置付けられている。
幡多	高知県立幡多けんみん病院	<ul style="list-style-type: none"> ◆平成24年度に地域拠点病院として整備。 ◆幡多圏域の基幹病院として、高度ながん診療を行うとともに、地域の関係機関との連携のもとに、地域でほぼ完結できる医療の提供を行っている。

福岡県

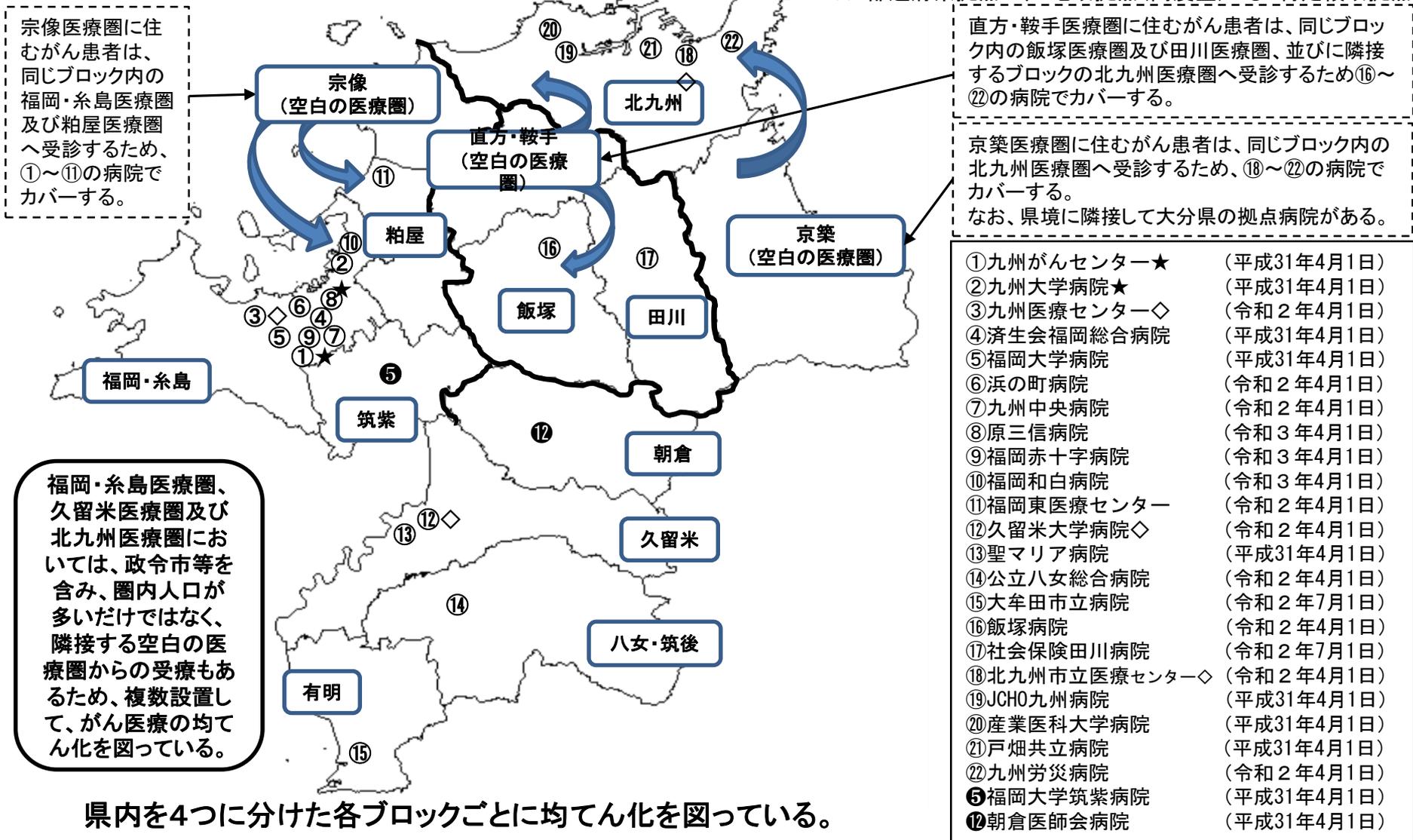
福岡県がんの医療圏の概要

令和3年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密 度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報 告 病院数	今回更 新 病院数	新規申 請 病院数	計	現況報 告 病院数	今回更 新 病院数	新規申 請 病院数	現況報 告 病院数	今回更 新 病院数	新規申 請 病院数
福岡・糸島	559.16	1,720,538	33.5	3,077.0	124	10			10						
粕屋	206.71	293,102	5.7	1,417.9	26	1			1						
宗像	172.7	164,892	3.2	954.8	14				0						
筑紫	233.32	440,610	8.6	1,888.4	27				0				1		
朝倉	365.78	81,352	1.6	222.4	8				0				1		
久留米	467.83	451,329	8.8	964.7	47	2			2						
八女・筑後	562.16	128,699	2.5	228.9	14	1			1						
有明	263.81	208,997	4.1	792.2	33	1			1						
飯塚	369.21	173,314	3.4	469.4	20	1			1						
直方・鞍手	251.63	103,919	2.0	413.0	12				0						
田川	363.73	116,233	2.3	319.6	16	1			1						
北九州	601.31	1,063,818	20.7	1,769.2	102	5			5						
京築	569.16	182,157	3.6	320.0	15				0						
計	4,986.51	5,128,960	100	12837.6	458	22	0	0	22	0	0	0	2	0	0

福岡県 令和3年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★: 都道府県拠点 ◇: 地域拠点(高度型) ◎: 特定領域拠点



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①-1

・()内は令和2年10月提出の数値、下段は令和3年10月提出の数値

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

No.	医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					院内がん登録数 (年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術 件数(年間) 400件以上	のべ患者数 (年間) 1000人以上	のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケアチーム に対する新 規診療依頼数 (年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住 する がん患者の診療の割 合(%) 2割程度	相談件数 (年間)
1	福岡・糸島	★	現況	九州がんセンター	(2,140) 1,966	(1,388) 1,299	(4,974) 5,689	(857) 830	(350) 357	(17) 13	(6,877) 6,179
2	福岡・糸島	★	現況	九州大学病院	(4,076) 2,893	(4,344) 4,248	(17,060) 17,728	(1,315) 1,095	(294) 266	(29) 19	(1,781) 1,597
3	福岡・糸島	◇	現況	九州医療センター	(2,582) 1,812	(1,602) 1,643	(2,750) 1,832	(407) 404	(281) 361	(17) 13	(316) 234
4	福岡・糸島		現況	済生会福岡総合病院	(1,218) 1,084	(762) 783	(1,162) 1,181	(325) 266	(332) 164	(6) 4	(1,930) 2,108
5	福岡・糸島		現況	福岡大学病院	(1,669) 1,691	(1,257) 1,322	(5,476) 2,032	(459) 428	(147) 140	(9) 10	(2,548) 1,663
6	福岡・糸島		現況	浜の町病院	(1,086) 1,146	(814) 835	(1,777) 1,846	(311) 303	(137) 176	(13) 10	(757) 1,167
7	福岡・糸島		現況	九州中央病院	(1,284) 857	(754) 707	(1,021) 1,003	(275) 278	(71) 63	(4) 4	(275) 371
8	福岡・糸島		現況	原三信病院	(1,184) 1,095	(762) 766	(1,538) 1,829	(233) 267	(52) 61	(4) 5	(680) 668
9	福岡・糸島		現況	福岡赤十字病院	(1,360) 1,271	(722) 664	(1,072) 1,335	(208) 175	(87) 81	(5) 3	(80) 145
10	福岡・糸島		現況	福岡和白病院	(616) 609	(412) 414	(1,489) 2,334	(367) 371	(98) 95	(5) 3	(81) 81

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①-2

・()内は令和2年10月提出の数値、下段は令和3年10月提出の数値

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

医療圏名	類型	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				院内がん登録数 (年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術 件数(年間) 400件以上	のべ患者数 (年間) 1000人以上	のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケアチーム に対する新規診 療依頼数 (年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住 する がん患者の診療の割 合(%) 2割程度	相談件数 (年間)
11	粕屋	現況	福岡東医療センター	(635) 692	(429) 415	(1,145) 1,067	(202) 216	(179) 115	(19) 19	(382) 623
12	久留米	◇ 現況	久留米大学病院	(3,258) 2,374	(2,221) 2,331	(2,369) 2,001	(753) 898	(159) 131	(26) 26	(801) 704
13	久留米	現況	聖マリア病院	(1,298) 1,001	(514) 547	(1,158) 1,230	(230) 258	(179) 187	(25) 24	(737) 1,036
14	八女・筑後	現況	公立八女総合病院	(432) 507	(231) 167	(308) 364	(202) 188	(183) 141	(39) 21	(238) 174
15	有明	現況	大牟田市立病院	(609) 583	(499) 490	(693) 702	(137) 141	(75) 66	(48) 45	(748) 1,577
16	飯塚	現況	飯塚病院	(2,012) 1,866	(2,298) 2,103	(1,443) 1,627	(361) 375	(663) 817	(85) 53	(1,062) 249
17	田川	現況	社会保険田川病院	(442) 382	(327) 230	(388) 365	(102) 109	(62) 60	(31) 25	(301) 192
18	北九州	◇ 現況	北九州市立医療センター	(2,447) 1,987	(1,684) 1,546	(3,909) 3,976	(491) 460	(176) 199	(13) 12	(1,056) 705
19	北九州	現況	JCHO九州病院	(2,029) 1,628	(948) 1,065	(6,647) 1,701	(357) 382	(203) 204	(15) 12	(2,160) 2,265
20	北九州	現況	産業医科大学病院	(2,011) 1,699	(1,801) 1,543	(2,288) 2,251	(705) 639	(175) 158	(18) 13	(1,198) 1,114

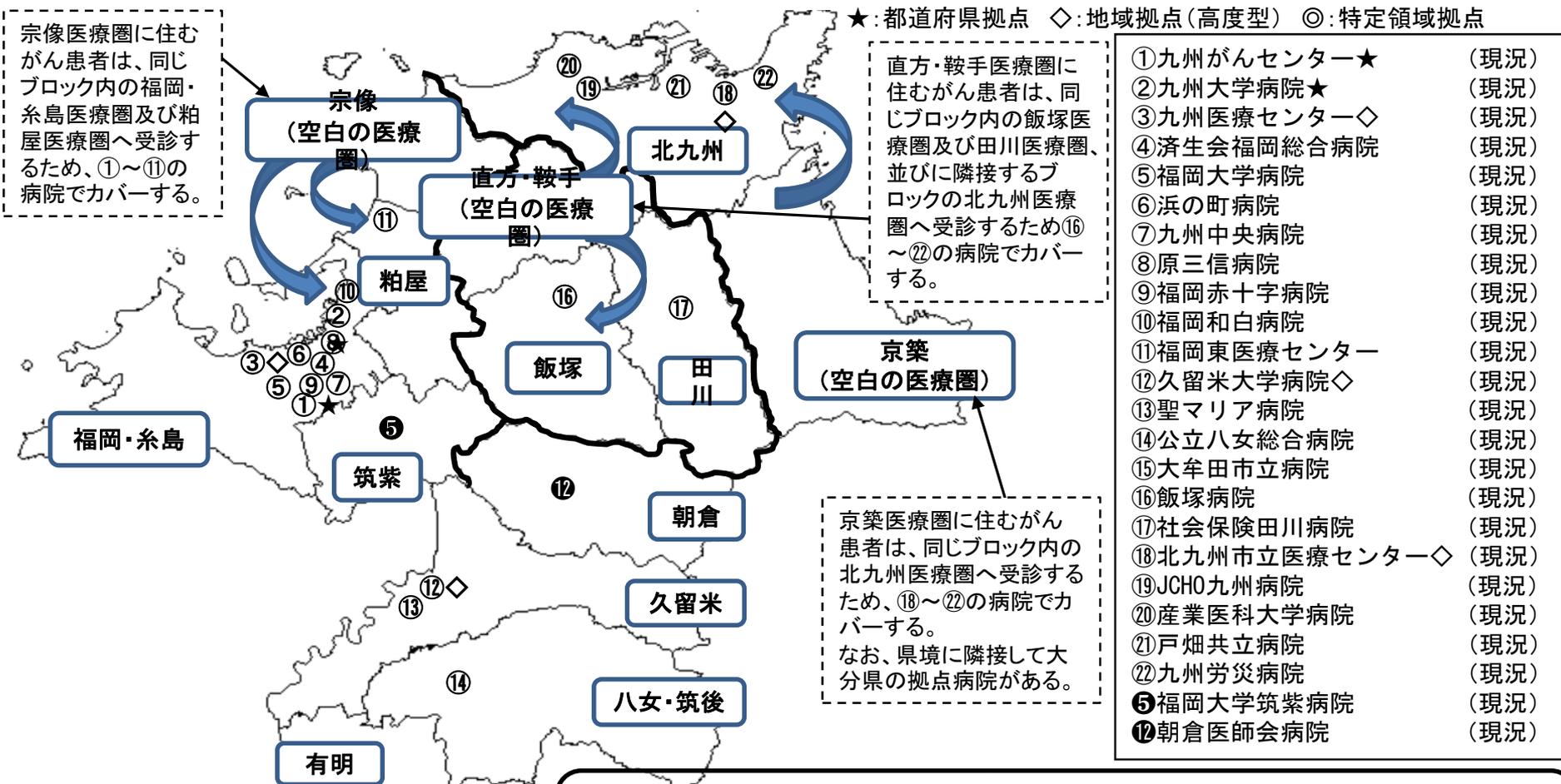
地域がん診療病院の診療実績等

資料 3 - 2

- ・上段は令和2年10月提出の数値、下段は令和3年10月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	相談支援センター
				院内がん登録数 (年間)	悪性腫瘍手術 総数 (年間)	のべ患者数 (年間)	のべ患者数 (年間)	緩和ケア チームに対する新規診療 依頼数 (年間)	相談件数 (年間)
⑤	筑紫	現況	福岡大学筑紫病院	(645) 594	(508) 381	(922) 2,508	実施なし	(113) 109	(718) 784
⑫	朝倉	現況	朝倉医師会病院	(555) 288	(164) 198	(1,129) 1,945	実施なし	(52) 59	(595) 649

福岡県 令和4年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



県内を4つに分けた各ブロックごとに均てん化を図っている。

福岡・糸島医療圏、久留米医療圏及び北九州医療圏においては、政令市等を含み、圏内人口が多いだけでなく、隣接する空白の医療圏からの受療もあるため、複数設置して、がん医療の均てん化を図っている

福岡県のがん診療連携拠点病院等整備の考え方

1 本県の状況

(1) がん患者等

- ① 本県におけるがんによる死亡者は15,677人（令和2年人口動態統計）、死亡者全体に占める割合は29.4%と、全国平均の27.6%を上回っている。
- ② 「全国がん登録」における平成30年の年齢調整罹患率は398.0と、全国平均の385.1を上回っている。
- ③ 75歳未満年齢調整死亡率は、全国平均69.6を上回る74.3である。

(2) 医療圏等

- ① 100万人を超える2次医療圏（福岡・糸島、北九州）を有している一方で、指定要件を満たす医療機関がない2次医療圏（宗像、直方・鞍手、京築）が存在している。
- ② 県内の推計入院患者の動向は、ほとんどが当該2次医療圏の所在する4ブロック（福岡、筑後、筑豊、北九州）内で、流入・流出している。また、他県からの流入患者が、10%超の2次医療圏が複数存在している。

2 整備方針

現在2か所の都道府県がん診療連携拠点病院、20か所の地域がん診療連携拠点病院及び2か所の地域がん診療病院を整備している。

(1) 地域がん診療連携拠点病院

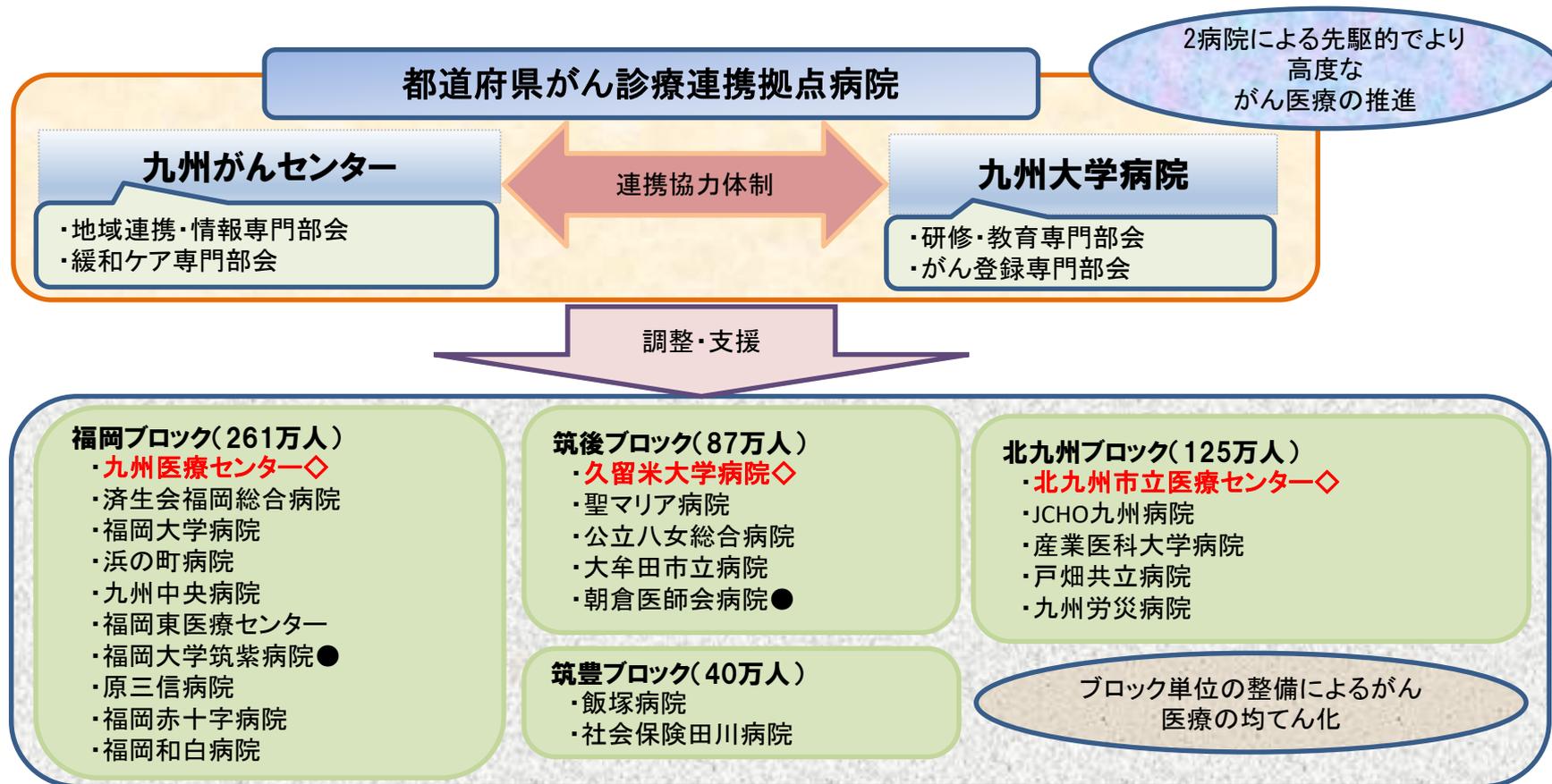
県内13の2次医療圏を基準としながら、県内の医療等の状況を踏まえ、引き続き、県内4ブロック単位で整備するという考え方を基本とする。

3 総括

本県のがんにかかる状況を踏まえ、「第3期福岡県がん対策推進計画」において、「がんによる死亡率（75歳未満調整死亡率）を6年間で10%減少させること」を数値目標に掲げている。

この達成のためには、全ての県民が県内どこに居ても質の高いがん医療を等しく受けられるがん医療の均てん化が必要不可欠である。

今後とも、県、がん診療連携協議会、拠点病院等との連携・協力体制を強化し、これを推進していく。



佐賀県

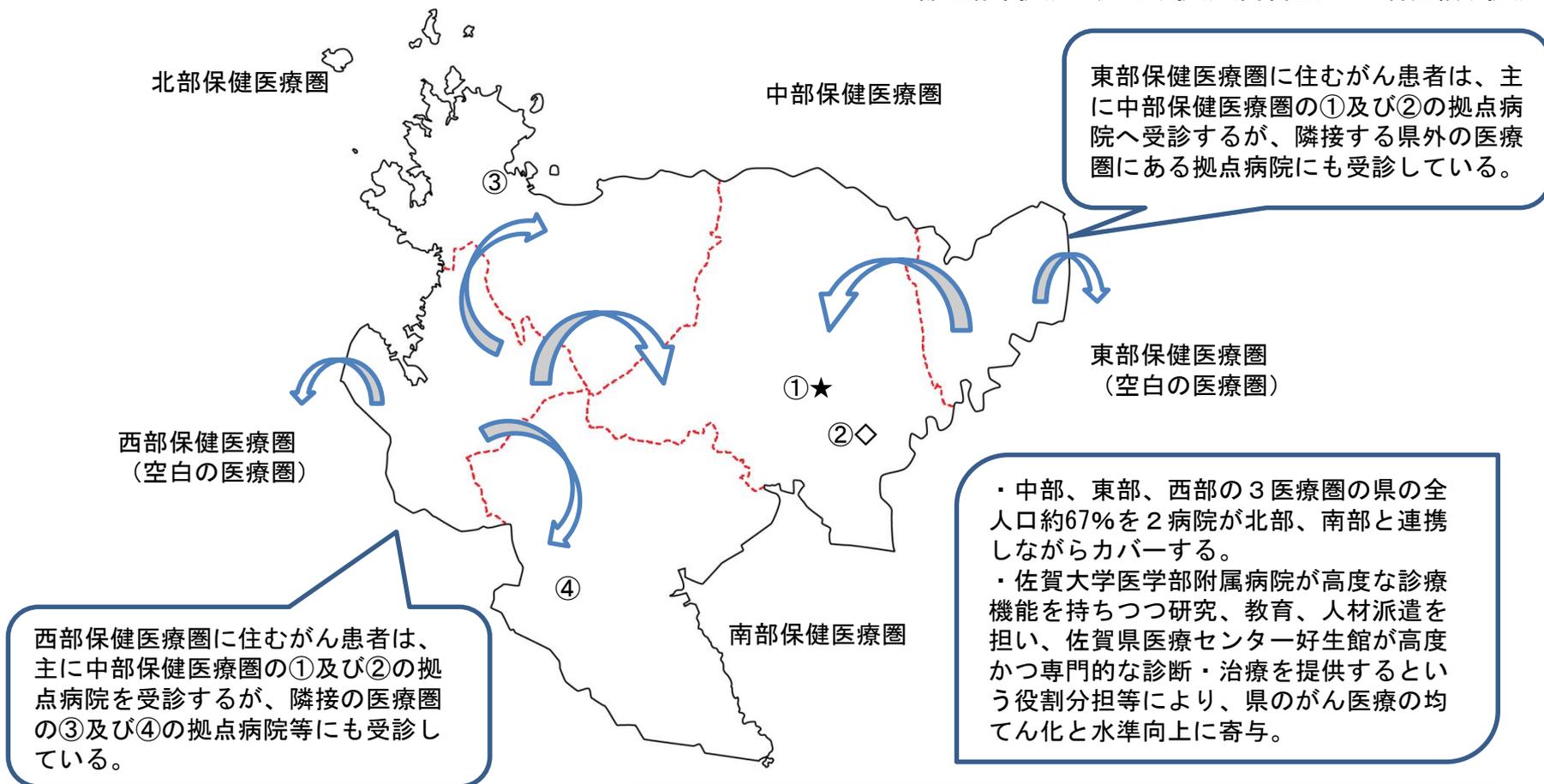
佐賀県がんの医療圏の概要

令和3年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
中部保健医療圏	793.73	343,283	42.45	432.5	37	2			2						
東部保健医療圏	158.59	126,701	15.67	798.9	13				0						
北部保健医療圏	523.50	121,663	15.04	232.4	18	1			1						
西部保健医療圏	321.10	70,843	8.76	220.6	9				0						
南部保健医療圏	643.78	146,233	18.08	227.1	22	1			1						
計	2440.7	808,723	100	331.3	99	3	1	0	4	0	0	0	0	0	0

佐賀県 令和3年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★: 都道府県拠点 ◇: 地域拠点(高度型) ◎: 特定領域拠点



- ①佐賀大学医学部附属病院★ (平成31年4月1日)
 ②佐賀県医療センター好生館◇ (平成31年4月1日)
 ③唐津赤十字病院 (令和2年4月1日)
 ④嬉野医療センター (令和3年4月1日)

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

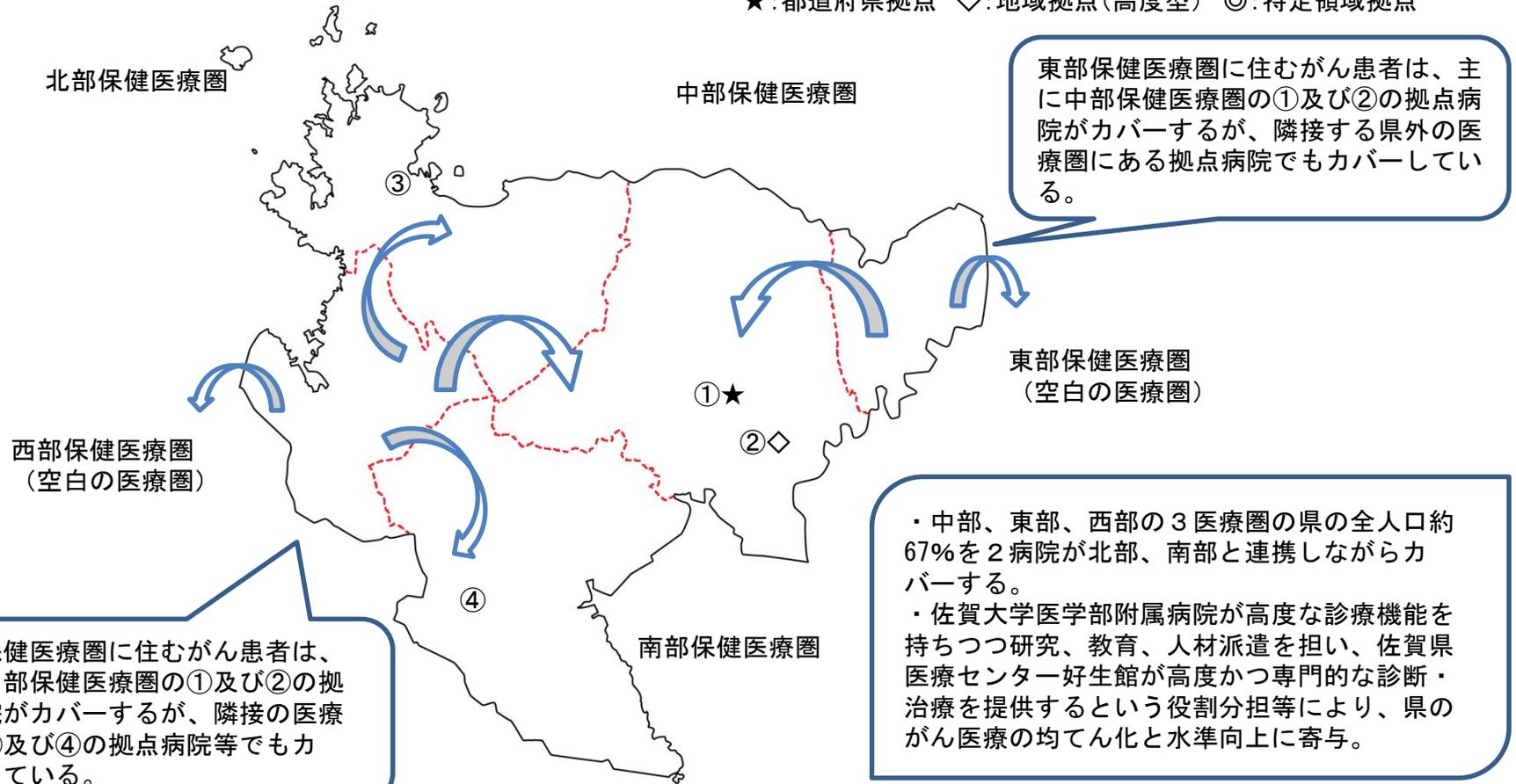
★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

- ・令和3年11月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
- ・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録 院内がん登録数 (年間) 500件以上	手術件数 悪性腫瘍の手術 件数(年間) 400件以上	がんに係る薬物 療法 のべ患者数 (年間) 1000人以上	放射線治療 のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケア 緩和ケアチームに 対する新規診療 依頼数 (年間) 50件以上	診療の割合 当該2次医療圏に 居住する がん患者の診療 の割合(%) 2割程度	相談支援セ ンター 相談件数 (年間)
					年間新 入院が ん患者 数	年間新入院 患者数に占 めるがん患 者の割合 (%)							
1	中部保健 医療圏	★	現況 報告	佐賀大学 医学部附 属病院	3,107	1.8	1,622 (1,680)	1,044 (1,071)	1,651 (1,607)	240 (337)	152 (174)	29 (27)	2,025 (2,010)
2	中部保健 医療圏	◇	現況 報告	佐賀県医 療センター 好生館	3,291	28.7	1,121 (1,253)	700 (840)	1,386 (1,771)	292 (289)	232 (148)	76 (74)	3,226 (3,196)
3	北部保健 医療圏		現況 報告	唐津赤十 字病院	1,515	22.6	599 (705)	421 (447)	1,006 (1,002)	141 (183)	140 (176)	63 (69)	502 (1,636)
4	南部保健 医療圏		現況 報告	嬉野医療 センター	1,746	20.2	660	436	1,653	288	360	36	1,414

佐賀県 令和3年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点



- | | |
|----------------|--------|
| ①佐賀大学医学部附属病院★ | (現況報告) |
| ②佐賀県医療センター好生館◇ | (現況報告) |
| ③唐津赤十字病院 | (指定更新) |
| ④嬉野医療センター | (現況報告) |

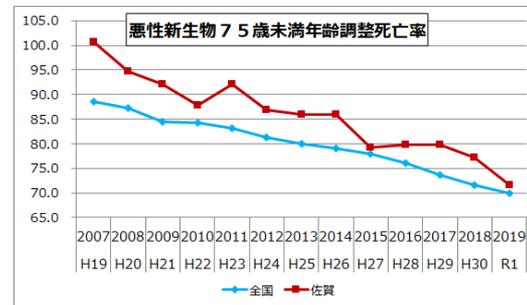
今回の推薦等に係る佐賀県の考え方について

佐賀県の現状

- ・ がんによる死亡率（75歳未満年齢調整死亡率）は全国と比較すると高い水準にある。
- ・ がん医療に関し、拠点病院を地域診療の核として、かかりつけ医を支援しながら、県民に等しく質の高いがん医療を提供する。

拠点病院の整備

- ・ 本県の医療圏は「中部」、「西部」、「東部」、「南部」、「北部」の5医療圏で構成され、「西部」、「東部」の2医療圏は拠点病院のない空白の医療圏となっている。
- ・ 中部、東部、西部の3医療圏で県の全人口の約67%となるが、中部の2病院が北部、南部と連携しながら空白の医療圏のがん患者をカバーする。
- ・ 西部医療圏において、伊万里・有田共立病院が地域がん診療病院の指定（R5.4.1）に向けて体制整備及び県内拠点病院と連携調整中。本県においても、基金（地域医療総合確保基金）を活用した体制整備の補助を実施予定。



医療圏	人口	人口割合(%)	病院数
中部	343,283	42.45	37
西部	70,843	8.76	9
東部	126,701	15.67	13
南部	146,233	18.08	22
北部	121,663	15.04	18
計	808,723	100	99

佐賀大学医学部附属病院
 高度な診療機能を持ちつつ、研究、教育、県全体のメディカルスタッフの研修及び県内医療機関への人材派遣等の調整

佐賀県医療センター好生館
 確立された医療技術に基づいた高度かつ専門的な診断・治療を提供し、地域のかかりつけ医を支援

両院の特色を活かし、協力、連携することで、県のがん医療の均てん化と水準向上に寄与。

長崎県

長崎県 がんの医療圏の概要

令和3年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
長崎医療圏	697.07	505,757	38.5	725.55	53	3			3						
佐世保県央 医療圏	824.20	307,969	23.5	373.66	35	1			1						
県央医療圏	626.12	264,839	20.2	422.98	32	1			1						
県南医療圏	467.35	126,851	9.7	271.43	17	1			1						
五島医療圏	420.04	34,400	2.6	81.90	4				0						
上五島医療圏	239.47	19,802	1.5	82.69	1				0						
壱岐医療圏	139.42	24,974	1.9	179.13	5				0						
対馬医療圏	708.63	28,511	2.2	40.23	2				0						
計	4,122.30	1,313,103	100.0	2,177.57	149	6	0	0	6	0	0	0	0	0	0

長崎県 令和3年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

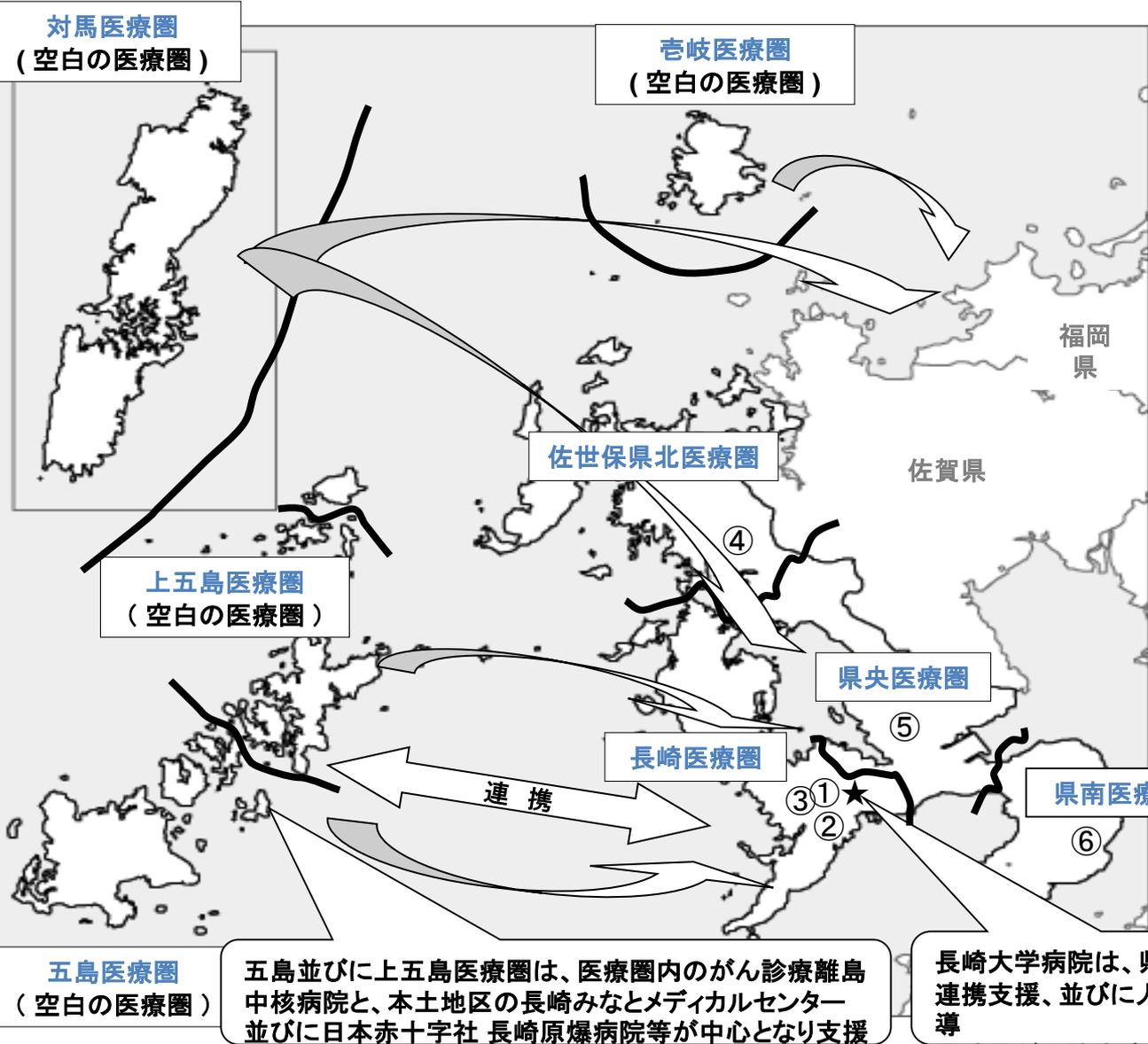
★: 都道府県拠点

- ①長崎大学病院 ★
(平成31年4月1日)
- ②長崎みなとメディカルセンター
(平成31年4月1日)
- ③日本赤十字社 長崎原爆病院
(平成31年4月1日)
- ④佐世保市総合医療センター
(平成31年4月1日)
- ⑤長崎医療センター
(平成31年4月1日)
- ⑥長崎県島原病院
(平成31年4月1日)

【長崎医療圏複数指定の理由】

- 長崎大学病院 都道府県拠点病院
- 長崎みなとメディカルセンター
「がん診療離島中核病院(長崎県五島中央病院)」中心に主に五島医療圏と連携
- 日本赤十字社 長崎原爆病院
「がん診療離島中核病院(長崎県上五島病院)」を中心に主に上五島医療圏と連携

医療圏数	8ヶ所
拠点病院数	6
現況	6
更新	なし
新規	なし



対馬医療圏
(空白の医療圏)

杓岐医療圏
(空白の医療圏)

上五島医療圏
(空白の医療圏)

五島医療圏
(空白の医療圏)

五島並びに上五島医療圏は、医療圏内のがん診療離島中核病院と、本土地区の長崎みなとメディカルセンター並びに日本赤十字社 長崎原爆病院等が中心となり支援

長崎大学病院は、県全体の調整と連携支援、並びに人材育成等に主導
長崎県がん診療連携協議会を主宰



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

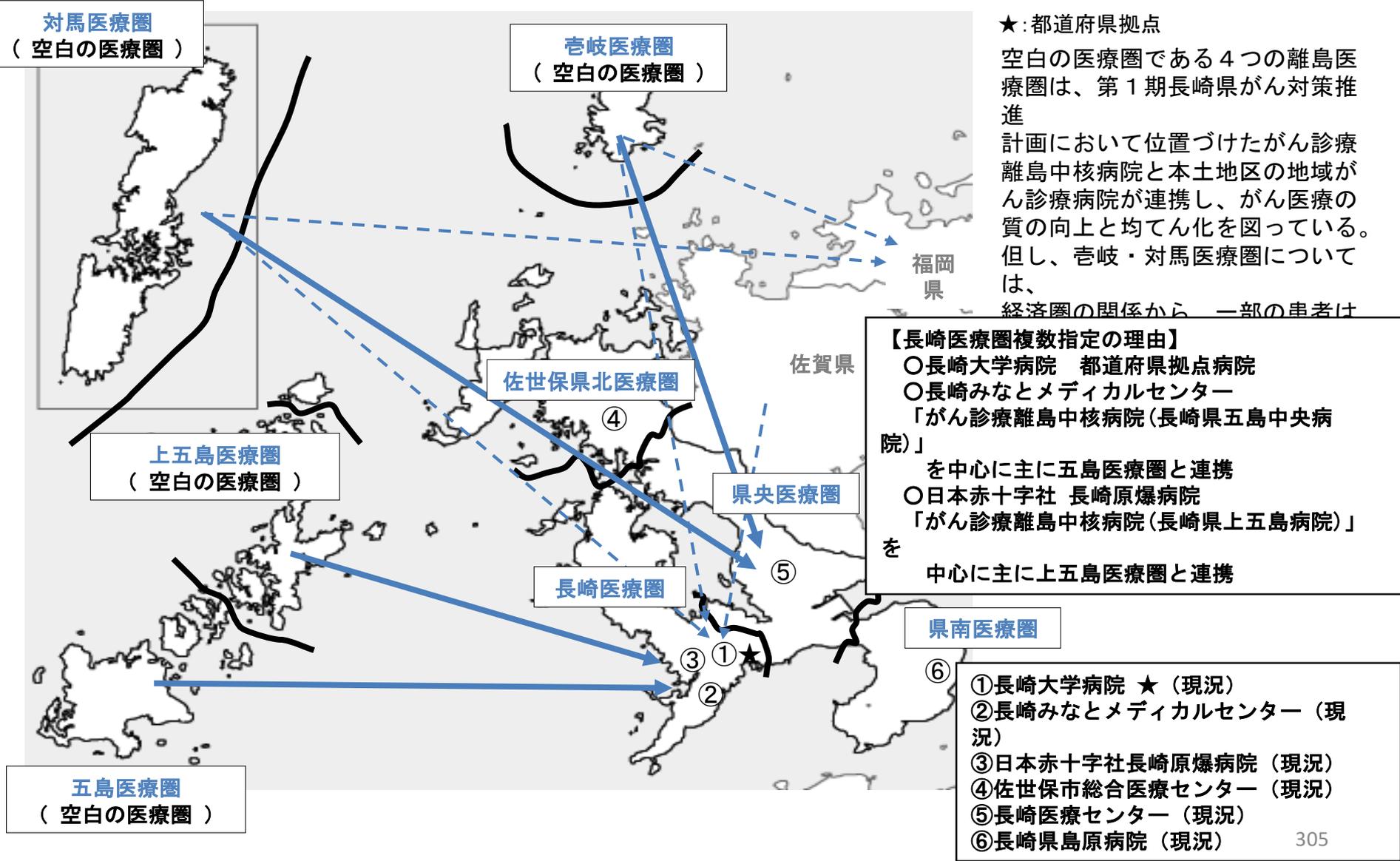
資料3-1-①

・()内は令和元年10月提出の数値、下段は令和3年10月提出の数値
 ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

★：都道府県拠点

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合3	相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1 長崎医療圏	★	現況	長崎大学病院	(6,363)	(32.6)	(2,436)	(2,093)	(2,957)	(614)	(410)	(44)	(707)
				6,495	34.6	2,317	2,000	2,503	745	485	77	817
2 長崎医療圏		現況	長崎みなとメディカルセンター	(2,735)	(23.0)	(1,017)	(715)	(1,012)	(385)	(249)	(19)	(1,763)
				2,410	23.8	896	721	953	343	221	29	1,406
3 長崎医療圏		現況	日本赤十字社長崎原爆病院	(2,727)	(35.4)	(1,033)	(741)	(1,132)	(135)	(63)	(19)	(1,102)
				2,822	40.3	1,126	774	1,432	314	133	20	1,449
4 佐世保 県北医療圏		現況	佐世保市総合医療センター	(4,111)	(30.9)	(1,618)	(1,373)	(3,358)	(463)	(288)	(49)	(835)
				3,868	33.0	1,559	1,352	3,655	706	410	40	963
5 県央 医療圏		現況	長崎医療センター	(3,998)	(25.4)	(1,364)	(914)	(1,212)	(385)	(126)	(55)	(1,102)
				3,638	26.4	1,297	861	1,270	411	126	68	1,274
6 県南 医療圏		現況	長崎県島原病院	(1,276)	(30.6)	(439)	(420)	(741)	(181)	(277)	(53)	(810)
				1,322	29.5	478	404	775	183	327	55	628

長崎県 令和3年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



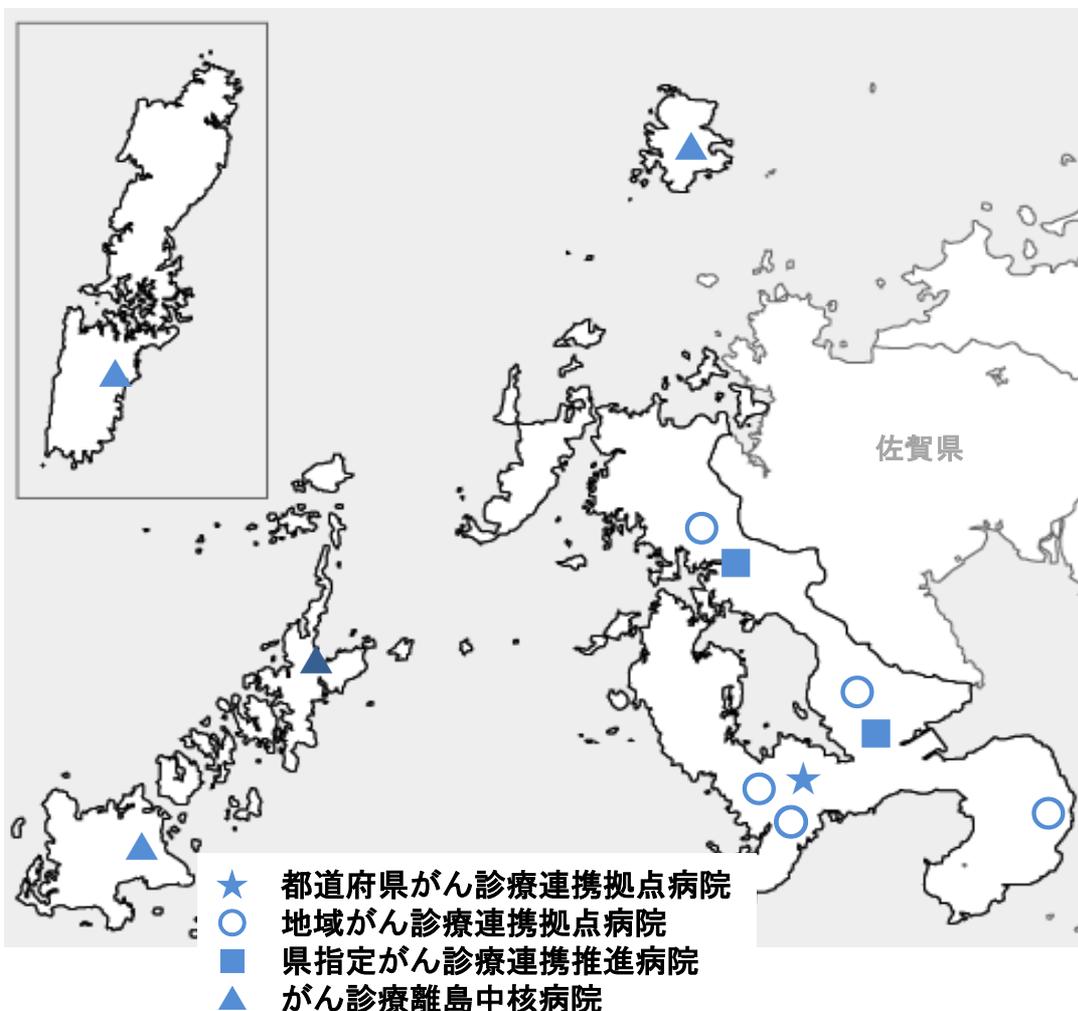
★: 都道府県拠点
 空白の医療圏である4つの離島医療圏は、第1期長崎県がん対策推進計画において位置づけたがん診療離島中核病院と本土地域の地域がん診療病院が連携し、がん医療の質の向上と均てん化を図っている。但し、壱岐・対馬医療圏については、経済圏の関係から 一部の患者は

【長崎医療圏複数指定の理由】
 ○長崎大学病院 都道府県拠点病院
 ○長崎みなとメディカルセンター
 「がん診療離島中核病院(長崎県五島中央病院)」
 を中心に主に五島医療圏と連携
 ○日本赤十字社 長崎原爆病院
 「がん診療離島中核病院(長崎県上五島病院)」
 を
 中心に主に上五島医療圏と連携

- ①長崎大学病院 ★ (現況)
- ②長崎みなとメディカルセンター (現況)
- ③日本赤十字社長崎原爆病院 (現況)
- ④佐世保市総合医療センター (現況)
- ⑤長崎医療センター (現況)
- ⑥長崎県島原病院 (現況)

今回の指定推薦等に係る長崎県の考え方

長崎県のがん医療提供体制



人口 約131.3万人
医療圏 8か所（本土4か所 離島4か所）

本県のがん医療は、以下の病院の連携により提供
【国指定】

- ・ 都道府県がん診療連携拠点病院
長崎大学病院（長崎医療圏）
- ・ 地域がん診療連携拠点病院
長崎みなとメディカルセンター（長崎医療圏）
日本赤十字社 長崎原爆病院（長崎医療圏）
佐世保市総合医療センター（佐世保県北医療圏）
長崎医療センター（県央医療圏）
長崎県島原病院（県南医療圏）

【県指定】

- ※国の地域がん診療連携拠点病院の指定要件をほぼ充足
- ・ がん診療推進病院
諫早総合病院（県央医療圏）
佐世保中央病院（佐世保県北医療圏）

【長崎県がん対策推進計画で位置づけ】

- ・ がん診療離島中核病院
長崎県五島中央病院
長崎県上五島病院
長崎県壱岐病院
長崎県対馬病院

【 長崎県が目指すがん医療連携体制 】

資料5

■現状

本県の医療圏の半数は、国指定の拠点病院等がない空白の医療圏で、医療資源の偏在が課題である。空白の医療圏は、全て離島で、近隣の医療圏とは隣接しておらず、支援には多くの課題がある。県指定がん診療連携推進病院は、地域がん診療連携拠点病院の要件をほぼ充足（一部未充足）し、本県のがん医療の一翼を担っているが、同一医療圏に国指定地域がん診療連携拠点病院があり、現時点で新たに指定を受けるのは困難な状況にある。なお、当該医療圏の既指定がん診療連携拠点病院は、更に医療提供体制を充実し、将来的には高度型指定を目指している医療機関である。

■今後の整備方針

施設規模や人員配置等、要件を充足するには数年を要する見込みではあるが、全てのがん診療離島中核病院が「地域がん診療病院」の指定を順次受けられるよう関係機関と協議を進めている。また、空白の医療圏との連携は、患者受療動向も錯綜していることから、1拠点病院の支援では限界があるため、全ての要件を充足したうえで、県指定がん診療連携推進病院を地域がん診療連携拠点病院に推し、本土地区の体制強化を図ったうえで、複数の医療機関による空白（離島）の医療圏の支援体制を構築したい。

■長崎医療圏に対する考え方

長崎市は南北に長く、患者動向からみると概ね3病院に分かれて受療。各医療機関は、それぞれの特徴を活かした分野を中心に重責を担っており、本県のがん医療に必要不可欠な医療機関である。

・長崎みなとメディカルセンター

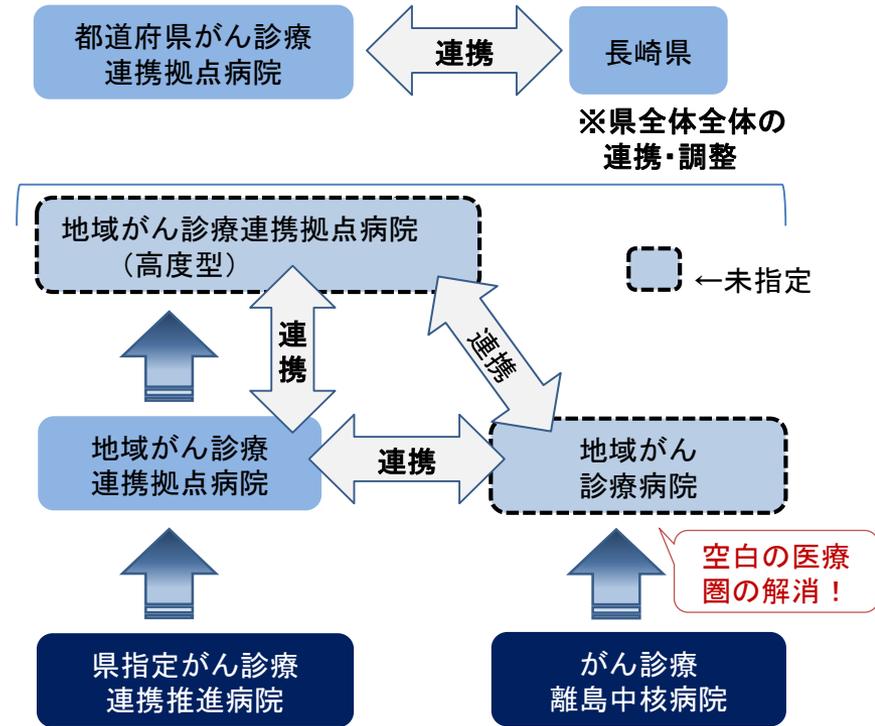
主に五島医療圏との連携、及び長崎医療圏（南部地域）の中核病院としての実績とともに、サイバーナイフ導入等先進治療の一翼を担う。

・日本赤十字社 長崎原爆病院

被爆県である本県の特殊性から、被爆者（・二世）に対するがん診療の実績が多い。主に上五島医療圏との連携、及び長崎医療圏（北部地域）の中核病院としての役割を担う。緩和ケア病床を新設予定であり、緩和ケア医療の充実を図っている。

・長崎大学病院

県全域（一部、佐賀県等を含む）のがん診療の質の向上に貢献。がんゲノム医療拠点病院、小児がん連携病院として、特に、合併症、小児、妊婦、多重がん等、特殊な治療を担うとともに、都道府県拠点病院として県内のがん診療医療従事者研修の企画・開催等、人材育成において主導的な立場を担っている。また、がん診療連携協議会において中心的役割を果たしている。



熊本県

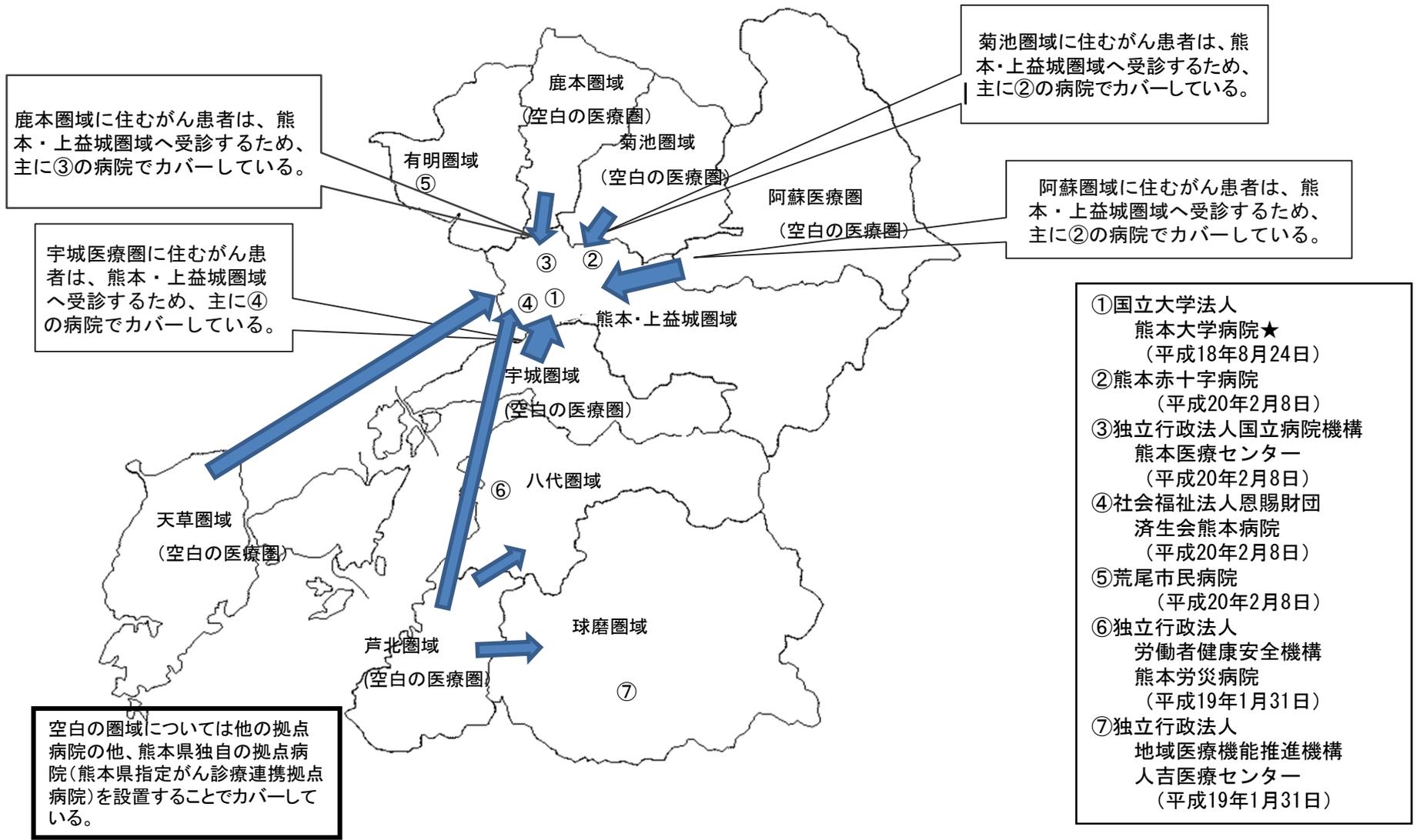
熊本県がんの医療圏の概要

令和3年9月1日現在

2次医療圏名	面積(km ²)	人口	人口割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域がん診療連携拠点病院		地域がん診療病院	
						現況報告病院数	今回更新病院数	新規申請病院数	計	既指定病院数	計	既指定病院数	計
熊本上益城	1,174.3	822,747	46.6%	700.6	107	4	0	0	4	0	0	0	0
宇城	406.9	105,006	5.9%	258.1	11	0	0	0	0	0	0	0	0
有明	421.4	158,346	9.0%	375.8	11	1	0	0	1	0	0	0	0
鹿本	299.7	51,237	2.9%	171.0	6	0	0	0	0	0	0	0	0
菊池	466.6	183,447	10.4%	393.2	16	0	0	0	0	0	0	0	0
阿蘇	1,079.6	61,827	3.5%	57.3	6	0	0	0	0	0	0	0	0
八代	714.7	137,589	7.8%	192.5	11	1	0	0	1	0	0	0	0
芦北	431.4	46,124	2.6%	106.9	10	0	0	0	0	0	0	0	0
球磨	1,536.6	86,261	4.9%	56.1	12	1	0	0	1	0	0	0	0
天草	878.4	112,934	6.4%	128.6	18	0	0	0	0	0	0	0	0
計	7,409.6	1,765,518.0	100.0%	238.3	208	7	0	0	7	0	0	0	0

熊本県 令和3年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★:都道府県拠点



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

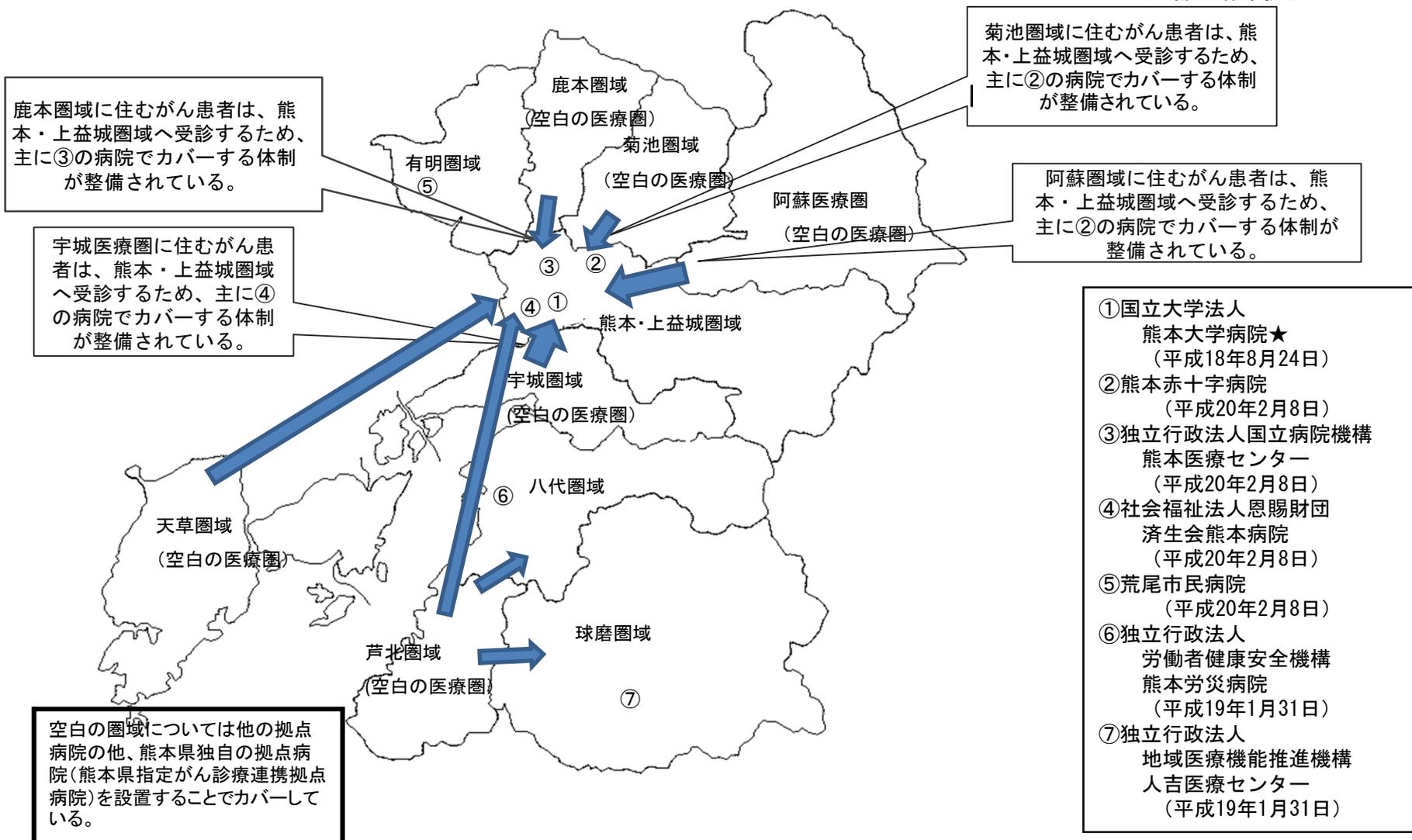
・()内は平成31年度提出の数値、下段は令和3年度の数値

★:都道府県拠点

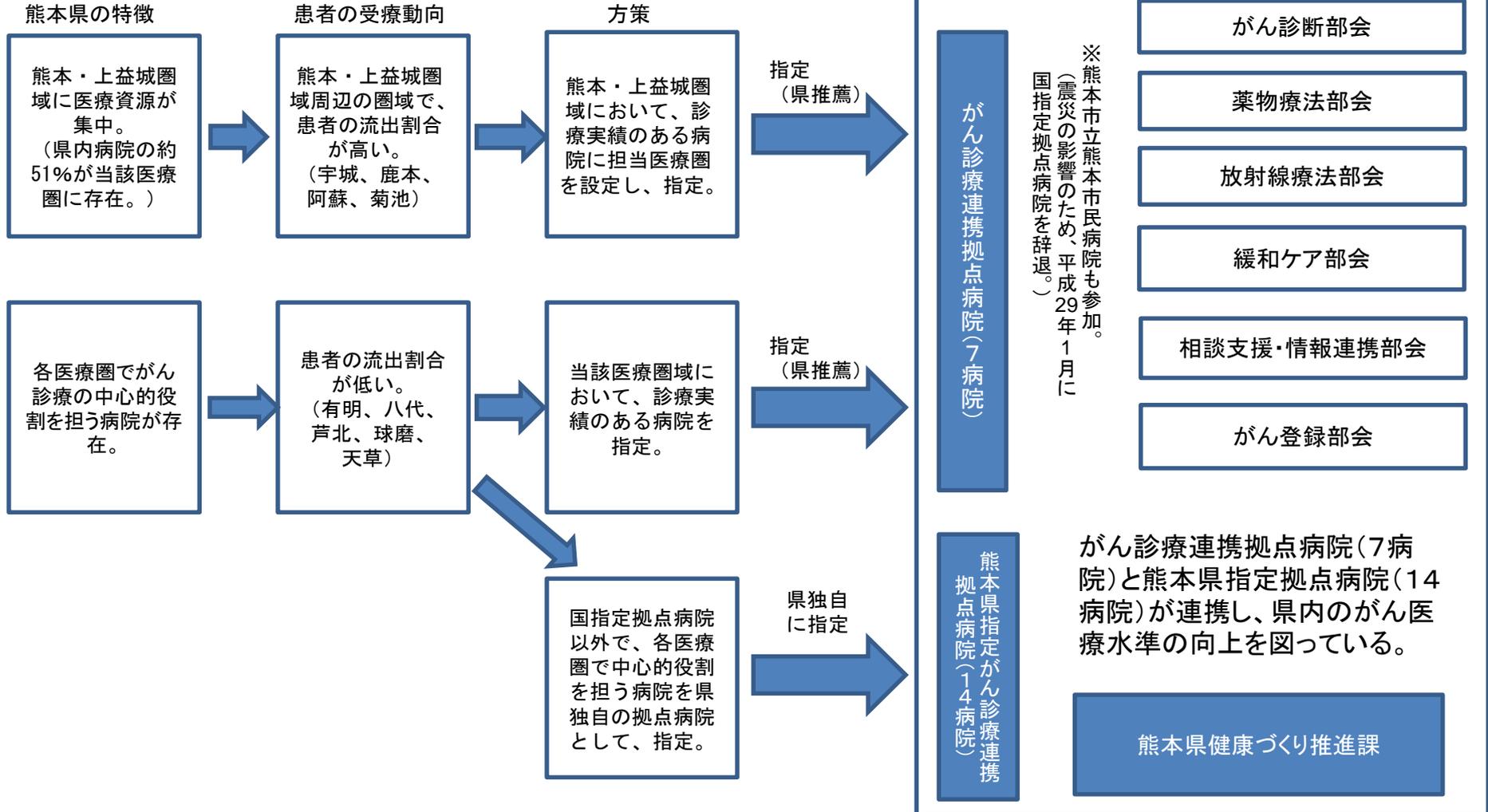
	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録 院内がん登録数 (年間) 500件以上	手術件数 悪性腫瘍の 手術件数(年間) 400件以上	がんに係る薬物療法 のべ患者数 (年間) 1000人以上	放射線治療 のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケア 緩和ケアチーム に対する新規介 入患者数 (年間) 50人以上	診療の割合 当該2次医療圏 に居住する がん患者の診療 の割合(%) 2割程度	相談支援セン ター 相談件数 (年間)
					年間新 入院が ん患者 数	年間新入院患者 数に占めるがん 患者の割合(%)							
1	熊本・上 益城	★	報告	熊本大学 病院	(4,067) 3,506	(22.0) 19.7	(2,381) 2,827	(3,139) 2,694	(2,010) 2,158	(704) 706	(422) 684	(15) 26	(2,723) 1,945
2	熊本・上 益城		報告	熊本赤十 字病院	(3,058) 2,481	(17.2) 15.6	(1,467) 1,936	(1,456) 1,178	(1,658) 1,713	(513) 454	(131) 169	(9) 7	(528) 493
3	熊本・上 益城		報告	熊本医療 センター	(3,078) 3,264	(21.1) 23.5	(1,413) 1,370	(1,033) 1,100	(1,396) 1,295	(373) 445	(93) 129	(13) 14	(726) 1,019
4	熊本・上 益城		報告	済生会熊 本病院	(2,486) 2,559	(16.6) 17.6	(1,343) 1,264	(1,318) 1,291	(1,318) 4,668	(398) 412	(235) 261	(15) 7	(1,014) 1,289
5	有明		報告	荒尾市民 病院	(661) 612	(15.8) 15.8	(364) 345	(218) 210	(290) 209	(141) 112	(140) 171	(28) 26	(351) 496
6	八代		報告	熊本労災 病院	(1,722) 1,697	(18.4) 18.0	(625) 622	(435) 452	(364) 360	(128) 146	(32) 80	(48) 25	(1,802) 1,600
7	球磨		報告	人吉医療 センター	(1,075) 1,172	(16.2) 17.9	(553) 518	(318) 302	(718) 852	(129) 137	(38) 45	(70) 82	(1,017) 928

熊本県 令和3年度の指定推薦等状況等予想される患者受領動向

★:都道府県拠点



熊本県におけるがん診療体制について



大分県

大分県がんの医療圏の概要

平成30年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
東部医療圏	803.83	197,323	17.7	245.48	34	1			1						
中部医療圏	1192.39	559,800	50.2	469.47	63	3			3						
南部医療圏	903.11	65,731	5.9	72.78	8	0			0						
豊肥医療圏	1080.67	52,105	4.7	48.22	6	0			0						
西部医療圏	1223.91	83,720	7.5	68.40	20	1			1						
北部医療圏	1136.82	156,201	14.0	137.41	22	1			1						
計	6340.73	1,114,880	100	175.83	153	6	0	0	6	0	0	0	0	0	0

大分県 令和3年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況



- | | |
|------------------------|-------------|
| ①独立行政法人国立病院機構 別府医療センター | (令和2年3月27日) |
| ②大分大学医学部附属病院★ | (令和3年3月29日) |
| ③大分県立病院◇ | (令和2年3月27日) |
| ④大分赤十字病院 | (令和2年3月27日) |
| ⑤大分県済生会日田病院 | (令和3年3月29日) |
| ⑥中津市立中津市民病院 | (令和2年3月27日) |

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

- ・()内は令和元年10月提出の数値、下段は令和3年10月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
- ・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)							
1 東部		現況	別府医療センター	(1,964) 2,080	(22.2) 24.7	744	(452) 534	(995) 1,115	(205) 116	90	25	2,518
2 中部	★	現況	大分大学附属病院	(4,997) 4,197	(39.0) 35.8	1,401	(1,437) 1,619	(2,196) 8,970	(311) 328	139	21	806
3 中部	◇	現況	大分県立病院	(4,078) 65,153	(32.6) 43.1	1,382	(814) 848	(2,383) 2,409	(423) 472	176	28	358
4 中部		現況	赤十字病院	(2,298) 2,369	(26.1) 24.8	967	(651) 588	(2,202) 2,161	(209) 203	178	16	458
5 西部		現況	済生会日田病院	(724) 14,859	(23.6) 23.6	227	(105) 140	(317) 236	(86) 95	87	58	198
6 北部		現況	中津市民病院	(1,691) 1,853	(22.7) 25.1	531	(414) 337	(972) 1,558	(209) 206	76	35	496

大分県 令和3年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

拠点病院の数、配備に変更がないため、想定される患者受療動向についても変化はない



南部医療圏及び豊肥医療圏の患者は中部医療圏の病院を受診するため③、④の病院でカバーする

- | | |
|-----------------------|------|
| ①独立行政法人国立病院機構別府医療センター | (現況) |
| ②大分大学医学部附属病院★ | (現況) |
| ③大分県立病院◇ | (現況) |
| ④大分赤十字病院 | (現況) |
| ⑤大分県済生会日田病院 | (現況) |
| ⑥中津市立中津市民病院 | (現況) |

拠点病院の指定推薦の考え方

現状

- 本県では、平成20年3月に「大分県がん対策推進計画」を策定し、「がんによる死亡者の減少」と「すべてのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上」を全体目標として、がん診療連携拠点病院の整備など、がん対策を推進してきた。
- 現在指定されている6つのがん診療連携拠点病院については、県内におけるがん対策の拠点として、県全体のがん医療水準の向上、均てん化に大きな役割を果たしてきた。
- 平成30年3月に策定した「大分県がん対策推進計画(第3期)」では、「がん予防」と「がん医療の充実」を新たに目標に加え、さらなるがん対策に取り組むこととしており、その達成に向けて、現在の1県拠点病院・6県域5地域拠点病院体制は必要不可欠のものとなっている。

拠点病院の役割

○都道府県がん診療連携拠点病院について

大分大学医学部附属病院は、平成20年に「都道府県がん診療連携拠点病院」に指定されて以来、「地域がん診療連携拠点病院」間の連携を図り、「都道府県がん診療連携協議会」の幹事として連携協力体制や医師派遣などの診療派遣、情報の共有化に積極的に努めているほか、「地域がん診療連携拠点病院」に対する積極的な研修の開催等、高度のがん医療の均てん化に大きく寄与しており、その役割を十分に果たしている。

○地域がん診療連携拠点病院について

本県の医療圏は「東部」、「中部」、「南部」、「豊肥」、「西部」、「北部」の6医療圏で構成され、「南部」、「豊肥」の2医療圏は拠点病院のない空白医療圏となっている。

本県の病院・診療所の数、医師等の人数等は、概ね全国水準を上回っているものの、東部、中部医療圏に約半数が集中しており、医療資源の集中化が見られる。特に、中部医療圏内の人口は、約56万人で本県人口(約111万人)の約半数を占めている。さらに高速道路網等の道路整備により、中部医療圏内の病院での受療の増加が見られるため、中部医療圏の拠点病院の整備はさらに充実・強化が必要であると考えている。

南部、豊肥の各医療圏では指定要件を充たす病院がなく、両医療圏とも高速道路等の整備促進により、中部医療圏の医療機関での受療動向が高くなっている。

以上のことから、中部医療圏については、2つの地域がん診療連携拠点病院を維持し、本県のがん医療に対する体制を維持・強化していきたいと考えている。また、「東部」、「西部」、「北部」の医療圏についても、これまでの実績及び他に指定要件を充足する病院が無いことから拠点病院の設置を維持していきたいと考えている。

宮 崎 県

宮崎県がんの医療圏の概要

令和3年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院			
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	
県央がん医療圏	2,023	521,166	49.1%	257.6	46	2			2							
----- (宮崎東諸県)	869	426,210	40.1%	490.2	36	2			2							
----- (西都児湯)	1,154	94,956	8.9%	82.3	10				0							
県南がん医療圏	831	66,441	6.3%	79.9	10				0							
----- (日南串間)	831	66,441	6.3%	79.9	10				0							
県北がん医療圏	3,186	220,087	20.7%	69.1	27				0							
----- (延岡西臼杵)	1,555	135,307	12.7%	87.0	17				0							
----- (日向入郷)	1,631	84,780	8.0%	52.0	10				0							
県西がん医療圏	1,695	254,440	24.0%	150.1	37	1			1							
----- (都城北諸県)	763	185,439	17.5%	242.9	24	1			1							
----- (西諸)	931	69,001	6.5%	74.1	13				0							
計	7,735	1,062,134	100%	137.3	120	3	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0

宮崎県 令和3年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

- ①宮崎県立宮崎病院（令和2年3月27日）
- ②宮崎大学医学部附属病院★（令和2年3月27日）
- ③国立病院機構都城医療センター（令和2年3月27日）

★：都道府県拠点

○県央がん医療圏拠点病院の役割分担

病院名	機能分担
①宮崎県立宮崎病院	県央がん医療圏の医療連携の中心
②宮崎大学医学部附属病院★	県内がん医療の中核、県内医療機関の連携の中心



県北がん医療圏、県南がん医療圏に住むがん患者は、各医療圏で県が指定する「がん診療指定病院」及び県央がん医療圏の①、②の病院で、カバーしている。

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料 3 - 1 - ①

・()内は平成31年1月～令和元年12月の実績、下段は令和2年1月～12月の実績 ★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録 500件以上	手術件数 悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	がんに係る薬物療法 のべ患者数(年間) 1000人以上	放射線治療 のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケア 緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	診療の割合 当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談支援センター 相談件数(年間)
					年間入院がん患者延べ数	年間入院患者延べ数に占めるがん患者の割合(%)							
1	県央		現況	宮崎県立宮崎病院	(2,866) 2,596	(25.5) 28.0	998	(1,040) 846	(1,063) 1,018	(269) 255	170	22	284
2	県央	★	現況	宮崎大学医学部附属病院	(3,337) 3,708	(27.0) 32.2	1,271	(984) 947	(1,260) 1,145	(325) 310	113	25	3,210
3	県西		現況	都城医療センター	(2,784) 3,220	(41.5) 48.3	843	(464) 455	(8,146) 8,332	(233) 264	146	38	1,585

地域がん診療病院の診療実績等

資料 3 - 2

該当ありません

宮崎県 令和4年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

- ①宮崎県立宮崎病院(更新)
- ②宮崎大学医学部附属病院★(更新)
- ③国立病院機構都城医療センター(更新)

○県央がん医療圏拠点病院の役割分担

病院名	機能分担
①宮崎県立宮崎病院	県央がん医療圏の医療連携の中心
②宮崎大学医学部附属病院★	県内がん医療の中核、県内医療機関の連携の中心



県北がん医療圏、県南がん医療圏に住むがん患者は、引き続き、各医療圏で県が指定する「がん診療指定病院」及び県央がん医療圏の①、②の病院でカバーする。

がん医療提供体制に係る本県の考え方

宮崎県の地域特性

- 地理的制約 . . . 県土が南北に長く、公共交通網も未発達
- 脆弱な医療体制 . . . 7つの二次医療圏を4つのがん医療圏として再編しても、空白の医療圏が2つ残る
- 医療従事者の不足 . . . がん専門の医療従事者の不足

がん医療提供体制に係る考え方

- 地域特性を踏まえ、現在の拠点病院を中心とした連携体制を維持し、県内がん医療の均てん化を図る。

宮崎大学医学部附属病院（★都道府県がん診療連携拠点病院）

- ・ 県内の医療連携の中心
- ・ 県内唯一の特定機能病院

宮崎県立宮崎病院

（地域がん診療連携拠点病院：県央がん医療圏）

- ・ 県央がん医療圏の医療連携の中心
- ・ 空白のがん医療圏の患者の受入も多い

国立病院機構都城医療センター

（地域がん診療連携拠点病院：県西がん医療圏）

- ・ 県西がん医療圏の医療連携の中心
- ・ 政策医療の中でもがん医療に注力

空白のがん医療圏（県北がん医療圏・県南がん医療圏）

がん診療指定病院（宮崎県指定）である県立延岡病院、県立日南病院で標準的ながん医療を実施

鹿児島県

鹿児島県がんの医療圏の概要

令和3年9月1日現在

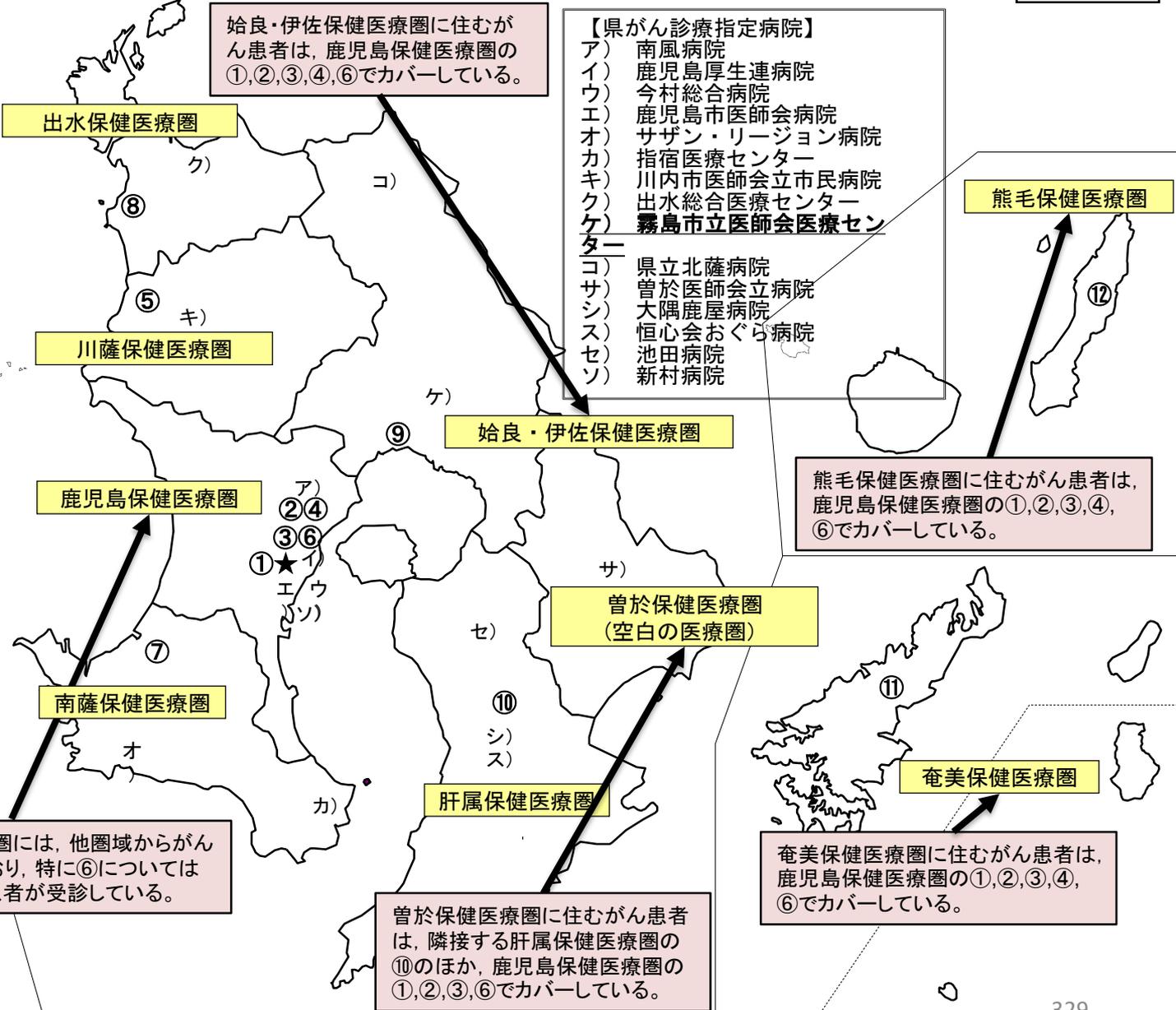
医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院(高度型含む)				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
鹿児島保健医療圏	1044.9	667,379	42.3	638.7	102	4			4	1					
南薩保健医療圏	865.2	123,045	7.8	142.2	30				0				1		
川薩保健医療圏	986.9	111,699	7.1	113.2	15	1			1						
出水保健医療圏	680.6	80,147	5.1	117.8	8				0				1		
始良・伊佐保健医療圏	1371.7	232,558	14.7	169.5	33				0				1		1
曾於保健医療圏	781.2	73,683	4.7	94.3	9				0						
肝属保健医療圏	1323	147,286	9.3	111.3	18				0				1		
熊毛保健医療圏	995	38,924	2.5	39.1	4				0				1		
奄美保健医療圏	1240.3	103,097	6.5	83.1	15				0				1		
計	9,288.8	1,577,818	100	1,509.2	234	5	0	0	5	1	0	0	6	0	1

※がんの医療圏と二次保健医療圏は同一

鹿児島県 令和3年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

資料2

- ① 鹿児島大学病院★
(平成31年4月1日)
- ② 鹿児島医療センター
(令和2年3月27日)
- ③ 鹿児島市立病院
(令和2年3月27日)
- ④ いまきいれ総合病院
(令和2年3月27日)
- ⑤ 済生会川内病院
(平成31年4月1日)
- ⑥ 博愛会相良病院
(令和2年3月27日)
- ⑦ 県立薩南病院
(令和3年4月1日)
- ⑧ 出水郡医師会広域医療センター
(平成31年4月1日)
- ⑨ 南九州病院
(令和2年3月27日)
- ⑩ 鹿屋医療センター
(令和2年3月27日)
- ⑪ 県立大島病院
(令和2年3月27日)
- ⑫ 種子島医療センター
(令和2年3月27日)



始良・伊佐保健医療圏に住むがん患者は、鹿児島保健医療圏の①,②,③,④,⑥でカバーしている。

- 【県がん診療指定病院】
- ア) 南風病院
 - イ) 鹿児島厚生連病院
 - ウ) 今村総合病院
 - エ) 鹿児島市医師会病院
 - オ) サザン・リージョン病院
 - カ) 指宿医療センター
 - キ) 川内市医師会立市民病院
 - ク) 出水総合医療センター
 - ケ) 霧島市立医師会医療センター
 - コ) 県立北薩病院
 - サ) 曾於医師会立病院
 - シ) 大隅鹿屋病院
 - ス) 恒心会おぐら病院
 - セ) 池田病院
 - ソ) 新村病院

熊毛保健医療圏に住むがん患者は、鹿児島保健医療圏の①,②,③,④,⑥でカバーしている。

鹿児島保健医療圏には、他圏域からがん患者が流入しており、特に⑥については全県的に多くの患者が受診している。

曾於保健医療圏に住むがん患者は、隣接する肝属保健医療圏の⑩のほか、鹿児島保健医療圏の①,②,③,⑥でカバーしている。

奄美保健医療圏に住むがん患者は、鹿児島保健医療圏の①,②,③,④,⑥でカバーしている。

鹿児島保健医療圏

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1

- ・()内は令和元年10月提出の数値、下段は令和3年11月提出の数値 ★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録 院内がん登録数 (年間) <u>500件以上</u>	手術件数 悪性腫瘍の手術件 数(年間) <u>400件以上</u>	がんに係る薬物療法 のべ患者数 (年間) <u>1000人以上</u>	放射線治療 のべ患者数 (年間) <u>200人以上</u>	緩和ケア 緩和ケアチームに 対する新規診療依 頼数 (年間) <u>50件以上</u>	診療の割合 当該2次医療圏に 居住する がん患者の診療の 割合(%) <u>2割程度</u>
					年間入院がん患者延べ数	年間入院患者延べ数に占めるがん患者の割合(%)						
1	鹿児島	★	現況	鹿児島大学病院	(-) 85385	(-) 39	(2152) 1956	(4073) 4611	(2700) 1200	(538) 614	(459) 450	(34) 19
2	鹿児島		現況	鹿児島医療センター	(-) 2970	(-) 33	(1072) 1035	(752) 814	(6082) 6353	(205) 240	(103) 74	(10) 10
3	鹿児島	◇	現況	鹿児島市立病院	(-) 50983	(-) 29	(1520) 1578	(1938) 2433	(8198) 10364	(391) 333	(241) 268	(13) 13
4	鹿児島		現況	いまきいれ総合病院	(-) 1545	(-) 19	(571) 618	(431) 538	(2276) 3024	(187) 188	(320) 346	(10) 10
5	川薩		現況	済生会川内病院	(-) 1947	(-) 36	(511) 453	(385) 371	(831) 592	(212) 228	(58) 78	(39) 43
6	鹿児島	◎	現況	相良病院	(-) 27824	(-) 99	(756) 1112	(717) 803	(1471) 1120	(392) 560	(116) 64	(7) 4

地域がん診療病院の診療実績等

資料 3 - 2

- ・上段は令和元年10月提出の数値、下段は令和3年11月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請		年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る	放射線治療	緩和ケア
		区分	病院名	年間入院がん患者延べ数	年間入院患者延べ数に占めるがん患者の割合(%)			薬物療法		
						院内がん登録数	悪性腫瘍手術総数	のべ患者数	のべ患者数	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数
		(年間)	(年間)	(年間)	(年間)	(年間)				
1	南薩	現況	県立薩南病院	(-)	(-)	(153)	(34)	(734)	(38)	(64)
				802	34	219	161	885	45	17
2	出水	現況	出水郡医師会 広域医療センター	(-)	(-)	(213)	(173)	(653)	(実施なし)	(83)
				639	17	231	187	976		104
3	始良 伊佐	現況	南九州病院	(-)	(-)	(239)	(147)	(146)	(131)	(62)
				16405	14	194	78	127	117	60
4	始良 伊佐	新規	霧島市立医師会 医療センター	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
				1231	24	407	243	2504	(実施なし)	60
5	肝属	現況	鹿屋医療センター	(-)	(-)	(249)	(101)	(238)	(123)	(114)
				708	2	410	78	283	147	125
6	奄美	現況	県立大島病院	(-)	(-)	(390)	(163)	(444)	(72)	(136)
				14596	19	341	183	417	78	28
7	熊毛	現況	種子島医療センター	(-)	(-)	(167)	(15)	(46)	(実施なし)	(44)
				311	11	151	60	452		20

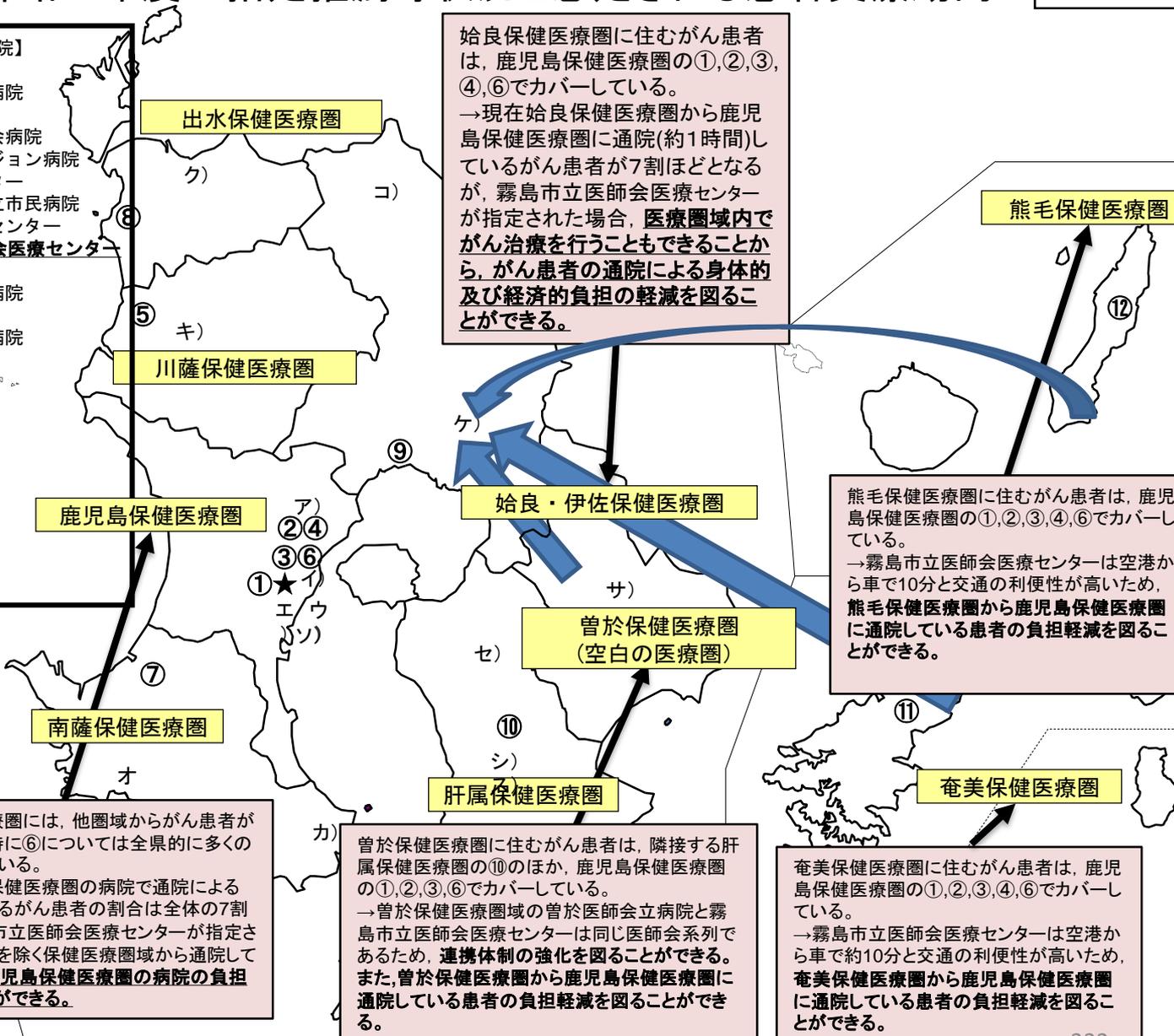
鹿児島県 令和3年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

資料 4

- ① 鹿児島大学病院★
(平成31年4月1日)
- ② 鹿児島医療センター
(令和2年3月27日)
- ③ 鹿児島市立病院
(令和2年3月27日)
- ④ いまきいれ総合病院
(令和2年3月27日)
- ⑤ 済生会川内病院
(平成31年4月1日)
- ⑥ 博愛会相良病院
(令和2年3月27日)
- ⑦ 県立薩南病院
(令和3年4月1日)
- ⑧ 出水郡医師会広域
医療センター
(平成31年4月1日)
- ⑨ 南九州病院
(令和2年3月27日)
- ⑩ 鹿屋医療センター
(令和2年3月27日)
- ⑪ 県立大島病院
(令和2年3月27日)
- ⑫ 種子島医療センター
(令和2年3月27日)

【県がん診療指定病院】

- ア) 南風病院
- イ) 鹿児島厚生連病院
- ウ) 今村総合病院
- エ) 鹿児島市医師会病院
- オ) サザン・リージョン病院
- カ) 指宿医療センター
- キ) 川内市医師会立市民病院
- ク) 出水総合医療センター
- ケ) 霧島市立医師会医療センター
- コ) 県立北薩病院
- サ) 曾於医師会立病院
- シ) 大隅鹿屋病院
- ス) 恒心会おぐら病院
- セ) 池田病院
- ソ) 新村病院



始良保健医療圏に住むがん患者は、鹿児島保健医療圏の①、②、③、④、⑥でカバーしている。
→現在始良保健医療圏から鹿児島保健医療圏に通院(約1時間)しているがん患者が7割ほどとなるが、霧島市立医師会医療センターが指定された場合、**医療圏域内**でがん治療を行うこともできることから、**がん患者の通院による身体的及び経済的負担の軽減を図ることができる。**

熊毛保健医療圏に住むがん患者は、鹿児島保健医療圏の①、②、③、④、⑥でカバーしている。
→霧島市立医師会医療センターは空港から車で10分と交通の利便性が高いため、**熊毛保健医療圏から鹿児島保健医療圏に通院している患者の負担軽減を図ることができる。**

鹿児島保健医療圏には、他圏域からがん患者が流入しており、特に⑥については全県的に多くの患者が受診している。
→現在鹿児島保健医療圏の病院で通院による治療を受けているがん患者の割合は全体の7割となるが、霧島市立医師会医療センターが指定された場合、南薩を除く保健医療圏域から通院している患者及び鹿児島保健医療圏の病院の**負担軽減を図ることができる。**

曾於保健医療圏に住むがん患者は、隣接する肝属保健医療圏の⑩のほか、鹿児島保健医療圏の①、②、③、⑥でカバーしている。
→曾於保健医療圏域の曾於医師会立病院と霧島市立医師会医療センターは同じ医師会系列であるため、**連携体制の強化を図ることができる。**また、曾於保健医療圏から鹿児島保健医療圏に通院している患者の**負担軽減を図ることができる。**

奄美保健医療圏に住むがん患者は、鹿児島保健医療圏の①、②、③、④、⑥でカバーしている。
→霧島市立医師会医療センターは空港から車で約10分と交通の利便性が高いため、**奄美保健医療圏から鹿児島保健医療圏に通院している患者の負担軽減を図ることができる。**

鹿児島県におけるがん診療連携拠点病院等の指定推薦の考え方

○ 始良・伊佐保健医療圏について

始良・伊佐保健医療圏は、始良市、霧島市、伊佐市、湧水町の4市町で構成されており、面積は医療圏で最も大きく、人口も鹿児島保健医療圏に継ぎ第2位となっている。また、5つの二次保健医療圏(鹿児島、川薩、出水、曾於、肝属)と隣接している。

【指定推薦の考え方】: 地域がん診療病院の新規指定推薦について

始良・伊佐保健医療圏には、既に地域がん診療病院として南九州病院が指定されているが、下記理由により、霧島市立医師会医療センターが地域がん診療病院として指定されることで本県におけるがん診療の質の向上及びがん診療の連携協力体制の整備がより一層図られることから、新規指定の推薦を行う。

なお、令和3年9月1日時点では、緩和ケア研修会が未開催であり未充足となっているが、令和4年1月9日に開催し、充足済み。(国に対し、報告済み)

(1) がん患者の通院圏域

各がん診療連携拠点病院等からの現況報告(平成30年1月～12月)の延べ外来患者数によると、二次保健医療圏ごとに居住するがん患者の割合は、鹿児島保健医療圏43.9%、始良・伊佐保健医療圏11.5%である。

一方、始良・伊佐保健医療圏のがん患者の通院圏域は、鹿児島保健医療圏74.4%、始良・伊佐保健医療圏25%となっており、7割のがん患者が鹿児島保健医療圏に通院している。

現在のがん治療は、入院に合わせて通院外来での治療も多く、薬物療法を実施する場合は、週に1回以上通院するケースもある。

鹿児島保健医療圏から始良・伊佐保健医療圏までは、通院に約1時間程度要し、毎回通院を行うことを考えるとがん患者への負担は大きい。

霧島市立医師会医療センターは、最寄りの駅から車で15分、鹿児島空港から車で10分、九州自動車道の空港インターから車で10分程度と空港・高速道路とも至近にあり、交通の利便性が高く、熊毛・奄美保健医療圏の患者にとっても通院しやすい。

このことから、地域がん診療病院として指定されることにより、始良・伊佐圏域居住のがん患者の通院に係る身体的及び経済的負担の軽減を図ることができ、患者の利便性向上が期待できる。

また、隣接する鹿児島保健医療圏の病院の負担軽減やその他の保健医療圏から別の保健医療圏に通院しているがん患者の身体的及び経済的負担の軽減も図ることができる。

鹿児島県におけるがん診療連携拠点病院等の指定推薦の考え方

(2) がん診療連携拠点病院等間の役割

① がん診療連携拠点病院(鹿児島大学病院)

霧島市立医師会医療センターは、乳がんの手術及び放射線治療以外の診療については、自院での治療が可能となっており、自院で対応不可の治療については、鹿児島大学病院等と連携し、治療を実施している。

また、鹿児島大学病院から、外科、消化器内科、放射線科等の常勤医師や血液内科、泌尿器科、耳鼻咽喉科の非常勤医師の派遣を受けており、協働でがん診療を実施することで、がん診療の質の向上を図っている。

② 地域がん診療病院(南九州病院)

霧島市立医師会医療センターでは、緩和ケアに伴う放射線治療について南九州病院と連携し、実施している。

霧島市立医師会医療センターが地域がん診療病院に指定されることにより、これまで以上にグループ指定先のがん診療連携拠点病院と人材交流や院内クリティカルパスの整備を通して、がん診療の質の向上が期待される。

(3) 空白の医療圏(曾於保健医療圏)における効果

霧島市立医師会医療センターから曾於保健医療圏の曾於医師会立病院に呼吸器外科医師を月1回、小児科医師を毎週1回派遣し、治療を実施している。

また、曾於医師会立病院からは、令和2年で外来患者延べ90名、新規入院患者延べ22名の受入診療を実施している。

霧島市立医師会医療センターが地域がん診療病院に指定されることが期待されることにより、霧島市立医師会とも連携し、更なるリーダーシップを発揮し、連携

霧島市立医師会医療センターの特徴

① 診療実績

平成21年3月30日から県が指定する県がん指定病院として、胃がん、大腸がん、肝がん、肺がん、乳がん、膵がん、胆がん、血液がん等の多様な治療に従事し、症例数も当該保健医療圏で最も多い実績がある。

② 施設設備

平成21年に外来化学療法センター、平成28年には緩和ケア病棟を開設するなど、がん患者の視点に立った診療体制の整備を図っている。

令和2年の薬物療法の延べ患者数は、2,504人と県内のがん診療連携拠点病院と比較しても同等の治療実績がある。

緩和ケア病棟については、病床数が35床と全国でも高い水準であり、常にがん患者の視点に立ち、緩和ケアの充実を図っている。令和2年の新規入院患者数は、209人である。

③ その他

がん研有明病院(東京都内)で研修をした医師が在籍しており、がん研有明病院から最新の薬物療法の情報を入手できるとともに、診療や薬物療法への対応等について相談できる体制が整備されている。

沖 縄 県

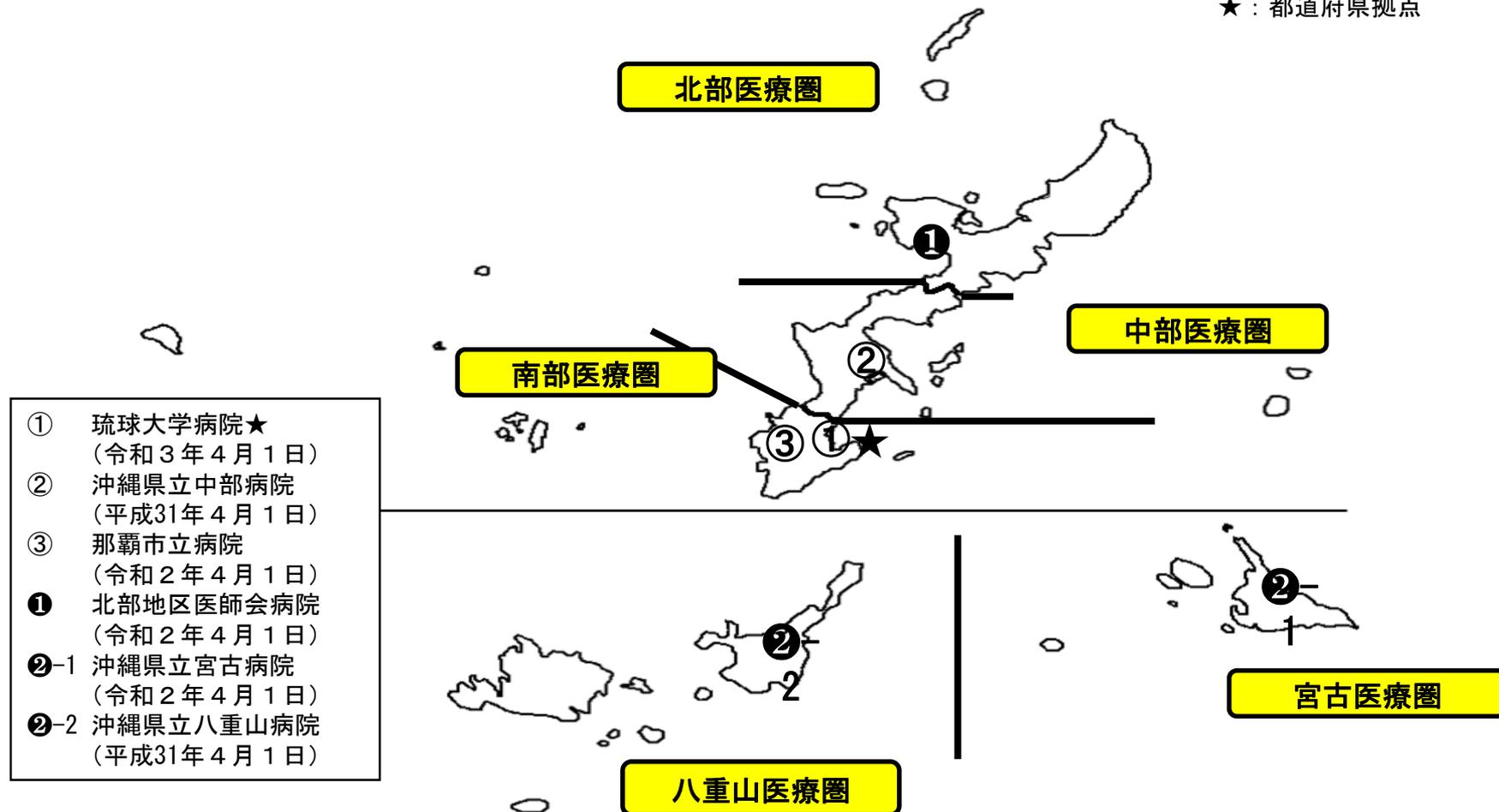
沖縄県 がんの医療圏の概要

令和3年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口 密度	病院 数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況 報告 病院数	今回 更新 病院数	新規 申請 病院数	計	現況 報告 病院数	今回 更新 病院数	新規 申請 病院数	現況 報告 病院数	今回 更新 病院数	新規 申請 病院数
北部 医療圏	705.49	101155	6.93	143.4	9				0				1		
中部 医療圏	367.90	512127	35.08	1392.0	29	1			1						
南部 医療圏	390.27	738889	50.61	1893.3	46	2			2						
宮古 医療圏	226.27	53413	3.66	236.1	4				0				1		
八重山 医療圏	592.45	54251	3.72	91.6	3				0				1		
計	2282.38	1459835	100	639.6	91	3	0	0	3	0	0	0	3	0	0

沖縄県 令和3年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★：都道府県拠点



- ① 琉球大学病院★
(令和3年4月1日)
- ② 沖縄県立中部病院
(平成31年4月1日)
- ③ 那覇市立病院
(令和2年4月1日)
- ① 北部地区医師会病院
(令和2年4月1日)
- ②-1 沖縄県立宮古病院
(令和2年4月1日)
- ②-2 沖縄県立八重山病院
(平成31年4月1日)

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

- ・()内は令和2年度の現況報告書があった場合に報告する位置づけの数値(H31.1.1~R1.12.31の診療実績)、下段は令和3年11月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
- ・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					年間入院がん患者延べ数 ※様4全312 ※R2.1.1~12.31	年間入院患者延べ数に占めるがん患者の割合(%) ※様4全313	院内がん登録数(年間) 500件以上 ※様4機245 ※R2.1.1~12.31	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上 ※様4機246 ※R2.1.1~12.31	のべ患者数(年間) 1000人以上 ※様4機247 ※R2.1.1~12.31	のべ患者数(年間) 200人以上 ※様4機248 ※R2.1.1~12.31	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上 ※様4機249 ※R2.1.1~12.31	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度 ※様4機251	相談件数(年間) ※別紙7 ※R2.1.1~12.31
①	南部医療圏	★	現況	琉球大学病院	(5,469)	(38.2)	1,255	(721)	(1,402)	(701)	72	41	1,223
					5,385	40.0		791	1,479	747			
②	中部医療圏		現況	沖縄県立中部病院	(1,516)	(10.2)	779	(557)	(813)	(331)	111	20	1,191
					1,454	11.8		573	767	303			
③	南部医療圏		現況	那覇市立病院	(1,554)	(11.7)	772	(667)	(1,099)	(314)	138	20	1,799
					1,707	15.1		649	1,087	297			

地域がん診療病院の診療実績等

資料3-2

- ・()内は令和2年度の現況報告書があった場合に報告する位置づけの数値(H31.1.1~R1.12.31の診療実績)、下段は令和3年11月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談 支援センター																								
				年間入院がん患者延べ数 ※様4全312 ※R2.1.1 ~12.31	年間入院患者延べ数に占めるがん患者の割合(%) ※様4全313																														
①	北部医療圏	現況	北部地区 医師会病院	(604)	(0.9)	215	(156)	(1,914)	実施なし	82	392																								
				487	0.7		144	1,793				②-1	宮古医療圏	現況	沖縄県立 宮古病院	(245)	(4.6)	315	(160)	(1,021)	実施なし	13	389	231	4.6	166	1,307	②-2	八重山医療圏	現況	沖縄県立 八重山病院	(501)	(7.9)	222	(114)
②-1	宮古医療圏	現況	沖縄県立 宮古病院	(245)	(4.6)	315	(160)	(1,021)	実施なし	13	389																								
				231	4.6		166	1,307				②-2	八重山医療圏	現況	沖縄県立 八重山病院	(501)	(7.9)	222	(114)	(1,070)	実施なし	65	1,480	538	9.6	111	1,145								
②-2	八重山医療圏	現況	沖縄県立 八重山病院	(501)	(7.9)	222	(114)	(1,070)	実施なし	65	1,480																								
				538	9.6		111	1,145																											

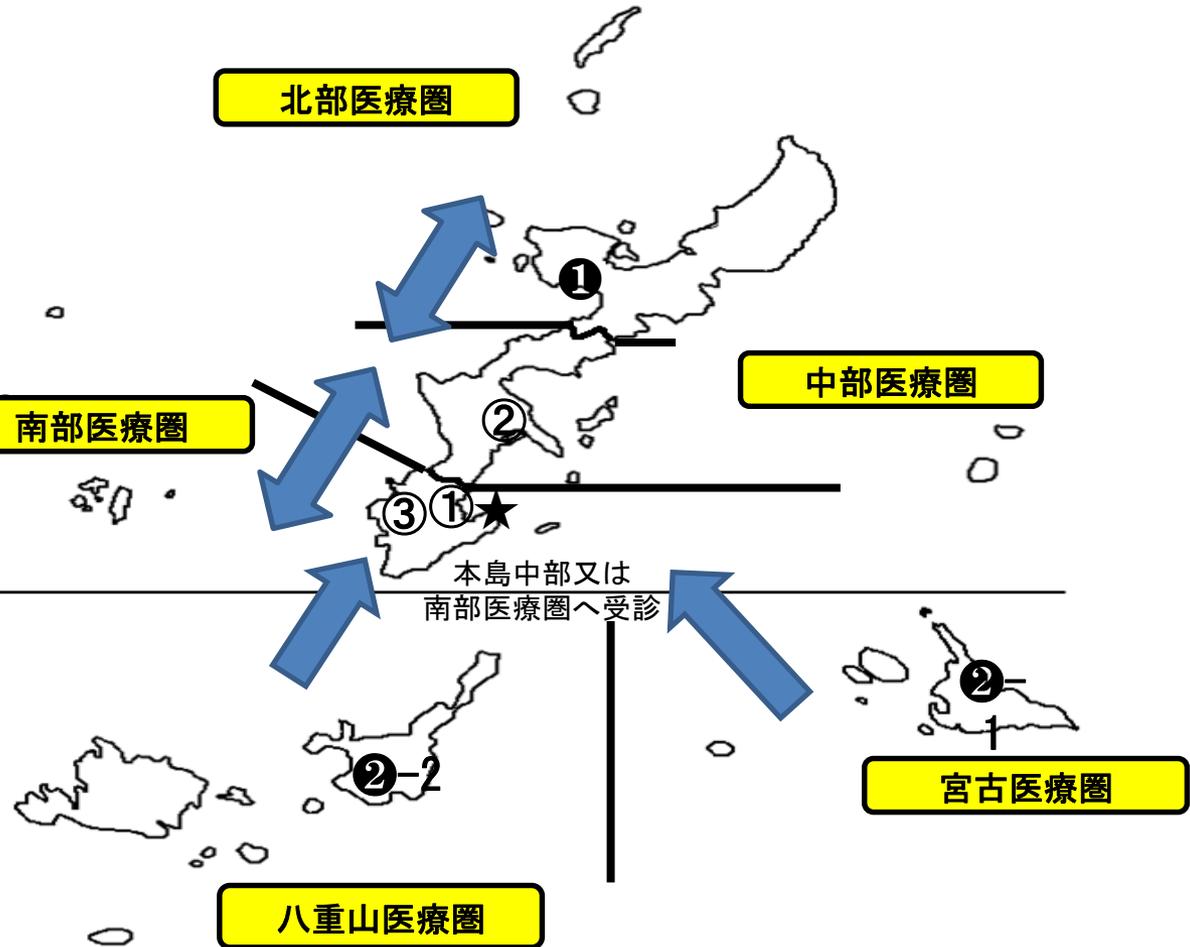
沖縄県 令和4年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★：都道府県拠点

北部、宮古及び八重山医療圏において、放射線治療等、当該圏域で提供できない医療については、中部又は南部医療圏において提供する体制を整えている。

①琉球大学病院は、都道府県がん診療連携拠点病院として、沖縄県全域及び拠点病院間連携の中心的役割を担っている。
③那覇市立病院は、地域がん診療連携拠点病院として、南部医療圏における中心的役割を担っている。

- ① 琉球大学病院★（現況）
- ② 沖縄県立中部病院（現況）
- ③ 那覇市立病院（現況）
- ① 北部地区医師会病院（現況）
- ②-1 沖縄県立宮古病院（現況）
- ②-2 沖縄県立八重山病院（現況）



今回の現況報告に係る沖縄県の考え方

1 医療提供体制の整備に係る基本的な考え方

第3次沖縄県がん対策推進計画（2018 - 2023）

- ・分野目標:適切な医療連携に基づく医療を受けられている
- ・施策:がん診療提供体制の充実・強化を図る
県は、整備指針に基づき、拠点病院又は地域がん診療病院について、地域の医療状況等を勘案し、適正な整備を図る。

都道府県がん診療連携拠点病院		
①	琉球大学病院	
地域がん診療連携拠点病院		
②	中部医療圏	沖縄県立中部病院
③	南部医療圏	那覇市立病院
地域がん診療病院		
①	北部医療圏	北部地区医師会病院 ※①とのグループ指定
②-1	宮古医療圏	沖縄県立宮古病院 ※②とのグループ指定
②-2	八重山医療圏	沖縄県立八重山病院 ※②とのグループ指定

都道府県がん診療連携拠点病院及び、5つの二次医療圏全てに地域がん診療連携拠点病院又は地域がん診療病院を整備し、がん診療提供体制を維持することで、県民が適切な医療連携に基づく医療を受けられる体制を整える。

今回の現況報告に係る沖縄県の考え方

第3次沖縄県がん対策推進計画に基づくがん診療提供体制を整備

